

裾野市葛山の遺跡群

第二東名No.150 地点・No.150-2 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市-8

葛山大端ヶI遺跡（第二東名 No.150 地点）

葛山大端ヶIII遺跡（第二東名 No.150-2 地点）

藤畠遺跡（第二東名 No.150-2 地点）

序

第二東名高速道路は、現在の東名高速道路の混雑緩和や交通の安定性の確保等を目的として計画された道路です。本書は、第二東名高速道路建設に伴い事前調査が実施された葛山大端ヶI遺跡、葛山大端ヶIII遺跡及び藤畠遺跡の調査報告書です。

葛山大端ヶI遺跡、葛山大端ヶIII遺跡、藤畠遺跡が所在する裾野市は、富士山南東麓、愛鷹山東麓、箱根山西麓といった三方を山に囲まれた風光明媚な土地です。市街を南北に流れる黄瀬川は、その本支流に五竜の滝、景ヶ島渓谷などの景勝地を形成しています。第二東名高速道路は黄瀬川西側の愛鷹山麓をほぼ南北に延びて、急峻な谷とその周囲の尾根を分断する位置にあります。各遺跡は、愛鷹山北東麓の尾根上に位置します。

各遺跡の調査では旧石器時代、縄文時代早期から後期にかけての遺物や遺構が確認されました。

具体的には、葛山大端ヶI遺跡では遺物は旧石器時代の石器、縄文時代の土器、石器が、遺構としては礫群、集石、土坑、焼土、遺物集中が検出されました。

葛山大端ヶIII遺跡では縄文時代の土器、石器が出土し、遺構では土坑、遺物集中が見つかりました。しかし両遺跡とも、住居跡など定住生活を示すような遺構は確認されませんでした。従いまして両遺跡とも狩猟の際の一時的なキャンプ地として利用されていたと考えられます。

藤畠遺跡では土坑が1基確認されたのみで、人間の活動の痕跡はほとんど残されていませんでした。

本書が、研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。

最後になりましたが、本発掘調査にあたり、中日本高速道路株式会社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年2月

静岡県埋蔵文化財センター所長

勝田順也

例　　言

1 本書は静岡県裾野市葛山地先に所在する葛山大端ヶI遺跡（第二東名No150地点）及び裾野市葛山大端ヶII遺跡（第二東名No150-1地点）の発掘調査報告書である。

2 調査は第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、日本道路公团静岡建設局（現中日本高速道路株式会社）の委託を受け、静岡県教育委員会文化課（現静岡県教育委員会文化財保護課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。

3 葛山大端ヶI遺跡（第二東名No150地点）、葛山大端ヶII遺跡・藤畠遺跡（第二東名No150-2地点）の確認調査・本調査期間及び業務委託先是以下の通りである。

葛山大端ヶI遺跡（第二東名No150地点）

確認調査・本調査Ⅰ期 平成15年7月～9月、11月～平成16年3月 実掘面積765m²

　　掘削業務 株式会社大岡建設工業　測量業務 株式会社バスコ

本調査Ⅱ期 平成16年4月～12月 実掘面積4,409m²

　　掘削業務 株式会社小俣組　測量業務 国際航業株式会社

本調査Ⅲ期 平成18年4月～11月 実掘面積1,193m²

　　掘削業務 山久建設株式会社　測量業務 国際航業株式会社

葛山大端ヶII遺跡（第二東名No150-2地点）

確認調査・本調査 平成15年9月～平成16年9月 実掘面積6,155m²

　　掘削業務 株式会社大岡建設工業　測量業務 株式会社バスコ

藤畠遺跡（第二東名No150-2地点）

確認調査・本調査 平成15年9月～平成16年2月 実掘面積800m²

　　掘削業務 株式会社大岡建設工業　測量業務 株式会社バスコ

4 調査体制は以下の通りである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成15年度（確認調査・本調査Ⅰ期）

所長 兼副理事長 竹藤 忠 副所長兼理事 飯田英夫

総務部長兼常務理事 余田徳幸

総務部次長兼総務課長 錦田英巳

経理専門員 稲葉保幸

総務係長 山本広子 会計係長 野島尚紀

調査研究部長 山本昇平

調査研究部次長兼資料課長 栗野克己

保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究三課長 足立順司

調査研究員 村松利彦

平成16年度（本調査Ⅱ期）

所長 兼副理事長 竹藤 忠 副所長兼理事 飯田英夫

総務部長兼常務理事 平松公夫

総務部次長兼総務課長 錦田英巳

経理専門員 稲葉保幸

総務係長 佐藤美奈子 会計係長 野島尚紀

調査研究部長 山本昇平

調査研究部次長兼資料課長 栗野克己

保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十三

調査研究三課長 足立順司

調査研究員 菊池吉修・永島宏一・日吉高幸

技術職員 青島邦夫

平成18年度（確認調査・本調査Ⅲ期）

所長兼副理事長 斎藤 忠 総務部長兼常務理事 平松公夫

総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎

総務係長 芦川美奈子

会計係長 杉山和枝

調査研究部長 石川素久

調査研究部次長 佐野五十三

調査研究部次長 稲葉保幸

調査研究部次長兼調査課長 及川 司

保存処理室長 西尾太加二

調査課係長 前嶋秀張

調査課係長 中鉢賢治

調査課係長 富樫孝志

調査課係長 河合 修

調査研究員 木崎道昭・日吉高幸・松川理治

(ここまで財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所)

静岡県埋蔵文化財センター

平成23年度（資料整理）

所長 勝田順也 次長兼総務課長 八木利眞 主幹兼事業係長 村松弘文

総務係長 澄みやこ

調査課長 中鉢賢治

調査第一係長 富樫孝志

調査第二係長 溝口彰啓

常勤嘱託員 永田悠記

平成24年度（資料整理）

所長 勝田順也 次長兼総務課長 八木利眞 主幹兼事業係長 前田雅人

総務係長 澄みやこ

調査課長 中鉢賢治

調査第一係長 富樫孝志

調査第二係長 溝口彰啓

常勤嘱託員 永田悠記

5 本書の執筆は永田悠記が行った。

6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。

7 資料整理・報告書作成期間及び業務委託先は以下の通りである。

資料整理・報告書作成 平成23年7月～平成25年2月

整理作業・保存処理業務 株式会社パソナ

黒曜石産地同定業務 独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏

石器実測業務 株式会社ラング

放射性炭素年代測定・出土炭化物の樹種同定業務 株式会社加速器分析研究所

8 発掘調査・整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。

池谷信之 小崎晋 小林謙一（五十音順・敬称略）

9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標を基準に設定した。
A 0 の座標は X = -88140, Y = 35280 である。
- 3 出土遺物は 4 桁の通し番号（= 遺物番号）を付して取り上げた。報告書中の挿図番号とは同一でない。
- 4 遺構図、遺物実測図の縮尺は、遺構 1/40、土器 1/3、剥片石器 4/5、礫石器 1/2・1/3 を原則とし、それぞれにスケールを付した。
- 5 色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
- 6 土層名は第3章第2節の基本土層図（第5図）に表示した名称を用いる。
- 7 第2章第2節の裾野市内第二東名間遺跡及び主要縄文時代遺跡（第2図）は国土地理院発行 1 : 25,000 地形図「裾野」を複写し加工・加筆した。
- 8 実測図中の指示記号及び表現、石材、黒曜石産地の略号は以下の通りである。

遺物

	敵打痕		磨面
	縫理面		発掘時の欠損

石材一覧

和名	英名	標準資料略号	和名	英名	標準資料略号
玄武岩	basalt	Ba	ホルンフェルス	hornfels	Hor
多孔質玄武岩	vesicular basalt	VBa	重青石ホルンフェルス	cordierite hornfels	Hort(Co)
粗粒玄武岩	dolerite	Do	黒曜石	obsidian	Ob
細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	細粒凝灰岩	fine-grained tuff	FT
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn	硬質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
輝石安山岩	pyroxene andesite	AnPy	緑色凝灰岩	green tuff	GT
多孔質安山岩	vesicular andesite	VAn	頁岩	shale	Sh
デイサイト	dacite	Da	珪質頁岩	siliceous shale	SSh
下呂石	gero stone	GRS	硬質頁岩	hard shale	HS
ひん岩	porphyrite	Po	細粒砂岩	fine-grained sandstone	FSS
細粒斑れい岩	fine-grained gabbro	FG	中粒砂岩	medium grained sandstone	MSS
玉髓	chaicadony	Cha	粗粒砂岩	coarse-grained sandstone	CSS
結晶片岩	crystalline schist	CSc	チャート	chert	Ch
緑色片岩	green schist	GS			

黒曜石推定産地一覧

略号	産地	略号	産地	略号	産地
WDTY	和田鷹山群	TSTY	蓼科冷山群	AGKT	天城柏崎群
WDTH	和田古崎群	HNHU	箱根宿宿群	KZOB	神津島恩羅鳥群
SWHD	源訪星ヶ台群				

目 次

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の概要	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	3
1 旧石器時代	3
2 縄文時代	3
第3章 葛山大端ヶI遺跡	
第1節 調査の方法と経過	8
第2節 基本層序	10
第3節 旧石器時代の遺構と遺物	16
1 文化層の設定	16
2 第I文化層	16
3 第II文化層	18
第4節 縄文時代の遺構と遺物	23
1 遺構	23
2 遺物	38
第4章 葛山大端ヶIII遺跡	
第1節 調査の方法と経過	78
第2節 基本層序	78
第3節 旧石器時代の遺構と遺物	82
1 遺構	82
2 遺物	82
第4節 縄文時代の遺構と遺物	84
1 遺構	84
2 遺物	96
第5章 藤畠遺跡	
第1節 調査の方法と経過	120
第2節 基本層序	121
第3節 旧石器時代の遺構と遺物	122
1 遺構	122
2 遺物	122
第4節 縄文時代の遺構と遺物	122
1 遺構	122
2 遺物	122

第6章　まとめ

第1節　葛山大端ヶⅠ遺跡	123
1　旧石器時代	123
2　縄文時代	123
第2節　葛山大端ヶⅢ遺跡	124
1　旧石器時代	124
2　縄文時代	124
第3節　藤畠遺跡	125

附　編

第1節　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡出土黒曜石産地推定結果	129
第2節　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	137
第3節　葛山大端ヶⅠ遺跡出土炭化物の同定	145

写真図版

抄録

挿図目次

第2章

第1図　第二東名路線図及び調査地点	4
第2図　裾野市内第二東名関連遺跡及び 主要縄文時代遺跡	5

第3図　調査区及びグリッド	6
第4図　葛山大端ヶⅠ・Ⅲ・藤畠遺跡位置	7

第3章

第5図　基本土層	11
第6図　土層堆積状況1	13
第7図　土層堆積状況2（1区）	14
第8図　テストピット配置	15
第9図　旧石器時代遺物分布	16
第10図　第Ⅰ文化層遺物分布	17
第11図　第Ⅰ文化層出土遺物	17
第12図　第Ⅱ文化層遺物分布	19
第13図　第Ⅱ文化層縄群	19
第14図　第Ⅱ文化層縄群出土遺物	20
第15図　第Ⅱ文化層出土遺物	21
第16図　縄文時代遺構位置	24
第17図　縄文時代出土遺物分布	25
第18図　集石	26

第19図　土坑1	27
第20図　土坑2	28
第21図　土坑3・焼土	29
第22図　1号遺物集中	31
第23図　1号遺物集中出土遺物1	32
第24図　1号遺物集中出土遺物2	33
第25図　2号・3号・4号遺物集中	34
第26図　2号・3号・4号1遺物集中出土 遺物	35
第27図　4号2遺物集中出土遺物	36
第28図　土器群別分布	39
第29図　第I群abcd類土器分布	41
第30図　第I群e類土器分布	41
第31図　第I群土器	42
第32図　第II群土器分布	43
第33図　第III群土器分布	43
第34図　第II・III群土器	44
第35図　第IV・V群土器分布	45
第36図　第VI群土器分布	45
第37図　第IV・V群土器	46
第38図　第VI群土器	47

第39図	第VII群土器分布	49	第69図	土坑3	89
第40図	第VI群土器分布	49	第70図	1号遺物集中	90
第41図	第VII・VIII群土器	50	第71図	1号遺物集中出土遺物	91
第42図	第IX・X群土器分布	51	第72図	2号遺物集中	93
第43図	第IX・X群土器	52	第73図	2号遺物集中出土遺物	93
第44図	剥片石器器種別分布	56	第74図	3号遺物集中	94
第45図	剥片石器石材別分布	57	第75図	3号遺物集中出土遺物	95
第46図	石器1	58	第76図	土器群別分布	98
第47図	石器2	59	第77図	第I・II・III群土器分布	99
第48図	石器3	60	第78図	第I群土器	100
第49図	礫石器器種別分布	62	第79図	第IV・V・VI・VII群土器分布	101
第50図	礫石器石材別分布	63	第80図	第II・III・IV・V・VI・VII群土器	102
第51図	石器4	64	第81図	剥片石器器種別分布	105
第52図	石器5	65	第82図	剥片石器石材別分布	105
第53図	石器6	66	第83図	石器1	106
第54図	石器7	67	第84図	石器2	107
第55図	石器8	68	第85図	礫石器器種別分布	109
第56図	石器9	69	第86図	礫石器石材別分布	110
第57図	石器10	70	第87図	石器3	111
第58図	石器11	71	第88図	石器4	112
第59図	石器12	72	第89図	石器5	113
第60図	石器13	73	第90図	石器6	114
第4章			第91図	石器7	115
第61図	基本土層	80	第92図	石器8	116
第62図	トレンチ・テストピット配置	81	第93図	石器9	117
第63図	旧石器時代遺物分布・遺構位置	82	第5章		
第64図	旧石器時代礫群	83	第94図	トレンチ配置	120
第65図	縄文時代遺構配置	85	第95図	基本土層	121
第66図	縄文時代遺物分布	86	第96図	縄文時代遺構位置	122
第67図	土坑1	87	第97図	土坑	122
第68図	土坑2	88			

插表目次

第2章

第1表	対象地点一覧	4	第5表	第II文化層石器組成	18
第2表	遺跡名一覧	5	第6表	第II文化層礫群出土石器一覧	22
第3章			第7表	第II文化層礫群出土礫一覧	22
第3表	第I文化層石器一覧	17	第8表	第II文化層石器一覧	22
第4表	第I文化層礫一覧	17	第9表	第II文化層礫一覧	22

第10表	縄文時代集石一覧	37	第4章	
第11表	縄文時代土坑一覧	37	第25表	旧石器時代礫一覧
第12表	縄文時代焼土一覧	37	第26表	縄文時代土坑一覧
第13表	縄文時代遺物集中一覧	37	第27表	縄文時代遺物集中一覧
第14表	1号遺物集中石器組成	37	第28表	1号遺物集中出土石器組成
第15表	2号遺物集中石器組成	37	第29表	2号遺物集中出土石器組成
第16表	3号遺物集中石器組成	37	第30表	3号遺物集中出土石器組成
第17表	土器観察表	53	第31表	土器観察表
第18表	石錐組成	74	第32表	石錐組成
第19表	スクレイバー組成	74	第33表	スクレイバー組成
第20表	石核組成	74	第34表	石核組成
第21表	打製石斧組成	74	第35表	打製石斧組成
第22表	磨石・敲石類組成	74	第36表	縄文時代磨石・敲石類組成
第23表	縄文時代石器組成	75	第37表	縄文時代石器組成
第24表	縄文時代石器一覧	76	第38表	縄文時代石器一覧
				119

図版目次

図版1	調査区全景	6号土坑（南より）
図版2	葛山大端ヶI遺跡 調査区（1区） 休場層（南上より）	7号土坑（西より） 8号土坑（西より）
	土層断面1 土層断面2	図版6 2号焼土（西より） 4号遺物集中（東より）
図版3	調査区全景 第Iスコリア層（南東より） 礫群検出状況（東より）	縄文時代 遺物出土状況（南東より）
	礫群出土遺物 第I文化層 出土遺物 第II文化層 出土遺物	図版7 1号遺物集中出土石器 2号遺物集中出土石器 3号遺物集中出土石器
図版4	1号集石（南東より） 2号集石（東より） 3号集石（東より） 4号集石（南より） 5号集石（南より） 6号集石（西より） 7号集石（東より）	図版8 4号遺物集中出土石器 図版9 第I群a～d類土器 第I群e類土器 図版10 第II群a類土器 第II群bc類土器 第III群土器 図版11 第IV群a類・V群土器 第IV群b類土器 図版12 第VI群a類土器 第VI群b類土器 第VI群cd類土器 第VI群e類土器 第VI群deg類土器
図版5	1号土坑（東より） 2号土坑（東より） 3号土坑（北西より） 4号土坑（南より） 5号土坑（南より）	

図版13	第Ⅶ群 a ~ d 類土器 第Ⅷ群 e 類土器 第Ⅸ群 ab 類土器	12号土坑 (南東より) 13号土坑 (南より)
図版14	第Ⅹ群 a 類土器 第Ⅺ群 b 類・第X群土器	図版23 2号遺物集中 (西より) 4号遺物集中 (西より) 縄文時代 遺物出土状況 (西より)
図版15	石錐・石錐未製品 尖頭器・スクレイバー・石匙・石錐・楔形石器・二次加工剥片・石核1・石核2	図版24 1号遺物集中出土石器 2号遺物集中出土石器 3号遺物集中出土土器 3号遺物集中出土石器
図版16	打製石斧・磨製石斧	図版25 第I群土器
図版17	礫器	図版26 第II群・第III群土器
図版18	磨石・敲石類	図版27 石錐・石錐未製品・スクレイバー・二次加工剥片・石核
図版19	台石	図版28 打製石斧 礫器
図版20	葛山大端ヶⅢ遺跡 調査区全景 1区 土層断面	図版29 磨石・敲石類 石皿・台石
図版21	旧石器時代 調査区全景 (TP完掘) 礫群 遺物出土状況 (南西より)	図版30 藤畠遺跡 調査区 (東より) 土層断面 土坑 (南より)
図版22	2号土坑 (南より) 4号土坑 (東より) 5号土坑 (東より) 8号土坑 (南東より) 10号土坑 (西より) 11号土坑 (南より)	

第1章 調査に至る経緯

昭和62年、道路審議会において、東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として第二東名・第二名神高速道路の建設が建議された。

その後、平成元年の第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る総延長約270kmの第二東名高速道路が計画された。この基本計画を受けて静岡県は、平成元年12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（現文化財保護課）もメンバーとして協議に参加した。

平成3年、第二東名の基本計画について文化財を含む環境調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、9月24日に長泉町から引佐町（現浜松市）に至る都市計画の決定が告示された。

平成4年に、環境調査と並行して埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社）は、2月17日付けで文化庁に通知するとともに、5月11日付けで日本道路公団東京第一建設局長から静岡県教育委員会教育長宛に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、8月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長から静岡県教育委員会教育長宛に「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けて静岡県教育委員会は、9月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名計画路線における埋蔵文化財の所在について、当該市町村教育委員会に照会し、回答を得た。

平成5年には、県教育委員会はこの回答をもとに協議を行い、結果を3月18日付けで県教育長から静岡調査事務所長宛に回答した。この時点で調査対象箇所は136ヶ所、調査対象面積は1,453,518m²となっている。その後、長泉町～引佐町については、11月19日付けで日本道路公団に施行命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、静岡県教育委員会文化課で埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については日本道路公団が財团法人静岡県埋蔵文化財調査研究所に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査を行うための体制作りが課題となった。

平成6年には、文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたパーキングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町村教育委員会に依頼した。その結果、調査対象箇所は133ヶ所、調査対象面積は1,286,759m²となった。

平成7年には、日本道路公団静岡建設局と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財協議連絡調整会議」が設置され、12月13日に第1回会議が行われた。

平成8年には、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、日本道路公団静岡建設局と静岡県教育委員会は9月24日付で埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を加えた三者は、9月25日付けで第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることになった。そして掛川市、浜北市（現浜松市）で確認調査を始めた。

平成9年に本格的に調査を開始した。これ以降原則として第二東名の本線、サービスエリア、パーキングエリア、廃土処分場については、財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとした。

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

葛山大端ヶI遺跡、葛山大端ヶIII遺跡、藤畠遺跡が所在する裾野市は、北緯35度10分、東経138度54分付近の静岡県東部に位置し、総面積は約138.17km²である。南東部は三島市、南西部は長泉町、北側は御殿場市、西側は富士市、東側は神奈川県箱根町と接する。市内は、北から南東へ広がる富士山東南麓の裾野が、東野箱根外輪山と西の愛鷹山東麓により漏斗状に狹まった緩やかな傾斜地である。この地域は土地分類上、火山急斜面と火継斜面と低位台地で構成される。漏斗状に狹まった低位台地上には、御殿場市に源を発する全長31kmの1級河川である黄瀬川が南流しており、裾野市で愛鷹山東麓と箱根外輪山西麓から流れる支流河川と合流する。この河川は、沼津市・三島市を流れる狩野川に合流し、最後は駿河湾に注がれる。

愛鷹山は約40～50万年前から活動を始め、約10万年前に活動を停止した円錐形をした成層火山である。この活動は古期・中期・新期Ⅰ・新期Ⅱ・最新期の5期に区分され、玄武岩質や凝灰角礫岩質と安山岩質の噴出物によって形成される。その後、これらの噴出物の上に古富士火山・新富士火山や箱根火山帯の噴出物を含んだ愛鷹ローム層と呼ばれている何層もの火山灰層が厚く堆積し、現在の愛鷹山麓が形成されている。特に約8万年前から活動を開始した古富士火山の噴出物が堆積して愛鷹ローム層を形成し、また、約1万年前には新富士火山から大量の溶岩流が流出し、その後も火山灰が厚く堆積した。この古富士火山の活動期に数回の開析作用が起り、その結果形成された樹根状の尾根の上に新富士火山の噴出物が覆い、現在の地形が造り上げられた。愛鷹ローム層は上部、中部、下部ローム層に分けられており、西は富士川、東は裾野市まで広がっている。上部ローム層には旧石器時代から縄文時代の遺跡が多く存在する。愛鷹山麓は静岡県東部から富士山の南麓にかけて立地し、第二東名建設事業に伴って、南麓から東麓にかけて旧石器時代と縄文時代の遺跡が多く確認されている。

葛山大端ヶI遺跡、葛山大端ヶIII遺跡、藤畠遺跡もそうした遺跡の1つである。葛山大端ヶI遺跡は東名裾野インターチェンジから西方に約2km、愛鷹山東麓の標高約320mの緩傾斜地面上に位置する。葛山大端ヶIII遺跡は、葛山大端ヶI遺跡から谷を挟んで北隣の標高約300mの細い尾根上に位置し、尾根の丘陵で1区と2区に分かれている。さらに北側の谷を挟んだ尾根の上には、葛山大端ヶII遺跡（第二東名No151地点）が所在する。また、葛山大端ヶI遺跡の南隣には、葛山上條遺跡（第二東名No149地点）が所在する。いずれも第二東名高速道路建設事業に伴い発掘調査が行われ、報告書が刊行されている。それによると、本遺跡群と同様に、旧石器時代の礫群や、縄文時代の陥穴状土坑、集石、焼土などが検出されており、本遺跡との関係性が注目される。なお、藤畠遺跡は葛山大端ヶI遺跡が位置する丘陵の東麓に所在する。

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

裾野市が属する愛鷹山東麓では3万年以上前から人間の生活の痕跡が確認でき、その痕跡は黒色土層帯から検出される。しかしながら、その状況は、近年まで明確には分かっていなかった。第二東名高速道路建設に至り、裾野市でも多くの遺跡で大規模な調査が行われ膨大なデータが蓄積され、その様相は徐々に明らかになりつつある。

そうした経緯により発掘調査されたこの地域での旧石器時代に該当する遺跡は、棚返遺跡（No153地点）や葛山大端ヶI遺跡の南側に隣接する葛山上條遺跡（No149地点）、千福南山Ⅲ西遺跡（No148-2地点）、佛ヶ尾遺跡（No147地点）、下ノ大窪遺跡（No146地点）、老平遺跡（No145地点）、入ノ洞B遺跡（No144-2地点）、内野山V遺跡（No144-3地点）、富沢内野山Ⅰ西遺跡（土3遺跡）、塚松遺跡（No144地点）などが挙げられる。大半が複数の文化層が検出された重層遺跡である。このうち、塚松遺跡では第Ⅲ黒色帯から26基の土坑が検出されており、入ノ洞B遺跡からは、約28,000年前に比定される第Ⅳ黒色帯より局部磨製石斧が出土している。

2 繩文時代

愛鷹山東麓地域には草創期に該当する遺跡は少ない。早期には遺跡は増加するが前期には減少し、中期に再び隆盛を迎える後期から晩期にかけて再び減少する。第二東名建設に関わる遺跡では、葛山大端ヶII遺跡（No151地点）、葛山上條遺跡（No149地点）が隣接しており、中期が主体的である。それ以外の時期の遺跡も少数ながら存在する。

草創期に該当する遺跡は、尾畠遺跡、細野沢遺跡、富沢内野山Ⅰ西遺跡があり、富沢内野山Ⅰ西遺跡では土器片も出土している。

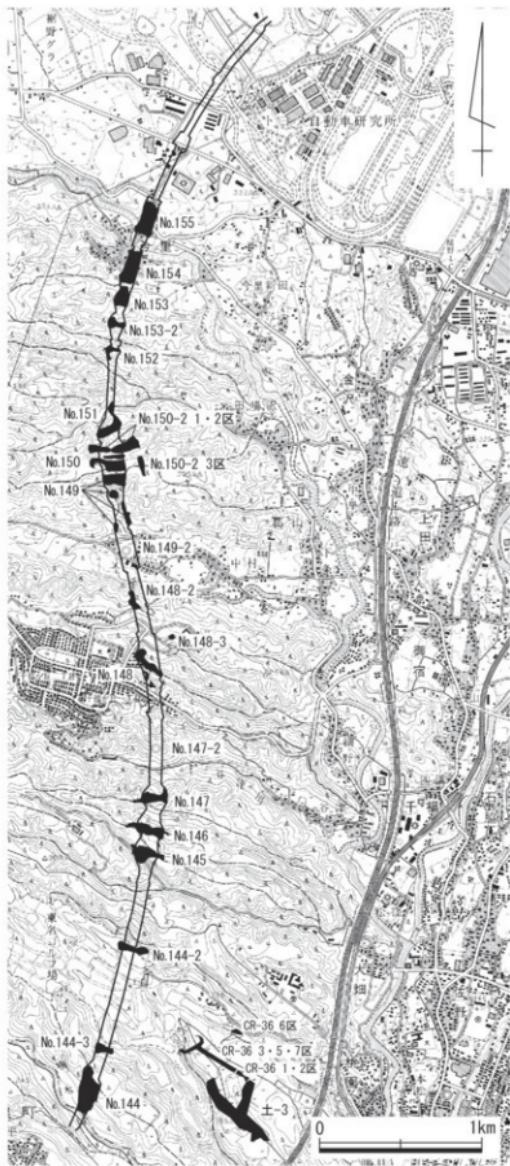
早期前葉の遺跡は千福小杉平第二遺跡、老平遺跡があり、撫糸文土器が出土している。早期中葉では丸山Ⅱ遺跡、城ヶ尾遺跡、内野山V遺跡から押型文土器が出土している。早期後葉は、関東系の条痕文土器や東海の入海式土器、清水柳E類土器、天神山式土器が出土する遺跡が多く見られ、佛ヶ尾遺跡などからも大量に東海系の土器が出土している。

前期の遺跡は細野沢遺跡、入ノ洞B遺跡、葛山大端ヶII遺跡等が挙げられ、初頭では木鳥式土器が、後期では諸磯式土器が出土する。また、関西系の北白川下層式土器が出土する遺跡も見られる。

中期の遺跡数は増加する。前半は長泉町柏窪遺跡、上山地遺跡などで、五領ヶ台式土器、勝坂式土器、東海系の北屋敷式土器などの土器が出土している。中葉から後葉にかけては増加傾向にあり、下ノ大窪遺跡、屯屋敷遺跡からは勝坂式土器や加曾利E式土器が出土している。また、尾畠遺跡では顔面把手付土器や翡翠製大珠が出土し、細山遺跡近辺では釣手形土器が採取されている。

後期に当たる遺跡は減少し、富沢内野山Ⅰ遺跡、田場沢裏山遺跡、中里遺跡、下条遺跡、下ノ大窪遺跡、千福南山Ⅲ西遺跡などがあるのみである。

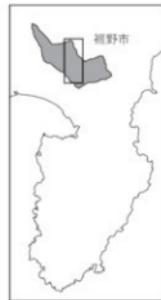
晩期に該当すると考えられる遺跡は現在のところ裾野市内では確認されていない。

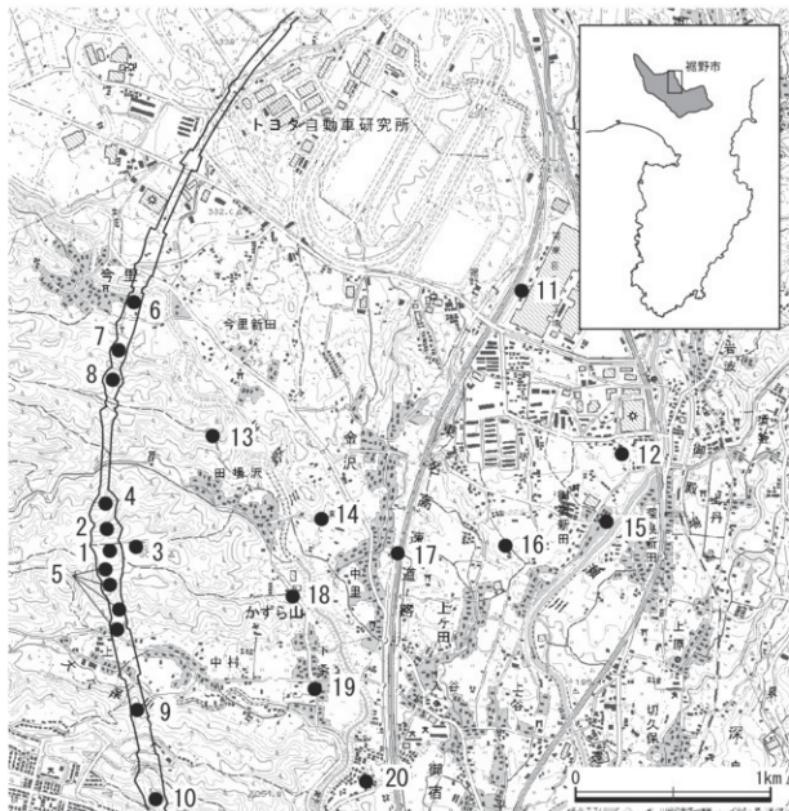


第1図 第二東名路線図及び調査地点

第1表 対象地点一覧

対象地点		対応する道路
No.144地点		塚長
C R36	1・2区	富沢内野山Ⅲ北
	3・5・7区	富沢内野山Ⅳ西
	6区	富沢内野山V
土3		富沢内野山I西
No.144-2地点		入ノ洞B
No.144-3地点		内野山V
No.145地点		老平
No.146地点		下ノ大崖
No.147地点		佛ヶ尾
No.147-2地点		-
No.148地点		細沢
No.148-2地点		南山Ⅲ西
No.148-3地点		南山Ⅲ東
No.149地点		葛山上條
No.149-2地点		-
No.150地点		葛山大端ヶI
No.150-2地点	1・2区	葛山大端ヶIII
	3区	藤畠
No.151地点		葛山大端ヶII
No.152地点		-
No.153地点		棚返
No.153-2地点		今里
No.154地点		今里葵ヶ海道
No.155地点		-



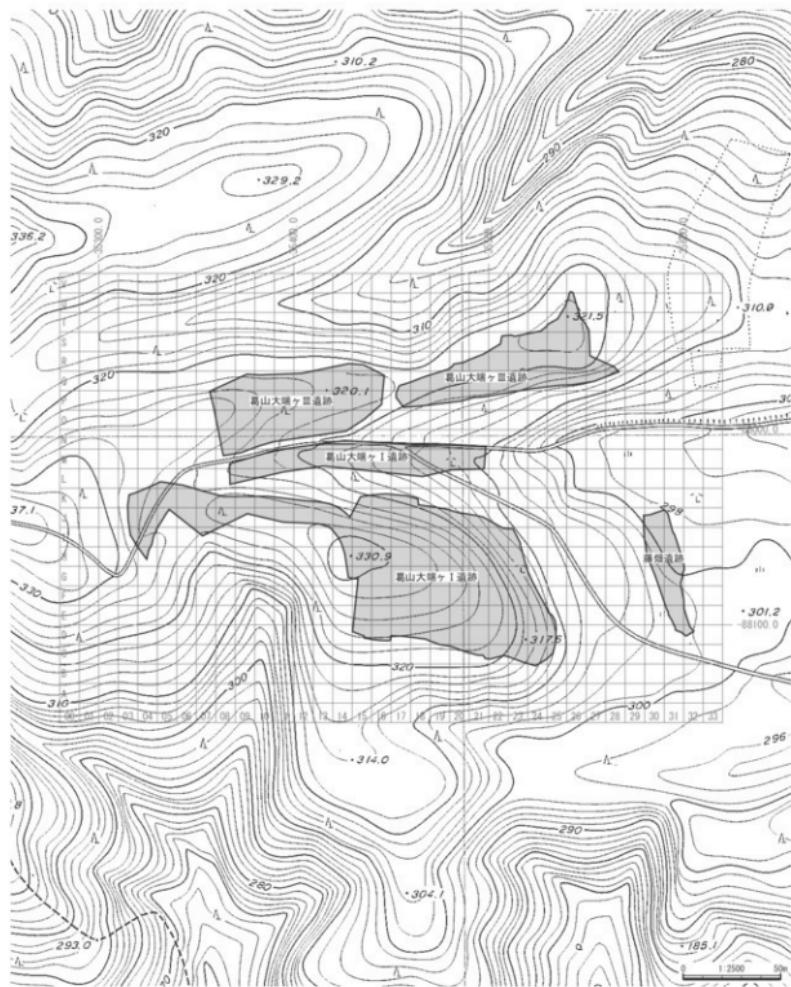


第2図 裾野市内第二東名関連遺跡及び主要縄文時代遺跡

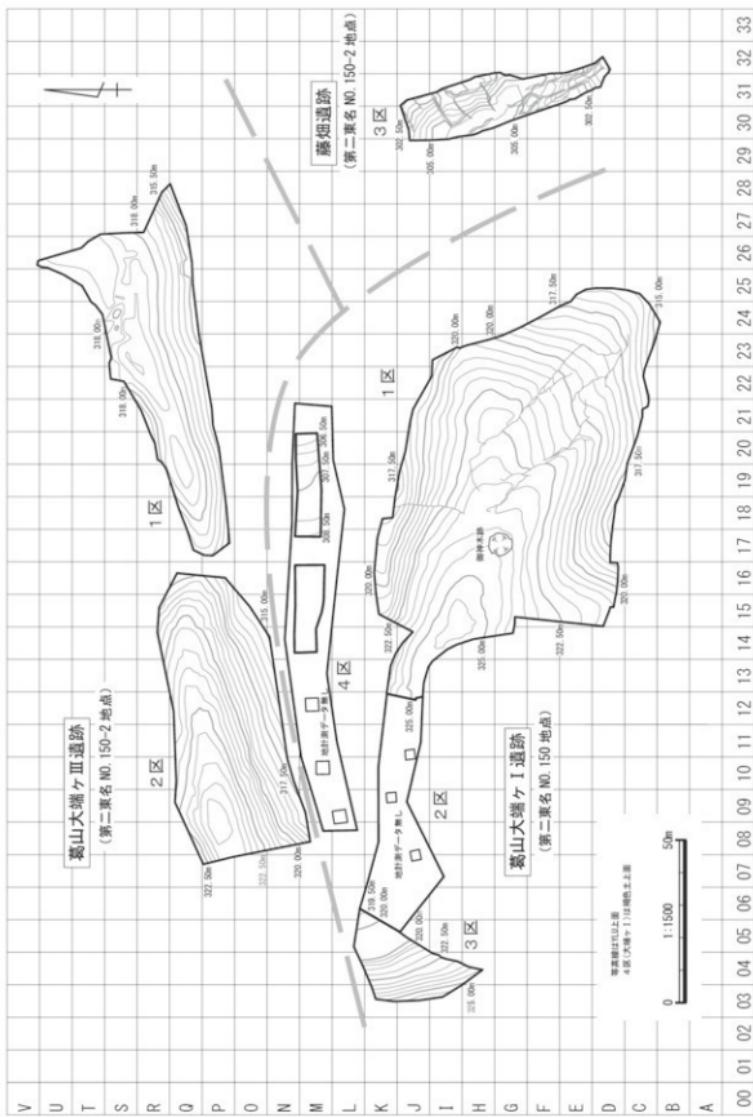
第2表 遺跡名一覧

番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代				番号	遺跡名	旧石器時代	縄文時代			
			早 期	前 期	中 期	後 期				早 期	前 期	中 期	後 期
1	葛山大端ヶI遺跡	○	○	○	○	○	11	上川遺跡	○	○	○	○	○
2	葛山大端ヶIII遺跡	○	○	○	○	○	12	六反田遺跡					○
3	藤畠道路						13	田場沢裏山遺跡		○	○	○	○
4	葛山大端ヶII遺跡		○	○			14	柳島遺跡		○	○	○	○
5	葛山上條道路	○	○	○	○		15	御宿新田遺跡					○
6	今里瀬側海道遺跡			○	○	○	16	坂下遺跡					○
7	棚返遺跡	○	○	○	○	○	17	中里遺跡					○
8	今里遺跡						18	一色原遺跡		○	○	○	○
9	千福南山Ⅲ西遺跡	○	○	○	○		19	下条遺跡		○	○	○	○
10	細沢遺跡		○	○	○		20	景ヶ島東遺跡					時期不明

* 1~10は第二東名建設に伴う埋蔵文化財発掘調査



第3図 調査区及びグリッド



第4図 葛山大端ヶI・III・藤畠遺跡位置

第3章 葛山大端ヶI遺跡

第1節 調査の方法と経過

葛山大端ヶI遺跡（第二東名No150地点）の調査対象面積は7,571m²で、実掘面積は6,367m²である。調査区は1区から4区まで分かれている。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅲ区系（X = -88140.0、Y = 35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。X軸に対して西から東へアラビア数字、Y軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をついた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。基本的には機械実測、遺物の取り上げはトータルステーションを用い、土層図作成は全て手実測で行った。現場での遺構・遺物の管理は株式会社シン技術コンサルのソフト『遺跡管理システム』にてパソコン上で行い、遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はP、石器はS、礫はR、炭化物はCと記号を付した。測量データは、『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35mmサイズのカメラ、および6×7cmサイズの中判カメラを使用した。また、全景写真を撮影するために、ラジコンヘリコプターにカメラを搭載して空中写真撮影を行った。フィルムは中判（6×7cmサイズ）白黒フィルムを使用した。

試掘調査は平成15年7月から9月と11月から平成16年2月まで行った。

まず、御神木が祀られている周辺の平坦部を1区、市道を挟んで一番西側に位置する部分を3区、1区と3区を結ぶように伸びる細い尾根上を2区、そして葛山大端ヶI遺跡の1区と2区とが位置する尾根と1区と2区が所在する尾根を挟んだ谷部を4区とそれぞれ設定した。

試掘調査は、まず平成15年7月から8月にかけて1区から3区を行った。3m四方のテストピットを16ヶ所設定し、重機による伐採と表土除去の後、人力による掘削作業を行った。1区と3区ではほぼ全てのテストピットより縄文時代の包含層から遺物が出土した。2区については、地滑り等により縄文時代の包含層は無く遺物及び遺構は確認できなかったため、本調査の必要は無いと判断した。

続いて平成15年11月から平成16年2月にかけて4区の試掘調査を行った。4m四方のテストピットを7ヶ所設定し掘削した。このうち東側に設定したテストピット2ヶ所より休場層上面で隙穴が検出されたため、テストピットを連結して調査を行った（旧TP19とTP20（新TP20とTP21）、新TP22とTP23を連結）。しかしながら遺構の広がりは見られなかった。その後休場層を掘りきるまで掘削を進めたが、遺物の出土状況もまばらであったため、4区についても本調査の必要が無いと判断した。

本調査は、平成15年12月より3区765m²を対象として行った。表土除去、全面精査を行うと土坑2基を検出した。次いで調査対象地を東西に横切る形で幅4mのトレンチを2本設定し（TR01,TR02）縄文面を調査した。富士黒土層上面まで掘削を行ったが遺構・遺物ともほとんど出土せず、また調査地西側は特に斜面が急であるため、トレンチ掘削を中断し、やや平坦になる調査地東側部分を重機により休場層上面まで除去した。その後、5m四方のテストピット（TP24）を設定し2mの深さまで掘削を行ったが、遺構・遺物は確認されなかった。基本となる土層の記録を行い3区の調査を終了した。

続いて2月からは1区の本調査を行った。しかし、1区の調査区内に御神木が生えていたため一部掘り残しが生じ、平成18年に御神木を植替え未発掘だった部分の発掘調査を行った。

平成16年度は1区の調査を前年度に引き続いて行った。テストピットを拡張する形で2本のトレンチ

を4区に入れ掘り下げを行った結果、東側のトレンチから土坑が2基検出された。

本調査Ⅲ期は平成18年4月から11月まで行った。1区に残されていた御神木をお祓いの後植替え、その根本を中心に調査した。

資料整理・報告書作成は平成23年7月から平成25年2月まで行った。

整理・報告対象の遺構は、葛山大端ヶI遺跡では旧石器時代の砾群が1基、縄文時代の集石が7基、土坑17基、焼土2基、遺物集中4ヶ所であり、大端ヶIII遺跡は旧石器時代の砾群が1基、縄文時代に属する土坑が13基と遺物集中が3ヶ所、藤畠遺跡は、縄文時代と考えられる土坑が1基のみであった。

出土遺物の内訳は、葛山大端ヶI遺跡では、旧石器時代の石器は21点、礫は34点、縄文時代の土器が919点、石器3438点、砾2514点、炭化物が4点であり、葛山大端ヶIII遺跡では、旧石器時代の石器は出土が無く、砾は8点、縄文時代の土器が258点、石器847点、砾1384点、炭化物2点が出土した。なお、藤畠遺跡からは遺物の出土は見られなかった。

出土した石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行い、接合作業を行った。

土器は施文・器形・調整・胎土を手がかりに型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本・断面実測を行った。また、残存状態が良好な個体に関しては復元を試みた。

石器は調整・加工の施されているものを中心で実測図を作成した。石器実測については、砾石器類（磨石・敲石・石皿・台石等）と一部の剥片石器類を除き、石器実測図作成業務を株式会社ラングに委託した。

黒曜石製石器については、134点を抽出の上、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授の望月明彦氏に依頼し、産地推定分析を行った。抽出基準は、調整・加工のあるもの全てを分析の対象とした。出土した炭化物、土器付着炭化物の年代測定・樹種同定については株式会社加速器分析研究所に委託し、¹⁴C年代測定法（AMS法）を用いた。

報告書作成に伴い、作図は現場で取得したデジタルデータを基に『遺跡管理システム』を用いて補筆修正し、修正した図面及び遺構実測図、土層断面図、遺物実測図の一部のトレースはドローリングソフト『Adobe Illustrator Ver.CS3』でデジタルトレースを行った。

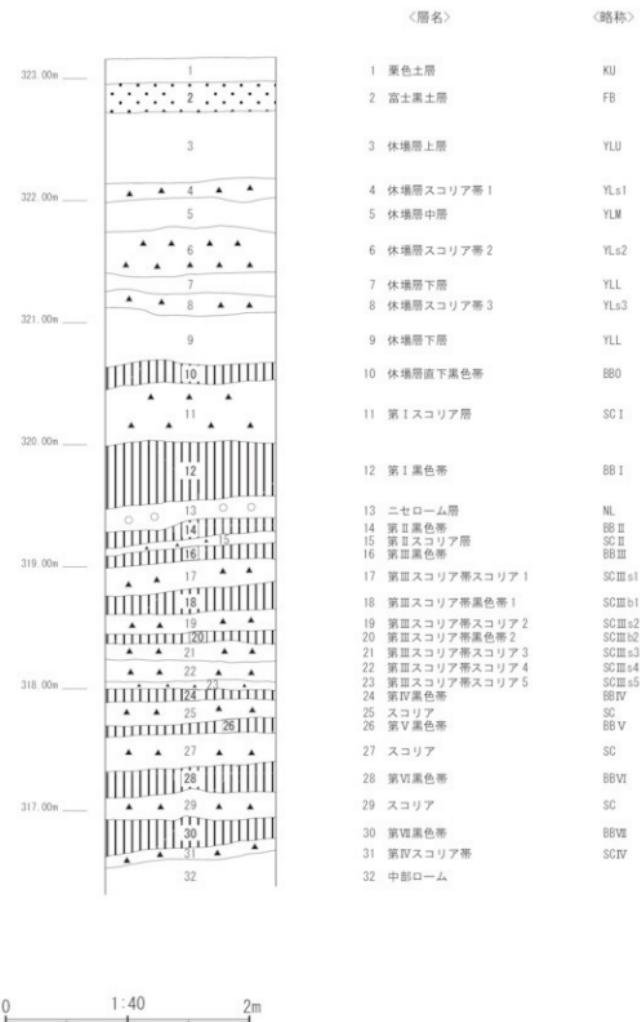
遺構の事実記載については現場で取得した情報を基に検討を重ね、検出層位、遺構覆土、切り合い関係を再検討した上、事実記載に齟齬の無いよう留意して記述を行った。また遺物については出土状況の記録と観察結果をまとめて分類と記述を行い、合わせて観察表を作成した。全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。

第2節 基本層序

葛山大端ヶI遺跡の基本土層は第5回の通りである。詳細な土層の注記は下記の通りである。

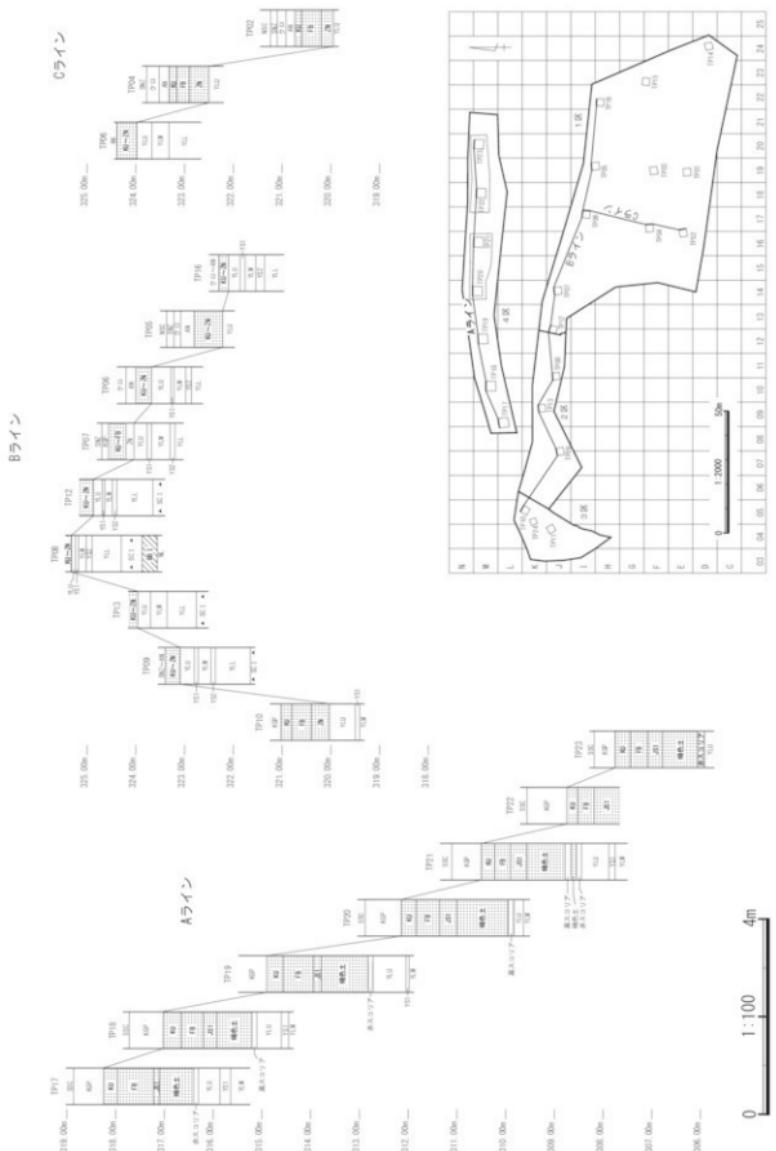
愛鷹山麓ローム層は堆積順に下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層に分けられる。上部ローム層は関東ローム層の立川ローム層に該当し、火山碎石物が堆積したスコリア層と火山噴火の休止期に植物の繁殖、腐食などの影響により黒色化が進んだ黒色帶との互層からなっている。葛山大端ヶI遺跡の基本土層は、こうした愛鷹山東麓の基本層序とほぼ一致するが、休場層下層の中にスコリア帯3が見られる。これは、富士山の側火山噴火による噴煙が偏西風により愛鷹山東麓の谷筋に薄く堆積した層で、第二東名関連遺跡では潤ヶ沢遺跡（No.27地点）、他には三島市の徳倉片山B遺跡などで確認されている。

- 第1層 栗色土層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～4mm）を少量含む。
- 第2層 富士黒土層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～4mm）を少量含む。
- 第3層 休場層上層 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）を少量含む。
- 第4層 休場層スコリア帯1 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径5～8mm）を多量に含む。黒色スコリア（径5～13mm）を少量含む。
- 第5層 休場層中層 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径3～5mm）、黒色スコリア（径3～8mm）を少量含む。
- 第6層 休場層スコリア帯2 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～5mm）、黒色スコリアを多量に含む。黄色スコリア（径1mm）を少量含む。
- 第7層 休場層下層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径1～6mm）、明赤褐色スコリア（径1～5mm）を少量含む。
- 第8層 休場層スコリア帯3 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～5mm）を多量に含む。黒色スコリア（径2～6mm）を少量含む。
- 第9層 休場層下層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径1～6mm）、明赤褐色スコリア（径1～5mm）を少量含む。
- 第10層 休場層直下黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径1～5mm）を多く含む。
- 第11層 第Iスコリア層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径2～7mm）を多量に含む。赤褐色スコリア（径1～5mm）、黄色ラビリ少量含む。
- 第12層 第I黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径3～7mm）、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア（径1～4mm）少量含む。
- 第13層 ニセローム層 10YR5/8 締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径2～8mm）、暗緑色噴石（径5～10mm）少量含む。
- 第14層 第II黒色帶 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径3～6mm）多量に含む。
- 第15層 第IIスコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）多量に含む。黒色スコリア（径3～6mm）少量含む。
- 第16層 第III黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。明赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径1～5mm）多量に含む。

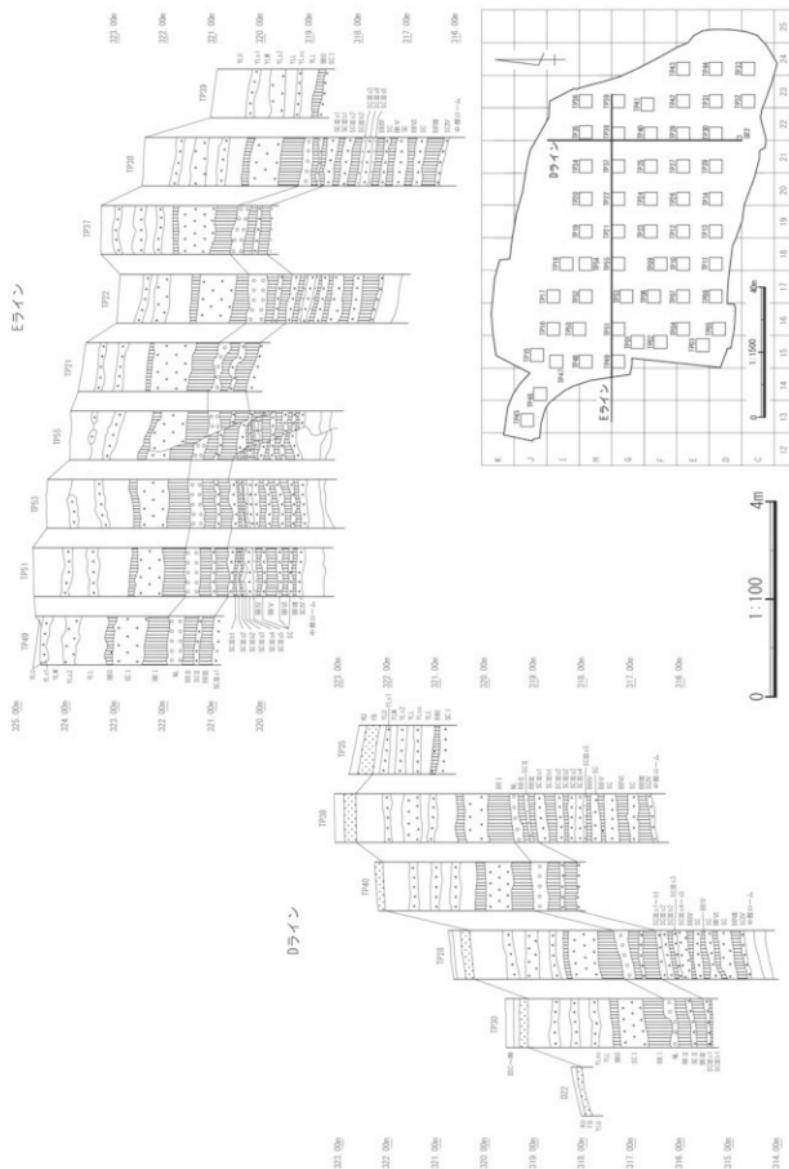


第5図 基本土層

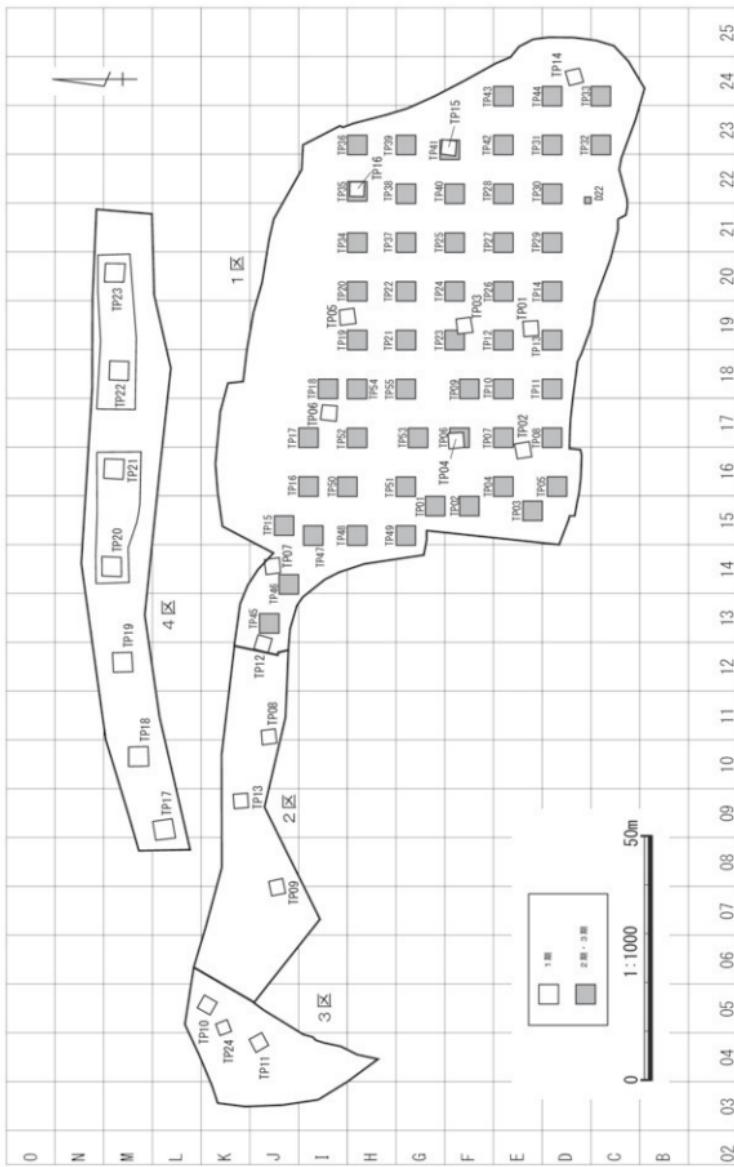
- 第17層 第Ⅲスコリア帯スコリア1 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）多量に含む。黒色スコリア（径2～10mm）、白色バミス（径1mm）、暗緑色噴石（径5～10mm）少量含む。
- 第18層 第Ⅲスコリア帯黒色帯1 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～10mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第19層 第Ⅲスコリア帯スコリア2 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径2～4mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径1～7mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、黄色ガラス（径1mm）少量含む。
- 第20層 第Ⅲスコリア帯黒色帯2 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～5mm）、黒色スコリア（径2～15mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第21層 第Ⅲスコリア帯スコリア3 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径2～15mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径2～5mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第22層 第Ⅲスコリア帯スコリア4 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径2～15mm）、赤褐色スコリア（径1～3mm）、黄色ガラス（径1mm）少量含む。
- 第23層 第Ⅲスコリア帯スコリア5 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。極赤褐色スコリア（径1～2mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）少量含む。
- 第24層 第Ⅳ黒色帯 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）多量に含む。
- 第25層 スコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、暗褐色スコリア（径3～7mm）少量含む。
- 第26層 第Ⅴ黒色帯 7.5YR4/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～5mm）多量に含む。
- 第27層 スコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、暗褐色スコリア（径3～7mm）少量含む。
- 第28層 第Ⅵ黒色帯 7.5YR4/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、暗褐色コリニア（径2～5mm）多量に含む。黒色ラビリ少量含む。
- 第29層 スコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、暗褐色スコリア（径3～7mm）少量含む。
- 第30層 第Ⅶ黒色帯 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色ラビリ多量に含む。
- 第31層 第Ⅳスコリア帯 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、暗褐色スコリア（径3～7mm）少量含む。
- 第32層 中部ローム層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）多量に含む。



第6図 土層堆積状況 1



第7図 土層堆積状況2（1区）



第8図 テストピット配置

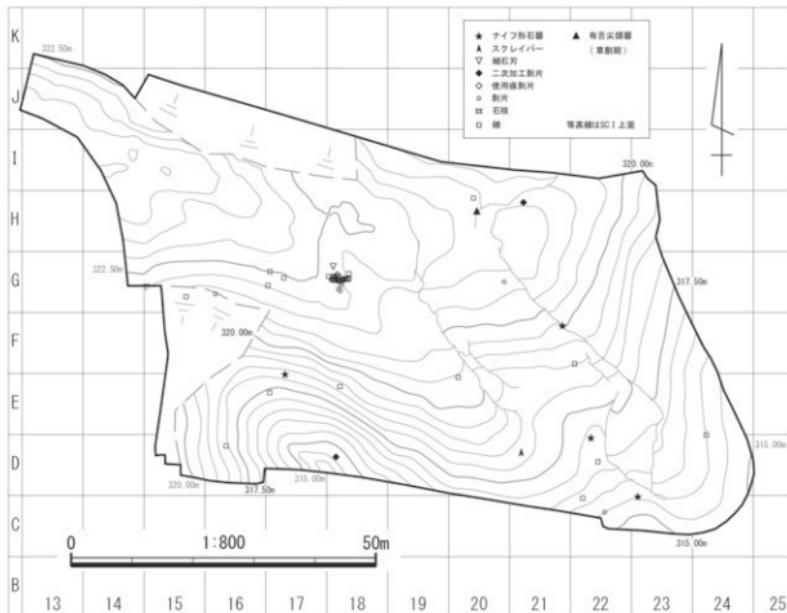
第3節 旧石器時代の遺構と遺物

1 文化層の設定

遺物の分布状況から、ニセローム層から第Ⅰスコリア層までが第Ⅰ文化層、休場層直下黒色帯から休場層上層までを第Ⅱ文化層に分けた。

2 第Ⅰ文化層（第10図・第11図）

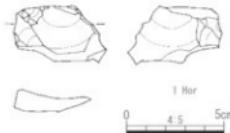
第Ⅰ文化層からは遺構は検出されなかった。遺物は石器が1点と礫が6点出土しており、石器は二次加工剥片である（第11図1）。石材はホルンフェルスで、左側縁部に加工痕が目立つ。第Ⅰスコリア層から出土した。礫は5点が第Ⅰ黒色帯、1点がニセローム層から出土しており、その半数が赤化していた。礫形態は第Ⅰ黒色帯から出土したものは亜角礫、ニセローム層のものは亜円礫であった。



第9図 旧石器時代遺物分布



第10図 第I文化層遺物分布



第11図 第I文化層出土遺物

第3表 第I文化層石器一覧

遺構名 番号	種類 番号	層位 番号	石材	産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	クリット	X座標	Y座標	Z座標
I-2662	二次加工剝片	SCI Hor			15.0	24.0	8.0	2.3	H-021	-88061.961	35492279	321.299	

第4表 第I文化層破片一覧

遺物 番号	種類 番号	層位 番号	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	形状	色調	破形態	クリット	X座標	Y座標	Z座標
2837	BB I	Ba	70	68	36	150	B		菱角縫	E-018	-88092.115	35462.136	318.200		
2856	BB I	Ba	148	127	45	920	B		菱角縫	D-016	-88101.867	35443.473	317.525		
6914	BB I	Ba	110	71	38	360	C	A	菱角縫	G-018	-88073.613	35463.632	321.215		
6915	BB I	An(Py)	55	26	21	30	D	A	菱角縫	G-017	-88073.293	35450.672	321.783		
6916	BB I	An(Py)	90	66	35	190	D	A	菱角縫	G-017	-88075.580	35450.349	321.307		
6917	NL	[An(Py)]	35	35	13	20	B		垂円縫	G-017	-88074.311	35452.951	321.146		

凡例

状態	色調
A—赤化完形	A—淡い赤化又は白化
B—非赤化破損	B—黄褐色に赤みがかった赤化
C—赤化完形	C—非常に赤化
D—赤化破損	
E—割れ面並赤化	

3 第II文化層（第12図～第15図）

第II文化層の遺構は礫群が1基検出されたのみである。1区のG-18グリッドから検出し、南北約2.5m、東西約3.5mの範囲に19点の礫が散漫して出土した。全てが被熱して赤化しており、ススが付着しているものもある。石材は輝石安山岩が11点、多孔質安山岩が5点、多孔質玄武岩のものが3点である。すべて休場中層からの出土である。

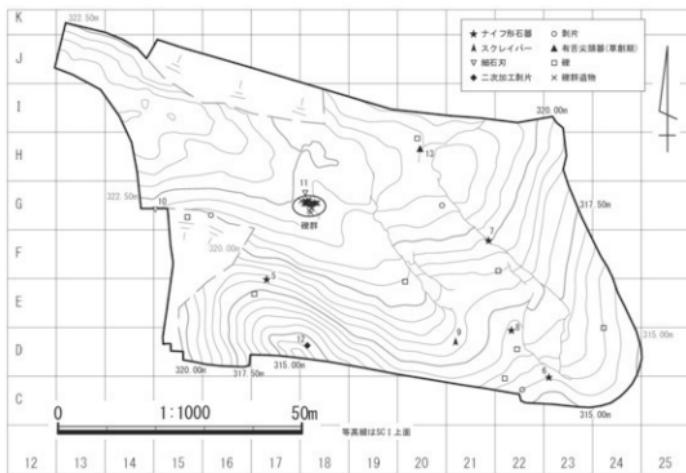
礫群に伴って遺物も出土した。石器が8点出土しており、そのうち3点が接合した。石核（第14図2）と使用痕剥片（同3）、剥片（同4）が1点ずつ、碎片が2点あり、いずれも蓼科冷山群産の黒曜石である。石核は、剥離面を転移させながら剥離させるA2タイプであり、腹面を上下から剥離している。また、刃部を調整した痕が見られ、スクレイバーからの転用と考えられる。使用痕剥片は、側縁の一部と末端の剥離の一部に微細な使用痕が見られる。剥片は3点の接合資料である。なお、碎片は小片のため図化できなかった。

遺構に伴わない第II文化層出土遺物は、石器は12点、礫が15点である。石器はナイフ形石器が4点（第15図5～8）、スクレイバー1点（同9）、細石刃2点（同10、11）、二次加工剥片は1点（同12）、有舌尖頭器も1点（同13）、剥片1点、碎片2点である。このうちナイフ形石器1点と有舌尖頭器はホルンフェルス製、スクレイバーが珪質頁岩製、剥片1点が細粒安山岩製であり、それ以外は黒曜石製である。なお、細石刃や有舌尖頭器は草創期のものと思われるが、旧石器時代の第II文化層の上層位で出土しているため一括して報告する。

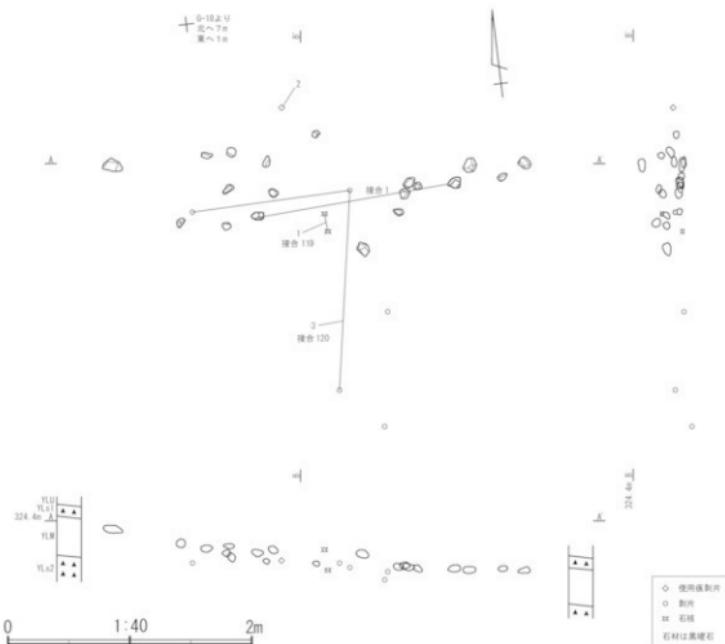
ナイフ形石器の5は右側縁が上部と末端、左側縁部は下半に微細な剥離痕が数多く認められる。6は、左右両側縁部とも先端から末端まで連続して剥離しており、裏面も下半は剥離痕が多く見られる。7は上半が欠損しているが、残存部の右側縁は全て剥離を施している。8は右側縁部上部、左側縁部は全体に剥離が見られる。なお石材は、5～7が产地分析により諏訪星ヶ台群産と考えられる黒曜石であり、8だけがホルンフェルス製である。9のスクレイバーは側縁部に刃部が削出されている、いわゆるサイドスクレイバーであり、右側縁部に細かい剥離痕が目立つ。細石刃については、10はあまり剥離が認められないが、11は裏面の左側縁に微細な剥離が見られる。これは使用による剥離痕であろうか。12の二次加工剥片は右側縁上部に両面とも剥離の加工痕が見られる。左側縁上部の裏面にも微細な剥離が見られる。下面に一部礫面が残る。13の有舌尖頭器は先端部と基部が欠損しており、剥離は粗い。なお、剥片と碎片は小片のため図化はしていない。

第5表 第II文化層石器組成

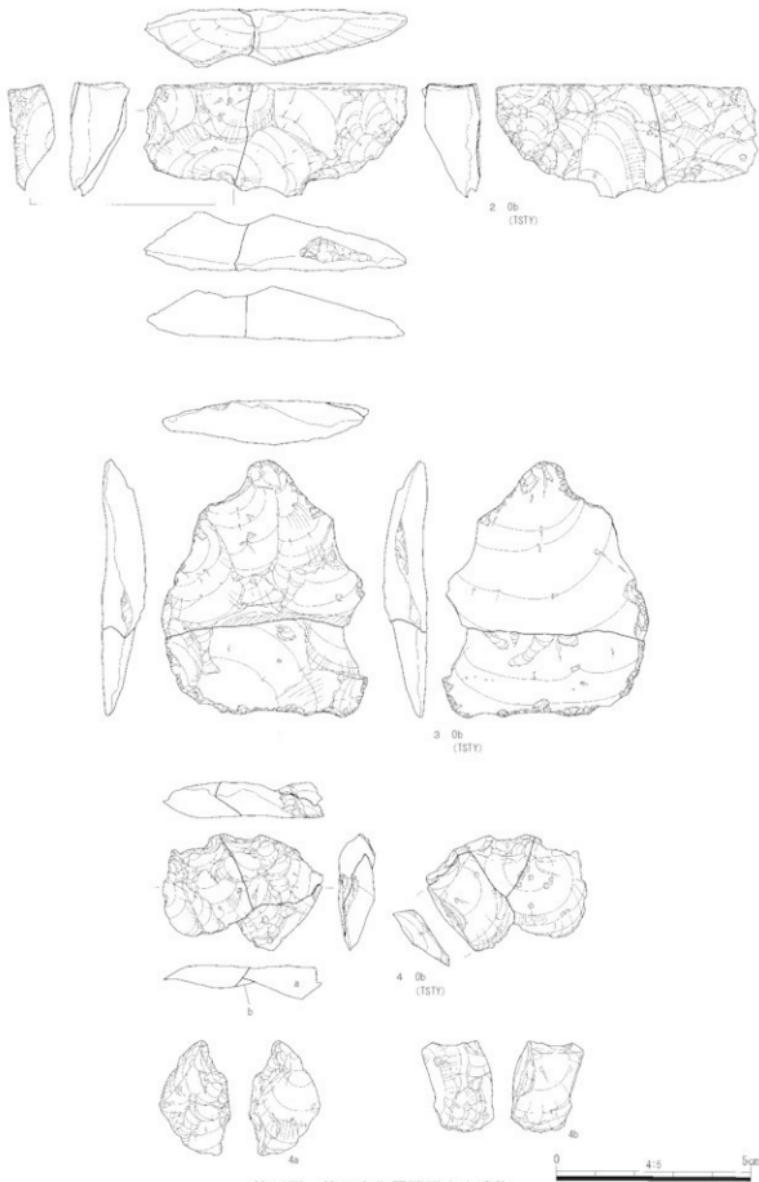
石材	黒曜石								合計
	諏訪星ヶ台群	蓼科冷山群	箱根相模群	神津島鳥島群	推定不可	未分析	細粒安山岩	ホルンフェルス	
石材略号	SWHOTSTY/HNHU/KZOB			-	FAn	Hor	SSH	HS	
ナイフ形石器	3					1			4
スクレイバー							1	1	
細石刃			1					1	2
二次加工剥片	1							1	
使用痕剥片		1						1	
剥片		3			1			4	
碎片		2	1	1					4
石核		2						2	
有舌尖頭器						1		1	
合計	4	8	1	1	1	1	2	1	20



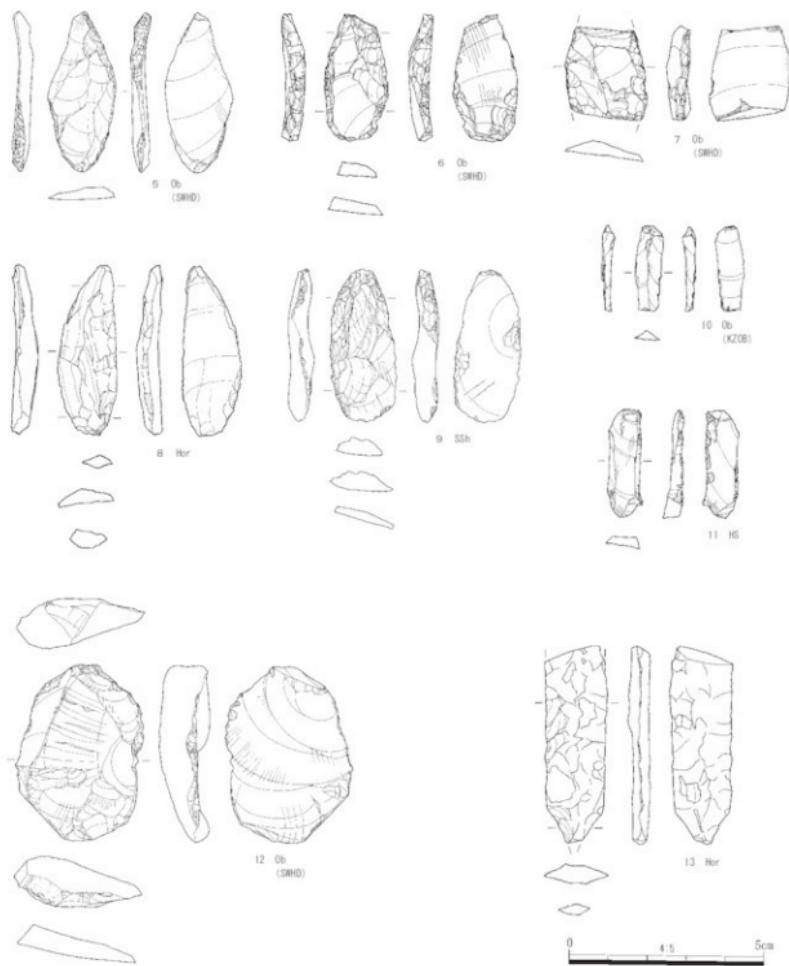
第12図 第II文化層遺物分布



第13図 第II文化層遺物群



第14図 第II文化層砾群出土遺物



第15図 第II文化層出土遺物

第6表 第II文化層砾群出土石器一覧

遺構名	種別	種類	基番	石材	層位	石材	産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	ケリット	X座標	Y座標	Z座標
砾群	2	6650	石核	YLM	Ob	TSTY	-	29.3	41.8	14.6	16.34	G-018	-88074.679	35461.937	323.364	
砾群		6904	石核	YLM	Ob	TSTY	-	25.7	29.0	12.3	9.43	119	G-018	-88074.826	35461.947	323.197
砾群	3	6651	使用痕跡片	YLM	Ob	TSTY	-	64.2	50.3	10.8	27.51	G-018	-88073.773	35461.693	323.274	
砾群	4 a	6887	接合資料	YLM	Ob	TSTY	-	29.6	17.8	6.6	2.74	G-018	-88076.129	35461.884	323.256	
砾群	b	6903	剥片	YLM	Ob	TSTY	-	23.2	17.5	6.8	2.90	120	G-018	-88074.534	35460.863	323.257
砾群		6910	碎片	YLM	Ob	TSTY	-	25.5	22.5	7.4	2.41	G-018	-88074.513	35462.167	323.219	
砾群		6911	碎片	YLM	Ob	TSTY	-	-	-	0.09	G-018	-88075.538	35462.355	323.184		
砾群		6912	碎片	YLM	Ob	TSTY	-	-	-	0.08	G-018	-88076.469	35462.216	323.116		

第7表 第II文化層砾群出土土器一覧

遺構名	造物	基番	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	形状	色調	スヌ	礫形態	ケリット	X座標	Y座標	Z座標
砾群	6888	YLM	An(Py)	140	98	57	840	C	B	垂直角	G-018	-88074.087	35460.285	323.499			
砾群	6889	YLM	VAn	84	84	68	500	C	C	垂直円錐	G-018	-88074.593	35460.781	323.377			
砾群	6890	YLM	An(Py)	93	68	49	320	C	C	垂直圓錐	G-018	-88074.084	35461.046	323.339			
砾群	6891	YLM	VBa	76	34	38	100	C	B	垂直角	G-018	-88074.389	35461.163	323.367			
砾群	6892	YLM	An(Py)	80	70	46	320	C	B	垂直角	G-018	-88074.477	35461.544	323.332			
砾群	6893	YLM	An(Py)	54	48	38	150	D	B	○	垂直角	G-018	-88074.036	35461.925	323.232		
砾群	6894	YLM	An(Py)	125	91	77	960	C	A	垂直角	G-018	-88074.973	35462.228	323.294			
砾群	6895	YLM	VAn	80	62	49	240	C	B	垂直角	G-018	-88074.717	35462.542	323.209			
砾群	6896	YLM	An(Py)	82	67	51	360	C	B	○	垂直角	G-018	-88074.573	35462.593	323.205		
砾群	6897	YLM	VBa	96	83	64	470	C	C	垂直角	G-018	-88074.497	35462.636	323.194			
砾群	6898	YLM	VAn	73	65	60	310	D	C	垂直角	G-018	-88074.550	35462.718	323.186			
砾群	6899	YLM	An(Py)	98	80	50	510	I	D	C	垂直角	G-018	-88074.556	35463.045	323.185		
砾群	6900	YLM	An(Py)	106	92	66	840	C	B	垂直角	G-018	-88074.442	35463.165	323.174			
砾群	6901	YLM	VAn	79	53	48	190	C	C	○	垂直圓錐	G-018	-88074.542	35463.413	323.179		
砾群	6902	YLM	VAn	92	69	44	300	D	C	垂直角	G-018	-88074.457	35463.616	323.167			
砾群	6905	YLM	VBa	62	62	46	180	C	B	垂直角	G-018	-88074.689	35461.144	323.295			
砾群	6906	YLM	An(Py)	97	78	62	580	C	B	垂直角	G-018	-88074.100	35461.249	323.259			
砾群	6907	YLM	An(Py)	84	68	42	270	I	D	C	垂直角	G-018	-88074.641	35461.422	323.299		
砾群	6908	YLM	An(Py)	95	58	36	180	C	C	垂直角	G-018	-88074.228	35461.537	323.245			

第8表 第II文化層石器一覧

遺構名	種別	種類	基番	石材	層位	石材	産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	ケリット	X座標	Y座標	Z座標
	5	2846	ナイフ形石器	YLL	Ob	SWHD	40.9	17.0	4.1	2.40	G-017	-88090.107	35453.150	318.983		
	6	2841	ナイフ形石器	YLM	Ob	SWHD	32.4	16.0	5.9	3.00	C-023	-88110.156	35510.040	316.603		
	7	2521	ナイフ形石器	YLU	Ob	SWHD	(24.0)	20.8	5.8	2.75	F-021	-88082.144	35498.656	321.183		
	8	2842	ナイフ形石器	YLU	YS1	Hor	43.3	14.9	6.6	4.14	D-022	-88100.536	35503.355	318.111		
	9	2855	スクリッパー	YLU	SSh	-	38.6	16.6	6.0	3.84	D-021	-88102.919	35491.910	319.308		
	10	5733	細石刃	YLU	Ob	KZOB	21	7.0	3.0	0.37	G-015	-88075.866	35430.355	323.670		
	11	6912	細石刃	YLU	HS	-	27.1	8.9	4.5	0.98	G-018	-88072.456	35461.056	322.766		
	12	2836	二次加工剥片	YLM	Ob	SWHD	45.1	30.8	12.7	13.30	D-018	-88103.679	35461.505	316.892		
		2850	剥片	YLM	FAm	-	56.9	50.2	0.9	30.95	C-022	-88112.720	35505.593	316.565		
	2854	碎片	YLU	Ob	測定不可	-	-	-	-	0.02	G-020	-88074.975	35489.119	322.445		
	5897	碎片	YLU	Ob	HNHJ	-	-	-	-	0.08	G-016	-88076.990	35441.725	323.695		
	13	2843	有汚点頭器	YLU	Hor	(50.5)	16.1	5.5	5.54	H-020	-88063.372	35484.619	322.311			

第9表 第II文化層砾群一覧

遺構名	造物	基番	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	形状	色調	スヌ	礫形態	ケリット	X座標	Y座標	Z座標
	74	YLU	VAn	266	151	113	6040	A	B	垂直角	M-014	-88010.909	35424.749	311.812			
	2557	YLU	Ba	140	119	54	880	B	B	垂直圓錐	E-017	-88093.124	35450.627	320.304			
	2825	YLM	Ba	131	119	53	760	B	B	垂直圓錐	G-015	-88077.390	35436.897	323.203			
	2845	YLM	An(Py)	283	195	148	8020	D	B	垂直角	H-020	-88061.264	35484.070	321.737			
	2847	YLM	An(Py)	80	63	16	70	C	B	垂直角	E-020	-88090.607	35481.551	321.506			
	2849	YLM	VBa	80	74	58	380	C	B	円錐	C-022	-88110.426	35501.990	317.330			
	2851	YLU	Ba	103	70	60	410	C	B	垂直角	D-022	-88104.448	35504.511	318.292			
	2853	YLM	An(Py)	58	43	23	40	D	B	垂直角	F-022	-88088.404	35500.666	319.766			
	2859	BBB	Ba	77	65	16	60	B	B	垂直角	D-024	-88100.069	35522.285	316.233			

凡例	状態	色調
A—非赤化完形	A—淡い赤又は白色	
B—非赤化破損	B—黄褐色に赤みがかった赤化	
C—赤化完形	C—非常に赤化	
D—赤化破損	D—赤化破損	
E—割れ面非赤化	E—割れ面非赤化	

第4節 繩文時代の遺構と遺物

1 遺構

繩文時代に該当すると考えられる遺構は、集石が7基、土坑17基、焼土が2基、遺物集中が4ヶ所検出されている。

(1) 集石（第18図）

1号集石は富士黒土層を掘り込んだ集石で、116点の礫が出土しておりほとんどが赤化していた。掘り込みは0.3m程の深さであった。2号集石は富士黒土層中の集石で、礫49点のうち44点は赤化していた。3号集石ではかなり密集した状態で47点の礫が出土した。1つを除いて全て赤化が認められた。富士黒土層から検出した。4号集石では、全て赤化した礫20点と前期の無文土器が出土した。土器は小片のため図化は行っていない。富士黒土層から検出している。5号集石は暗褐色土層にあり18点の礫が散在した状況で出土している。6号集石は富士黒土層から6点の礫が出土した。7号集石では栗色土層から7点の礫が直線的に出土し、全て赤化している。

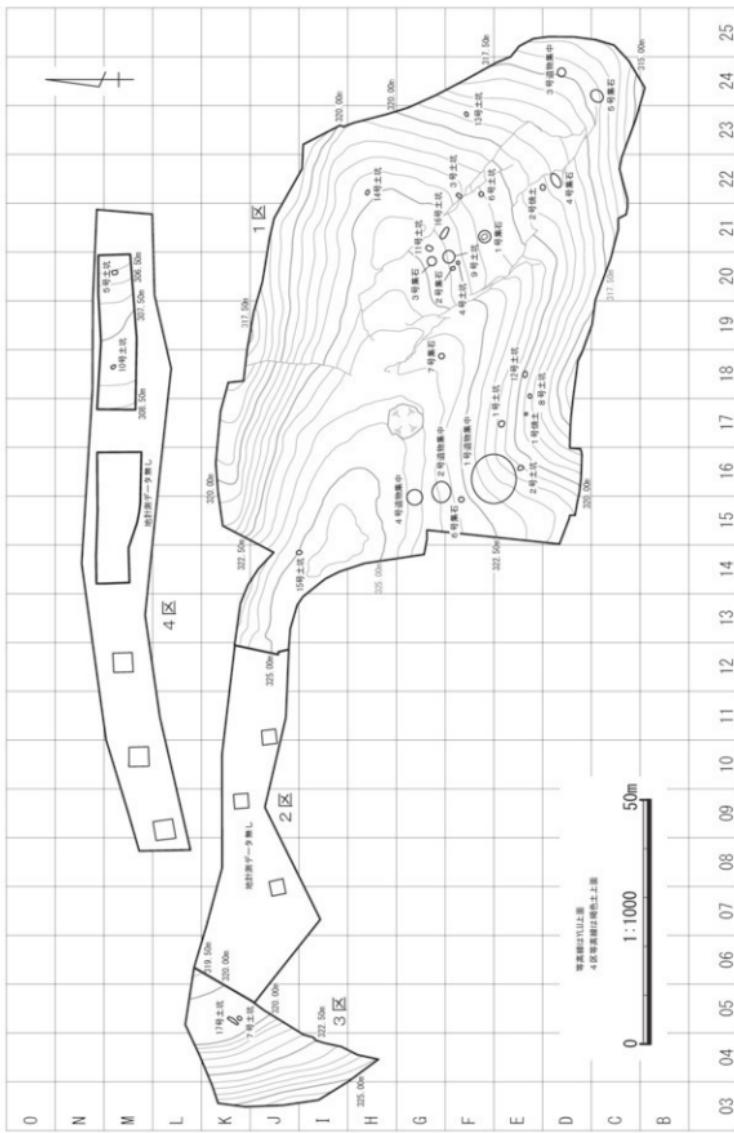
(2) 土坑（第19図～第21図）

1号土坑～5号土坑は逆茂木痕がある。6号土坑～9号土坑は平面形が円形、10号土坑～16号土坑は楕円形、17号土坑は長方形をしている。

1号土坑は休場層上面を掘り込んだ土坑であり、深さ0.3m程の逆茂木痕が残る。2号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は不整形である。土坑中央部に深さ約0.3m、幅約0.1mの細長い逆茂木痕が見られる。3号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は長方形に近い不定形を呈している。断面形態は、下層は直線的だが、上面に向かいラッパ状に開いている。4号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は不定形を呈している。断面形態は、中層でややオーバーハング気味である。5号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、平面形態は長方形を呈している。深さは0.2m程と浅く、南西に位置する逆茂木痕も約0.1mと浅い。ほぼ垂直に掘り込まれている。6号土坑も休場層上面を掘り込んだ土坑で、深さ1m程とやや深く、平面形態は円形である。7号土坑は約0.6m、8号土坑は約0.5mの深さで、9号土坑は約0.3mと浅く、いずれも平面形態は円形を呈しており、休場層上面を掘り込んだ土坑である。10号土坑～16号土坑は平面形態が楕円形であり、11号土坑は断面がラッパ状に開いており、12号土坑、13号土坑は深さ約0.2mと浅い。14号土坑、16号土坑は搅乱や試掘溝などにより切られており、16号土坑の覆土の上層から礫が2個出土した。15号土坑は標高325m付近とかなり高いところから検出された。富士黒色土層から掘り込んでいる。17号土坑は3区の平坦面から検出された遺構で、平面は長方形を呈し、垂直に掘り込まれている。

(3) 焼土（第21図）

1号焼土は1区南側斜面で検出され、円形の土坑に焼土が含まれている。遺物の出土は無かった。2号焼土は、検出面では焼土は確認できなかったが、掘り進めると覆土に焼土が含まれていた。出土遺物は、赤化した礫が6点と、石器が11点出土したが、碎片や剥片ばかりであるため図化はしていない。

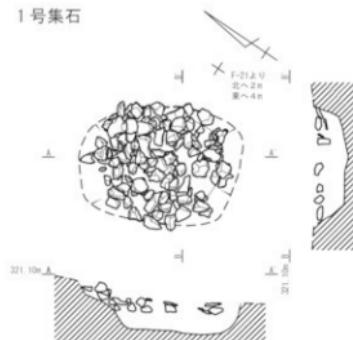


第16図 繩文時代遺構位置



第17図 繩文時代出土遺物分布

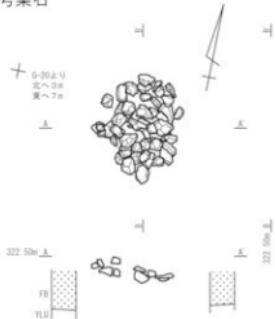
1号集石



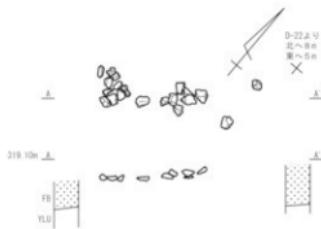
2号集石



3号集石



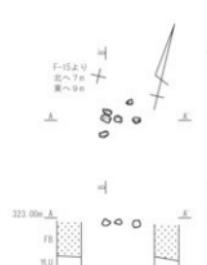
4号集石



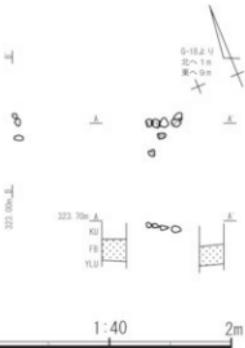
5号集石



6号集石

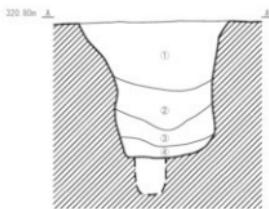


7号集石



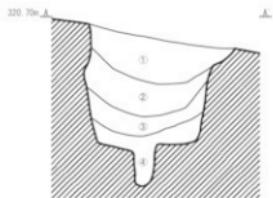
第18図 集石

1号土坑



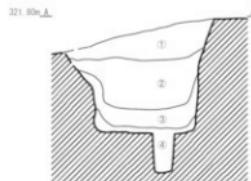
- ① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、練まり極めて強い。AH 層に類似する。
φ 1mm以下 の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、練まり強く、AH-FH 層の土とか。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性強く、練まり弱い。
④ 暗褐色土 7.5YR 3/4 粘性強く、練まり弱い。
※ 地下水位は AH 層付近で約 1.5m、FH 層付近で約 2.0m に位置する。
φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。

2号土坑



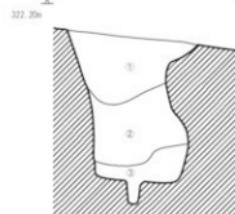
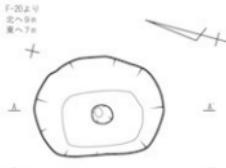
- ① 暗褐色土 10YR 4/6 粘性有り、練まり極めて強い。KIP-AN層の混土か。
白色八角石を僅かに含む。φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 暗褐色土 10YR 4/6 粘性有り、練まり強く、FH-FD 層の土とか。
φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、練まり弱く、FH 層に類似する。
④ 暗褐色土 10YR 3/4 粘性有り、練まり弱く、FD 層に類似する。
※ 地下水位は AH 層付近で約 1.5m、FH 層付近で約 2.0m に位置する。
φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。

3号土坑



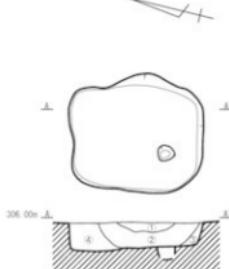
- ① 暗褐色土 10YR 2/2 粘性有り、練まり極めて強い。
白色八角石を多く含む。φ 1mm 程度の赤褐色スコリアを
多く含む。
② 暗褐色土 10YR 1/2 粘性強い、練まり極めて強い。
AH-FH 層に類似する。φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。
③ 暗褐色土 7.5YR 3/3 粘性強い、練まり有り。
FH 層に類似する。φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。
④ 暗褐色土 10YR 4/6 粘性強い、練まり弱い。
FH-FD 層の土とか。φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。

4号土坑



- ① 暗褐色土 7.5YR 1/1 粘性有り、練まり極めて強い。
φ 1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
② 暗褐色土 10YR 2/4 粘性有り、練まり強く。
壁面は崩落して FH 層と接する。
φ 1-4mm 程度の赤褐色スコリアを僅かに含む。
③ 暗褐色土 10YR 3/2 粘性有り、練まり弱い。
AH 層に類似する。φ 1-3mm 程度の赤褐色スコリアを
僅かに含む。

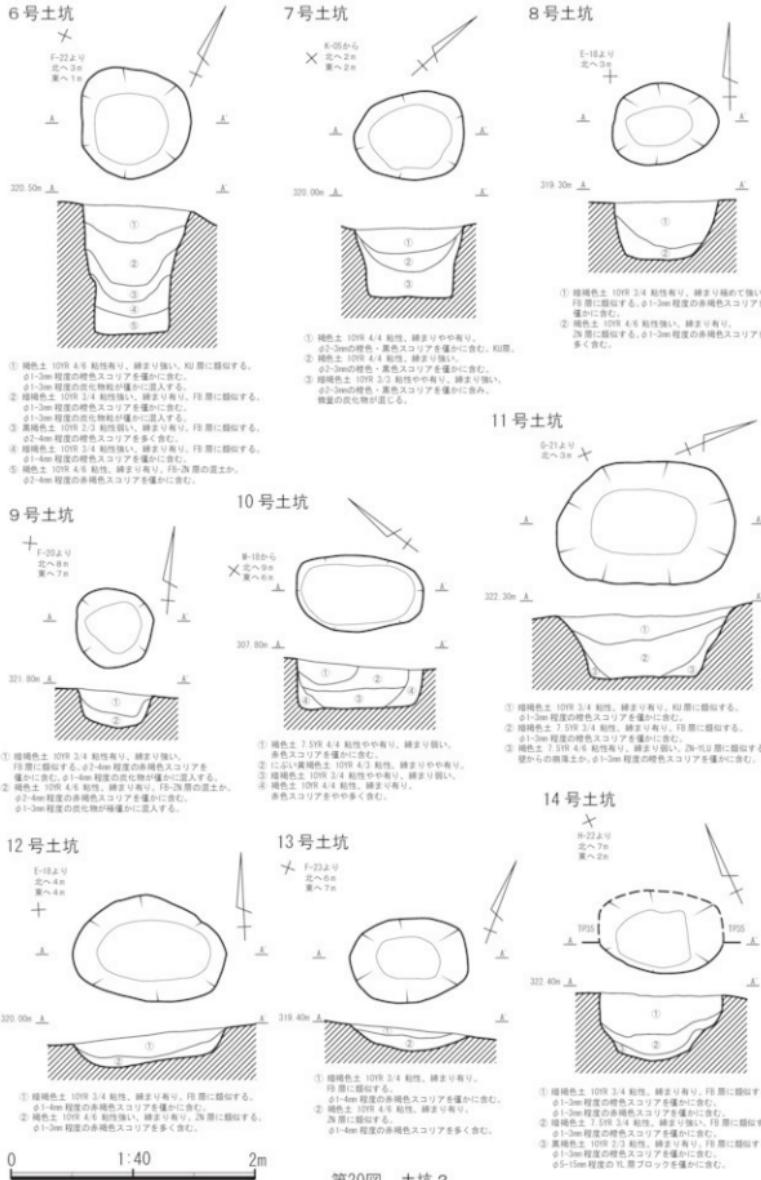
5号土坑



- ① 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、練まりやや弱い。
② 暗褐色土 10YR 3/4 粘性、練まり有り。
③ 暗褐色土 10YR 3/2 粘性、練まりやや強く。
※ 壁面は崩落して FH 層と接する。

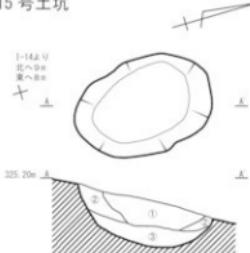


第19図 土坑 1



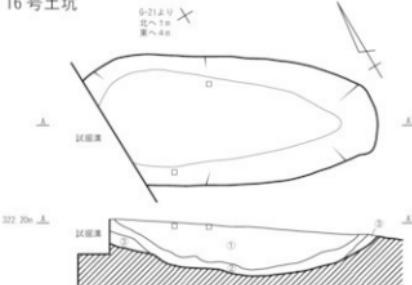
第20図 土坑2

15号土坑



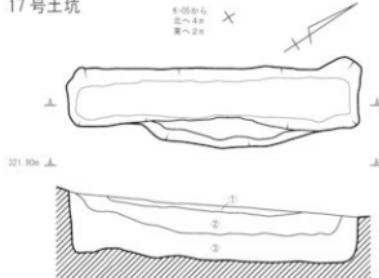
- ① 黒褐色土 7.5IR 3/4 粘性強かに有り、練まり難い。
粗粒の粘石ラビアを含み、2.7m以下の赤色スコリアを非常に僅かに含む。
② 細色土 7.5IR 4/4 粘性やや強く、練まり難かに有り。
③ 赤褐色土 7.5IR 4/4 粘性ややあり、練まり難かに有り。
粘石ラビアを少量含む。

16号土坑



- ① 黒褐色土 10IR 2/2 粘性有り、練まり難づて堅い。KU-255層の底土か。
白化バーストを僅かに含む。δ1-2mm程度の赤色スコリアを僅かに含む。
② 黒褐色土 10IR 2/2 粘性有り、練まり難い。麻面に類似する。
③ 赤褐色土 10IR 3/4 粘性有り、練まり難い。
δ1-3mm程度の赤色スコリアを僅かに含む。
④ 赤褐色土 10IR 3/4 粘性、練まり有り。KU-48層の底土か。
δ2-4mm程度の赤色スコリアを僅かに含む。

17号土坑



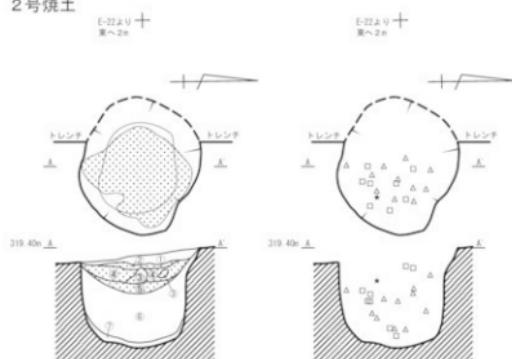
- ① 黑褐色土 2.5Y 3/2 粘性、練まりやや有り。
δ2-10mmの赤色スコリアを少々。δ2-5mmの赤色スコリアを僅かに含む。
② 黑褐色土 2.5Y 3/2 粘性弱く、練まりやや有り。
δ2-5mmの赤色スコリアを少々含む。
③ 黑褐色土 10IR 3/2 粘性、練まり強く。
δ5-10mmの赤色スコリアをやや多く、δ2-5mmの赤色スコリアを僅かに含む。

1号焼土



- ① 増強焼土 10IR 2/2 粘性弱い、練まり難い。FB層もしくは2B層に類似する。δ1-3mm程度の赤化物が多く混入する。
δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。
② 増強焼土 10IR 2/2 粘性弱い、練まり難い。FB層もしくは2B層に類似する。δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。
δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。

2号焼土



- ① 黒褐色土 7.5IR 2/2 粘性有り、練まり強い。
FB層よりも黒味強い。
δ2-5mmの赤色スコリアが僅かに混入する。
② 黑褐色土 7.5IR 2/2 粘性、練まり強い。
FB層よりも黒味強い。
δ2-5mmの赤色スコリアが多く混入する。
δ1-4mm程度の赤化物が僅かに混入する。
③ 焼成ブロック 2.5Y 4/4 粘性無し、練まり強い。
δ2-20mm程度の赤化物が混入する。
④ 焼成ブロック 2.5Y 4/4 粘性無し、練まり強い。
FB層に類似する。
δ2-20mm程度の赤化物が多く混入する。
⑤ 焙土 10IR 3/4 粘性無し、練まり強い。
δ2-20mm程度の赤化物が僅かに混入する。
δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。
⑥ 増強焼土 10IR 2/4 粘性弱い、練まり弱い。
δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。
⑦ 増強焼土 7.5IR 4/4 粘性有り、練まり弱い。
δ1-3mm程度の赤化物が僅かに混入する。

△ 老器
□ 烧
● 赤化物
▨ 供土範囲

0 1:40 2m

第21図 土坑3・焼土

(4) 遺物集中（第22図～第27図）

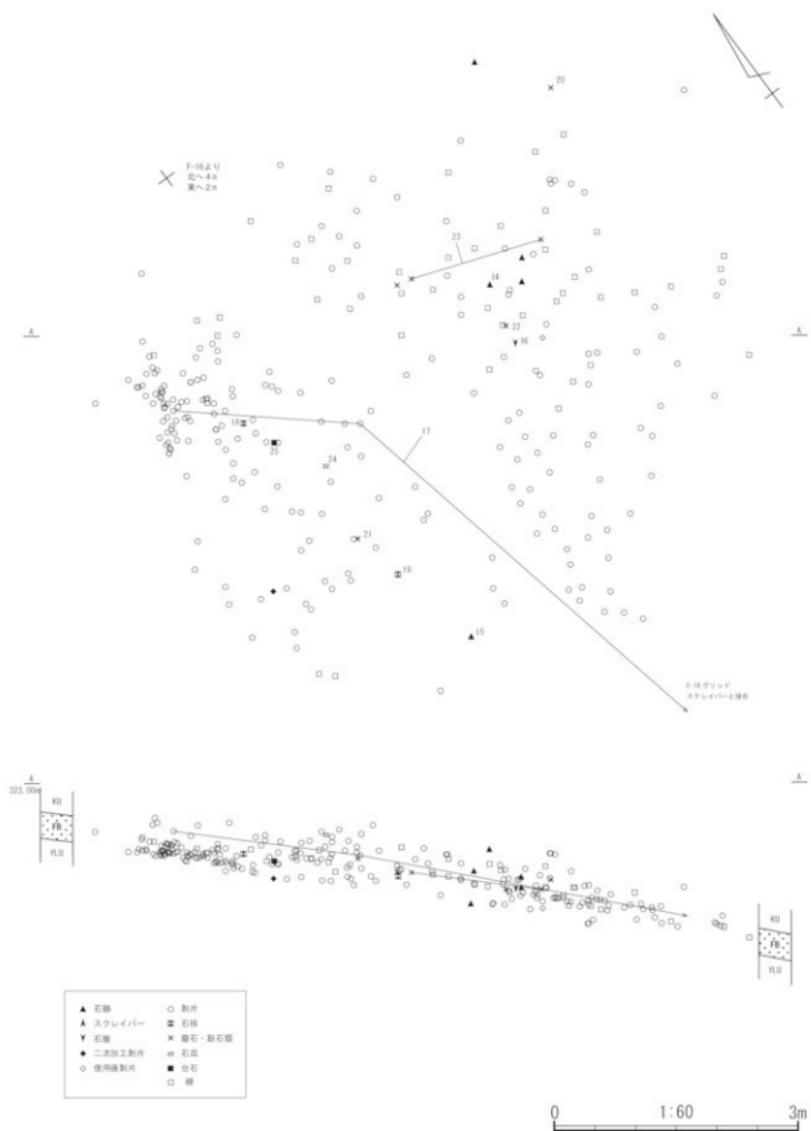
1号遺物集中は、調査区南側の斜面状に位置する広範囲に渡る遺物集中である。45点の礫と225点の石器が休場層上面から栗色土層にかけて出土しているが、南東側の斜面に向かって流れている状況である。遺物の多くは富士黒土層以上から出土しているため、この遺構の帰属時期は縄文時代と判断した。しかし、特定の時期を表す土器などは出土していないため、詳細な時期は不明である。

出土資料の多くは礫と、黒曜石の細かな碎片と剥片だが、他には石錐5点、石錐1点、二次加工剥片が1点、使用痕片が1点、スクレイバーが1点、石核は2点、磨石・敲石類が6点、石皿と台石がそれぞれ1点ずつ出土している。石錐は状態のよいものを2点実測した。14の石錐は基部が凹状を成し、脚は丸くなっているが、脚部は片方欠損しているが、凹基の円脚である。箱根烟宿群が産地と推定されている黒曜石を加工して作られており、縁辺部は鋸歯線状に削出されている。16の石錐は、諏訪星ヶ台群産の黒曜石で、頭部は鋸歯線状に削出されている。17の石錐は、諏訪星ヶ台群産の黒曜石で、頭部は鋸歯線状に削出されている。18の石錐は、諏訪星ヶ台群産の黒曜石で、頭部は鋸歯線状に削出されている。19は打面を転移させながら剥離しており、剥離面が多く残っている。20～23は磨石・敲石類で、20は平面形状が楕円形で厚みがある断面をなし、端部と側縁部を敲いている。21は平面形状が楕円形で断面は厚みがあり、端部と側縁部と平坦部も敲いている。22は不定形の平面形を呈しており、扁平の断面形状で、側縁部を敲いており端部は磨っている。23は平面形状が楕円形で断面は厚みがあり、端部、側縁部をかなり敲いており、平坦面は磨っている。24は石皿であり、多くの量を磨ったであろうか、かなり窪んでいる。断面は台形状であり、石材は多孔質安山岩である。25は平坦面の幅が広い台石であり、敲き痕が2ヶ所残る。断面は扁平で、輝石安山岩製である。

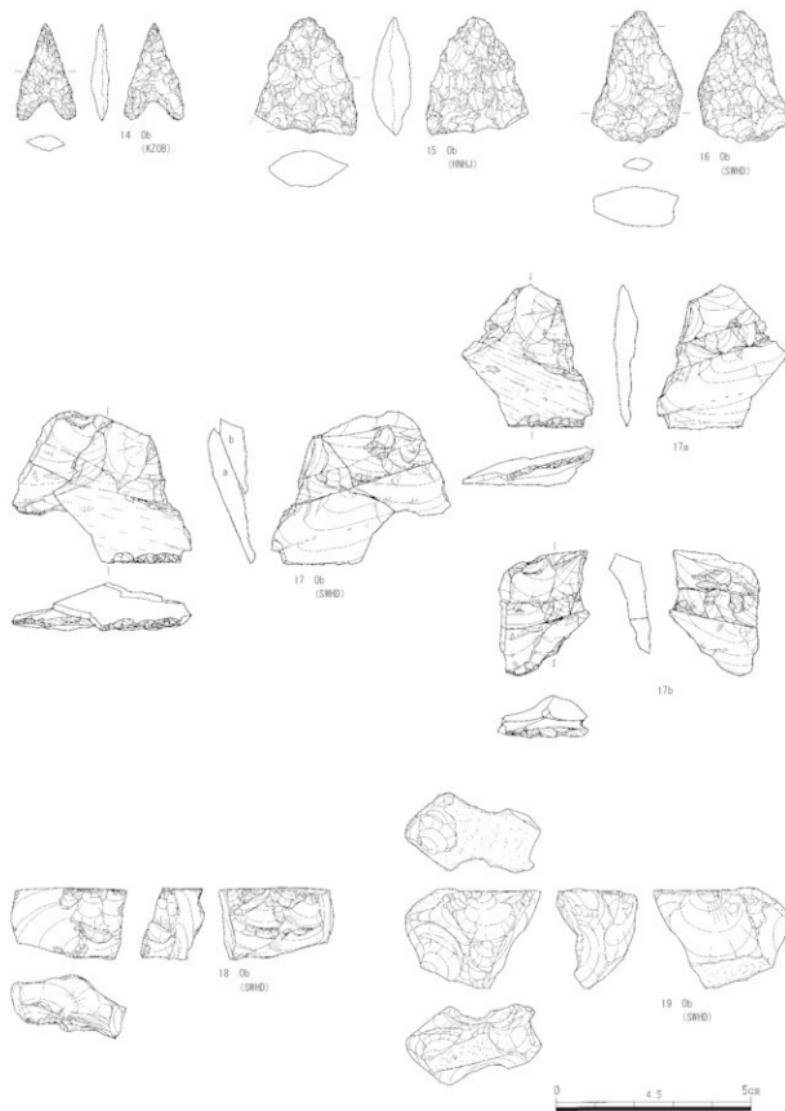
2号遺物集中は1号遺物集中と同じ斜面の北側から検出された。休場層上面から栗色土層にかけて出土しているが、遺物の多くは富士黒土層より上位から出土しているため、やはりこの遺構の帰属時期も縄文時代と判断した。遺物は礫が3点、石器は48点が出土しており、南側斜面にやや流れている。そのうち磨石・敲石類1点を図化した。磨石・敲石類は不定形の形状をしており、断面は厚みがあり、両端部を敲いている。輝石安山岩製である。

3号遺物集中は、調査区南東側の丘陵の下部から検出され、富士黒土層から栗色土層の間に、2m四方の範囲内で1772点の石器が濃密に集中している。そのほとんどは剥片で、それ以外の器種はスクレイバー1点が見られた。スクレイバーは諏訪星ヶ台群産の黒曜石製で、左側縁部から上部にかけて加工痕が見られる。

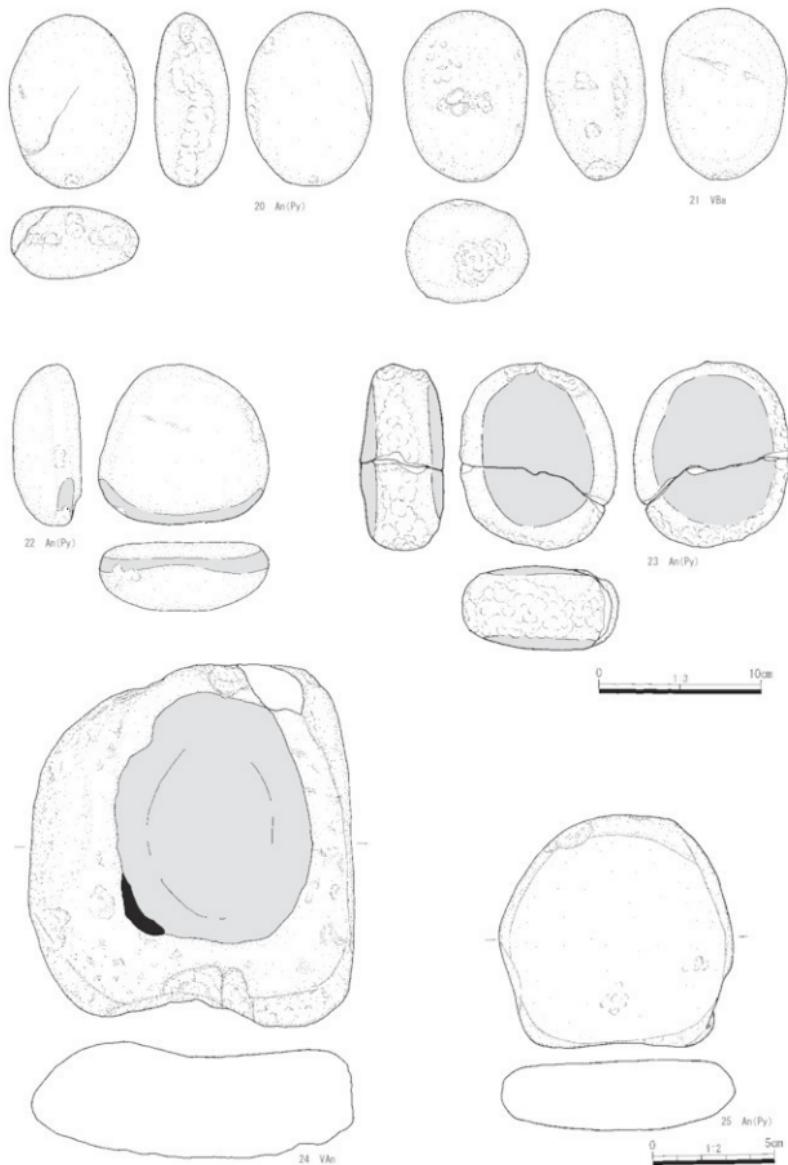
4号遺物集中は1号遺物集中と2号遺物集中が位置している斜面の上位から検出された。富士黒土層から遺物が出土しており、礫16点、石器8点がかなり重なり合った状態で検出された。石器は碎片1点と磨石・敲石類3点、石皿1点、台石3点が出土している。挿図の28～30は磨石・敲石類である。28は楕円で厚みがあるタイプで、両端部と側縁部に敲き痕が見られる。29も楕円で厚みがあるタイプで、一部欠損しているが、端部と側縁部に敲き痕が見られ、平坦面は磨っている。30は不定形の平面形で厚みがあるタイプであり、両端部を敲いている。31～33は台石であり僅かに敲打痕が見られる。34は広い平坦面を持った石皿であり磨面と考えられる。礫は5点が赤化していた。



第22図 1号遺物集中

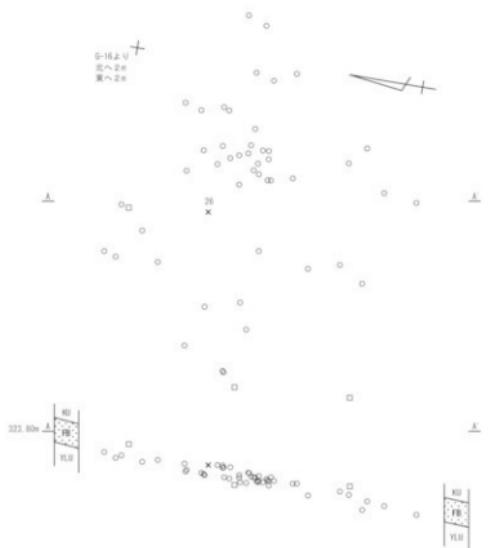


第23図 1号遺物集中出土遺物 1

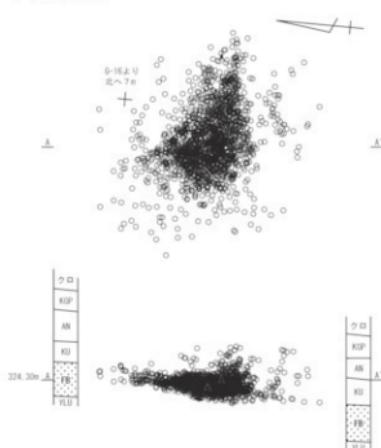


第24図 1号遺物集中出土遺物2

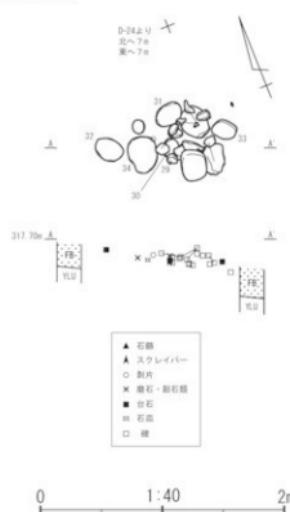
2号遺物集中



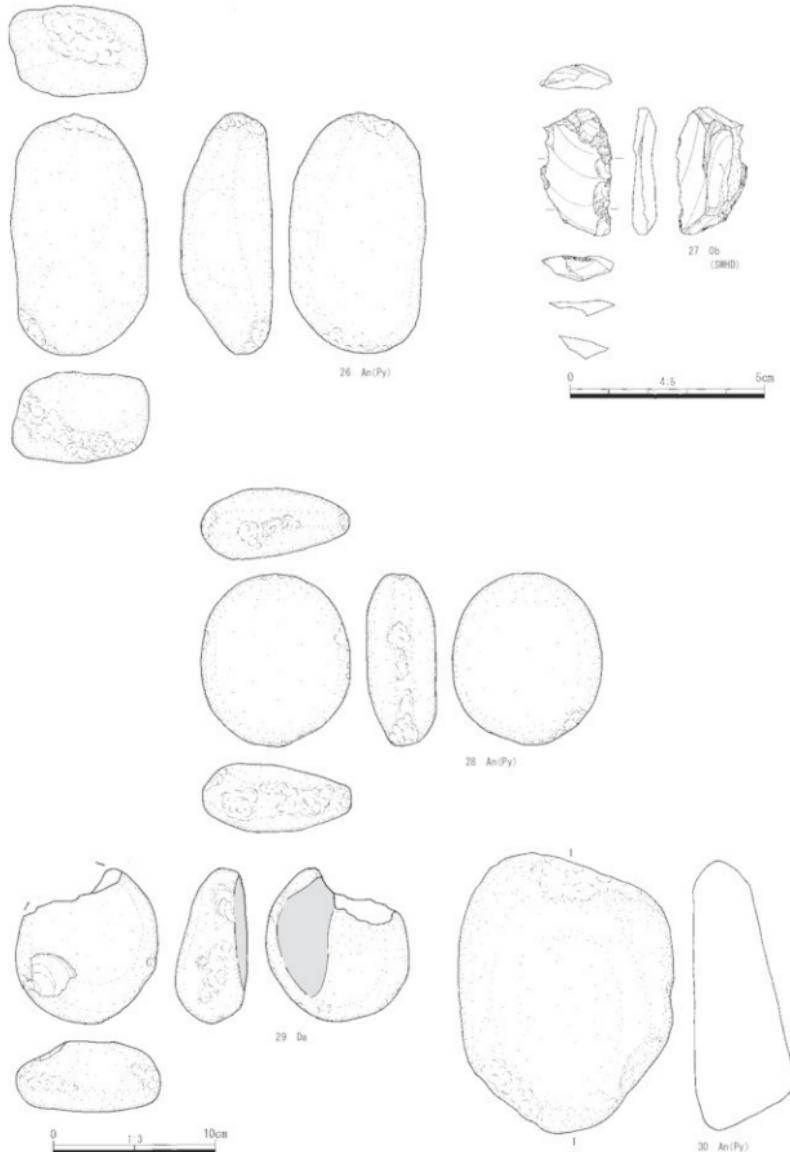
3号遺物集中



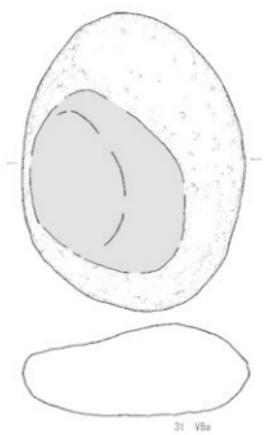
4号遺物集中



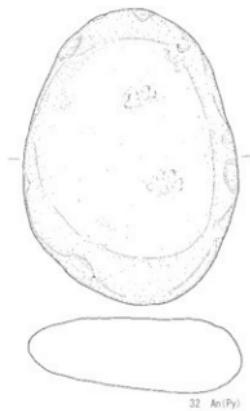
第25図 2号・3号・4号遺物集中



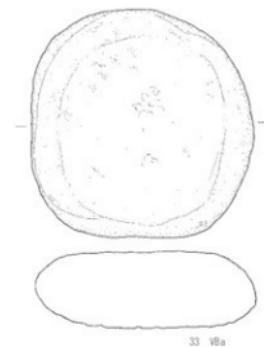
第26図 2号・3号・4号1遺物集中出土遺物



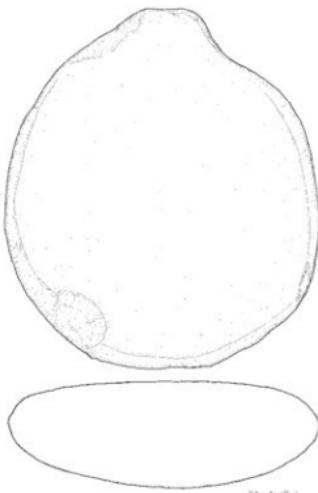
31 VBa



32 An(Py)



33 VBa



34 An(Py)

0 1.2 5cm

第27図 4号2遺物集中出土遺物

第10表 繩文時代集石一覧

遺構名	時期	分類	検出層位	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	平面形	種	赤化 比率
1号集石	~前期	土坑あり	FB	F-21	1.31	0.94	0.26	圓丸横円形	116	89.7
2号集石	~前期	土坑なし	FB	F-20	1.75	1.28	—	—	49	89.8
3号集石	~前期	土坑なし	FB	G-20	0.90	0.75	—	—	47	97.9
4号集石	~前期	土坑なし	FB	D-22	1.33	0.65	—	—	20	100
5号集石	中期	土坑なし	AN	C-24	1.60	1.05	—	—	18	94
6号集石	中期	土坑なし	FB	F-15	0.40	0.34	—	—	6	100
7号集石	中期	土坑なし	KU	G-18	0.44	0.26	—	—	9	100

第11表 繩文時代土坑一覧

遺構名	時期	平面形	逆木	グリッド	検出層位	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号土坑	~前期	円形	あり	I	E-17	YLU	1.32	0.93	1.12	—	—	—	—
2号土坑	~前期	不整横円形	あり	I	E-16	YLU	1.16	0.84	0.98	—	—	—	—
3号土坑	~前期	楕円形	あり	I	F-23	YLU	(1.13)	0.66	0.90	—	—	—	—
4号土坑	~前期	楕円形	あり	I	F-20	YLU	1.03	0.80	1.16	—	—	—	—
5号土坑	~前期	圓丸長方形	あり	I	M-20	JS1	1.04	0.81	0.22	—	—	—	—
6号土坑	~前期	円形	なし		F-22	YLU	0.96	0.76	1.06	—	—	—	—
7号土坑	~前期	円形	なし		K-5	JS1	0.80	0.49	0.62	—	—	—	—
8号土坑	~前期	楕円形	なし		E-18	YLU	0.89	0.53	0.47	—	—	—	—
9号土坑	~前期	円形	なし		F-20	YLU	0.70	0.64	0.30	—	—	—	—
10号土坑	~前期	楕円形	なし		M-18	JS1	1.05	0.58	0.40	—	—	—	—
11号土坑	~前期	楕円形	なし		G-21	YLU	1.46	1.00	0.53	—	—	—	—
12号土坑	~前期	楕円形	なし		E-18	YLU	1.26	0.62	0.24	—	—	—	—
13号土坑	~前期	楕円形	なし		F-23	YLU	0.96	0.62	0.18	—	—	—	—
14号土坑	~前期	楕円形	なし		H-22	YLU	(0.02)	(0.30)	0.53	—	—	—	—
15号土坑	~前期	楕円形	なし		I-J-14	FB	1.16	0.75	0.39	—	—	—	—
16号土坑	~前期	長楕円形	なし		F-G-21	FB	(2.45)	1.04	0.40	—	—	2	2
17号土坑	~前期	長方形	なし		K-5	FBZN	1.21	0.46	0.47	—	—	—	—

第12表 繩文時代焼土一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号焼土	~前期	E-17	YLU	0.62	0.46	0.18	—	—	—	—	—
2号焼土	~前期	D-22-E-22	FB	(0.80)	1.00	0.77	—	—	—	—	20

第13表 繩文時代遺物集中一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	土器	石器	礫	炭化物	合計	
1号遺物集中	~前期	E-F-15-16	KGP ~ YLU	8.70	7.62	—	—	—	—	225	45	270
2号遺物集中	~前期	F+G-15-16	YLU	3.48	2.64	—	—	—	—	48	3	51
3号遺物集中	~前期	G-15-16	AN ~ FB	1.96	1.80	—	—	—	—	1772	—	1772
4号遺物集中	~前期	D-24	FB	1.20	0.68	—	—	—	—	8	16	24

第14表 1号遺物集中石器組成

石材	黒曜石	多孔質玉	細粒安山岩	輝石安山岩	デザイサート	合計					
石材略号	SWhD	HNU	K20B	—	VBa	FAn	An (Py)	VAn	Da	—	—
石鏡	1	2	1	1						5	5
スケレイバー	1						1			1	1
石錐	1						1			1	1
二次加工剥片	1						1			1	1
使用痕剥片	1						1			1	1
剥片	3	2	2	58	1					66	66
砂片				140						140	140
石核	2									2	2
磨石・敲石類			1	4		1		6		6	6
石皿						1		1		1	1
台石				1				1		1	1
合計	9	5	3	199	2	1	4	1	1	225	225

第15表 2号遺物集中石器組成

石材	黒曜石	推定不可・未分析	細粒安山岩	輝石安山岩	合計
石材略号	—				
剥片	5				5
砂片	42				42
磨石・敲石類				1	1
合計	47	0	1	48	48

第16表 3号遺物集中石器組成

石材	黒曜石	未分析	玉髓	チャート	合計
石材略号	SWhD	—	Cha	Ch	—
石鏡	1				1
スケレイバー	1				1
剥片			21		21
砂片		1697	1	51	1749
合計	11718	1	52	1772	—

2 遺物

縄文時代の遺物については、土器が出土遺物の大半を占めている。

(1) 土器

出土した土器は縄文時代早期から後期までのものが919点である。このうち62個体を実測した。施文・装飾・文様・調整等によって、便宜的に土器を分類した。分類は以下の通りである。

早期

第Ⅰ群

- a 類：無文土器
- b 類：押型文土器
- c 類：押型文土器並行時期の擦痕文土器
- d 類：撫糸文土器
- e 類：判ノ木山西式土器

第Ⅱ群

- a 類：入海式土器
- b 類：打越式土器
- c 類：天神山式土器から塙屋式土器並行時

期

第Ⅲ群

- a 類：縄文土器
- b 類：条痕文土器
- c 類：無文土器

前期

第Ⅳ群

- a 類：諸磯式土器
- b 類：十三菩提式土器

第Ⅴ群

無文土器

中期

第Ⅵ群

- a 類：五領ヶ台式土器
- b 類：新道式土器
- c 類：藤内式土器
- d 類：井戸尻Ⅱ式土器
- e 類：井戸尻Ⅲ式土器
- f 類：井戸尻式土器（詳細分類不可）

第Ⅶ群

- a 類：曾利Ⅰ式土器
- b 類：曾利Ⅱ式土器
- c 類：曾利Ⅲ～Ⅳ式土器
- d 類：曾利Ⅳ～Ⅴ式土器
- e 類：加曾利E1式土器

第Ⅷ群

- a 類：縄文土器
- b 類：圧痕文土器
- c 類：無文土器

後期

第Ⅸ群

- a 類：堀之内式土器
- b 類：堀之内式土器（粗製）

第Ⅹ群

- a 類：縄文土器
- b 類：無文土器

詳細時期不明

第Ⅺ群

- a 類：小片無文土器
- b 類：中期以降無文土器



第28図 土器群別分布

早期の土器

第Ⅰ群（第31図35～45）

35は口縁部片であり、外面に沈線文を引いている。36は外面に条痕文と擦痕文、内面には条痕文が施されている。37a・37b・38は楕円の押型文土器である。39と40も押型文土器であるが、39は縱方向に、40は横方向に押型文が施されている。また、40には穿孔がある。41は外面に擦痕が見られる土器である。42は口縁部内外に撚糸文が施されており、口縁端部が外反している。43は、胴部は縱方向、口縁部は横方向に撚糸文が施され、口縁端部がやや外反している。44は判ノ木山西式土器で、外面には斜め方向に先割状工具による沈線文が施され、内面は横方向の条痕文、口唇部にはキザミが施されている。45も判ノ木山西式土器で、口唇部直下に1条の刺突文、胴部中位に2条の刺突文が巡らされている。外面は棒状工具による2本の縱方向の条痕文で区画し、矢羽根状の条痕文を配している。また、この資料の胴部破片の外面の一部に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111823）。その結果は、 $7,950 \pm 30$ yrBPという ^{14}C 年代が出た。

第Ⅱ群（第32図46～50）

46は入海式土器であり、II式にあたるものである。口唇部に連続したキザミ、口唇部直下に爪形文、その下にキザミを施した蛇行の隆帯と直線の隆帯が装飾されている。隆帯上のキザミは施文具の角度を変えているためか、キザミの幅に差がある。bには両面穿孔が見られる。47も入海式土器であるが、胴部に円形の隆帯を貼り付けているためか歪んだ形をしている。下半は条痕で器面調整をしている。48・49は打越式土器の口縁部破片であり、口縁部を折り返し端部にキザミ、胴部は貝殻腹縁文が施されている。内面もキザミを施し、条痕で調整している。48は波状口縁である。50は天神山式土器から塙屋式土器と並行する時期と考えられる土器である。口唇部と口縁部直下に連続したキザミが施されている。bは胴部のキザミが2段になっている。

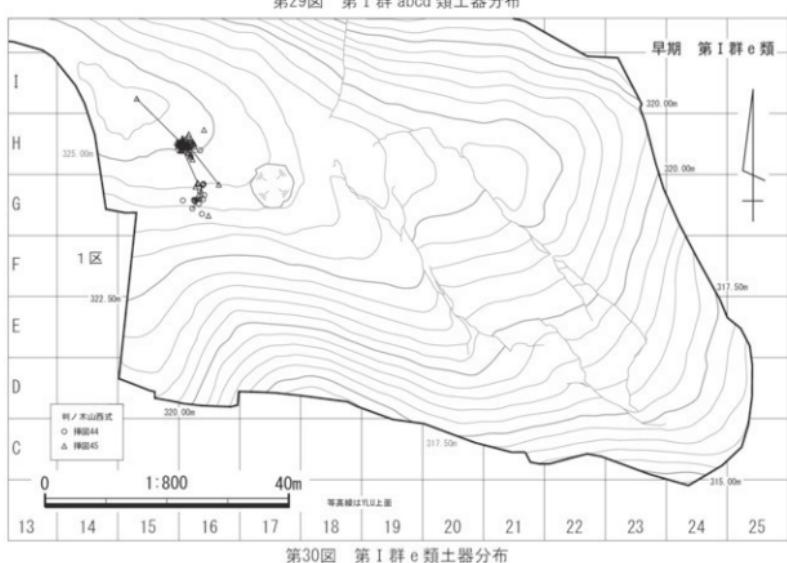
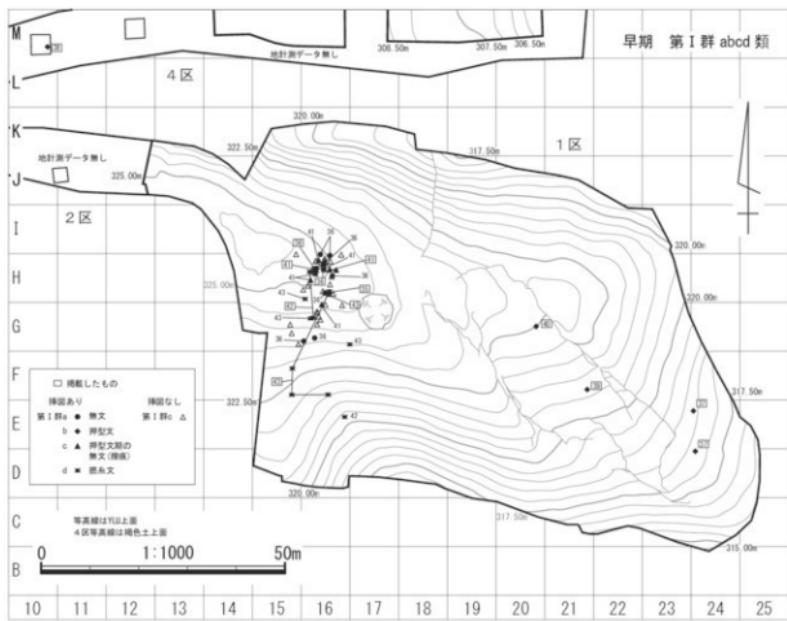
第Ⅲ群（第32図51～56）

51は綱文が施された底部片で、R無節の綱文を施している。52は外面がRLの綱文で、口唇部から内面にかけて丁寧な調整が施されている。53は外面が擦痕で、内面は条痕で調整している。54は外面と内面とも異方向の沈線による調整痕が見られる。この資料も胴部外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施し（IAAA-111824）、 $6,370 \pm 30$ yrBPという ^{14}C 年代結果が出た。55は内外面とも無文で、厚みがあり胎土に纖維が多く含む。56は尖底と考えられる底部に近い破片で、纖維が多く含み、内面は沈線による調整痕が見られる。型式は不明だが、早期末から前期初頭の条痕文土器の下吉井式土器と同時期のものと考えられる。

前期の土器

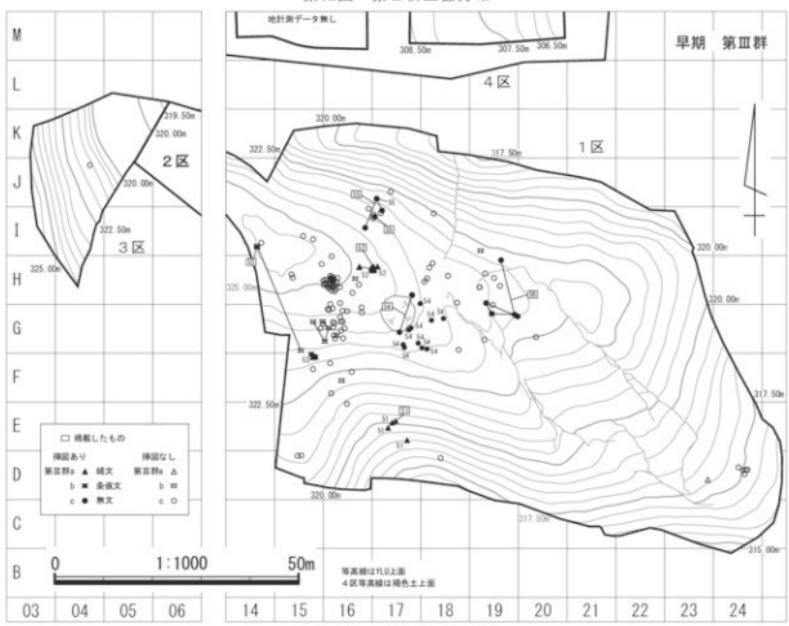
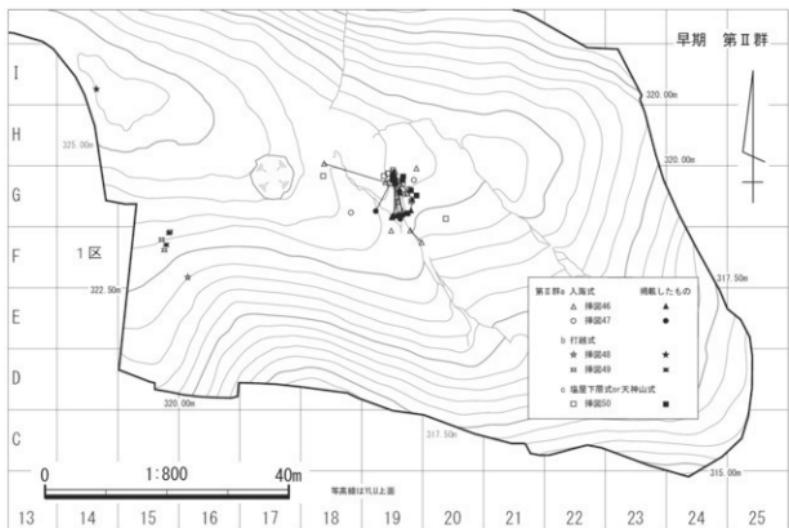
第Ⅳ群（第37図57～59）

57は諸磯b式土器で、口縁部下に直線の連続爪形文が1条と木の葉状の連続爪形文が巡る。区画内には横方向にLRの綱文が見られる。58も諸磯b式土器で、地文はRLの綱文で、口縁部と胴部には連続した爪形文、その下の隆帯に半截竹管状の工具で刺突文を施し、その下部は半截竹管による複数の沈線で区画している。59も諸磯式土器で、底部片である。無文であるが、丁寧な調整が施されている。60は十三菩提式土器の口縁部である。口縁端部を内外に広げることによって作り出された平坦面には、三角形印刻文と結節浮線による渦巻文が配されている。61も十三菩提式土器であるが、小型である。胴部上部にはソーメン状貼り付け文、隆帯、集合沈線文を施すが、胴部下半は無文である。



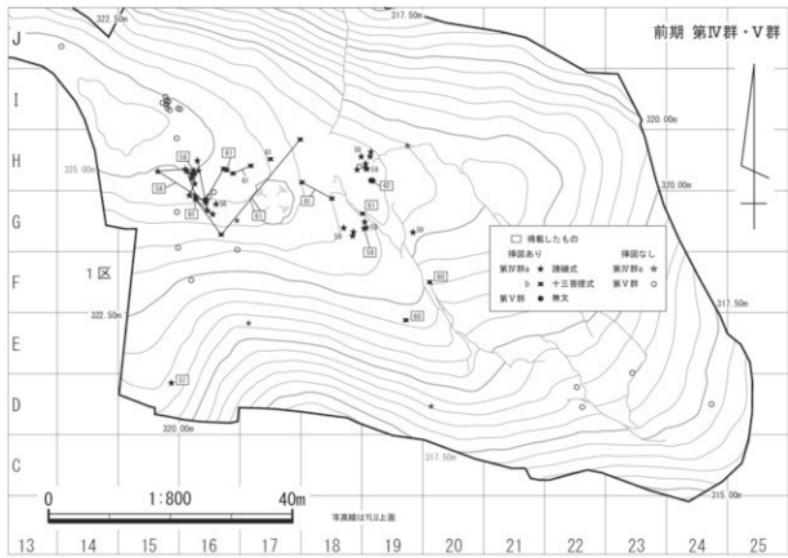


第31図 第I群土器

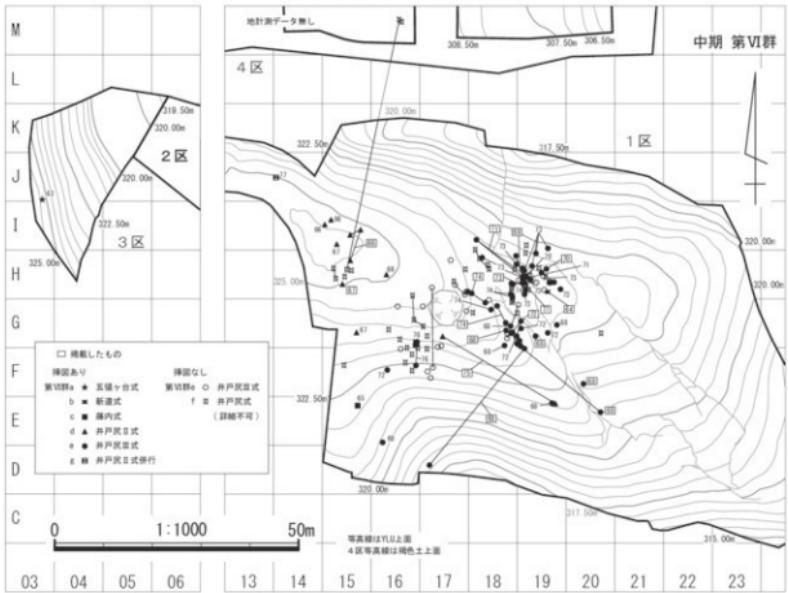




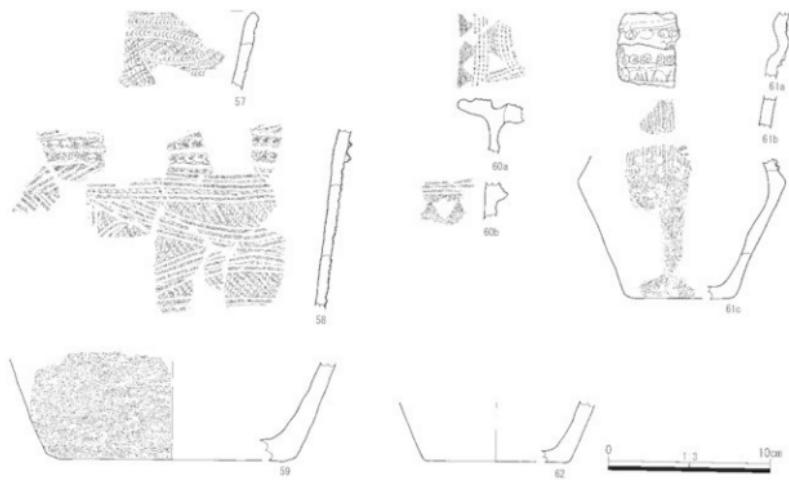
第34図 第II・III群土器



第35図 第IV・V群土器分布



第36図 第VI群土器分布



第37図 第IV・V群土器

第V群（第37図62）

62は無文土器の底部である。

中期の土器

本遺跡での出土土器の中で、中期のものが量的に最も多く、919点中302点と30%以上を占める。また、土器型式も多種多様である。

第VI群（第38図63～77）

63は五領ヶ台式土器のものと思われる口縁部の把手部であろう。分厚い突起を作り出しそこへキザミを付け、側面に数条の沈線文と円形刺突文を施している。焼成は非常に良好である。64は渦巻状の装飾であり、63と同じく口縁部に貼り付いていたと思われる。時期は新道式のものに該当するか。65は藤内式の土器であり、波状の沈線文を1条引いている。66は井戸尻II式土器の胴部破片で、腰部の屈曲部にある。隆帯を横方向に貼り付け、半月状のヘラ状工具で刺突を施している。その後屈曲部より上部部分にRLの縦文を斜め方向に施して施文している。67も井戸尻II式土器で、66と同様の装飾・施文技法を行っており、同一個体の可能性もある。68は井戸尻III式土器の口縁部から胴部にかけての破片で、胎土の色調はぶいい橙色であり、焼成は非常に良好である。aは口縁部から頸部にかけての破片である。口縁部には分厚い外反する突起部が付けられ、中央と口唇部面には1本の縦方向の沈線文と左右にT字状の沈線文が施されている。形状から察するにおそらくこの突起部は4対で1セットになっていたと考えられる。その下の頸部には、連続したキザミが施された隆帯が3条巡っており、一番下の1条はcの様に楕円区画を構成するものと思われる。区画内にはbやcの様に沈線文で区画の文様を構成していると考えられる。dの様に渦巻状のキザミを施した隆帯文も巡る。69も同様に隆帯にキザミが連続して施されており、さらにその下には棒状工具でキザミを施している。70も隆帯に連続したキザミが見られる。71はキザミが施された隆帯による楕円区画文の一部であり、区画内は隆帯に沿った沈線文と縦方向の数条の沈線文が施されている。72も同様な文様構成ながら、区画外にも縦方向と横方向の沈線文が見られる。73も同様な文様構成である。74は楕円区画を構成する連続したキザミが施された隆帯が2条巡って



第38図 第VI群土器

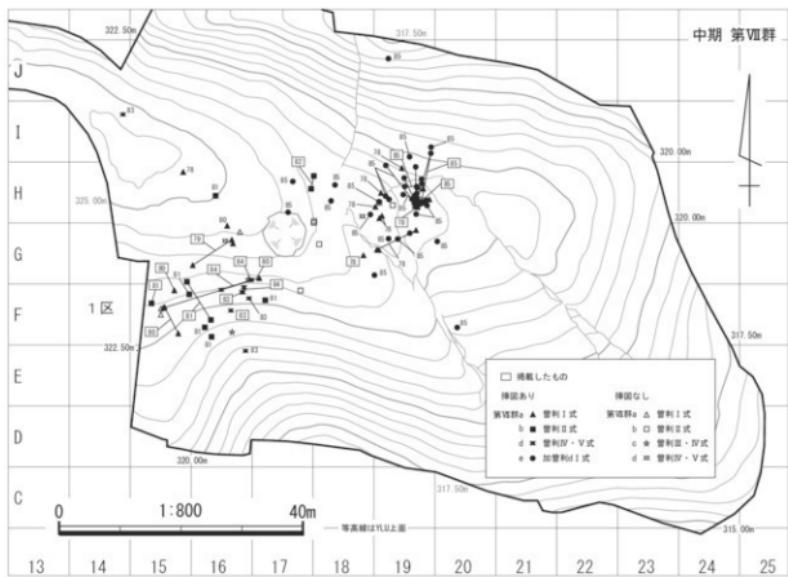
いる。75も井戸尻Ⅲ式土器の口縁部破片である。口縁端部が内面にやや肥厚している。口縁部下に1条の沈線文が巡る。76も井戸尻Ⅲ式土器の口縁部破片であり、外面に複数の沈線文が巡っており、口縁部が外反している。内外面共に丁寧なナデ調整が施されている。77は詳しい型式は不明だが、おそらく井戸尻Ⅱ式土器と並行する時期と考えられる土器であり、地文にLRの縄文を施しているが、下半はナデ消している。輪積みの断面形態は扁平を呈する。

第VII群（第41図78～84）

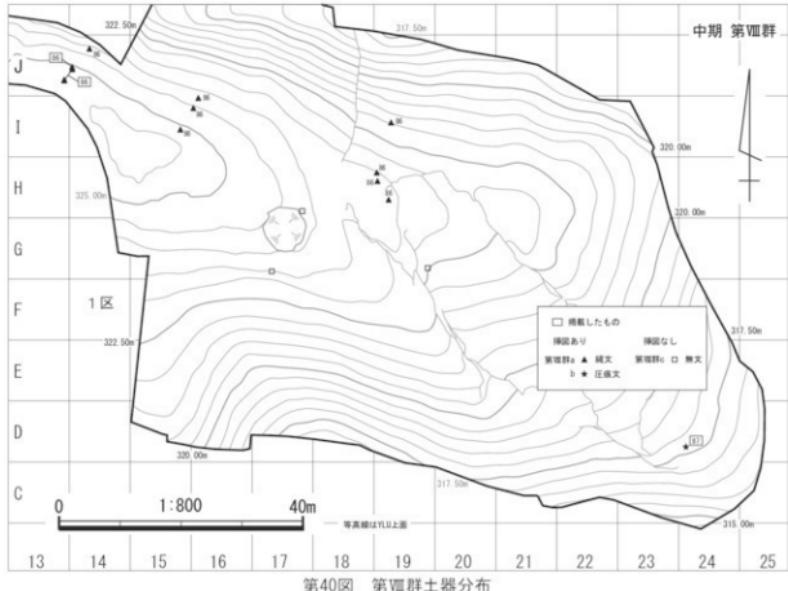
78は曾利Ⅰ式土器の口縁部から胴部にかけての破片であり、焼成は非常に良好である。口縁部に貼り付け隆帯を垂下しており、残っている破片は2つしかないが、おそらく4組で1対をなすものと考えられる。その下に横位の2条の隆帯と蛇行隆線を貼り付け、さらに下には縄文を施す。縄文の間にも、口縁部と同じ形状の貼り付け隆帯が垂下している。口縁部の形は推定で16cm前後と小型の深鉢と考えられる。79も曾利Ⅰ式土器と思われる無文の口縁部破片で、内外面に丁寧なミガキによって器面の調整が施されている。80はキザミが施された隆帯が2条巡り、その間に貼り付け隆帯が、下に沈線文が縦に施されている。81aは蛇行隆線を貼り付け、両側に平行沈線文を施している。81bは蛇行隆線で楕円区画文を構成し、その中に平行沈線文を施している。82は平行沈線文の部分だけである。83aは櫛歯状工具による刺突文を施している。bはさらに沈線文が3条引かれている。84も櫛歯状工具による刺突文であるが、沈線文を先に引いた後に刺突文を施している。

第VIII群（第41図85～87）

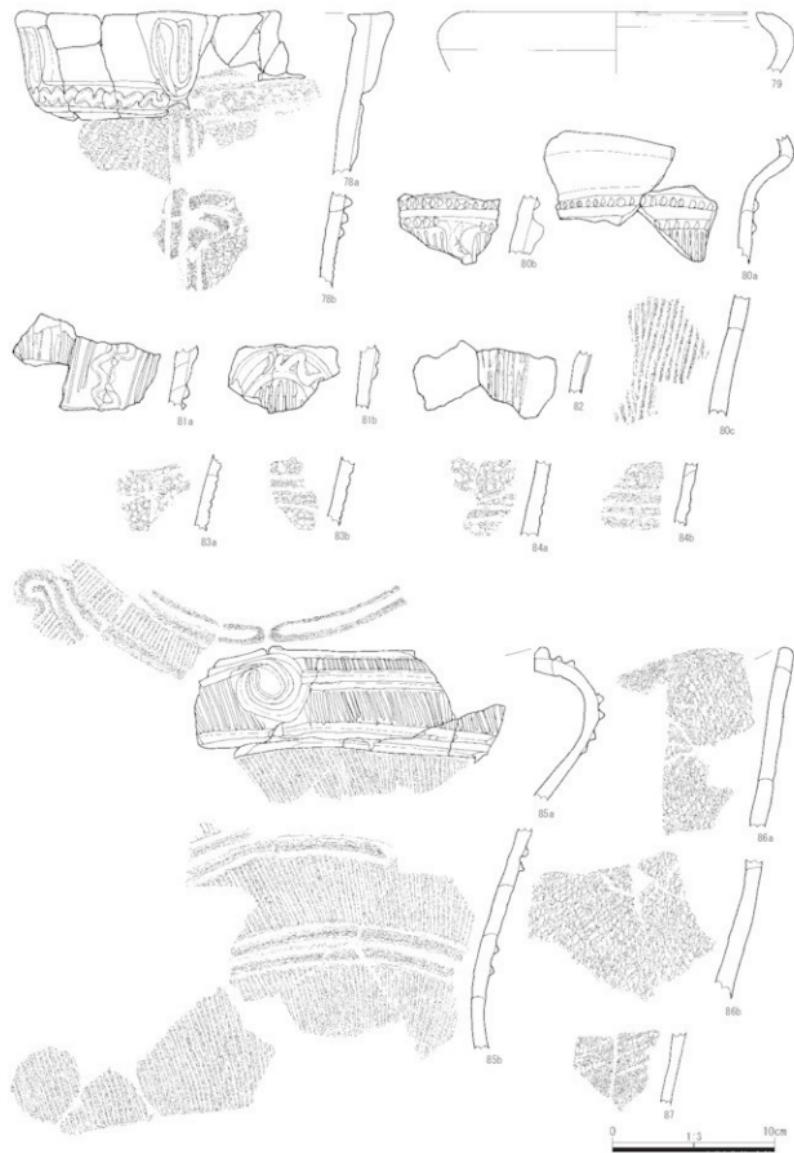
85は加曾利E式土器の口縁部から胴部にかけての資料である。口唇部に2本の隆帯を貼り付け二重口縁としている。その下にも2本1組の隆帯の貼り付けによる横方向の隆帯で先端は渦巻文をなす。隆帯は胴部などにも複数巡る。隆帯区画内は縦方向の沈線文である。輪積みの断面形は扁平形を呈する。器厚は約6mmとやや薄い。86はa類の縄文土器である。波状口縁で口唇部はミガキが施されている。87も縄文土器であるが、縄文は部分的である。



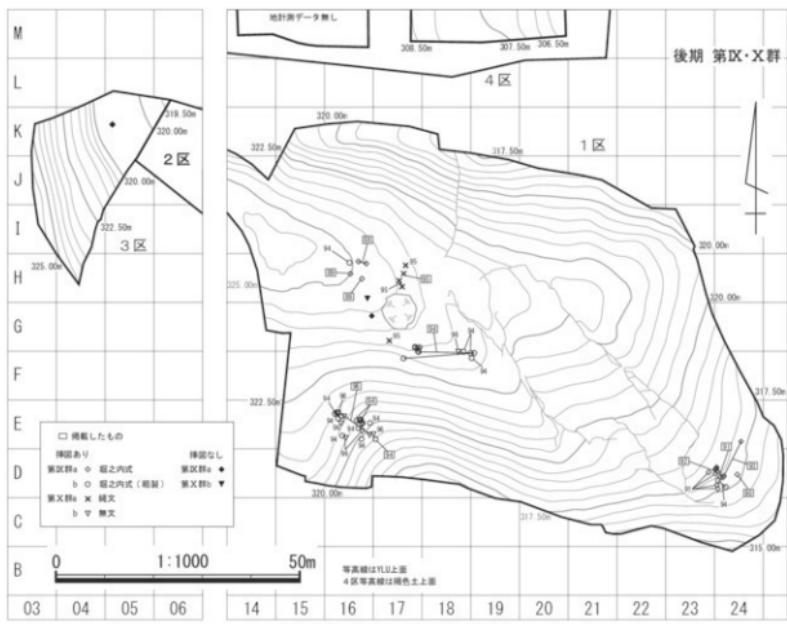
第39図 第VII群土器分布



第40図 第VII群土器分布



第41図 第VII・VIII群土器



第42図 第IX・X群土器分布

後期の土器

第IX群（第43図88～94）

88は堀之内式土器の胴部から口縁部にかけての破片である。口縁部の突起に円形貫通孔と単沈線文による渦巻文が描かれている。口縁部から胴部には二重沈線文が引かれている。89は口縁部破片で、口縁部がやや肥厚し、口唇部に沈線文が施されている。内外面は丁寧なナデで調整されており、焼成も良好である。90も口縁部破片で口縁部が肥厚し、口唇部に沈線文とキザミが施されている。91も堀之内式土器であり、3本の沈線文が引かれており、文様要素としては88に近い。92は縄文が地文であるが、縦方向と横方向の2本の沈線文で区画し、区画内は縄文の方向が異なっている。93も堀之内式土器であり、2本の沈線文など文様要素としては88や91に近いが、沈線を引いた後、盛り上がった土を剥がしておらず、内外面にミガキを施すなど器面を丁寧に処理している。94は縄文土器の口縁部から胴部にかけての破片であり、堀之内式の粗製品であると考えられる。口唇部から内面正面にかけてはミガキを、その下半分はナデで調整している。bとcはさらに下の部位と考えられるが、外面の縄文は一部ナデ消され、cはナデの割合が大きくなっている。なお、この資料の胴部外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を行った (IAAA-111819)。その結果は、 $3,770 \pm 30$ yrBPという¹⁴C年代が得られた。

第X群（第43図95）

95は外面に縄文が施された底部破片で、底部立ち上がりと内面はナデ調整である。96は無文の底部破片で、基本的にナデ調整だが、一部にミガキが見られる。

第XI群

小片無文と中期以降無文土器に該当するが、詳細な実測可能の資料が無いため実測は行っていない。



第43図 第IX・X群土器

第17表 土器観察表

埠因 書号	因版 書号	時期	分類 群-類	型式	文様-特徴など	縦維	胎土	色調(Hue)	部位
35	9	早期	I a		横方向の細沈線。誤整痕か。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい・黄褐色 10YR4/3 (内)にぶい・黄褐色 10YR5/3	口縁
36	9	早期	I a		口唇部に刺突文。外面上に先割状工具による斜方向の沈線文。内面に擦痕。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい・黄褐色 10YR4/3 (内)にぶい・黄褐色 10YR5/3	口縁
37	ab	9	I b	押型文(横円)	外面上に横円文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母 (多)	(外)暗褐色 10YR3/3 (内)暗褐色 10YR3/3	脇部
38	9	早期	I b	押型文(横円)	外面上に横円文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)暗褐色 7SYR2/3	脇部
39	9	早期	I b	押型文(山形)	外面上に横方向の山形文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	(外)にぶい・褐色 7SYR5/4 (内)褐色 10YR4/4	脇部
40	9	早期	I c	押型文(山形)	外面上に横方向の山形文。捺修孔。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)褐色 10YR2/3	脇部
41	abc	9	I c		外面上に横方向に次線文。擦痕。	有	黒色粒子、白色岩片	(外)反黄色 10YR4/2 (内)暗褐色 10YR4/1	脇部
42	9	早期	I d	捺糸文	口縫部内外に横方向の捺糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)明赤褐色 5SYR5/6 (内)暗褐色 SYR3/1	口縁
43	9	早期	I d	捺糸文	口縫部内外は横方向、脇部外面は縦方向の捺糸文。進ナサナギしている。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)暗褐色 SYR6/3 (内)褐色 SYR3/2	口縁
44	9	早期	I e	判ノ木山西	口唇部にキザミ。外面上に先割状工具による斜方向の沈線文。内面に横方向の条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい・褐色 7SYR5/3 (内)暗褐色 7SYR2/4	口縁
45	9	早期	I e	判ノ木山西	外面上の口唇部直下に2束の刺突文を施し、脇部中央に2束の刺突文の判を設ける。矢羽根状に条痕文を施す。内面に横方向の条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子	(外)褐色 7SYR4/4 (内)暗褐色 7SYR3/4	口縁～脇部
46	ab	10	早期	II a 入海	口唇部にキザミ。口唇部直下に伏文形。その下に刺突文を施す。底火と蓋縫の2列の隆起を結び付け。筒形穿孔。内面に条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい・黄褐色 10YR5/4 (内)暗褐色 10YR3/3	口縁～脇部
47	10	早期	II a 入海		内面の隆起部を結び付け。外面上に条痕文。	多	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)にぶい・褐色 10YR5/4 (内)にぶい・褐色 7SYR5/4	脇部
48	10	早期末	II b 打越		波状口縫。口縫部外面にキザミ。外面上に斜方向に貝殻模様文。内面に条痕文による誤整痕。	無	白色粒子	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)暗褐色 SYR4/1	口縁
49	ab	10	早期末	II b 打越	口縫部外面にキザミ。外面上に横方向に貝殻模様文。内面に条痕文による誤整痕。	無	白色粒子、雲母	(外)明赤褐色 SYR5/6 (内)にぶい・褐色 7SYR5/4	口縁
50	10	早期	II c 天神山～塙原 併行		口唇部、口縫部にキザミ。脇部に2段のキザミを施す。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい・褐色 7SYR5/4 (内)褐色 7SYR4/4	口縁～脇部
51	10	早期	III a 織文	Rの筋節の織文を施す。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)にぶい・赤褐色 2SYR4/4	脇部	
52	ab	10	早期	III a 織文	Rの織文を施す。内面に丁寧にナデを施す。	有	白色粒子、黑色粒子、白色岩片、輝石	(外)暗褐色 10YR3/2 (内)にぶい・褐色 7SYR5/4 灰褐色 Hue10YR5/2	口縁～脇部
53	ab	10	早期	III b	外面は擦痕、内面は条痕文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/3 (内)にぶい・赤褐色 2SYR4/4	脇部
54	10	早期	III c	外内面に異方向の沈縫文による誤整痕。	有	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)暗褐色 SYR4/2	脇部	
55	10	早期	III c	無文。	有	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)暗褐色 SYR3/6 (内)暗褐色 SYR3/3	脇部	
56	10	早期	III c	外面上は無文、内面は沈線による誤整痕。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石、白色岩片	(外)明赤褐色 SYR5/6 (内)明赤褐色 2SYR5/6	脇部	
57	11	前期	IV a 諸磯	口縫部直下に1束の連続爪形文と木の葉状の連続爪形文を施す。区面内に横方向のLRの範囲。	無	黒色粒子、白色粒子、輝石	(外)暗褐色 SYR3/2 (内)にぶい・赤褐色 SYR4/4	口縁	
58	11	前期	IV a 諸磯	横方向にRの織文を地文、口縫部、頭部に連続爪形文、半截竹管状の工具により隆起上に刺突文、下部に沈線による区面。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)明褐色 7SYR6/6 (内)にぶい・赤褐色 2SYR4/4	脇部	
59	11	前期	IV a 諸磯	無文。外面に一部マガキが施される。	有	黒色粒子、白色粒子、雲母、白色岩片、赤色岩片	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)暗褐色 5SYR2/4	脇部	
60	ab	11	前期	IV b 十三菩提	口縫部に三角形刻印文と結合浮線による渦巻文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR5/4 (内)赤褐色 5SYR6/4	口縁
61	ab	11	前期	IV b 十三菩提	口縫部より上部にシーメンズ状跡付け文、隆起、集合沈線文を施す。口縫部より底部は無文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)にぶい・赤褐色 SYR4/3	脇部
62	11	前期	V a	無文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)にぶい・黄褐色 10YR5/3	脇部	
63	11	中期	Via 五領ヶ台	口縫部突起部にキザミ。両側縫に円形刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)赤褐色 2SYR4/6 (内)暗褐色 2SYR3/1	装飾	
64	11	中期	Vi b 新道	渦巻き状跡付け文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)にぶい・赤褐色 SYR4/4	貼付部	
65	11	中期	Vi c 藤内	1束の波状沈縫文。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)にぶい・黄褐色 SYR4/4	脇部	
66	11	中期	VId 井戸尻Ⅰ	横方向に點土縫を結び付けヘラ状工具による刺突文を施す。その後に屈曲部より上部に斜方向のRLの織文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)暗褐色 7SYR4/2	脇部	
67	11	中期	VId 井戸尻Ⅱ	縦方向に點土縫を結び付けヘラ状工具による刺突文を施す。その後に斜方向のRLの織文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子、雲母	(外)にぶい・赤褐色 SYR4/4 (内)暗褐色 7SYR4/2	脇部	
68a	12	中期	VIe 井戸尻Ⅲ	口縫部に外反する突起が付けられ、そのまま上面に刺突文が施される。その間に刻みが施された隆起が3箇所あり、うち1箇所は横円区面文を構成する。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶい・褐色 7SYR5/4 (内)にぶい・褐色 7SYR6/4	口縁	

登録番号	図版番号	時期	分類群-類	型式	文様・特徴など	織維	胎土	色調(Hue)	部位
68a	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が3条連り、うち1条が横円区画文を構成し、区画面内に沈線文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶら・褐色 7SYR5/4 (内)にぶら・褐色 7SYR6/4	脣部
68c	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が横円区画文を構成し、区画面内に沈線文を施す。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶら・褐色 7SYR5/4 (内)にぶら・褐色 7SYR6/4	脣部
68d	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が3条連り、横円区画文と油墨書き文を模様する。	無	黒色粒子、白色粒子	(外)にぶら・褐色 7SYR5/4 (内)にぶら・褐色 7SYR6/4	脣部
69	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	階帯にキザミが施され、下部に棒状工具にヨリキザミを施す。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
70	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	階帯に連續したキザミが施される。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
71	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯で横円区画文を構成し、区画面内に縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
72	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯で横円区画文を構成し、区画面内に縦・横方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・褐色 7SYR5/4 (内)褐色 SYR4/1	脣部
73	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が横円区画文を構成し、区画面内に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、赤色岩石片	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
74a	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が横円区画文を構成し、区画面内に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母、石美	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
74b	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	縦方向に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母、石美	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
74c	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	キザミが施された階帯が横円区画文を構成し、区画面内に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母、石美	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/3 (内)褐色 SYR4/1	脣部
75	12	中期	Vld	井戸尻Ⅲ	口唇部が内側にやや肥厚している。1条の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、石美	褐色 7SYR6/4 (内)褐色 7SYR6/4	口縁
76	12	中期	Vle	井戸尻Ⅲ	外裏面に沈線文が沿る、内外面ナデ調整。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)暗褐色 7SYR3/4 (内)暗褐色 7SYR3/3	口縁
77	12	中期	Vlg	井戸尻Ⅱ併行	横方向にLRの線文、下部はナデ消している。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)赤褐色 SYR4/6	脣部
78	13	中期	Vla	曾利Ⅰ	口縫部に貼り付け履蓋を垂下し、その後に蛇形履蓋を貼り付ける。その後半分に縫文を施す。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・赤褐色 SYR5/3 (内)褐色 SYR4/1	口縫～脣部
79	13	中期	Vla	曾利Ⅰ	口縫外面ミガキによる器蓋調整。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・赤褐色 SYR4/4 (内)暗褐色 SYR3/2	口縫
80	13	中期	Vla	曾利Ⅰ	キザミが施された階帯が2条連り、その下に縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)明褐色 SYR5/6 (内)灰褐色 SYR4/2	脣部
81	13	中期	Vlb	曾利Ⅲ	蛇形履蓋を貼り付けし横円区画文を構成する。区画面内に平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)灰褐色 SYR5/2	脣部
82	13	中期	Vlb	曾利Ⅲ	縦方向に平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、石美	(外)赤褐色 SYR4/6 (内)灰褐色 SYR5/2	脣部
83	13	中期	Vld	曾利Ⅳ～V	彌状工具による刻突文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)暗褐色 SYR3/4 (内)灰褐色 7SYR4/2	脣部
84	13	中期	Vld	曾利Ⅳ～V	彌状工具による刻突文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩石片	(外)赤褐色 2SYR4/6 (内)暗褐色 2SYR3/1	脣部
85	13	中期	Vle	加曾利E 1 (10期)	口唇部に階帯を貼り付け二重口縫とする。2本1組の階帯を各横方に貼り付け、先端は油墨文。階帯区画面内は縦方向の沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)褐色 7SYR4/4 (内)暗褐色 7SYR2/2	口縫
86a	13	中期	Vla	井戸尻Ⅱ併行	外裏面に縫文、内裏面に一部ミガキ。	無	黒色粒子、白色粒子、露母	褐色 7SYR4/3 (内)明褐色 SYR5/6	口縫
87	13	中期	Vla	縫文	外裏面に部分的な縫文。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩石片	(外)明褐色 7SYR5/6 (内)暗褐色 7SYR5/6	脣部
88	14	後期	IXa	縫之内	口縫部の突起に円形貫通孔と単字縫文による縫巻文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶら・黄褐色 10YR6/4 (内)にぶら・黄褐色 10YR7/4	口縫
89	14	後期	IXa	縫之内	無	白色粒子、黒色粒子	(外)暗褐色 2SYR3/3 (内)にぶら・褐色 2SYR4/4	口縫	
90	14	後期	IXa	縫之内	口唇部に沈線文とキザミ。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩石片、露母、石美	(外)黒褐色 7SYR3/2 (内)黒褐色 7SYR2/3	口縫
91	14	後期	IXa	縫之内	3本の沈線文による横方向と斜方向の区画文。	無	白色粒子、黒色粒子、露母、白色岩石片	(外)褐色 SYR4/6 (内)褐色 SYR5/5	脣部
92	14	後期	IXa	縫之内	縫文を地文、横方向と縦方向の沈線文により凹凸し、区画面内は縫文の方向が変わる。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)にぶら・黄褐色 10YR6/4 (内)にぶら・黄褐色 10YR7/4	脣部
93	14	後期	IXa	縫之内	外裏面は沈線文により区画、内裏面にミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)黒褐色 7SYR3/2 (内)黒褐色 7SYR2/2	脣部
94a	14	後期	IXb	縫之内(粗製)	外裏面に縫文、口唇部から内裏上面にかけてミガキ。その下部はナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、輝石	(外)にぶら・褐色 7SYR6/4 (内)にぶら・褐色 7SYR6/4	口縫
94bc	14	後期	IXb	縫之内(粗製)	外裏面の縫文を一部ナデ消す、内裏にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)にぶら・褐色 7SYR6/4 (内)にぶら・褐色 7SYR6/4	脣部
95	14	後期	Xa	縫文	外裏面に縫文、内裏面にナデ調整。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)にぶら・赤褐色 2SYR4/4 (内)にぶら・赤褐色 SYR5/3	脣部
96	14	後期	Xb	無文	内外面にナデ調整。一部ミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、露母	(外)褐色 SYR6/6 (内)灰褐色 SYR6/2	脣部

(2) 石器

石鎚

石鎚は計64点出土し、うち26点を実測した。基部の形状で5タイプに分類し、さらに凹状の基部のものは脚部形状で4タイプに細分類した。石鎚未製品は4点出土したが、その内3点を掲載した。

Aタイプ（基部が凹状のもの）（第46図97～111）

97～111までが脚部が尖っているA1タイプ、112～114までは脚部が円脚のA2タイプ、115が角脚のA3タイプであり、116は下部が欠損し脚部不明である。97は抉りがかなり深く入って大型であり、98も同様の形状である。99～102は抉りが比較的内湾気味になる。103は断面形状が扁平である。105からは抉りが浅く脚部も短く二等辺三角形である。111は抉りが僅かに見られる程度である。112～114は脚部を円形状に加工しており、縁辺が鋸歯状に作り出されている。115は刃部が長い。

Bタイプ（基部が平らのもの）（第46図117）

117は基部を平らに作っており、断面も扁平である。

Cタイプ（基部が円形のもの）（第46図118・119）

118は円形の基部が明瞭で、119は一部欠損だが円形の基部と考えられる。先端が使用により丸くなる。

Dタイプ（基部が不定形状のもの）（第46図120）

120は下部が一部欠損しており基部がやや不明であることから不定形状のタイプとした。

石鎚未製品（第47図121～123）

121～123は石鎚未製品である。121は刃部や基部の加工が粗く、まだ製作途中の未製品と判断した。122と123は下部が欠損しているが、刃部の加工が粗いため、未製品と考えられる。

尖頭器（第47図124）

124は尖頭器である。茎部がなく、右側縁部上半は両面とも加工して刃部を作り出している。

スクレイバー（第47図125～127）

125～127はスクレイバーである。125は左側面に両面とも剥離痕が認められる。126は上面には自然面を残すが、右側面を両面とも加工している。裏面に節理面が確認される。127は裏面の方が剥離痕は明瞭に観察され、特に左側面に微細な剥離が多く認められる。

石匙（第47図128）

128は石匙であり、周縁に両面から平坦剥離を入れて刃部とつまみを作り出している。

石錐（第47図129）

129の石錐は、断面三角形の剥片を利用しており、両側縁に剥離調整が見られる。

楔形石器（第47図130）

130は楔形石器で、両端部に両極方向の剥離痕が見られ両極打法により成形されたと考えられる。

二次加工剥片（第47図131～134）

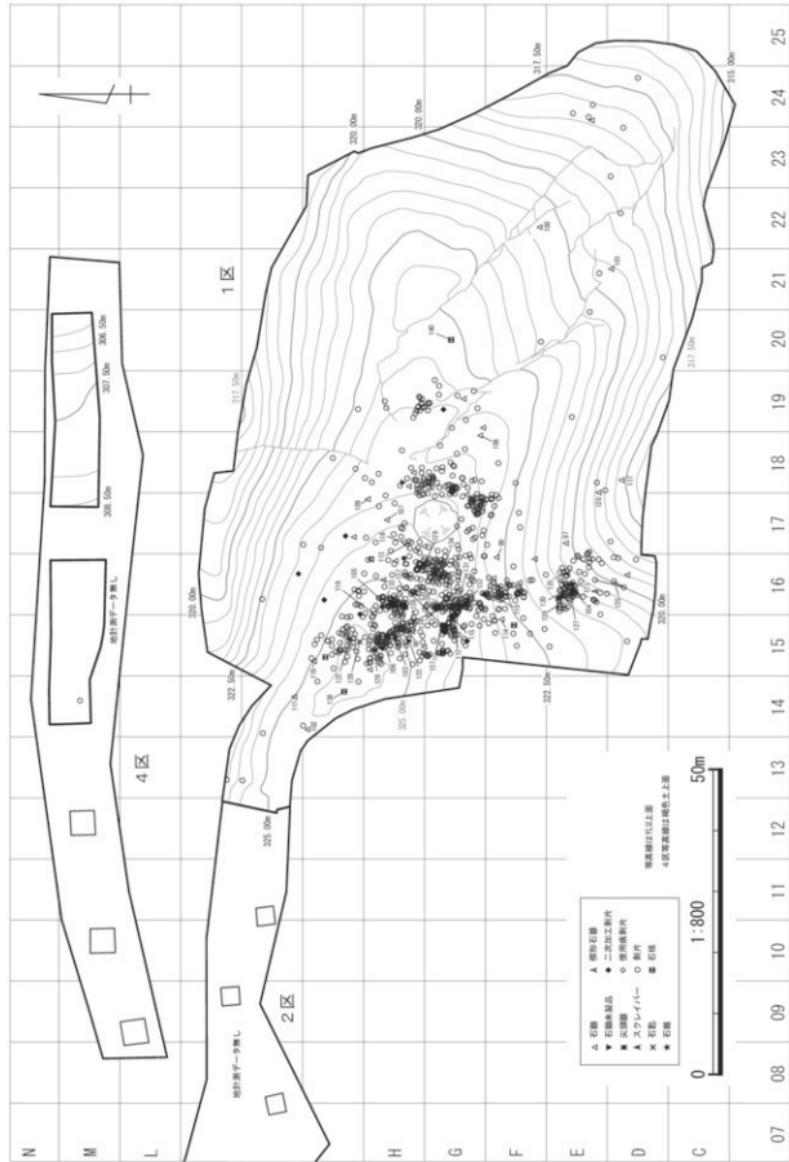
131～134であり、不連続ながら加工が施される剥片で、縁辺部に細かな加工が施されている。

接合資料（第48図135～137）

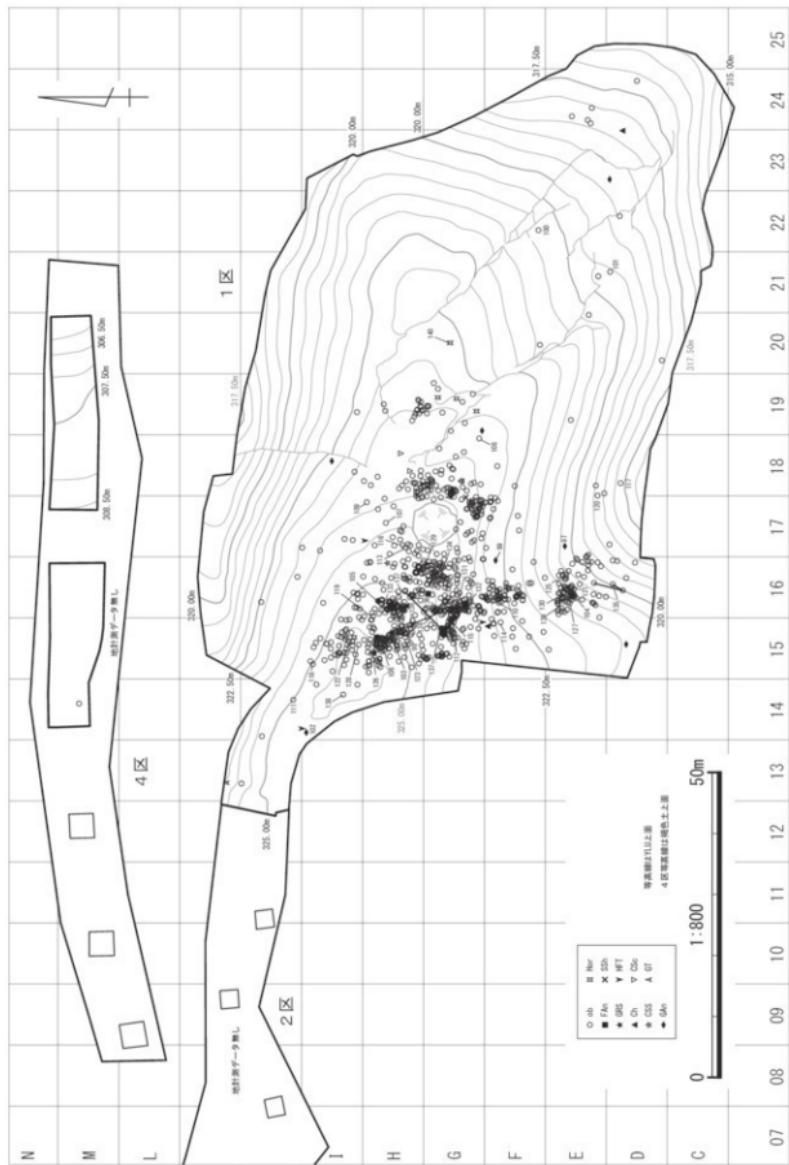
135～137は接合資料の剥片で、すべて諏訪星ヶ台群産の黒曜石製剥片である。135は5m以内の範囲で出土した3点が、136は7.4m離れた位置から出土し、137は直線距離で8.2mほど離れた位置で出土のものが接合している。

石核（第48図138～140）

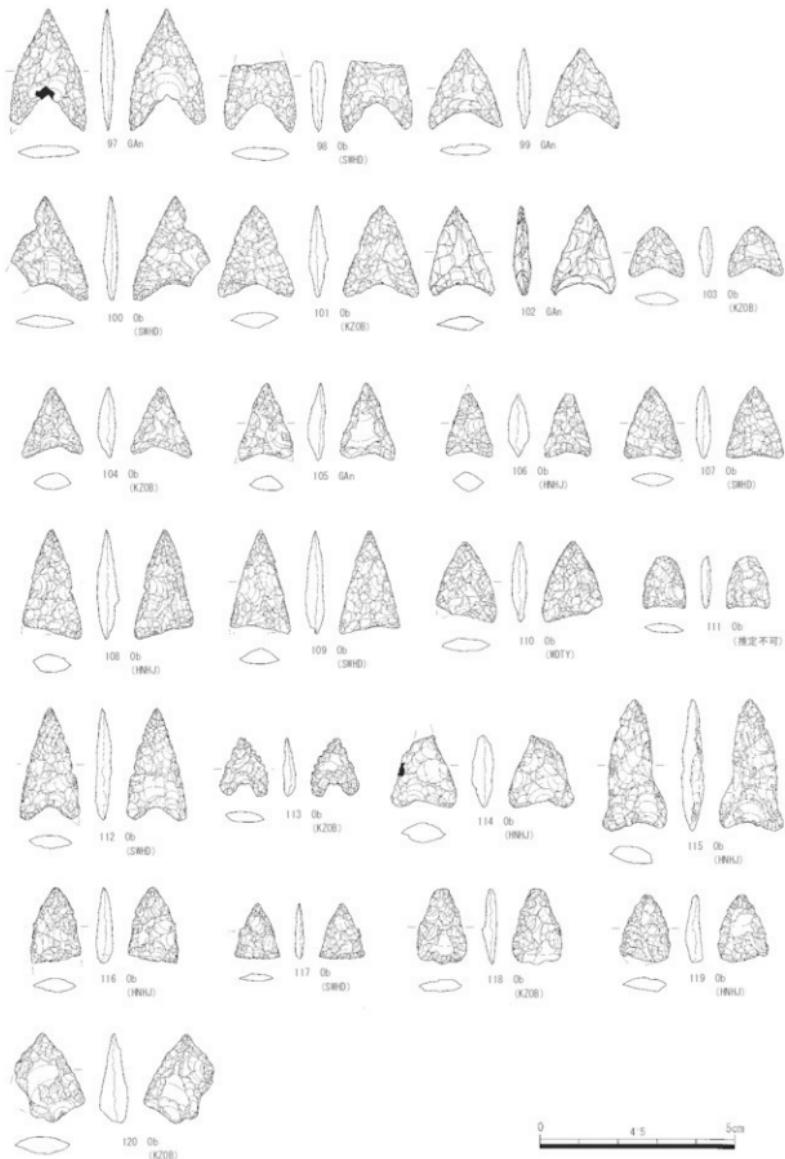
138～140は石核である。138は固定して剥離面を一方向に剥離しており、139は剥離面を転移しながら剥離している。140はホルンフェルス製の石核で、縦面を一方向に剥離している。



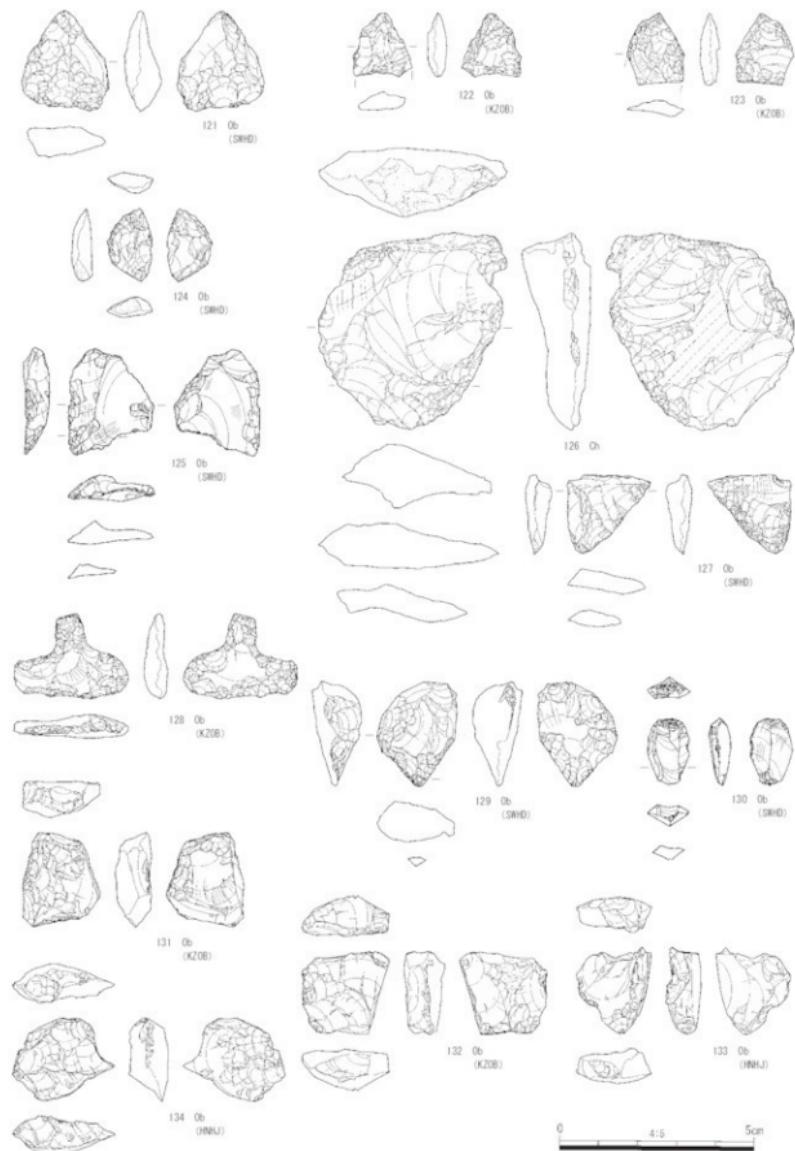
第44図 剥片石器種別分布



第45図 剥片石器石材別分布



第46図 石器 1



第47図 石器 2



第48図 石器 3

打製石斧（第51図141～第54図153）

出土した打製石斧は全部で23点あり、そのうち13点を図化した。141～153は打製石斧である。分類は141～143は側縁部が平行で直線的な短冊型である。143は右側縁部のエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残り、柄と装着したと考えられる。実測した資料以外でも、小型のものが多い。144～146は側縁部が直線的で刃部側に最大幅を持つ撥型であり、両側縁部に柄の装着と思われるエッジの敲打痕が見られる。144・145など蹠面が広く残り、大きさもバラバラである。147・148は撥型より最大幅がさらに刃部で広がり、ハの字状を呈する杓文字型である。柄に装着したと思われる抉りが見られるが、エッジに明瞭な敲打痕は認められない。輝石安山岩を素材としており、厚さはあまりなく扁平である。147は刃部使用のため摩滅が見られる。149・150は分銅型である。最大幅が上部と刃部にあり、両側縁部に敲打を行っており、抉れている。149は蹠面が多く残っている。151・152は基礎部が尖る尖頭型に分類した。明瞭な着装痕は見られない。両資料とも上部に節理が見られる。なお、153は刃部しか残っておらず分類は不可であるが、撥型か杓文字型の可能性が高い。刃部には使用による摩滅が多く見られる。

磨製石器（第54図154～156）

154～156は磨製石斧である。154は上部を欠損しているが、刃部にかけて使用による摩滅痕が目立つ。比較的大型品であったと考えられ、断面も厚い。155は小型である。刃部は尖っており、両縁辺部に剥離痕が多く見られる。156は大半を欠損しており刃部しか残っていないが、使用による摩滅が見られる。

礫器（第55図157～162）

157～162は蹠器である。蹠器は15点出土し、そのうち6点を実測した。ほとんどは輝石安山岩製で、1点のみ玄武岩製である。157は左側縁部にも刃部が見られる。161・162は左右半分ずつが欠損して全体形状は不明だが、158のように刃部が広角に広がるものと考えられる。

磨石・敲石類（第56図163～第59図199）

163～199は磨石・敲石類である。全体では210点出土し、そのうち37点を実測した。石材は輝石安山岩、玄武岩、多孔質玄武岩、多孔質安山岩の順に多い。

磨石・敲石類は、形状・断面形・使用痕によって分類した。形状はAが円形、Bが楕円形、Cが不定形、Dが棒状のものである。断面形は、1が円形、2が扁平、3は厚みがあるもの、4は三角形をなすものである。使用痕は、aは端部に敲きがあり、bは側縁部に敲きがあるもの、cは平坦面で敲いているもの、dが端部に磨りがあるもの、eは側縁部に磨りがあるもの、fは平坦面を磨っているものである。

163～166は形状が円形のAであり、断面形状は163～165は2の扁平で、166は厚みがある3タイプである。使用痕は、163・166は敲きのみ、164は平坦面の磨り、165は敲きと磨りが行われている。167～172はBタイプであり、断面形状は167が扁平であり、それ以外は厚みがあるタイプである。

使用痕は167～170は敲きのみであり、171・172については、171は上半分が、172は一部が欠損しているが、端部と側縁部の敲きと平坦面の磨りが見られる。173～187は不定形状をなすCタイプであり、178までが断面形状が扁平タイプ、179からは厚みのあるタイプである。188～199が棒状をなすDタイプであり、三角形断面の199以外は断面が厚みのあるタイプである。

石皿・台石類（第60図200～202）

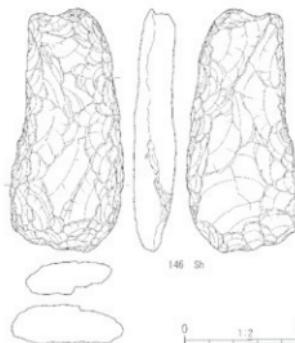
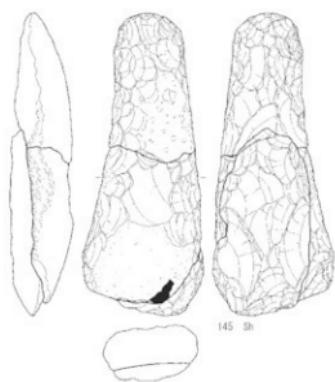
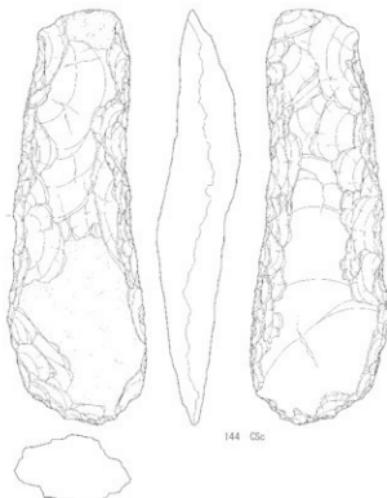
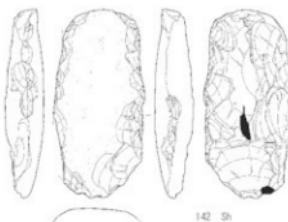
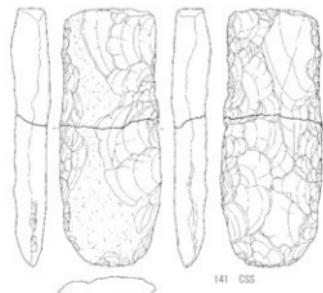
包含層出土の石皿は6点あるが、欠損し図化が困難なため掲載しない。200～202は台石である。台石は、包含層からは5点出土した。そのうち3点を実測した。200は平坦面の中央部に敲打痕による凹凸が確認できる。201・202は敲打痕があまり明瞭に認められないが、形状から台石と判断した。202は大型品である。



第49図 薙石器器種別分布

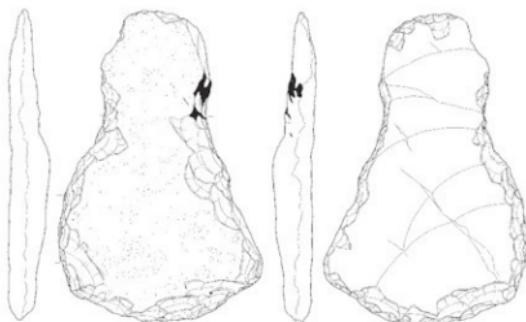


第50図 縄文石器石材別分布

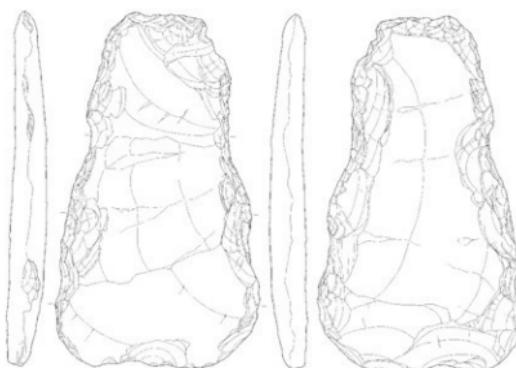


0 1:2 Scale

第51図 石器 4



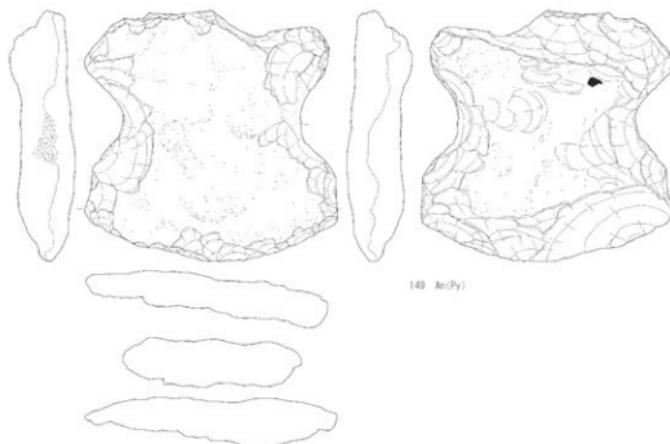
147 An(Py)



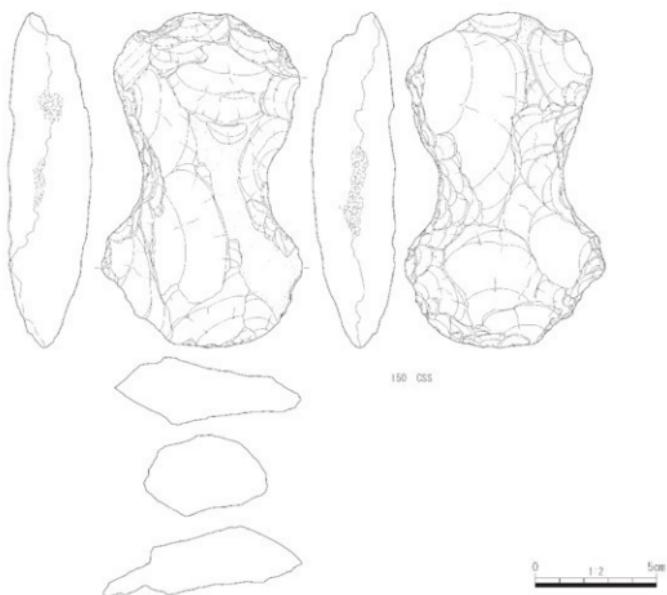
148 An(Py)



第52図 石器 5



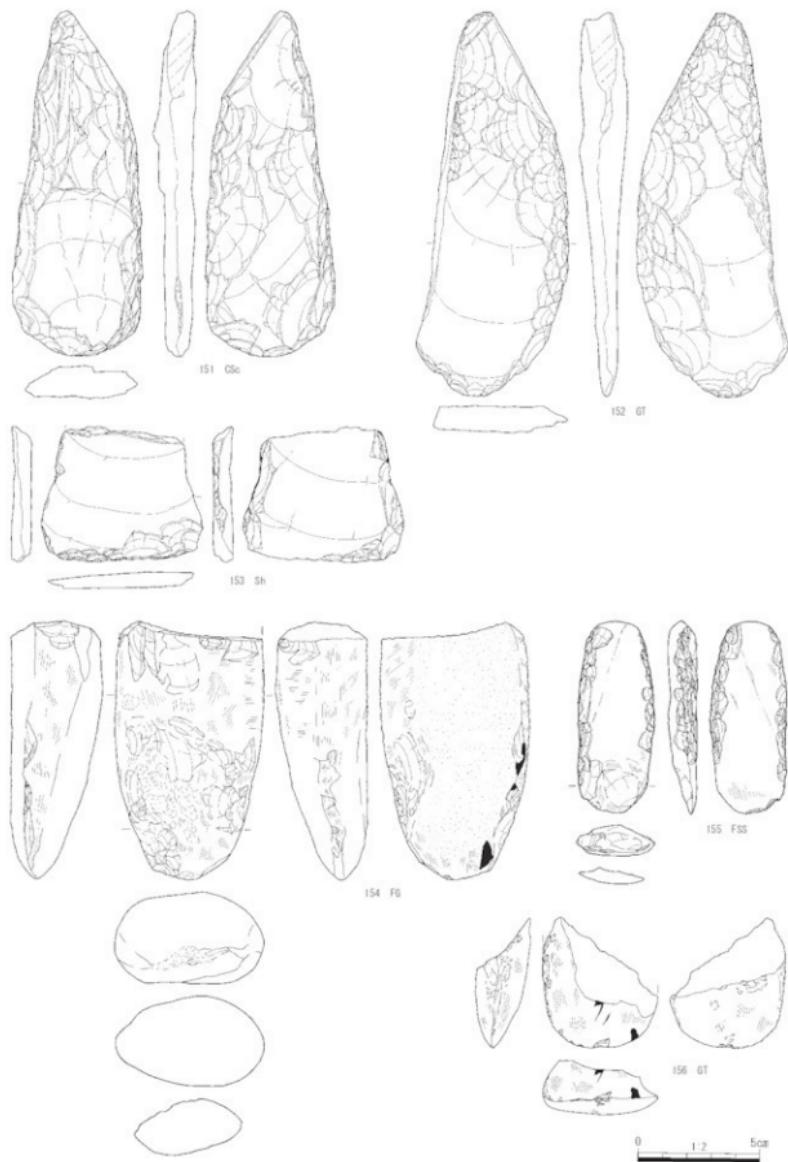
149 An(Py)



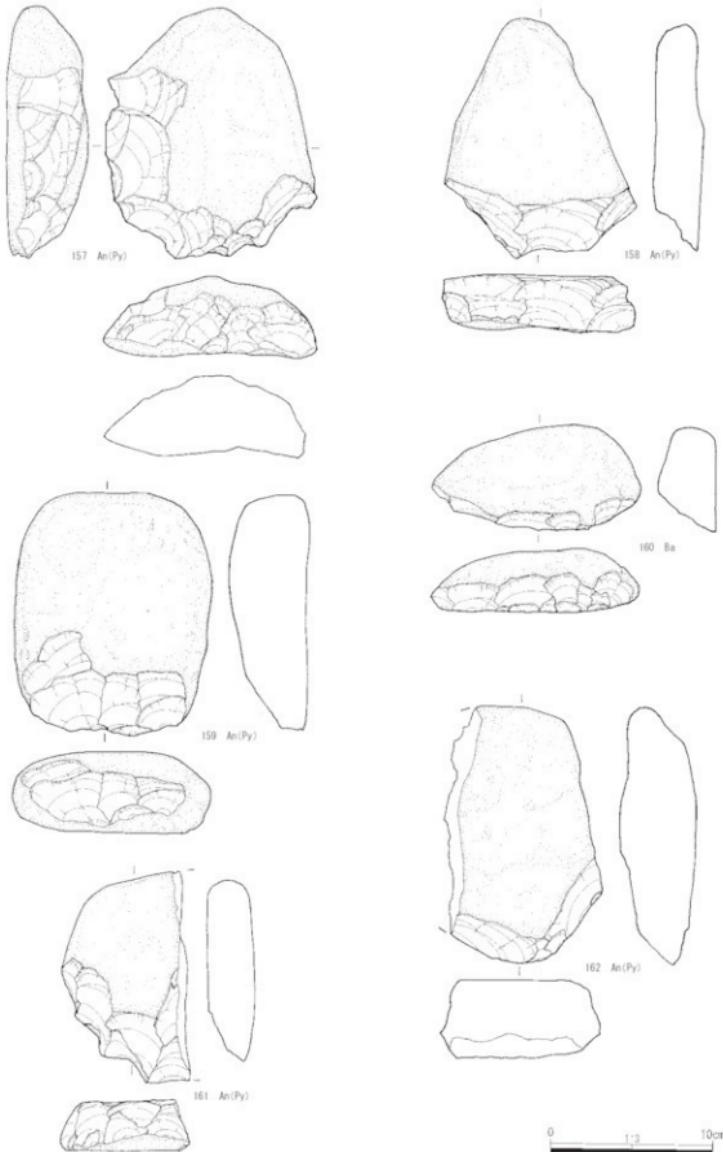
150 CGS

0 1:2 5cm

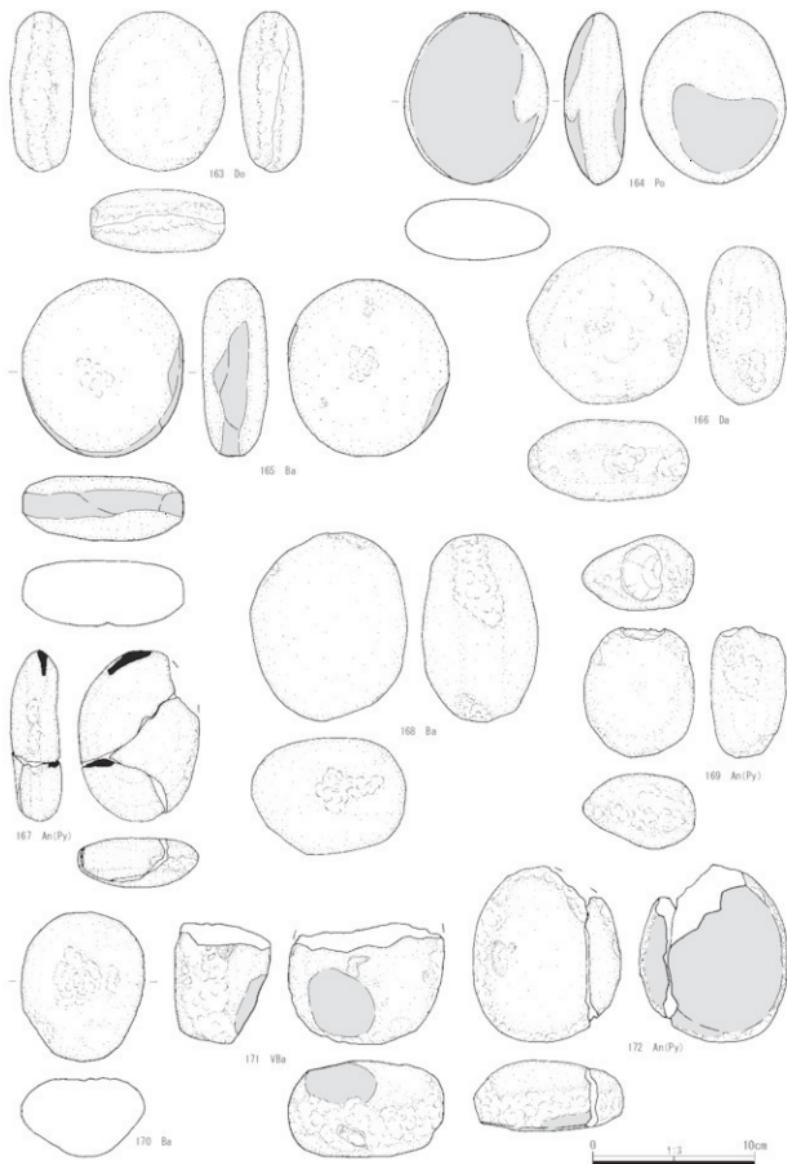
第53図 石器 6



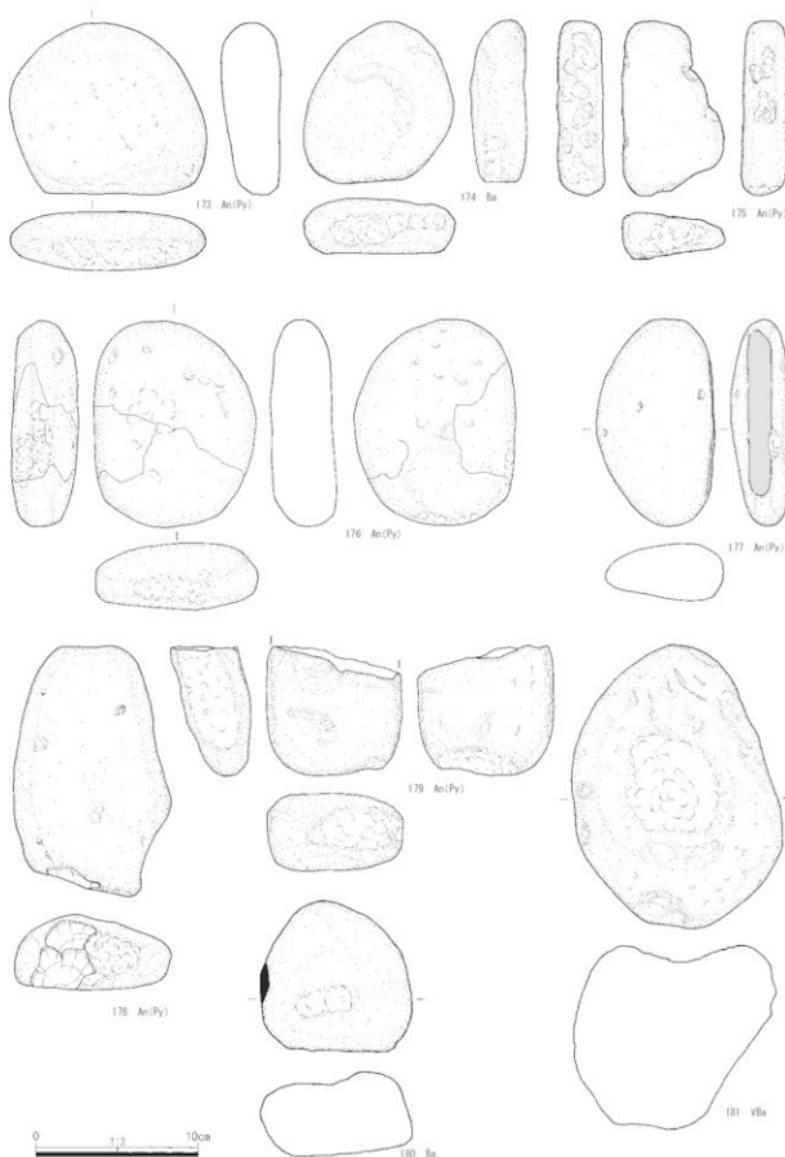
第54図 石器 7



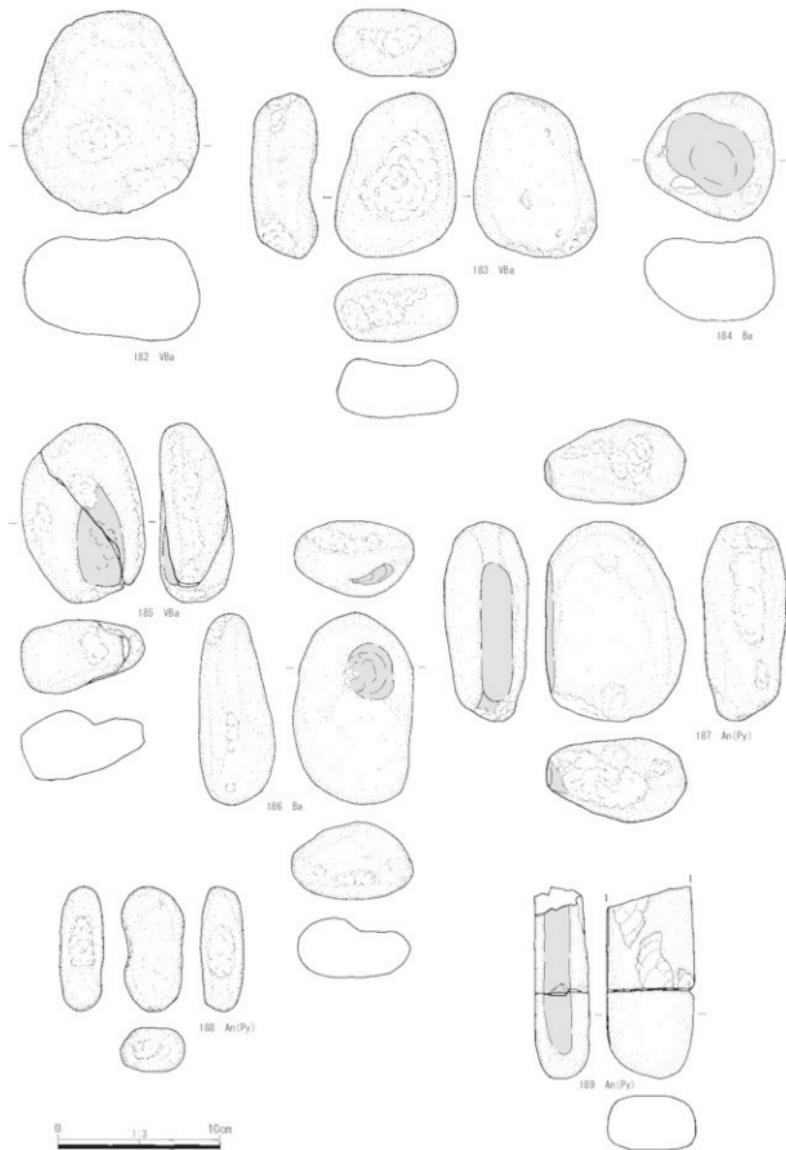
第55図 石器 8



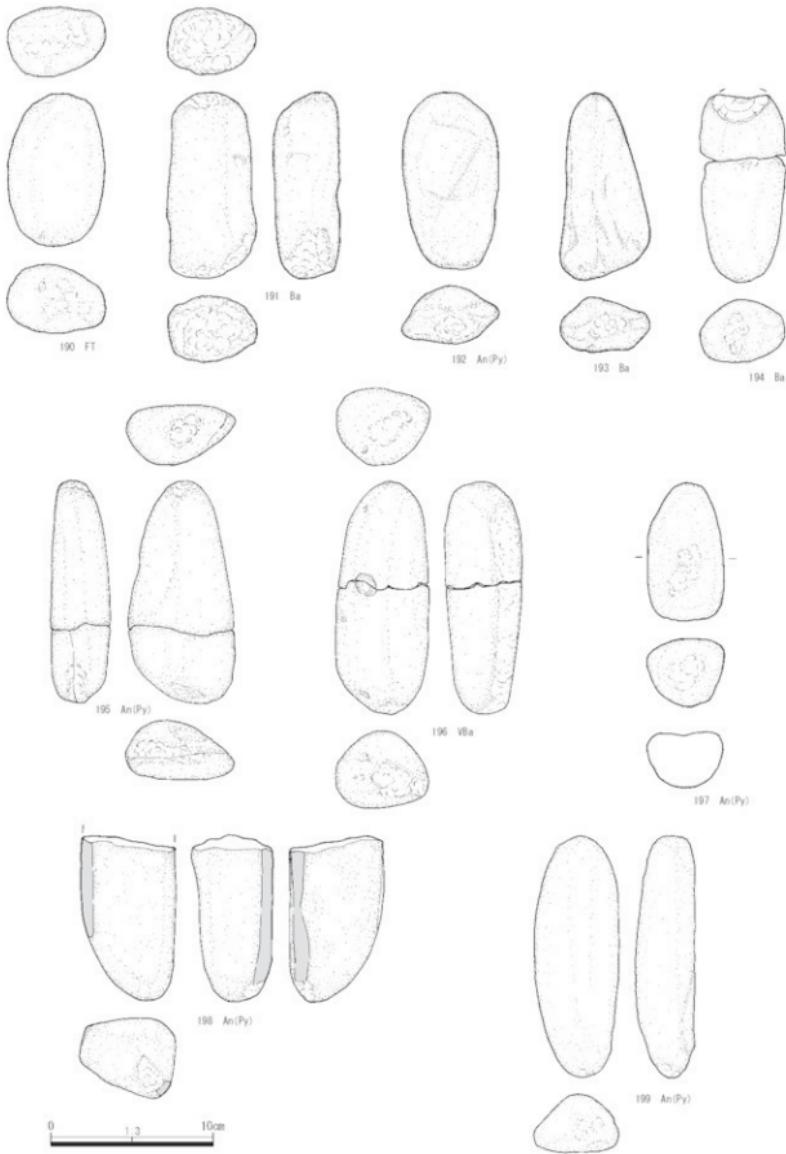
第56図 石器 9



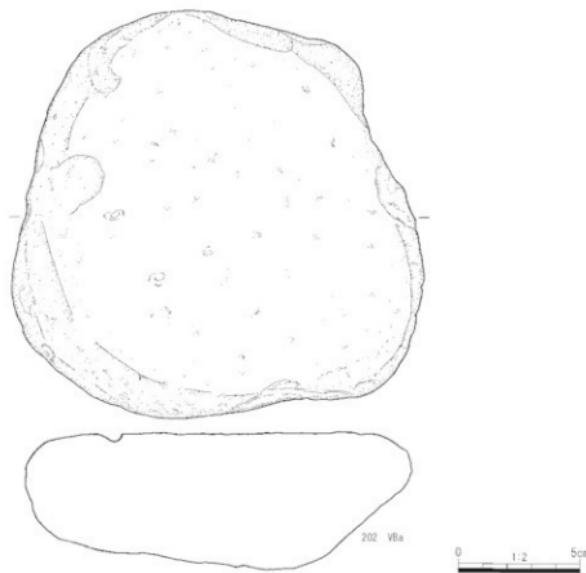
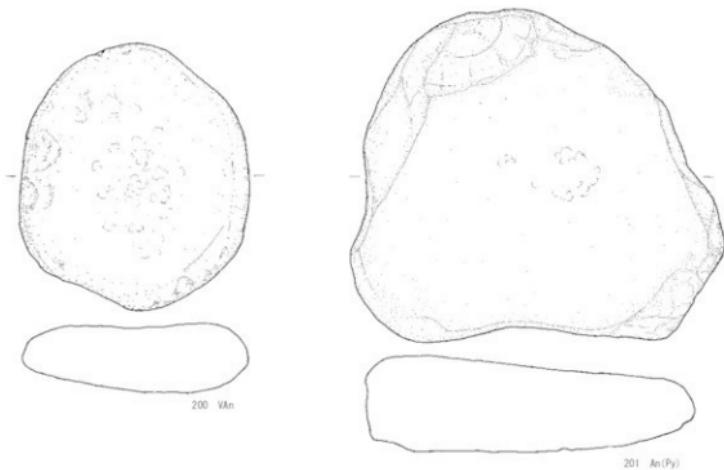
第57図 石器10



第58図 石器11



第59図 石器12



第60図 石器13

第18表 石材組成

石材	黒曜石										チャート	合計
	和田鹿群 和田鹿山群	国芳星ヶ谷群	箱根伊豆群	天城柏崎群	神津島恩納島群	推定不可 未分析	ガラス質黒色安山岩	下凹石	珪質頁岩			
石材路号	WOTY	SWHD	HNU	AGK	K20B	-	GAn	GRS	SSH	Ch		
尖脚	1	11	3	1	7	2	4				29	
円基		1	2		2	1					6	
角脚		1	1	1	6	1	1	1	1		13	
脚部不明			1								1	
平基			1	2							3	
円基		3	2		1						6	
不定形		1	1	1	1	1					1	6
合計	1	18	12	3	17	5	5	1	1	1	64	

第19表 スクレイバー組成

石材	黒曜石			チャート	合計
	国芳星ヶ谷群	下凹石	珪質頁岩		
石材路号	SWHD	Ch			
両刃 側縁部	1		1		
片刃 側縁部	3	1	4		
両刃 全周	1		1		
合計	5	1	6		

第20表 石柱組成

石材	黒曜石										ホルダーパネル	合計
	国芳星ヶ谷群	推定不可 未分析	神津島恩納島群	ガラス質黒色安山岩群	下凹石	珪質頁岩	粗粒砂岩	中粒砂岩	細粒砂岩	粘土岩		
石材路号	SWHD	K20B	-	Hor								
打面形状												
A	1	2	1		3	3	2	1	1	1	3	A: 刺離面を打面とするもの
	2		1		1	2	1	1	1	1	5	B: 稲面を打面とするもの
B	1	1	1	1	3	3	1	1	1	1	1	刺離方法
	2	1			1	1	1	1	1	1	1	1. 固定して一方向に刺離
合計	4	2	2	1	9	2	2	1	1	1	14	2. 転移させながら刺離

第21表 打製石斧組成

石材	黒曜石										粗粒砂岩	中粒砂岩	細粒砂岩	粘土岩	合計
	羅石安山岩	頁岩	結晶片岩	綠色凝灰岩	黃青石片岩	鈍鐵凝灰岩	滑鐵凝灰岩	粗粒砂岩	中粒砂岩						
石材路号	An (Py)	Sh	CSc	Hor (cc)	GT	HFT	CSS								
両面		1						1							
短冊形		1	1			2	4								
			1			1									
撥型		4	1			5									
			1			1									
杓文字型		2				2									
			1			1									
分懈型		1				1									
			1			1									
尖頭型	無し		1	1	1	2									
			1	1	1	1									
不明		1	1	1	1	4									
合計	4	8	3	2	2	1	3	23							

第22表 磨石・敲石類組成

石材	玄武岩										内訳	合計
	多孔質安山岩	粗粒玄武岩	ひん岩	細粒凝灰岩	デイサイト	ひん岩	細粒凝灰岩	デイサイト	ひん岩	細粒凝灰岩		
石材路号	Ba	VBa	Do	An (Py)	VAn	Da	Po	FG	FT			
形状、断面												
A	1		1								1	2
	a+b		1								1	
					3						3	
2	a+b			1	1	1					3	8
	f										1	
	c+d+e	1									1	
											1	
	a+b										1	
	a+b+c	1				1					2	
	f						1				1	
3	a+b+c+f	1				2	1				3	9
	a+b+c+d+f	1									1	
											1	
4	a										2	
	b+c	1									1	
	e										1	
	f	1									2	
	a+f										1	
	a+b+d										1	
	a+b+f	2	9	3							14	
	a+c+f	1									1	
	a+b+c+f	1	2	1							1	
5	a	2									4	
	a+b	1	1								5	
	a+b+c										1	
	e			1	2						3	
	f					1					1	
	a+b+f										1	
	a	8		5	1						15	
	b			1							1	
	c	2	1								4	
	d				5						10	
	a+c	2	3								5	
	b+d										1	
	a+b+c										1	
	f	1									1	
	a+f										1	
	b+d										1	
	a+b+c+f										3	
	a	2	11								13	
	a+b	1									6	
	a+c	1									1	
	e			2							2	
	a	4	1	8							14	
	a+b	2	3								5	
	a+c	1	2								3	
	d				1						1	
	a+e					1					1	
	a	2	1	10							13	
	a+b	2									2	
	a+c	3									3	
	d				3						3	
	不明										3	
合計	44	35	3	107	9	9	1	1	1	210		

形状 断面 使用値
A: 円 1: 円 a: 端部敲き e: 侧縁部磨り
B: 楊円 2: 楊平 b: 侧縁部磨り f: 平面磨り
C: 不定形 3: 複厚 c: 平坦面敲き
D: 分懈型 4: 棒状 d: 端部磨り

第23表 繩文時代石器組成

石材	黒曜石											チャート	合計																	
	和田 鹿群	和田 吉崎群	琵琶 星ヶ谷群	天城 柏崎群	神津 鳥島群	推定 不可 分	玄武岩	粗粒 玄武岩	多孔 粗粒 玄武岩	ガラス質 黒曜石	細粒 安山岩			下凹石	デイサイト	細粒 班雷岩	董青石 ホルブッシュ	褐色 凝灰岩	細粒 褐色凝灰岩	真岩	珪質 真岩	細粒 砂岩	粗粒 砂岩							
石材路号	WDTYNDHTSMHDHNUAGKT(KZOB	-	Ba	VBa	Do	GAn	FAr	An (Ph)	VAn	Da	GRS	Po	FG	Cha	CSc	Hor	Hor (cm)	FT	HFT	GT	Sh	SSH	FSS	CSS	Ch					
尖頭器		1							5															1						
石鏡	1	18	12	3	17	5																		64						
石器未製品		1			2	1																		4						
スクレイバー		5																						6						
石匙			1																					1						
石錐		2																						2						
楔形石器		2																						2						
二次加工削片	3	4	1	6	3																			17						
使用痕削片		5																						6						
剝片	3	18	2	1	4	342			3	5							2	5		5	3		1	3	395					
砂片					2611				1								1							52	2663					
石核		4			2	2																		0						
磨製石斧																1				1				0						
打製石斧									4								3	2	1	2	8		3	23						
磨石・最石盤					44	24	3		118	9	9	1	1											210						
硬器							1				14													15						
石皿							1				4	1												0						
台石							3			5	1													9						
合計	1	1	59	18	5	32	2964	46	27	3	9	5	145	11	9	1	1	2	1	5	6	2	1	6	6	1	1	4	58	3438

第24表 細文時代石器一覧

遺物名	掉回 番号	種類 番号	版面 番号	遺物 番号	性質	基準 番号	器種	肩形	グリップ	石材	推定 产地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	X座標	Y座標	Z座標	タイプ
1号遺物集中	14	7	2034	石鏡	KGP-E-016	Ob	KZOB	20.1	15.1	4.5	0.89	-88089424	35444403	322196	A2					
1号遺物集中	15	7	2549	石鏡	YLW-E-016	Ob	HNUJ	29.6	26.2	9.8	5.70	-88092757	35441636	321526	A1					
1号遺物集中	16	7	2025	石鏡	FB-E-016	Ob	SWHD	33.6	21.9	11.5	6.89	-88090189	35444242	321708						
1号遺物集中	17	a	7	2614	スレーキバー	FB-E-016	Ob	SWHD	26.6	23.0	7.5	2.70	-88088247	35440205	321413	B2				
1号遺物集中	17	a	7	365	剥片	FB-E-016	Ob	SWHD	45.6	28.2	11.9	11.85	119	-88088344	35440362	322413				
1号遺物集中	b	7	267	石核	FB-E-016	Ob	SWHD	31.3	23.0	10.7	4.83	-88089444	35442111	322117						
1号遺物集中	18	7	516	石核	FB-E-016	Ob	SWHD	17.8	28.3	13.3	5.93	-88088581	35440961	322135	B1					
1号遺物集中	19	7	359	石核	FB-E-016	Ob	SWHD	25.0	32.5	20.6	12.41	-88091607	35441378	321862	B2					
1号遺物集中	20	7	2092	磨石・敲石槌	FB-E-016	Am(Py)	106.0	78.0	48.0	500	-88087932	35446459	321819	B3 a+b						
1号遺物集中	21	7	345	磨石・敲石槌	FB-E-016	VBr	104.0	76.0	62.0	5.70	-88090969	35441241	322078	B3 a+b+c						
1号遺物集中	22	7	2386	磨石・敲石槌	FB-E-016	VBr	104.0	69.0	42.0	600	-8808995	35446267	321700	C3 b+d						
1号遺物集中	23	7	2091	磨石・敲石槌	FB-E-016	Am(Py)	114.0	96.0	51.0	830	161	-88088247	35443613	321908	B3 a+b+c					
1号遺物集中	24	7	446	石皿	AN-E-016	VAr	298.0	267.5	12.0	129.0	-88090011	35441462	322369							
1号遺物集中	25	7	609	台石	FB-E-016	Am(Py)	191.5	191.0	58.5	3650	-88089398	35441122	322408							
2号遺物集中	26	7	2512	磨石・敲石槌	FB-E-016	Am(Py)	147.0	84.0	51.0	1000	-88078789	35440764	323523	C3 a						
3号遺物集中	27	7	4912	スレーキバー	FB-E-016	Ob	SWHD	32.3	18.0	6.2	3.19	-88073757	35440241	324309	B2					
4号遺物集中	28	8	2810	磨石・敲石槌	FB-E-024	Am(Py)	105.0	91.0	42.0	580	-88103691	35526462	321473	B3 a+b						
4号遺物集中	29	8	2812	磨石・敲石槌	FB-E-024	Am(Py)	95.0	68.0	44.0	410	-88104039	35526606	317561	B3 a+b+c						
4号遺物集中	30	8	2822	台石	FB-E-024	Am(Py)	179.0	168.0	63.0	207	-88103337	35526659	317560	C3 a						
4号遺物集中	31	8	2823	台石	FB-E-024	Am(Py)	246.0	188.0	72.0	440	-88103511	35526766	317523							
4号遺物集中	32	8	2827	台石	FB-E-024	Am(Py)	241.5	177.0	65.5	3430	-88103768	35528152	317813							
4号遺物集中	33	8	2822	台石	FB-E-024	Am(Py)	293.5	260.0	87.5	9670	-88103452	35528466	317528							
4号遺物集中	34	8	2822	台石	FB-E-024	Am(Py)	21.9	19.3	3.1	1.44	-88093204	35451753	320413	A1						
98	15	3658	石鏡	KGP-H-015	Ob	SWHD	(17.0)	18.2	3.5	(0.95)	-88067233	35457526	325516	A1						
99	15	1712	石鏡	FB-E-016	Am(Py)	15.9	16.6	3.1	0.89	-88086438	35459412	322919	A1							
100	15	2711	石鏡	KGP-H-015	Ob	SWHD	22.6	17.6	3.5	1.07	-88063626	35456151	320856	A1						
101	15	1590	石鏡	FB-E-016	Am(Py)	19.9	21.0	4.2	1.14	-88100635	35468874	321486	A1							
102	15	2151	石鏡	KU-H-014	Ob	KZOB	22.6	16.4	4.4	1.73	-88050744	35451176	321486	A1						
103	15	3714	石鏡	AN-H-015	Ob	KZOB	10.4	14.0	3.2	0.42	-88044603	35436384	325193	A1						
104	15	1743	石鏡	FB-E-016	Ob	KZOB	15.3	15.2	4.2	0.74	-88091771	35443717	321372	A1						
105	15	4749	石鏡	KU-H-016	GAm	(17.0)	13.6	3.9	(0.86)	-88062562	35434247	325413	A1							
106	15	3788	石鏡	AN-H-015	Ob	HNUJ	(14.9)	11.8	5.3	(0.69)	-88062569	35436877	325654	A1						
107	15	3176	石鏡	AN-H-017	Ob	SWHD	17.4	14.4	3.6	0.74	-88063626	35455561	324547	A1						
108	15	1598	石鏡	KU-H-018	Ob	HNUJ	25.9	14.7	5.4	1.41	-88079145	35469141	323877	A1						
109	15	2024	石鏡	AKU-H-018	Ob	SWHD	24.9	23.2	4.5	1.29	-88062569	35436894	324240	A1						
110	15	5981	石鏡	FB-E-018	Ob	HDT	11.6	14.6	4.6	0.94	-88061613	35442446	320006	A1						
111	15	5022	石鏡	FB-E-014	Ob	KU	12.6	10.8	2.5	0.33	-88048626	35452681	324993	A1						
112	15	2211	石鏡	FB-E-015	Ob	SWHD	25.4	15.2	3.6	1.32	-88074759	35437785	324304	A2						
113	15	3258	石鏡	KGP-H-017	Ob	KZOB	11.7	12.2	3.0	0.39	-88067001	35451527	323513	A2						
114	15	1967	石鏡	FB-E-015	Ob	HNUJ	(17.5)	16.4	5.2	(1.22)	-8808665	35439226	323011	A2						
115	15	3635	石鏡	AN-G-015	Ob	HNUJ	31.4	16.1	5.5	2.19	-88074263	35349389	324743	A3						
116	15	3256	石鏡	AN-H-017	Ob	SWHD	(18.6)	12.8	4.2	(0.88)	-88066431	35451912	323520	A3						
117	15	5671	石鏡	FB-D-016	Ob	SWHD	27.1	21.0	2.0	0.97	-88102384	35456084	317804	A3						
118	15	3993	石鏡	KU-A-015	Ob	HNUJ	19.9	17.2	3.7	0.77	-88066168	35453943	324303	C3						
119	15	4015	石鏡	FB-E-018	Ob	HNUJ	(17.0)	12.6	2.8	(0.78)	-88061738	35450494	325297	C3						
120	15	4344	石鏡	KU-E-018	Ob	KZOB	21.4	(35.6)	7.0	(1.89)	-88085374	35460044	319172	D						
121	15	2104	石頭製品	AN-E-016	Ob	SWHD	24.7	22.4	9.0	4.22	-88094401	35445939	321129							
122	15	4642	石頭製品	KU-I-019	Ob	KZOB	(15.4)	14.9	8.6	(1.00)	-88057815	35436843	325811							
123	15	3682	石頭製品	KGP-H-015	Ob	KZOB	(17.6)	14.8	4.8	(1.62)	-8806751	35435119	3257							
124	15	3316	尖頭器	AN-G-018	Ob	SWHD	18.4	11.3	5.1	0.95	-88072327	35434139	324888							
125	15	2113	スレーキバー	AN-L-016	Ob	SWHD	27.1	21.5	6.5	2.70	-88093327	35453394	324385							
126	15	5945	スレーキバー	AKU-L-016	Ob	SWHD	48.5	45.0	16.9	31.11	-88093511	35442444	321358	B3						
127	15	2107	スレーキバー	FB-E-016	Ob	SWHD	19.9	21.2	5.5	2.81	-88093311	35442444	321358	B3						
128	15	3838	石臼	AN-J-015	Ob	KZOB	21.2	29.4	6.0	2.51	-88093788	35435598	325988							
129	15	3409	石臼	AN-H-016	Ob	SWHD	26.4	19.9	11.9	5.42	-88069978	35448212	323141							
130	15	1727	石臼	AN-H-016	Ob	SWHD	16.9	10.5	5.3	0.94	-88093041	35443494	321641							
131	15	4393	二重式工具	FB-E-016	Ob	KZOB	23.6	19.6	8.6	4.24	-88075577	35451150	324256							
132	15	4385	二重式工具	KU-K-018	Ob	KZOB	20.9	21.4	10.2	4.94	-88076426	35441561	324095							
133	15	4342	二重式工具	KU-K-018	Ob	HNUJ	19.9	18.7	8.5	3.04	-88063077	35441135	324256							
134	15	4477	二重式工具	KU-K-018	Ob	HNUJ	20.4	25.4	8.0	3.05	-88063127	35441135	324256							
135	15	2125	剥片	FB-E-016	Ob	SWHD	21.2	29.8	10.5	3.02	186	-88090865	35445729	324377						
136	c	2131	剥片	FB-G-015	Ob	SWHD	25.8	27.6	10.2	2.42	-88101075	35451516	323037							
138	3317	剥片	KGP-G-016	Ob	SWHD	27.5	16.4	10.0	3.10	-88073395	35441121	324398								
139	3488	剥片	AN-H-016	Ob	SWHD	19.5	27.7	15.2	4.94	-88069949	35444332	325297								
140	4639	剥片	FB-E-016	Ob	SWHD	23.7	27.5	7.8	3.47	187	-88072913	35438286	324379							
141	3598	石臼	AN-H-020	Ob	Hor(G)	19.9	41.2	11.7	7.66	-88065650	35446243	323520	A1							
142	16	2991	打製石斧	KGP-H-018	Sh	77.0	36.8	15.9	5.477	-88069887	35464445	324156	A2							
143	16	3252	打製石斧	KGP-H-017	Hor(Ce)	113.8	38.5	16.1	8.746	-8806382	35451178	325252	A3							
144	16	2915	打製石斧	KGP-H-015	CSe	170.0	55.5	28.3	31.74	-88066431	35477918	325853	B2							
145	16	3243	打製石斧	AN-H-017	Sh	123.9	50.0	26.7	16.888	122	-88067451	3545151	323137							
146	16	3007	打製石斧	SSC-H-023	CSe	140.9	53.4	16.5	13.75	-88063797	35511360	321645								
147	16	2174	打製石斧	FB-E-022	Am(Py)	127.4	82.7	15.7	15.66	-88070323	35471139	321861								
148	16	1616	打製石斧	KU-F-018	Am(Py)	144.2	63.5	14.6	250.13	-88069853	35448474	322622	C3							
149	16	10011	打製石斧	AN-H-018	Hor	102.6	103.6	23.3	30.63	-	-	D1								
150	16	46	打製石斧	KU-H-005	CSe	136.7	82.0	34.0	39.09	-88031782	35473699	321095								
151	16	910	打製石斧	KU-H-018	Sh	139.0	50.0	26.7	16.888	122	-8806									

遺構名	種 類	種 別	固版 番号	古文 書名	桂 番	器種	肩位	グリッド	石材	推定 地質	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	接合	x座標	y座標	z座標	タイプ
17	石	板	27992	櫻經	KGP	H-018	An(Py)	1470	118.0	34.0	370	-	-	-	-80097.671	35484.881	234.077		
159	石	板	28663	櫻經	FB	G-015	An(Py)	1480	121.0	49.0	1330	-	-	-	-80072.524	35457.718	324.679		
160	石	板	1087	櫻經	KU	G-019	An(Py)	1240	65.0	41.0	420	-	-	-	-80073.375	35434.483	323.764		
161	石	板	2838	櫻經	ZN	E-017	An(Py)	1280	78.0	34.0	480	-	-	-	-80095.661	35459.718	319.687		
162	石	板	3832	櫻經	KGP	H-015	An(Py)	1570	97.0	48.0	980	-	-	-	-80061.088	35435.042	325.97		
163	石	板	1756	扇石・敲石	FB	E-022	Do	980	82.0	39.0	480	-	-	-	-80097.252	35505.562	319.338	A2 a+b	
164	石	板	4872	扇石・敲石	AN	J-019	Po	1050	68.0	37.0	480	-	-	-	-80051.941	35434.483	325.08	A2 f	
165	石	板	1886	扇石・敲石	FB	G-019	Ba	950	81.0	35.0	450	-	-	-	-80072.229	35459.718	323.384	C+d+e	
166	石	板	17	扇石・敲石	FB	G-019	Do	990	96.0	46.0	490	-	-	-	-80072.488	35459.718	323.384	A2 a+b	
4040																			
167	石	板	4703	扇石・敲石	KU	H-018	An(Py)	1040	74.0	31.0	270	111	-	-	-80067.698	35441.846	235.251		
			4714		KU	H-018	-	-	-	-	-	-	-	-	-80077.56	35441.169	35.34	B2 a+b	
168	石	板	1588	扇石・敲石	AN	D-021	Ba	115.0	95.0	71.0	1010	-	-	-	-80101.502	35479.541	319.681	B3 a+b	
169	石	板	2248	扇石・敲石	FB	E-019	An(Py)	81.0	68.0	46.0	370	-	-	-	-80090.654	35477.553	322.381	B3 a+b	
170	石	板	1892	扇石・敲石	FB	D-022	Ba	91.0	75.0	48.0	380	-	-	-	-80109.908	35029.918	318.838	B3 b+c	
171	石	板	219	扇石・敲石	AN	F-016	VBa	[74.0]	96.0	59.0	500	-	-	-	-80090.918	35440.435	323.704	B3 a+b+c	
172	石	板	2024	扇石・敲石	AN	H-018	An(Py)	109.0	91.0	44.0	520	114	-	-	-80067.53	35441.846	235.251		
			4541		KU	H-017	An(Py)	-	-	-	-	-	-	-	-80067.521	35450.562	324.968	C3 a+b+c+f	
173	石	板	3264	扇石・敲石	AN	H-017	An(Py)	120.0	115.0	38.0	630	-	-	-	-80065.17	35454.945	325.047	C2 a	
174	石	板	846	扇石・敲石	AN	D-024	Ba	99.0	92.0	34.0	410	-	-	-	-80108.318	35520.734	318.057	C2 a+b	
175	石	板	3849	扇石・敲石	FB	E-015	An(Py)	107.0	63.0	29.0	270	-	-	-	-80065.924	35435.496	326.178	C2 a+b	
176	石	板	4426	扇石・敲石	KU	G-016	An(Py)	126.0	99.0	41.0	750	-	-	-	-80171.81	35441.731	324.83	C2 a+b+c	
177	石	板	3861	扇石・敲石	FB	E-016	An(Py)	127.0	72.0	35.0	430	-	-	-	-80057.998	35433.952	326.137	C2 e	
178	石	板	3829	扇石・敲石	KU	H-018	An(Py)	154.0	96.0	46.0	850	-	-	-	-80060.117	35432.78	326.018	C3 a	
179	石	板	1686	扇石・敲石	AN	G-019	An(Py)	[79.0]	93.0	40.0	420	-	-	-	-80077.448	35441.928	324.161	C3 a+b	
180	石	板	4604	扇石・敲石	FB	D-020	Ba	93.0	95.0	54.0	650	-	-	-	-80065.91	35450.562	322.509	C3 c	
181	石	板	4736	扇石・敲石	KU	H-018	An(Py)	179.0	132.0	100.0	2220	-	-	-	-80062.711	35440.423	324.494	C3 c	
182	石	板	1019	扇石・敲石	FB	G-021	VBa	124.0	168.0	67.0	1140	-	-	-	-80106.217	35499.456	318.812	C3 a+c	
183	石	板	3427	扇石・敲石	FB	H-016	VBa	100.0	75.0	41.0	360	-	-	-	-80068.336	35444.437	325.39	C3 a+c+d	
184	石	板	4193	扇石・敲石	AN	J-013	Ba	80.0	78.0	51.0	390	-	-	-	-80042.247	35417.462	324.883	C3 f	
185	石	板	3552	扇石・敲石	AN	H-016	VBa	110.0	75.0	45.0	440	109	-	-	-80063.213	35448.595	325.237	C3 a+b+c+f	
186	石	板	4496	扇石・敲石	KU	H-018	VBa	-	-	-	-	-	-	-	-80107.494	35444.74	324.823	C3 a+b+c+f	
187	石	板	3130	扇石・敲石	FB	E-016	An(Py)	118.0	74.0	47.0	520	-	-	-	-80084.478	35449.792	324.728	C3 a+b+c+f	
188	石	板	1577	扇石・敲石	FB	E-015	An(Py)	122.0	86.0	52.0	770	-	-	-	-80084.478	35449.792	324.728	C3 a+b+c+f	
189	石	板	4180	扇石・敲石	AN	G-016	An(Py)	76.0	39.0	27.0	120	-	-	-	-80167.74	35442.150	324.273	D2 a+b	
190	石	板	491	扇石・敲石	AN	J-018	An(Py)	117.0	44.0	34.0	370	105	-	-	-80040.578	35482.485	319.161	D2 e	
191	石	板	3794	扇石・敲石	AN	H-015	An(Py)	-	-	-	-	-	-	-	-80090.582	35439.415	325.727	D2 e	
192	石	板	888	扇石・敲石	FB	D-022	FT	93.0	60.0	42.0	300	-	-	-	-80105.842	35000.111	318.824	D3 a	
193	石	板	1340	扇石・敲石	KGP	F-020	Ba	114.0	55.0	41.0	390	-	-	-	-80083.631	35483.723	322.134	D3 a	
194	石	板	4853	扇石・敲石	KU	G-016	Ba	108.0	59.0	36.0	270	-	-	-	-80063.663	35446.666	325.287	D3 a	
195	石	板	4610	扇石・敲石	FB	I-015	Ba	115.0	55.0	34.0	250	-	-	-	-80055.791	35433.606	325.875	D3 a	
196	石	板	3044	扇石・敲石	FB	G-016	An(Py)	136.0	66.0	36.0	430	107	-	-	-80073.419	35460.832	324.342	D3 a+b	
197	石	板	3044	扇石・敲石	FB	F-016	VBa	143.0	57.0	47.0	520	112	-	-	-80070.674	35447.444	322.824	D3 a+b	
198	石	板	1708	扇石・敲石	FB	E-017	VBa	-	-	-	-	-	-	-	-80091.165	35455.968	320.952	D3 a+b	
199	石	板	274	扇石・敲石	AN	H-016	An(Py)	85.0	48.0	42.0	230	-	-	-	-80064.783	35443.555	325.377	D4 a	
200	石	板	877	扇石・敲石	KU	D-024	An(Py)	[102.0]	58.0	50.0	430	-	-	-	-80110.077	35528.694	317.078	D4 a	
201	石	板	773	扇石・敲石	KU	D-023	An(Py)	147.0	52.0	36.0	380	-	-	-	-80108.143	35010.98	318.537	D4 a	
202	石	板	1809	扇石・敲石	FB	F-021	An(Py)	273.5	365.5	79.0	9400	-	-	-	-80082.178	35497.035	321.433	D4 a	
			841		KU	D-024	VBa	334.0	337.5	72.0	16360	-	-	-	-80108.042	35521.288	317.847	D4 b	

() は欠損

タイプ

<鉢類>	
A: 基盤	脚盤
1: 天脚	上端脚
2: 丹脚	中端脚
3: 開脚	側縫脚
4: 不定形	全周脚
E: 不明	

<クレイバー>	
1: 斜面加工	斜面部
2: 加工部位	
3: 上端脚	上端脚
4: 中端脚	側縫脚
5: 全周脚	全周脚

<核棒>

核棒形状	
A: 新縫面	打面斜面
B: 壁面	削面

剥離方法

剥離方法	
A: 固定して一方に剥離	
B: 脱離せながら剥離	

<打斧>

形狀	
A: 短形型	短面
B: 楊型	2片型
C: 不規則型	不規則型
D: 分離型	分離型
E: 開脚型	開脚型
F: 不明	

第4章 葛山大端ヶⅢ遺跡

第1節 調査の方法と経過

葛山大端ヶⅢ遺跡（第二東名No150-2地点）は裾野市葛山字大端ヶ 1160-1に所在し、大端ヶⅠ遺跡と谷を挟んだ北隣尾根上に位置する。第二東名No150-2地点の1区と2区で、調査面積は6,155m²である。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅸ区系（X = -88140.0、Y = 35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。X軸に対して西から東へアラビア数字、Y軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をつけた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。なお、機械実測、遺物の取り上げは、トータルステーションとコンピューターを用いた。遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はP、石器はS、礫はR、炭化物はCと記号を付した。測量データは、株式会社シン技術コンサルの『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35mmサイズの小型カメラ、および6×7cmサイズの中型カメラを使用した。また、全景写真を撮影するために、ラジコンヘリによる空中写真撮影を行った。

確認調査は2003年9月から行い、12月から翌年2月まで本調査を行った。まずテストピットを25ヶ所設定し、その後テストピットを拡張する形でトレーンチを18本設定した。休場層からは再びテストピット調査に切り替え、遺構の有無を確認した。その結果、1区からは旧石器時代の礫群が1基、縄文時代の土坑8基、遺物集中3ヶ所、2区には旧石器時代の遺構ではなく、縄文時代の土坑が5基検出された。

第2節 基本層序

基本層序を第61図に示す。基本的に葛山大端ヶⅢ遺跡と同様に愛鷹山麓の標準的な層位である。愛鷹山麓ローム層は堆積順に下部ローム層、中部ローム層、上部ローム層に分けられる。上部ローム層は関東ローム層の立川ローム層に該当し、火山碎石物が堆積したスコリア層と火山噴火の休止期に植物の繁殖、腐食などの影響により黒色化が進んだ黒色帯との互層からなる。各層の詳細は下記の通りである。

第1層 表土

第2層 褐色土層

第3層 砂沢スコリア層 10YR2/2 締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径1～8mm）を多量に含む。

第4層 暗褐色土層 10YR3/4 締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径2～4mm）を少量含む。

第5層 暗褐色土層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。橙色スコリア（径1～3mm）をわずかに含む。

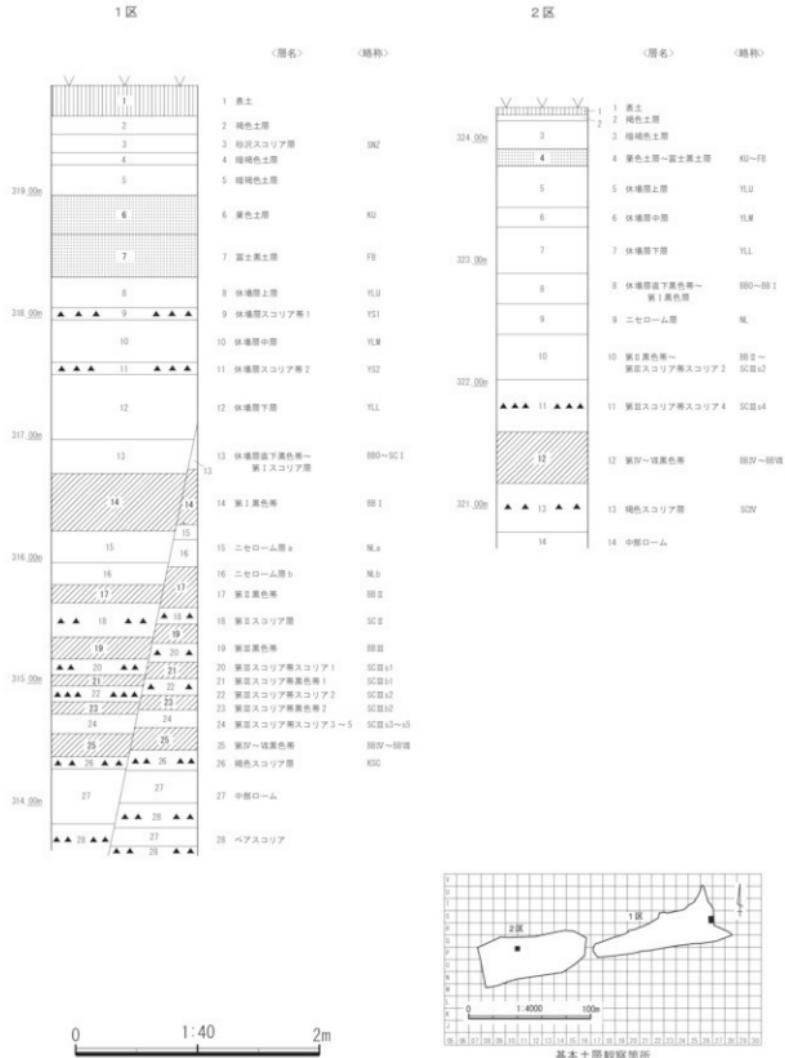
第6層 栗色土層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～4mm）を少量含む。

第7層 富士黒土層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～4mm）を少量含む。

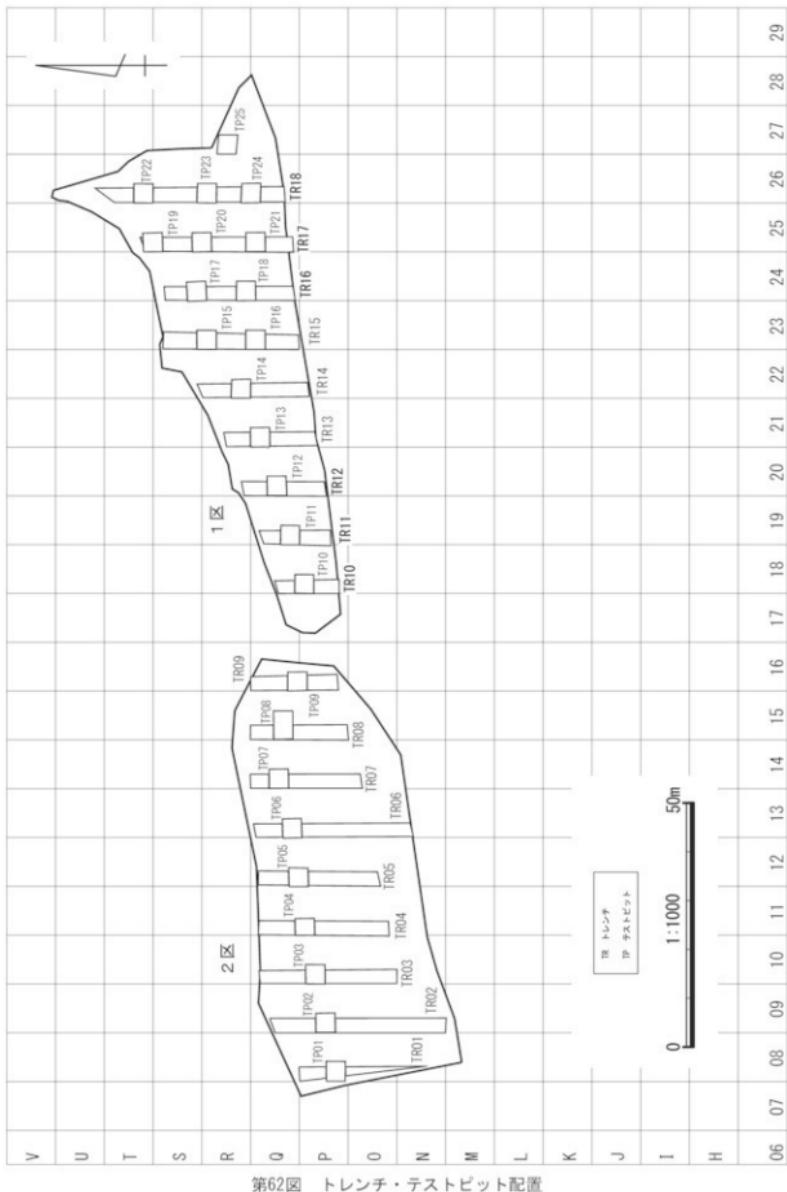
第8層 休場層上層 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）を少量含む。

第9層 休場層スコリア帶1 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径5～8mm）を多量に含む。黒色スコリア（径5～13mm）を少量含む。

- 第10層 休場層中層 7.5YR5/8 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径3～5mm）、黒色スコリア（径3～8mm）を少量含む。
- 第11層 休場層スコリア带 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～5mm）、黒色スコリアを多量に含む。黄色スコリア（径1mm）を少量含む。
- 第12層 休場層下層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径1～6mm）、明赤褐色スコリア（径1～5mm）を少量含む。
- 第13層 休場層直下黒色帶～第Ⅰスコリア層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径1～5mm）を多く含む。7.5YR3/4 締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径2～7mm）を多量に含む。赤褐色スコリア（径1～5mm）、黄色ラビリ少量含む。
- 第14層 第Ⅰ黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径3～7mm）、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア（径1～4mm）少量含む。
- 第15層 ニセローム層 a 10YR5/8 締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径2～8mm）、暗緑色噴石（径5～10mm）少量含む。
- 第16層 ニセローム層 b 10YR5/8 締まり有り。粘性無し。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径2～8mm）、暗緑色噴石（径5～10mm）少量含む。
- 第17層 第Ⅱ黒色帶 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径3～6mm）多量に含む。
- 第18層 第Ⅱスコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）多量に含む。黒色スコリア（径3～6mm）少量含む。
- 第19層 第Ⅲ黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。明赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径1～5mm）多量に含む。
- 第20層 第Ⅲスコリア帶スコリア1 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）多量に含む。黒色スコリア（径2～10mm）、白色バミス（径1mm）、暗緑色噴石（径5～10mm）少量含む。
- 第21層 第Ⅲスコリア帶黒色帶1 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～10mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第22層 第Ⅲスコリア帶スコリア2 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径2～4mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径1～7mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、黄色ガラス（径1mm）少量含む。
- 第23層 第Ⅲスコリア帶黒色帶2 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～5mm）、黒色スコリア（径2～15mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第24層 第Ⅲスコリア帶スコリア3～5 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径2～15mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径2～5mm）、白色バミス（径1mm）少量含む。
- 第25層 第Ⅳ～Ⅶ黒色帶 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）多量に含む。
- 第26層 褐色スコリア層 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、暗褐色スコリア（径3～7mm）少量含む。
- 第27層 中部ローム 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）多量に含む。
- 第28層 ベアスコリア 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径3～5mm）、黒色スコリア（径2～5mm）多量に含む。



第61図 基本土層



第3節 旧石器時代の遺構と遺物

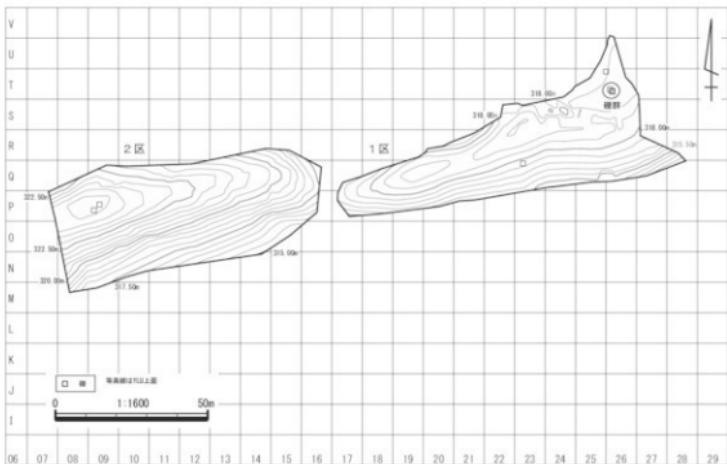
1 遺構

礫群（第64図）

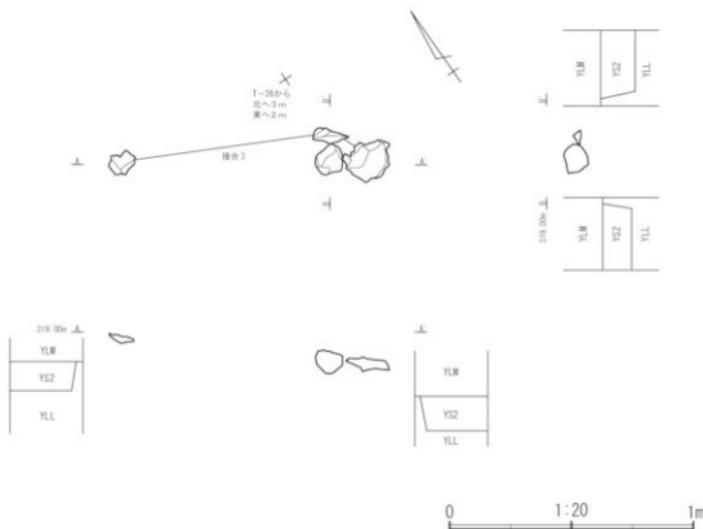
旧石器時代の遺構は1区東側の最も高いところから礫群が1基検出されている。休場層中層から4点の礫が検出されており、うち3点が接合して1個体になる。1.5mの幅で礫が直線的に並んでおり、3点が密集している。いずれも休場層中層からの出土である。接合個体は玄武岩製で、接合しないものは輝石安山岩製であり、全て亜角礫状をなす。

2 遺物

遺構出土の遺物は上記の礫群出土の礫のみであり、包含層出土で旧石器時代のものと考えられる遺物も4点の礫である。ニセローム層と休場層上層と休場層中層から出土している。そのうち1点は亜円礫でそれ以外は全て亜角礫である。玄武岩製が3点と輝石安山岩製のものが1点である。玄武岩製のものは全て赤化して破損している。他に休場層上部と出土位置がやや曖昧な層位から出土した石皿があったが、栗色土層から出土する石皿と接合するため縄文時代のものとした。



第63図 旧石器時代遺物分布・遺構位置



第64図 旧石器時代礫群

第25表 旧石器時代礫一覧

遺構名	遺物 番号	柱 番	時期	層位	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	状態	色調	縁形態	グリット [†]	X座標	Y座標	Z座標
礫群	2487		旧石器	YLM	Ba	114	87	30	270	3	D	C	無角礫	T-026	-87946.839	35541.295	318.951
礫群	2488		旧石器	YLM	An(Py)	120	105	89	1350	3	D	C	無角礫	T-026	-87947.405	35541.982	318.833
礫群	2489		旧石器	YLM	Ba	140	57	29	210	3	D	C	無角礫	T-026	-87947.496	35542.130	318.855
礫群	2490		旧石器	YLM	Ba	192	155	64	1450	3	D	C	無角礫	T-026	-87947.333	35542.047	318.845
	1767		旧石器	NL	Ba	75	50	38	130	0	D	B	無角礫	P-009	-87968.400	35371.981	324.171
	1768		旧石器	NL	Ba	70	68	24	120	0	A	B	無角礫	P-009	-87964.513	35373.748	324.173
	2479		旧石器	YLU	An(Py)	76	70	29	200	0	A	B	無角礫	T-026	-87940.950	35540.015	318.551
	2482		旧石器	YLM	Ba	58	44	40	110	0	D	C	無角礫	Q-023	-87971.053	35512.811	316.970

凡例

状態	色調
A——非赤化完形	A——淡い赤化又は白化
B——非赤化破損	B——黄褐色に赤みがかった赤化
O——赤化完形	O——赤化
D——赤化破損	D——赤化
E——割れ面並赤化	E——赤化

第4節 繩文時代の遺構と遺物

1 遺構

縄文時代のものと考えられる遺構は、土坑13基、遺物集中3ヶ所を検出している。

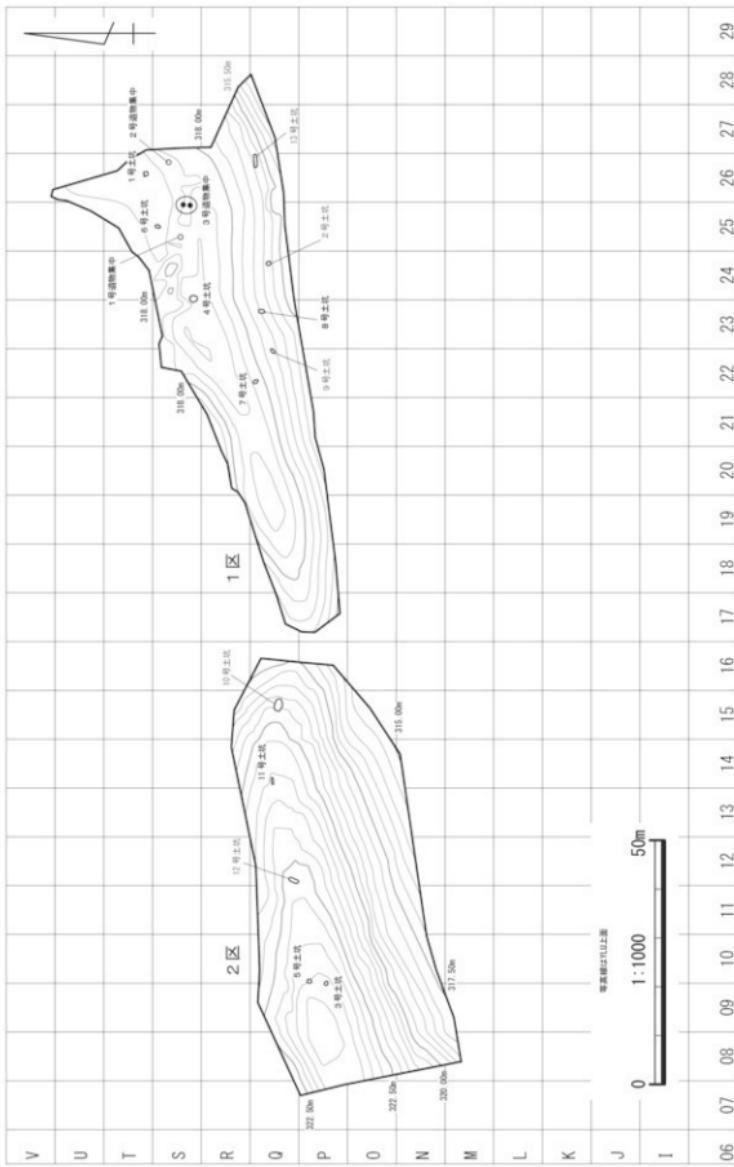
(1) 土坑（第67図～第69図）

1区・2区合わせて13基検出されている。調査区の高地の比較的緩やかな平坦地に掘り込まれているケースが目立つ。

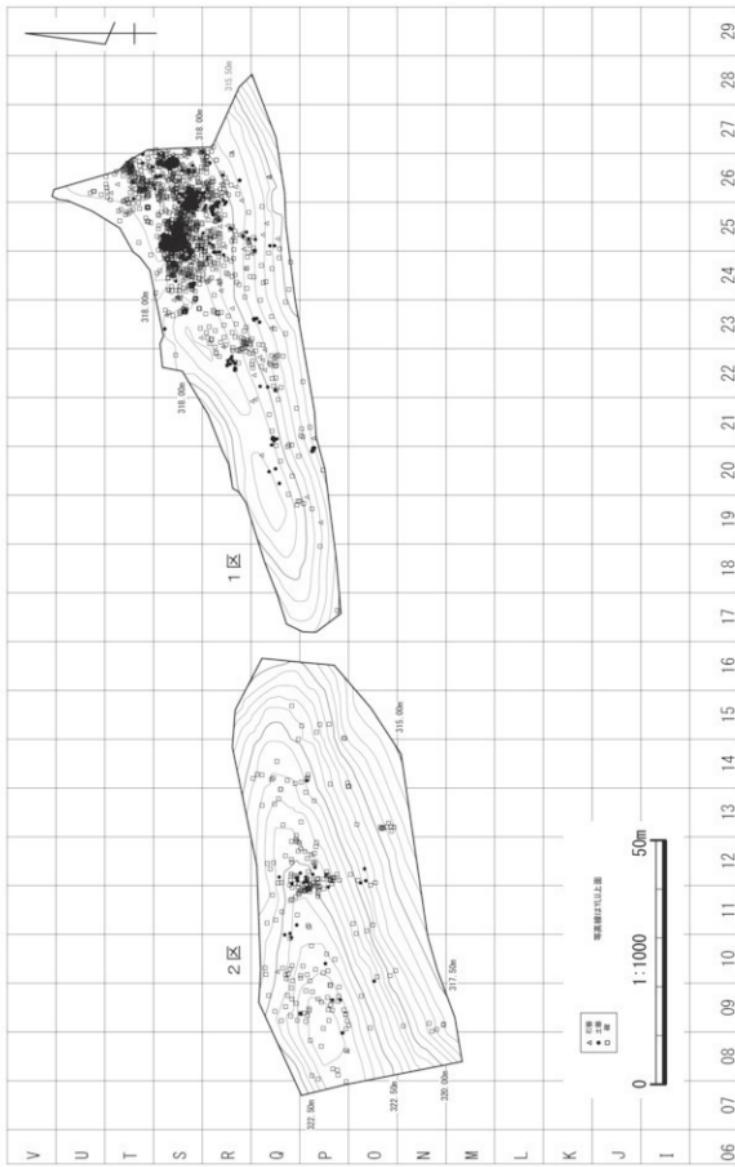
1号土坑～3号土坑までは平面形が円形であり、2号土坑は下層がややオーバーハング気味である。深さは0.5m～0.9mほどである。4号土坑～10号土坑までは梢円形を呈している。4号土坑は深さが約2.3mと深く、上面はやや搅乱されている。7号～9号土坑は掘り込みが0.2m程度と浅く、平面形も長軸が短軸に比してかなり長いため扁平と言った印象を受ける。なお、8号土坑は覆土の層序がやや不自然であるため、上部は後の耕作か何かで削平を受けている可能性が考えられる。10号土坑は底面から1mほど上の中程に段があり、さらに下層の西側がややオーバーハングしている。11号土坑～13号土坑は平面形態が隅丸の長方形を呈しており、そのうち2区調査区東側斜面から検出された11号土坑は、東西に細長い土坑で、底面にはピットが4つ並んでいる。これらは逆茂木痕と考えられ、動物の狩猟用の陷阱列と推定される。12号土坑は、下層がややオーバーハングしている。覆土から弥生時代中期後半と見られる土器が出土しており、弥生時代の遺構の可能性がある。土器は小片のため実測はしていない。13号土坑はかなり垂直に掘り込まれている。1区南東側急斜面から検出された13号土坑は深さ0.7m程度だが、かなり垂直に掘り込まれており、急斜面に位置するため、実際より深い印象を受ける。土坑の時期については、いずれも覆土中に遺物を伴っておらず詳細な時期は不明であり、掘り込み面は、1号土坑、2号土坑、8号土坑、9号土坑、13号土坑は休場層上層から掘り込まれているが、縄文時代の土坑と考えて良いであろう。

第26表 縄文時代土坑一覧

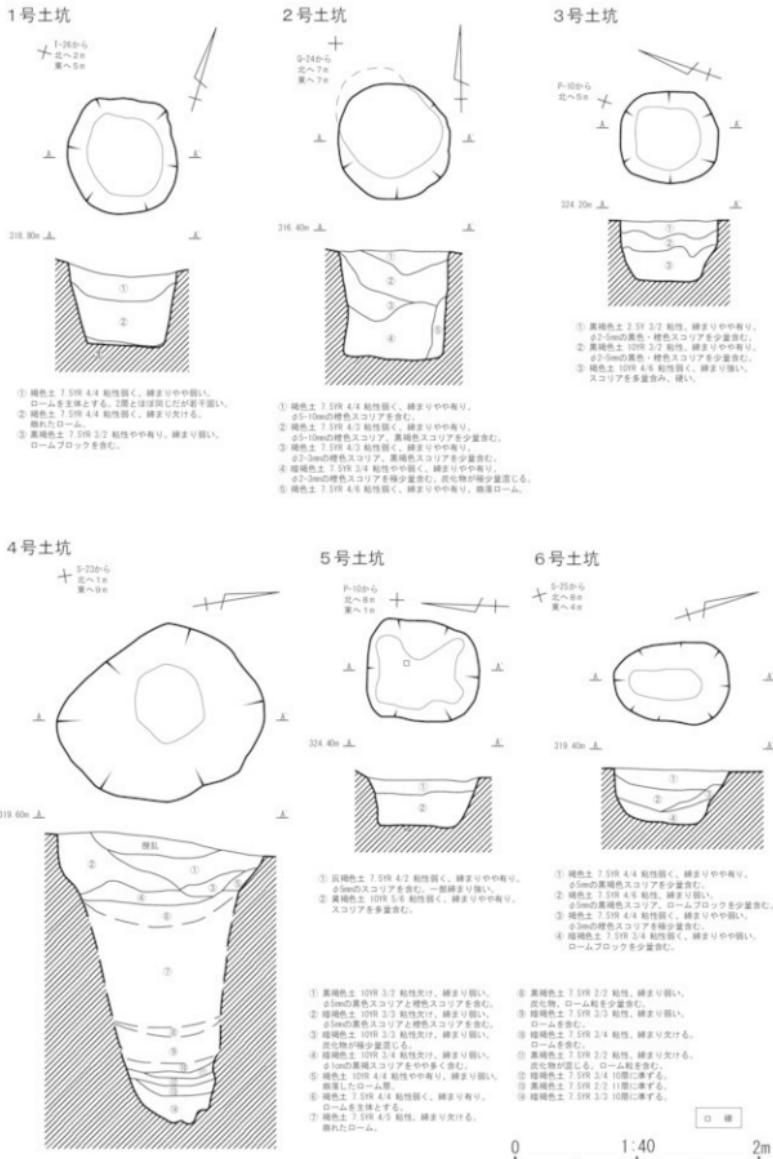
遺構名	時期	逆茂木	平面形態	グリッド	検出層位	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	土器	石器	櫛	炭化物	合計
1号土坑	～前期	なし	円形	T-26	YL2	1.00	0.88	0.62					
2号土坑	～前期	なし	円形	Q-24	YLU	1.00	0.92	0.90					
3号土坑	～前期	なし	隅丸方形	P-10	KU～FB	0.86	0.72	0.50					
4号土坑	～前期	なし	梢円形	S-23	JS1	1.72	1.24	2.31					
5号土坑	～前期	なし	不整長方形	P-10	KU～FB	0.92	0.74	0.36					
6号土坑	～前期	なし	不整円形	S-25	JS1	0.96	0.56	0.44					
7号土坑	～前期	なし	不整円形	Q-22	JS1	1.14	0.56	0.42					
8号土坑	～前期	なし	梢円形	Q-23	YLU	0.38	0.74	0.28					
9号土坑	～前期	なし	梢円形	Q-22	YLU	1.20	0.62	0.21					
10号土坑	～前期	なし	不整積円形	Q-15	KU～FB	2.56	0.72	2.38					
11号土坑	～前期	あり	4 隅丸長方形	Q-14	KU～FB	1.56	0.42	0.98					
12号土坑	～前期	なし	長梢円形	Q-12	KU～FB	2.30	0.77	1.10	1				
13号土坑	～前期	なし	隅丸長方形	R-28	YLU	2.61	0.64	0.70					

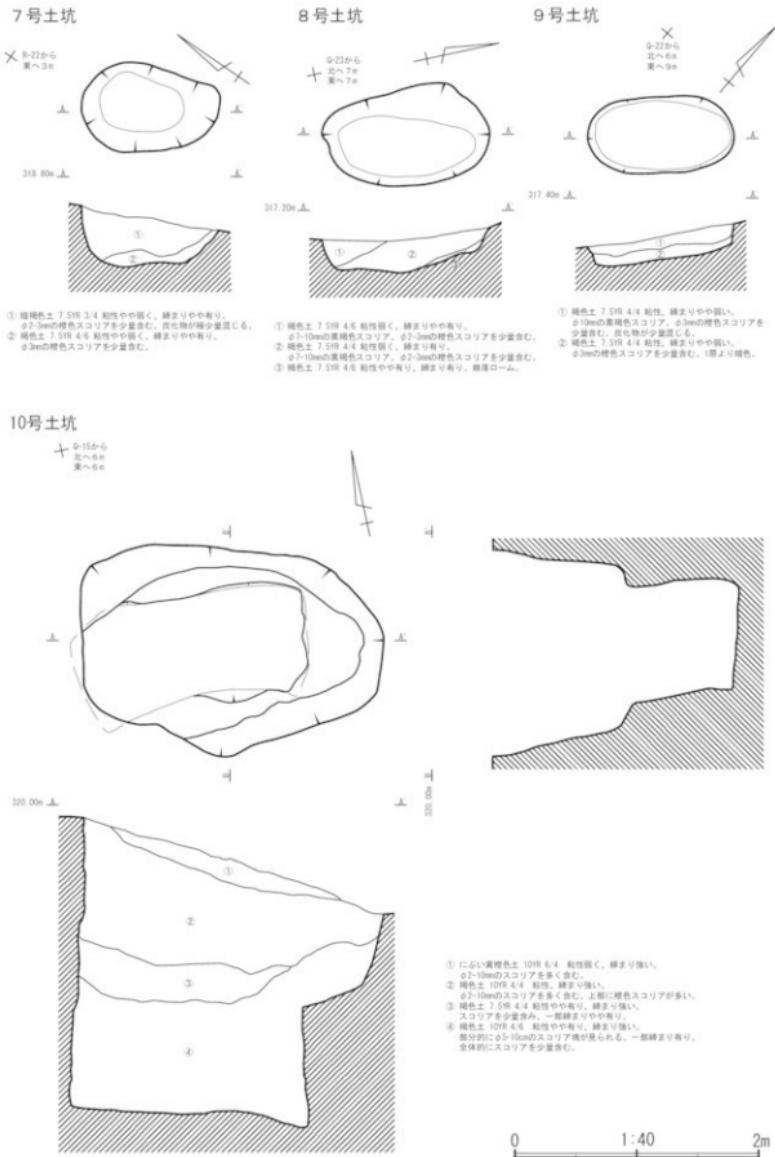


第65図 縄文時代遺構配置



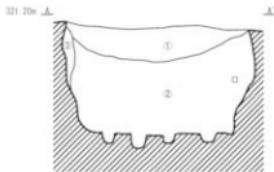
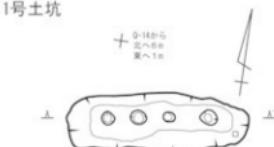
第66図 繩文時代遺物分布





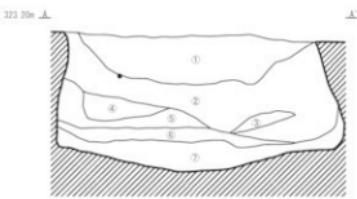
第68図 土坑 2

11号土坑



- ① 黄褐色土 7.5m 2/3 粘性、練まりやや弱い。
 $\delta 2\text{--}10\text{cm}$ の黒色・褐色スコリアをやや含む。
 ② 黄褐色土 7.5m 2/3 粘性やや弱い、練まり弱い。
 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ の黒色・褐色スコリアを含む。黒色土バッチ状に含む。
 ③ 黄褐色土 7.5m 3/2 粘性やや弱い、練まり弱い。
 $\delta 2\text{--}10\text{cm}$ の黒色・褐色スコリアを少量含む。

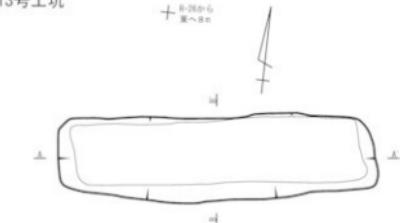
12号土坑



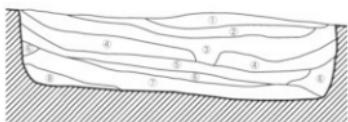
- ① 黄褐色土 10m 2/3 粘性弱く、練まりやや弱い。
 腐化物が少量混じる。 $\delta 2\text{--}10\text{cm}$ 褐色スコリアを含む。
 ② 变黄褐色土 10m 4/2 粘性弱く、練まりやや弱い。
 腐化物が混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを含む。
 ③ 黄褐色土 10m 2/3 粘性やや弱い。
 腐化物が多量混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを含む。スコリアのブロック。
 ④ 黑色土 10m 2/1 粘性やや弱い、練まり弱い。
 腐化物が少量混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを少量含む。
 ⑤ 黄褐色土 8m 5/2 粘性やや弱い、練まり弱い。
 腐化物が多量混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを含む。
 ⑥ 黄褐色土 8m 5/2 粘性やや弱い、練まり弱い。
 腐化物が多量混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを少量含む。
 ⑦ 黄褐色土 10m 5/2 粘性やや弱い、練まりやや弱い。
 腐蝕な黑色・褐色スコリアを少量含む。

13号土坑

± 8-26から
変へ 8m



316.60m



- ① 黄褐色土 7.5m 2/2 粘性次弱、練まりやや弱い。
 $\delta 2\text{--}10\text{cm}$ 褐色・褐色スコリアを含む。腐化物が少量混じる。
 ② 黄褐色土 7.5m 2/2 粘性次弱、練まりやや弱い。
 腐化物が混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを少量含む。
 ③ 黄褐色土 7.5m 2/1 粘性次弱、練まりやや弱い。
 腐化物が混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを少量含む。
 ④ 黑色土 7.5m 2/3 粘性次弱、練まり弱い。
 $\delta 10\text{cm}$ の黒褐色スコリアを少量含む。
 ⑤ 黄褐色土 7.5m 2/2 粘性次弱、練まり弱い。
 腐化物が混じる。 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを少量含む。
 ⑥ 黑色土 7.5m 3/4 粘性弱、練まり弱い。
 $\delta 10\text{cm}$ の黒褐色スコリアを含む。
 ⑦ 黄褐色土 7.5m 2/2 粘性次弱、練まり弱く砂質。
 $\delta 2\text{--}5\text{cm}$ 褐色スコリアを含む。
 ⑧ 黑色土 7.5m 4/4 粘性やや弱い、練まりやや弱い。
 脱れたローム。

0 1:40 2m

第69図 土坑 3

(2) 遺物集中(第70図~第75図)

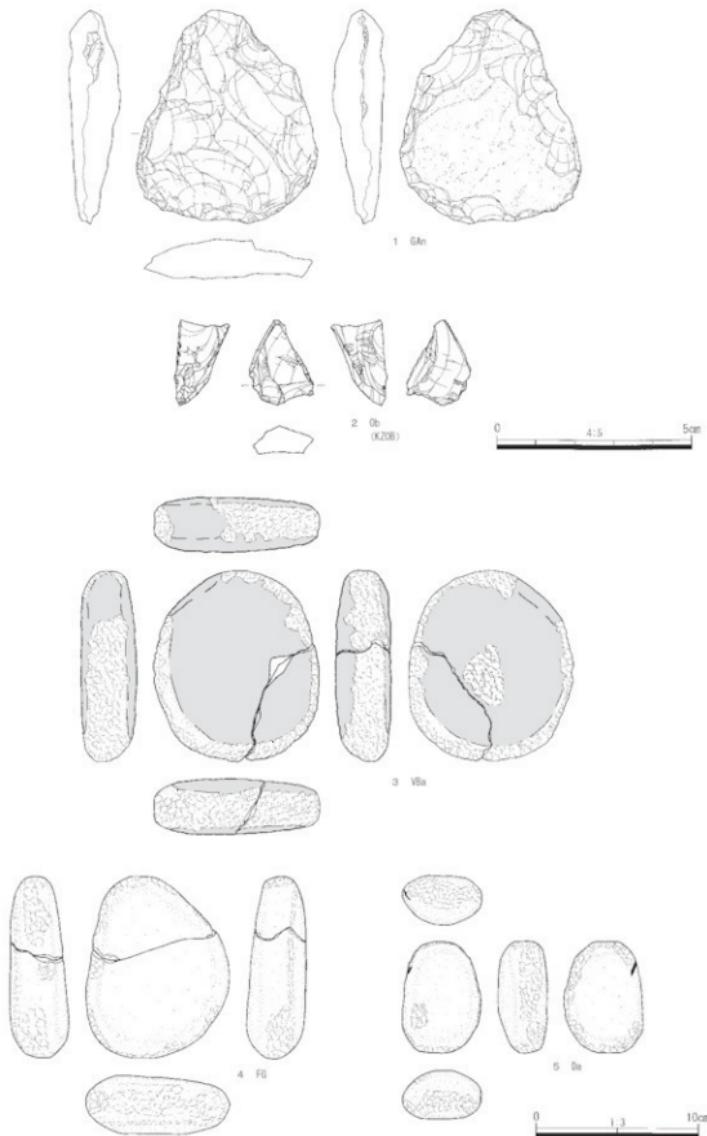
1号遺物集中は栗色土層~富士黒土層から検出しているが、南と北で1ヶ所ずつ断層のずれが生じており、そのあたりの遺物はやや下の位置から出土している。出土遺物は、石器、礫、土器が出土している。石器の器種はスクレイパー、二次加工剥片、磨石・敲石類である。

1はガラス質黒色安山岩製のスクレイパーであり、素材は不定形剥片を呈し、表面裏面とも微細剥離を削出している。2は神津島恩馳島群産の黒曜石製の二次加工剥片で、表面下縁部や右側縁部に微細な剥離が見られる。3~5は磨石・敲石類である。3は楕円型の扁平で、両端部と側縁部に敲き痕が見られ、平坦部に磨り痕も見られる。4は不定形の扁平で、両端部と側縁部に敲き痕が見られる。5は棒状で厚みがある形状で、両端部と側縁部に敲きが見られる。

1号遺物集中



第70図 1号遺物集中



第71図 1号遺物集中出土遺物

2号遺物集中は暗褐色土層～富士黒土層から検出しているが、南と北で2段ずつの断層のずれが生じており、やや下の位置から出土している。

出土遺物は、土器、石器、礫が出土しており、かなり密集した状態で出土している。土器は早期の条痕文土器と無文土器が出土しているが、小片のため実測はしていない。石器は石礫、スクレイバー、二次加工剥片、磨石・敲石類である。6は石礫であり、上半部は欠損により失われている。凹基であるが抉りは浅い。円脚である。黒曜石产地分析では、箱根畠宿群產と推定されている。7～9はスクレイバーで、黒曜石製である。7と8は箱根畠宿群產と推定されており、7は表裏とも上部に微細な剥離が削出されているが、欠損によって大半が失われている。8は表面右側縁部から下面にかけて微細な剥離が連続して施されている。9は神津島恩馳島群產と推定される黒曜石製で、裏面に微細な剥離が認められる。10は二次加工剥片で、表面に加工痕が確認できる。神津島恩馳島群產と推定される黒曜石製である。11と12は磨石・敲石類である。11は棒状の形状で円形断面の磨石・敲石類で、両端部を敲いている。小型のものである。12は大半が欠損しており全体形状は見えないが、現状では梢円型で厚みがある磨石・敲石類で、側縁部に敲き痕、表裏の平坦部に磨りの痕跡が認められる。

3号遺物集中は暗褐色土層～富士黒土層から検出しているが、南側に断層が見られ、そこに遺物が集中して出土している。礫が比較的上の面、石器が下の面から出土していたため、現地調査段階では上面と下面で別の遺構と考えていたが、その後整理作業の段階で検討した結果、上層と下層で層位的な隔たりはあまり認められなかったため、同一の遺構として報告する。覆土は栗色土層～富士黒土層と暗褐色土層に分かれ、遺物のほとんどは、栗色土層～富士黒土層から出土した。

第27表 繪文時代遺物集中一覧

遺構名	時期	グリッド	検出層位	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	土器	石器	礫	炭化物	合計
1号遺物集中	～前期	S-25	KU～FB	5.71	4.30	—		77	4		81
2号遺物集中	～前期	S-25	KU～FB	3.74	2.60	—	3	332	2		337
3号遺物集中	～前期	S-25	KU～FB	4.38	3.79	—	43	120	85		248

第28表 1号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石	玄武岩	多孔質玄武岩	ガラス質栗色安山岩	磨石安山岩	多孔質安山岩	ディサイト	細粒斑れい岩	合計	
	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析		
石材略号	KZOB	—	Ba	VBa	0An	FAn	An (Py)	VAn	Da	FG
スクレイバー					1					1
二次加工剥片	1									1
剝片	16		1							17
碎片	77									77
磨石・敲石類		3				1	2	6		
裸器					1			1		
石皿		1								1
台石					1			1		
合計	1	93	1	3	2	2	1	2	105	

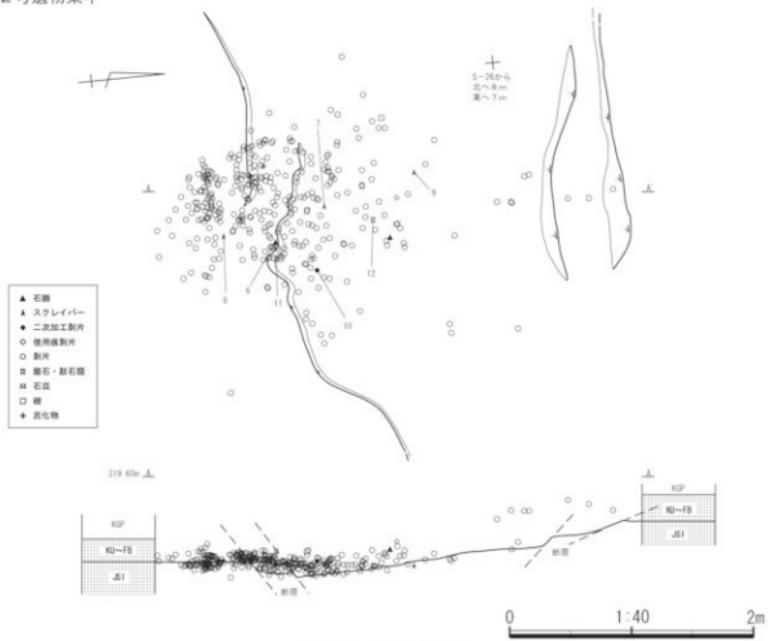
第29表 2号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石	箱根畠宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析	合計
	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	
石材略号	HNAU	KZOB	—	An (Py)	
石礫	2				2
スクレイバー	2	1			3
二次加工剥片	1				1
使用痕剥片			1		1
剝片	1	1	27	1	30
碎片			315		315
磨石・敲石類			2	2	
裸器				1	1
合計	6	2	343	3	354

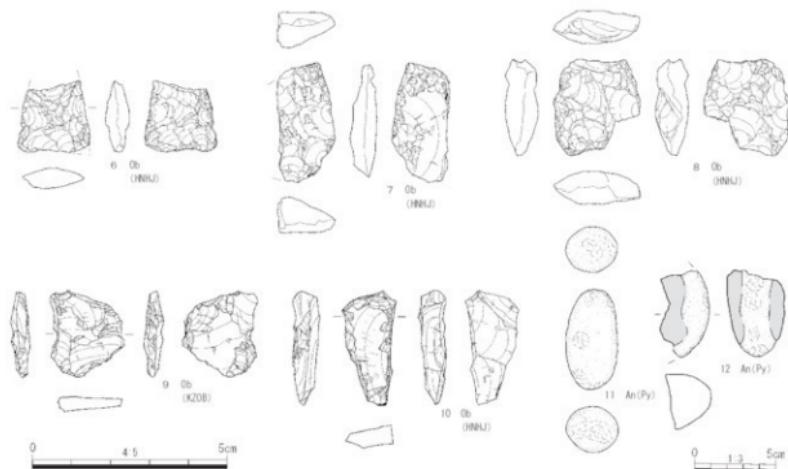
第30表 3号遺物集中出土石器組成

石材	黒曜石	箱根畠宿群	神津島恩馳島群	推定不可・未分析	合計
	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	推定不可・未分析	
石材略号	HNAU	KZOB	—	An (Py)	
石礫	1				1
スクレイバー		1			1
剝片			18		18
碎片			106		106
石核		1			1
磨石・敲石類			3	3	
裸器			1	1	
合計	2	1	124	4	131

2号遺物集中

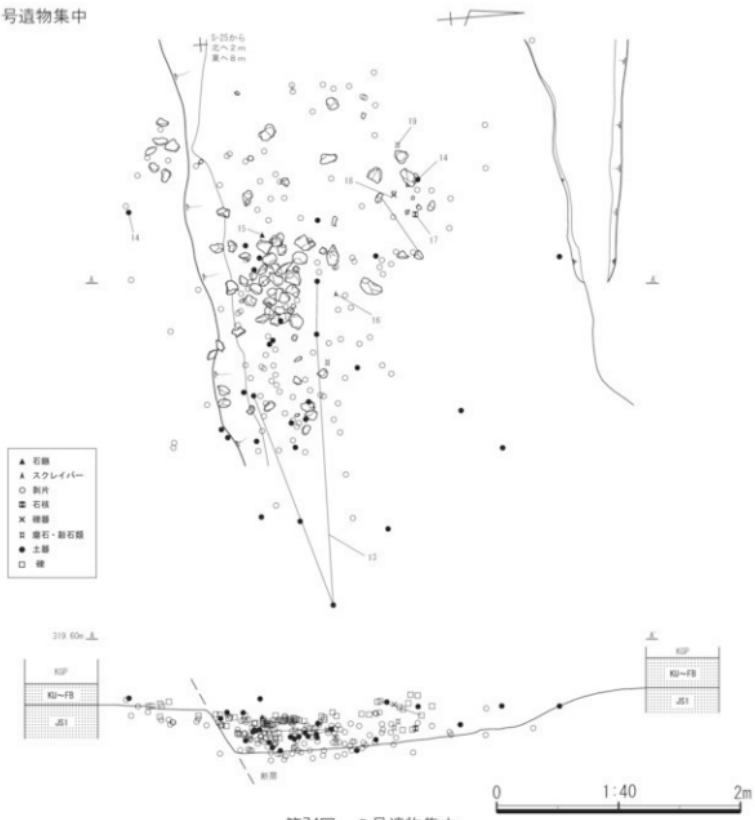


第72図 2号遺物集中



第73図 2号遺物集中出土遺物

3号遺物集中



第74図 3号遺物集中

出土遺物は、石器と縄が主体を占め、土器は少量である。土器は表裏縄文土器と条痕文土器、無文土器で、時期は早期に収まる。無文土器は小片のため実測できなかった。石器は石鏃、スクレイバー、石核、刃片、縄器、磨石・敲石類が出土している。13は表裏縄文土器である。13は口縁部破片で、外側の口縁部にはLRの縄文を施し、次いで胴部にRLの縄文を施し、一部を磨り消している。内面の口縁部にもLRの縄文が見られる。bはaと同一個体の胴部と考えられ、RLの縄文が一部磨り消されている。14の条痕文土器は、胴部外面に斜め方向に貝殻条痕文が施されている。15の石鏃は上半部が欠損により失われている。凹基で円脚である。箱根烟宿群産と推定される黒曜石製で、裏面には素材剥離痕を残す。16の削器も上部が欠損しているが、裏面の下部と左側縁部から微細剝離痕を削出しており、刃部を作り出している。神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。17の石核も箱根烟宿群産と推定される黒曜石製で、固定して剝離面から転移させながら剝離している。18の縄器は輝石安山岩製で刃部が下部にあり断面がかなり厚い。19の磨石・敲石類も輝石安山岩製で、不定形で厚みがあり端部と側縁部を敲いている。



第75図 3号遺物集中出土遺物

2 遺物

遺構出土の遺物については先述したとおりである。包含層出土遺物の大半は土器と石器である。

(1) 土器

出土した土器は縄文時代早期から後期までのものが919点出土している。このうち62固体を実測した。施文・装飾・文様・調整等によって、便宜的に土器を分類した。分類は以下のとおりである。

早期

第I群

- a類：表裏縄文 + 磨消縄文土器
- b類：撚糸文土器（黒田向林遺跡出土と同型式）
- c類：撚糸文土器
- d類：押型文土器
- e類：判ノ木山西式土器

第II群

- 野鳥式土器

第III群

- a類：条痕文土器
- b類：沈線文土器
- c類：無文土器

前期

第IV群

- a類：諸磯式土器
- b類：十三菩提式土器

第V群

- a類：縄文土器
- b類：無文土器

早期の土器

第I群（第78図20～25）

a類は3号遺物集中から出土した表裏縄文土器である。
 b類は20で、撚糸文土器の口縁から胴部にかけての破片である。撚糸文が外面と内面の上方に見られる。富士宮市の黒田向林遺跡から同タイプの撚糸文土器の出土が確認されている。20bの外面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111831）。その結果は、 9817 ± 38 yrBPという年代的にやや古い¹⁴C年代が提示されたため、21の撚糸文土器や押型文土器より古い時期のものであると分類した。21も撚糸文土器であるが、横方向の撚糸を施した後に縱方向の撚糸文を付けている。22は楕円の押型文である。23～25はe類の判ノ木山西式土器である。23と24は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文を施しているが、23の方が線はやや細く本数も少ない。内面は条痕文を施している。23は口縁部が外反し波状口縁であり、対して24は直行口縁であるが、口唇部に連続してキザミが施されている。25も判ノ木山西式土器であるが、前二者と異なり外面は横方向と斜め方向の条痕文が見られる。

中期

第VI群

- a類：貉沢V式土器
- b類：藤内式土器

後期

第VII群

- a類：堀之内式土器
- b類：堀之内式土器（粗製）
- c類：注口土器（堀之内式か）

詳細時期不明

第VIII群

- a類：縄文土器
- b類：後期以降無文土器

弥生時代以降

第IX群

- 弥生時代以降無文土器

口縁部は直線的に立ち上がり直行口縁であり、器形は24に近い。3個体とも内面は条痕文が明瞭に見られる点は共通している。なお、24は胴部内面に炭化物が付着していたため、放射性炭素年代測定を実施した（IAAA-111829）。その結果は、 $7,960 \pm 32$ yrBPという¹⁴C年代が出た。25も胴部外面に炭化物が付着していたため放射性炭素年代測定を実施し（IAAA-111830）、 $7,963 \pm 35$ yrBPという¹⁴C年代の結果が出た。この結果は24や葛山大端ヶI遺跡出土の判ノ木山西式土器の測定結果と近似した数値である。

第II群（第80図26）

26は野島式土器である。外面を幅広の沈線文で区画し中を充填しており、内面は条痕文が見られる。口唇部にはキザミも施されている。東海系の白灰色の胎土である。

第III群（第80図27～30）

27は内外面ともに条痕文が施されている。器厚は厚い。28は胴部無文であるが、口唇部にキザミが施されている。器厚は厚く焼成も大変良好である。29は外面に斜め方向の沈線文が複数引かれている土器の口縁部破片である。30は無文の土器で、内外面ともにナデ調整されており、分厚い器厚である。

前期の土器

第IV群（第80図31・32）

31は諸磯c式土器である。aは口縁部破片で、半截竹管の先端による斜行文が見られ、その下には沈線文か。口唇部は丁寧なミガキが施されている。bは半截竹管の沈線が綾状をなし、所々に半截竹管の先端による斜行の平行沈線文が見られる。32は十三普提式土器で折り返し口縁を呈し、半截竹管による連続した押引文が見られる。口唇部から内面にかけてはミガキである。

第V群（第80図33）

33は胴部外面に繩文が見られるが、かなり摩滅しており縄文原体や施文方向は不明である。

中期の土器

第VI群（第80図34～36）

34は猪沢式のV式にあたる口縁部破片で、渦巻状の懸垂文が施されている。35は藤内2式土器であり、口縁部を肥厚させ爪形文を連続して施している。外面胴部と内面は丁寧なナデで仕上げられている。bとcは胴部破片と考えられ、bは2本の隆帯の1本に爪形刺突があり、cは刺突の無い隆帯の区画内に平行沈線がある。36も藤内の胴部破片で、隆帯を貼り付け、隆帯とその外側にキャタピラ文が施されている。bは隆帯の区画内もキャタピラ文がある。

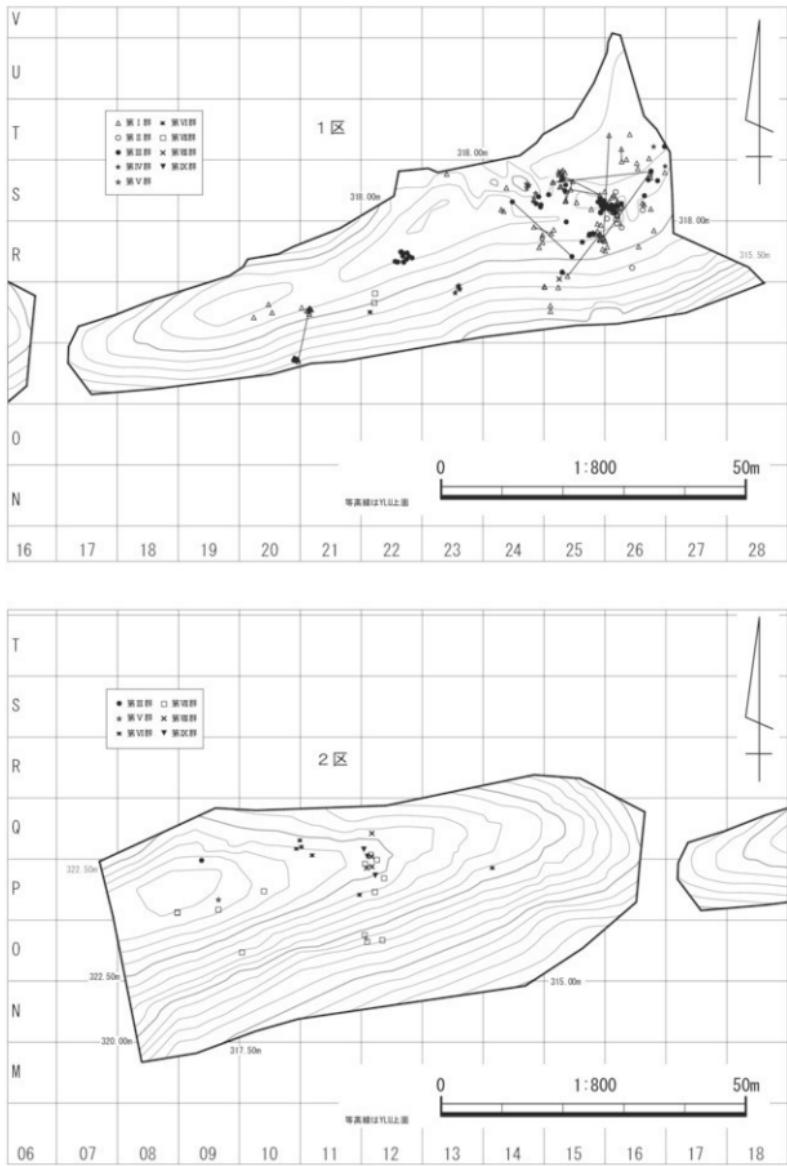
後期の土器

第VII群（第80図37～40）

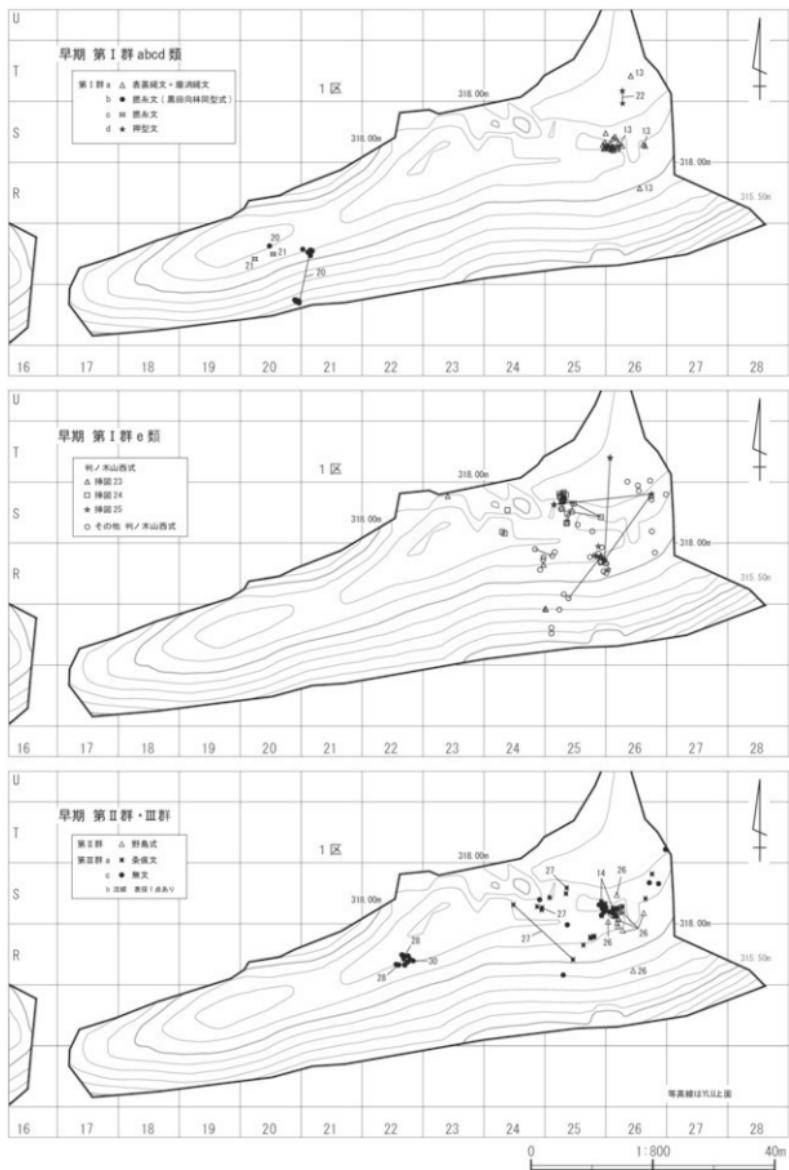
37は堀之内式土器で、胴部外面の所々に繩目を押しつけている。38は堀之内I式土器であり、横方向と弧状に沈線を引いている。39は堀之内式土器の粗製品の口縁部から胴部にかけての破片であり、口縁部は波状を呈す。外面はRLの繩文で、口唇部から内面にかけては、丁寧なナデである。40は注口部であり、先端部は破損しているが、接着部は一部残っている。外面はミガキで調整している。

第VIII群・第IX群

第VIII群土器はa類が時期不明の繩文土器、b類が後期以降と思われる繩文土器であり、第IX群は弥生時代以降と思われる無文の土器であるが、いずれも小片のため詳細は不明で、実測も行っていない。



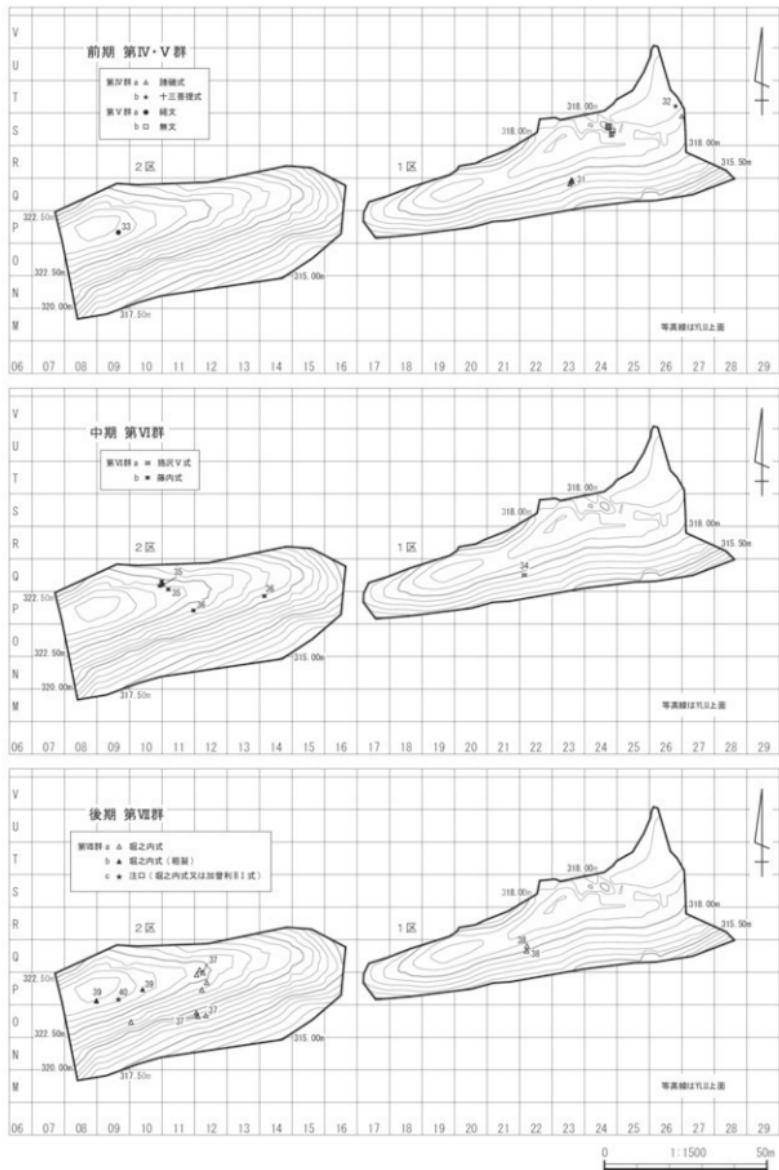
第76図 土器群別分布



第77図 第I・II・III群土器分布



第78図 第I群土器



第79図 第IV・V・VI・VII群土器分布



第80図 第II・III・IV・V・VI・VII群土器

第31表 土器観察表

遺構名	掲図番号	図版番号	時期	分類 群-類	型式	文様・特徴など	縦維	胎土	色調(Hue)	部位
3号遺物集中	13a	24	早期	I a	表裏縞文	外面口縁部はLR、脇部はRLの縞文を施し、一部磨り消している。内面はLRの縞文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)暗褐色 10YR3/3 (内)にぶい赤褐色 5YR4/3	口縁
3号遺物集中	13b	24	早期	I a	表裏縞文	外面にRLの縞文を施し、一部磨り消している。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)明る褐色 2.5YR5/6 (内)暗褐色 7.5YR3/3	脇部
3号遺物集中	14ab	24	早期	III a	柔痕文	外面上に柔痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄褐色 10YR4/4 (内)にぶい黄褐色 10YR3/3	脇部
	20a	25	早期	I b	捺系文(黒田向林)	外面に縱方向と斜方向の捺系文。 口縁部内面に斜め方向の捺系文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)黑色 7.5YR3/2 (内)にぶい褐色 7.5YR3/2	口縁
	20b	25	早期	I b	捺系文(黒田向林)	外面に縱方向と斜方向の捺系文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)明る褐色 2.5YR5/6 (内)にぶい赤褐色 5YR4/4	脇部
	21	25	早期	I c	捺系文	外面に縱方向と斜方向の捺系文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)褐色 7.5YR4/4 (内)にぶい赤褐色 7.5YR4/4	脇部
	22	25	早期	I d	押印文	外面に横円の押印文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい黄褐色 7.5YR4/4 (内)にぶい黄色 10YR4/4	脇部
	23	25	早期	I e	判木/木山西	外面は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。内面は柔痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい褐色 7.5YR3/3 (内)にぶい黄色 7.5YR3/3	口縁~ 脇部
	24	25	早期	I e	判木/木山西	口唇部にキザミ。外面は半截竹管状の工具による格子目状の沈線文。内面は柔痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)黑色 7.5YR2/2 (内)灰褐色 5YR4/2	口縁~ 脇部
	25	25	早期	I e	判木/木山西	口唇部にキザミ。内外面に横方向の柔痕文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)黑色 7.5YR3/1 (内)にぶい赤褐色 5YR4/2	口縁~ 脇部
	26	26	早期	II	野鳥	外面は幅広の沈線文で区画。区画内を棒状工具で充填。内面は柔痕文。	無	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄褐色 10YR6/4 (内)にぶい黃褐色 10YR7/4	脇部
	27a	26	早期	III a	柔痕文	外外面とも柔痕。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)棕色 7.5YR6/6 (内)褐色 7.5YR4/1	脇部
	27b	26	早期	III a	柔痕文	外外面とも柔痕。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黄褐色 10YR6/4 (内)褐色 10YR6/1	脇部
	28	26	早期	III c	無文	口唇部にキザミ。無文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい黃褐色 10YR5/3 (内)灰褐色 10YR4/2	口縁
	29	26	早期	III c	沈線	外面に斜方向の沈線文。	有	白色粒子、黒色粒子	(外)にぶい黃褐色 10YR4/3 (内)黑色 10YR3/2	脇部
	30	26	早期	III c	無文	無文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)灰褐色 5YR4/2 (内)灰褐色 7.5YR4/2	脇部
	31a	26	前期	IV a	諸縫	半截竹管による斜行文。口唇部にミガキを施す。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母(多)	(外)褐色 7.5YR3/2 (内)褐色 7.5YR4/4	口縁
	31b	26	前期	IV a	諸縫	半截竹管による斜行文の沈線文と斜方向の平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母(多)	(外)黑色 7.5YR3/2 (内)褐色 7.5YR4/4	脇部
	32	26	前期	IV b	十三菩提	半截竹管による連続した押引文。口唇部から内面にかけてミガキ。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)黑色 7.5YR6/4 (内)にぶい赤褐色 5YR5/4	口縁
	33	26	早期	V a	縞文	外面に縞文。	有	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/3 (内)にぶい褐色 2.5YR4/4	脇部
	34	26	中期	VI a	洛沢V	渦巻状の懸垂文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/3 (内)灰褐色 5YR4/2	口縁
	35a	26	中期	VI b	薄内2(B8)	肥厚させた口縁部に瓜形の刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/4 (内)灰褐色 5YR4/2	口縁
	35b	26	中期	VI b	薄内2(B8)	肥厚させた口縁部に瓜形の刺突文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/2 (内)灰褐色 5YR4/2	脇部
	35c	26	中期	VI b	薄内2(B8)	降帯の区画内に縱方向の平行沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/4 (内)灰褐色 5YR4/2	口縁
	36ab	26	中期	VI b	薄内	陸帯貼付け。キャビラ文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR5/4 (内)にぶい赤褐色 5YR5/3	脇部
	37ab	26	後期	VII a	琨之内	外面の一部に縞を押しつけている。	無	黑色粒子	(外)にぶい褐色 7.5YR6/4 (内)棕色 5YR6/6	脇部
	38ab	26	後期	VII a	琨之内 I	外面に横方向と弧状に沈線文。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい赤褐色 5YR4/3 (内)灰褐色 7.5YR4/2	脇部
	39	26	後期	VII b	琨之内(粗製)	波状口縁。外面にRLの縞文を施す。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)にぶい黄褐色 10YR5/4 (内)にぶい褐色 7.5YR6/4	口縫
	40	26	後期	VII b	注口	外面をミガキで調整。	無	白色粒子、黒色粒子、 雲母	(外)黑色 7.5YR3/1 (内)褐色 7.5YR4/2	口縫

(2) 石器

石鎚

石鎚は計10点出土した。そのうち3点は遺構出土のもので、2点は未製品である。葛山大端ヶI遺跡と同様に、基部の形状で5タイプに分類し、さらに凹状の基部のものは脚部形状で4タイプに細分類した。石鎚未製品は4点出土したが、そのうち3点を掲載した。

Aタイプ（基部が凹状のもの）（第83図41・42）

41はA2タイプである。脚部の片方は欠損しているがおそらく円脚であろう。平面形は二等辺三角形で断面形状は扁平である。縁部はやや鋸歯縁状に削出されている。神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。42も神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製の石鎚で、刃部などあまり加工が施されておらず表裏面ともに素材剥離面を多く残す。脚が角張るA3タイプで抉りは浅く平面形は三角形である。

Bタイプ（基部が平らのもの）

本遺跡ではこのタイプのものは出土していない。

Cタイプ（基部が円形のもの）（第83図43）

43は円基のCタイプであり脚部は無い。縁部は鋸歯縁状に削出し、裏面は素材剥離痕を残す。

Dタイプ（基部が不定形状のもの）

本遺跡ではこのタイプのものは出土していない。

石鎚未製品（第83図44）

44は石鎚未製品と考えられ、刃部を削出する微細な剥離痕が少なく、裏面に素材剥離痕が見られる。平面形状が不定形で、断面形態も厚い。

スクレイパー（第83図45～48）

45～48はスクレイパーである。45は箱根烟宿群産と推定される黒曜石製のスクレイパーで、側縁部に連続した微細な剥離痕で刃部を作っており、サイドスクレイパーと考えられる。46はガラス質黒色安山岩製の大型品である。45と同様に側縁部に連続した微細な剥離痕が見られ、刃部を側縁部に持つサイドスクレイパーと考えられる。47は上半分を欠損しているが、刃部は下端部に持つエンドスクレイパーと考えられる。断面は三角形である。48は細粒安山岩製の大型品である。側縁部に連続した微細な剥離痕があり、刃部が側縁部にあるサイドスクレイパーである。

二次加工剥片（第84図49・50）

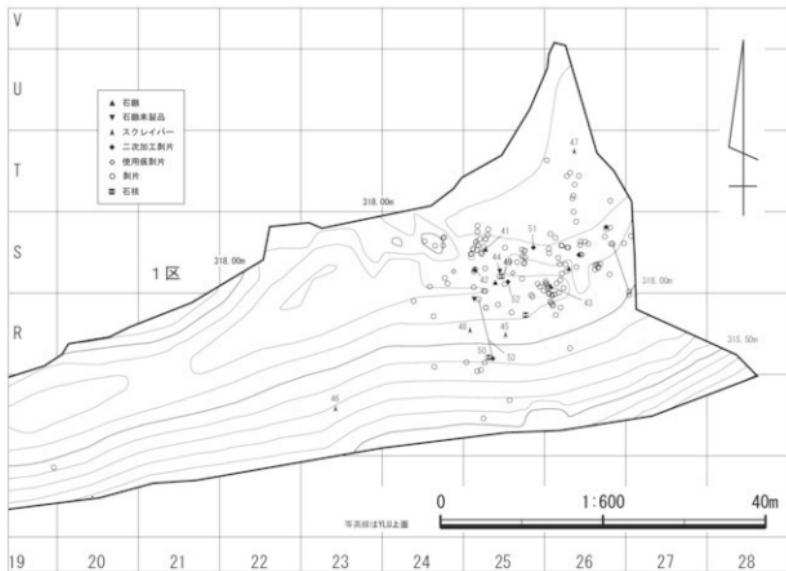
49・50は二次加工剥片で、49は右側縁部に微細な剥離痕がある。素材は不定形剥片を呈する。50も右側縁部に微細剥離が観察でき、不定形剥片の素材である。いずれも神津島恩馳島群産と推定される黒曜石製である。

接合資料（第84図51）

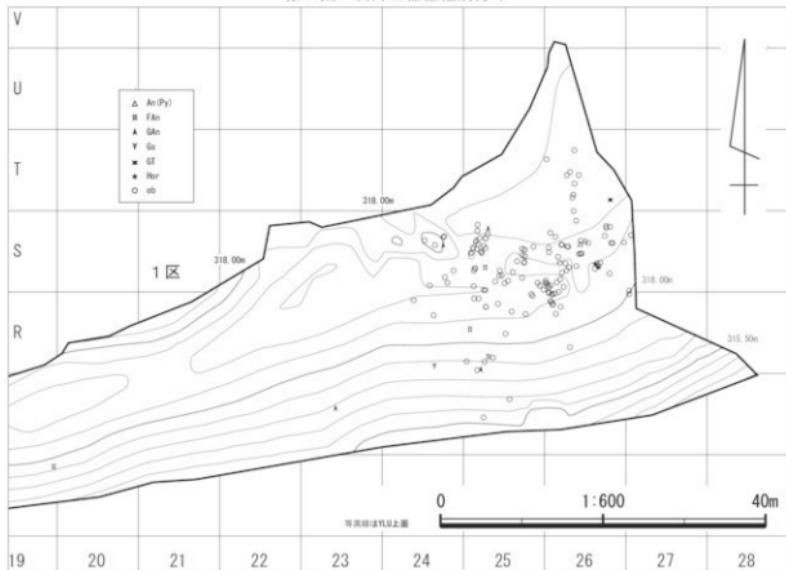
51は二次加工剥片と剥片の接合資料で、天城柏崎群産と推定される黒曜石が素材である。1区東側の斜面上で約10m離れた距離で出土した。二次加工剥片は下部と右側縁部に微細剥離痕が入り、全体的に自然面を多く残す。

石核（第84図52・53）

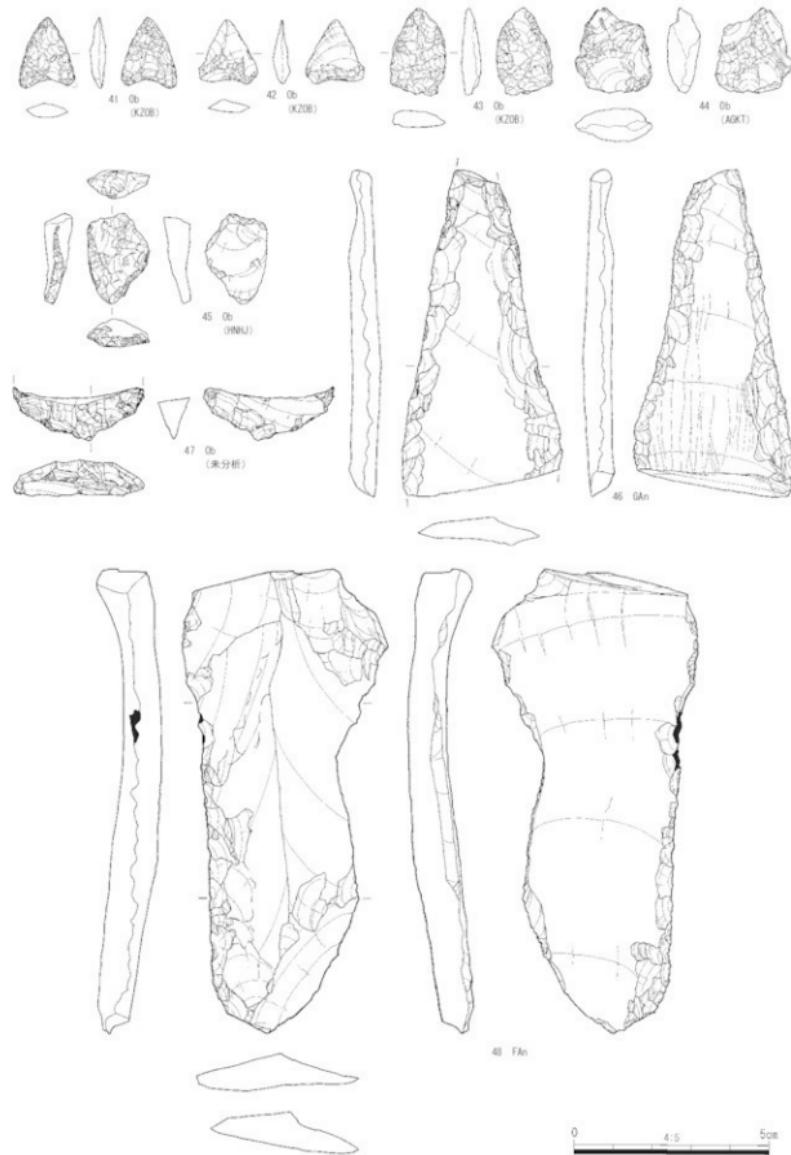
52・53は石核である。52は擗面を打面とし、固定して一方向に剥離している。打面は上面である。天城柏崎群産と推定される黒曜石53は剥離面を打点とし転移しながら剥離しており、打面は上面、下面、右側面と左側面である。細粒安山岩製である。



第81図 剥片石器種別分布



第82図 剥片石器石材別分布



第83図 石器 1



第84図 石器2

打製石斧（第87図54～第88図59）

54～59は打製石斧である。葛山大端ヶI遺跡と同様の分類を行った。

54は両側縁部に剥離を加え、側縁部が平行で直線的な短冊形になっている。左側縁部のエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残り、柄の装着痕と考えられる。緑石凝灰岩である。55は輝石安山岩製で、擦型で、両面に礫面が残る。裏面側縁部に連続した剥離痕が見られ、左側縁部上部には使用による摩滅痕が確認できる。器厚は中央部が分厚い。56は両側面が抉れている分銅型と思われるが、上部は欠損している。下端部に連続した微細な剥離で刃部を作り出しており、右側面には明瞭な着柄痕が見られる。器厚は薄く扁平である。57は56と同様な分銅型であり、抉り部分に着柄痕と思われるエッジを敲打で潰した痕跡が明瞭に残る。剥離はやや粗いが、上端部より下端部の方がより多く行われている。器厚は刃部と上部が薄くなっている。58は頁岩製の打製石斧で、抉りがあまり深くなく形状がやや曖昧ではあるが、分銅型とした。裏面に礫面が残り、刃部の剥離はやや粗く、着柄痕もあまり認められない。器厚は扁平である。59は基端部が尖る尖頭器型であり、基部、両側縁部から剥離を加え整形しているが、刃部はあまり明瞭ではない。左側縁部に着柄痕が明瞭に観察できる。緑色片岩製である。

礫器（第88図60～62）

60～62は礫器である。60は扁平な角礫を素材とし、下端部には上面から細かく打撃を加え、刃部を作り出している。輝石安山岩製である。61は素材形状が楕円礫を呈し、下端部には上面から粗く打撃を加えた刃部が確認できる。62は角礫を素材とし、刃部が下端部と左側縁部から上端部の一部にかけて広角に広がるが、左側縁部の剥離は非常に粗い。61・62とも玄武岩製である。

磨石・敲石類（第89図63～第91図85）

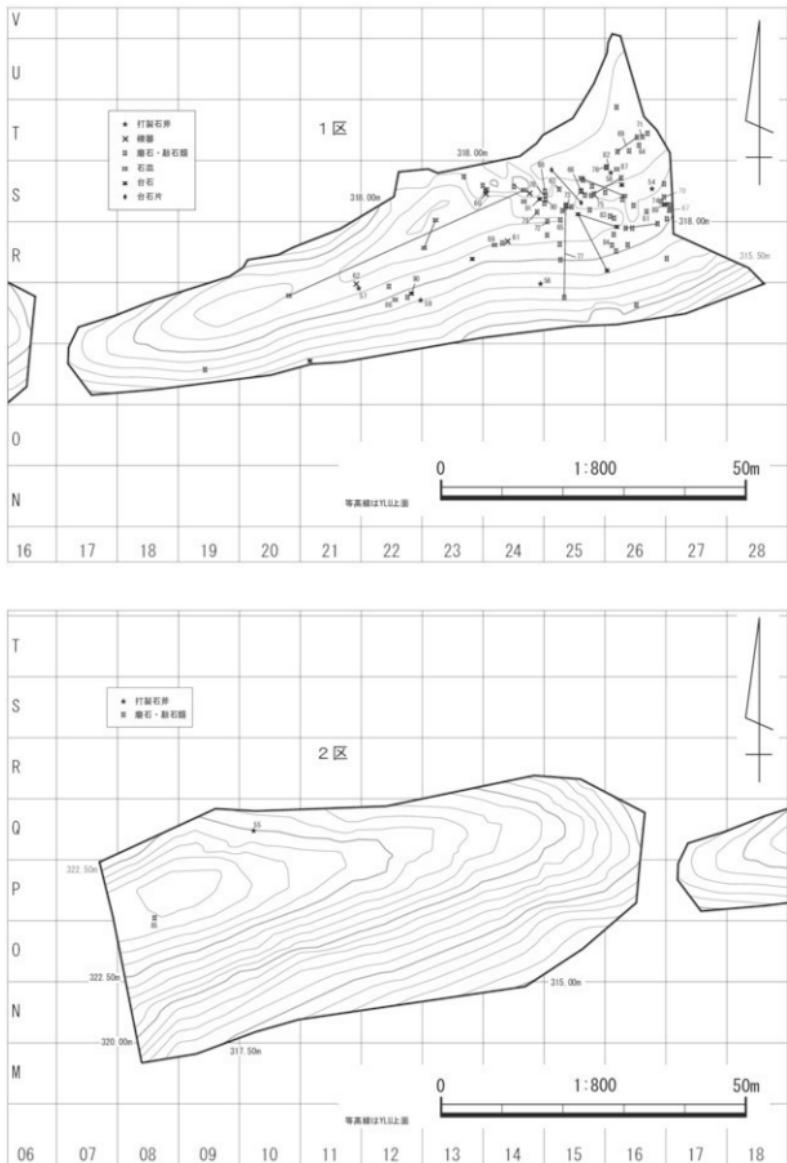
63～85は磨石・敲石類である。磨石・敲石類も葛山大端ヶI遺跡と同様に形状・断面形・使用痕による分類を行った。すなわち形状はAが円形、Bが楕円形、Cが不定形、Dが棒状のものである。断面形は、1が円形、2が扁平、3は厚みがあるもの、4は三角形をなすものである。使用痕が、aは端部に敲きがあり、bは側縁部に敲きがあるもの、cは平坦面で敲いているもの、dが端部に磨りがあるもの、eは側縁部に磨りがあるもの、fは平坦面を磨っているものである。

この遺跡では、形状がAの円形のものは出土しなかった。63～67は形状が楕円形で、断面が扁平なB 2 タイプ68・69は楕円形で厚みがある断面のB 3 タイプである。65は平坦面の磨り痕が明瞭に見られる。66は平坦面でかなり敲いており、中央部が窪んでいる。68は下面に剥離により刃部を作り出しており一見すると礫器とも思われるが、端部と側縁部に敲き痕と平坦面に磨り痕が見られるため磨石・敲石類とした。70～73は不定形な形状をなしており、扁平断面であるC 2 タイプ、74～79は厚みのあるC 3 タイプである。71は使用による敲きが激しく、平坦面と下端部、側縁部に亀裂が生じてしまっている。79は平坦面に磨りと敲きが施されているが、敲いた後に磨りが行われている。80・81は棒状で扁平なD 2 タイプ、棒状で厚みがあるD 3 タイプは82～85である。81は上部が欠損してしまっているが、現状からでも80と同様にかなり小さい磨石・敲石類であったことが推定できる。

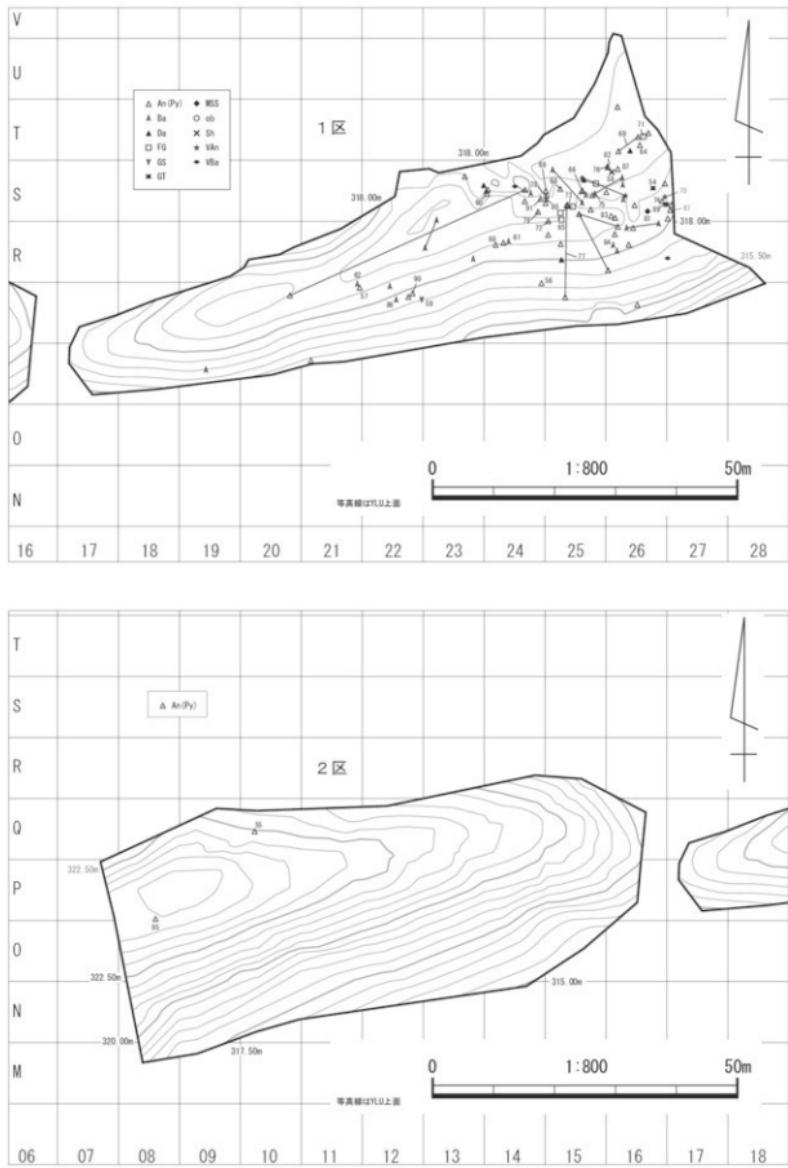
石皿・台石類（第92図86～第93図91）

86～91は石皿・台石類である。86～89が石皿、90・91が台石である。

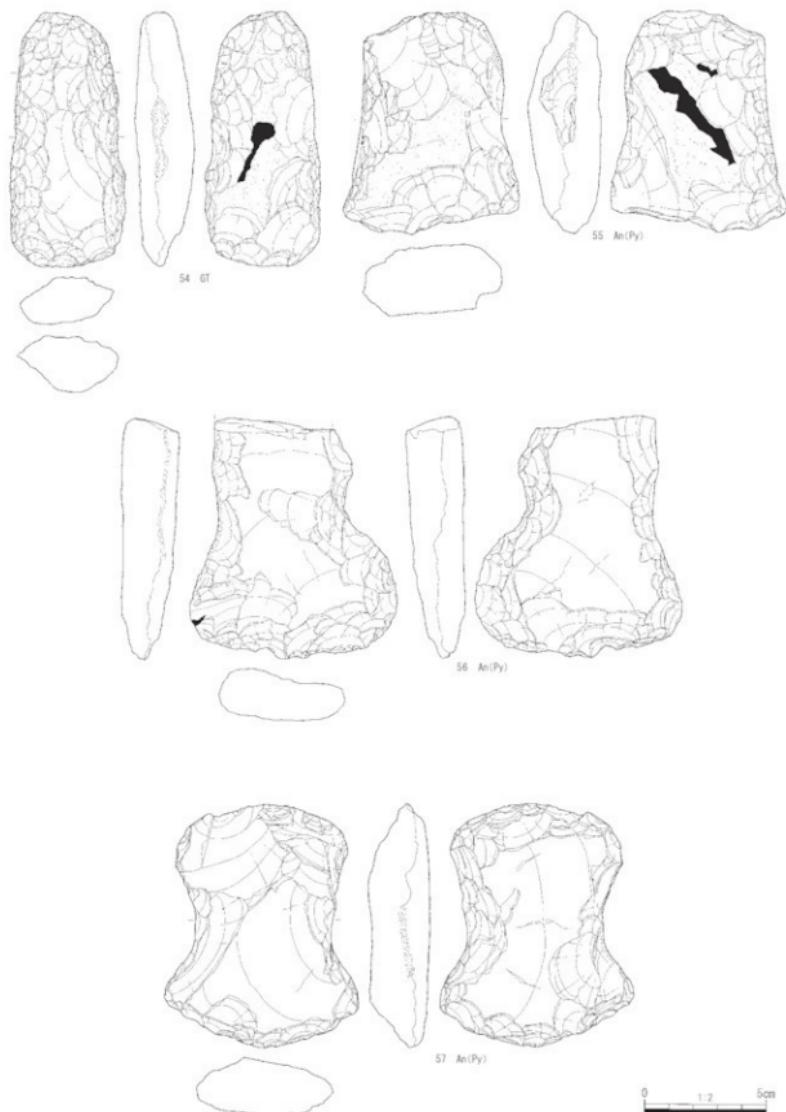
石皿と台石の差違は、平坦面に磨り痕が認められ窪んでいるもの、台石は平坦面に敲き痕しか見られず窪みのないものとした。86、87はあまり窪みが見られず、87は敲き痕が一部見られるが、両者共に磨り痕が明瞭であるため石皿とした。89は断面が台形を呈し安定感に欠けるが、地面を掘り込むか礫で固定して使用したと考えられる。石皿は14点、台石は9点出土し、石材は輝石安山岩製のものが多く、次いで多孔質安山岩、玄武岩の三種類が原材料である。



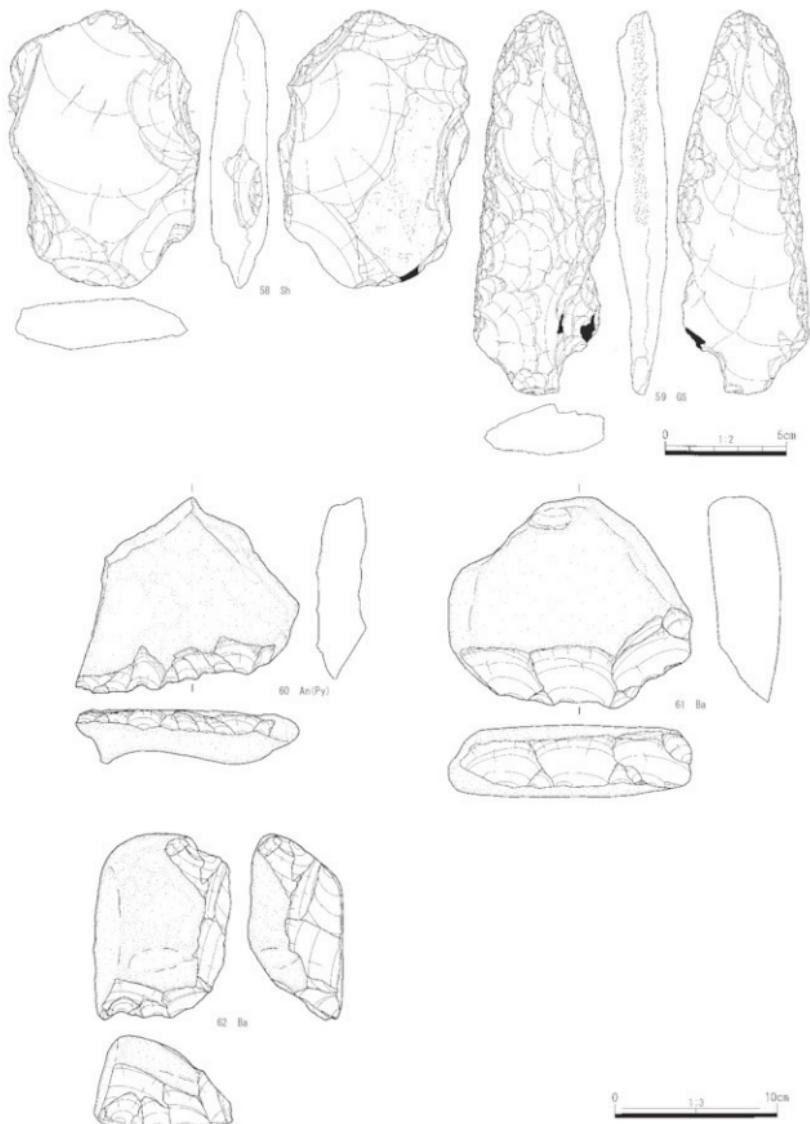
第85図 磐石器種別分布



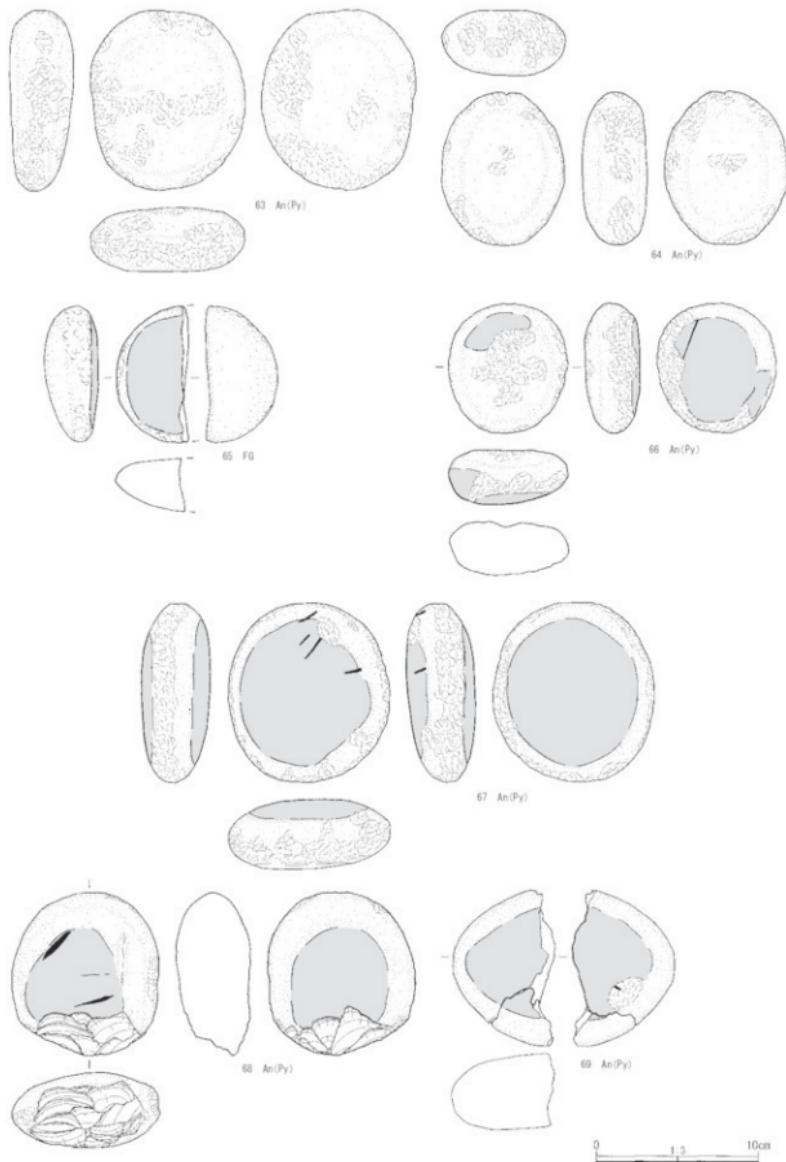
第86図 砥石器石材別分布図



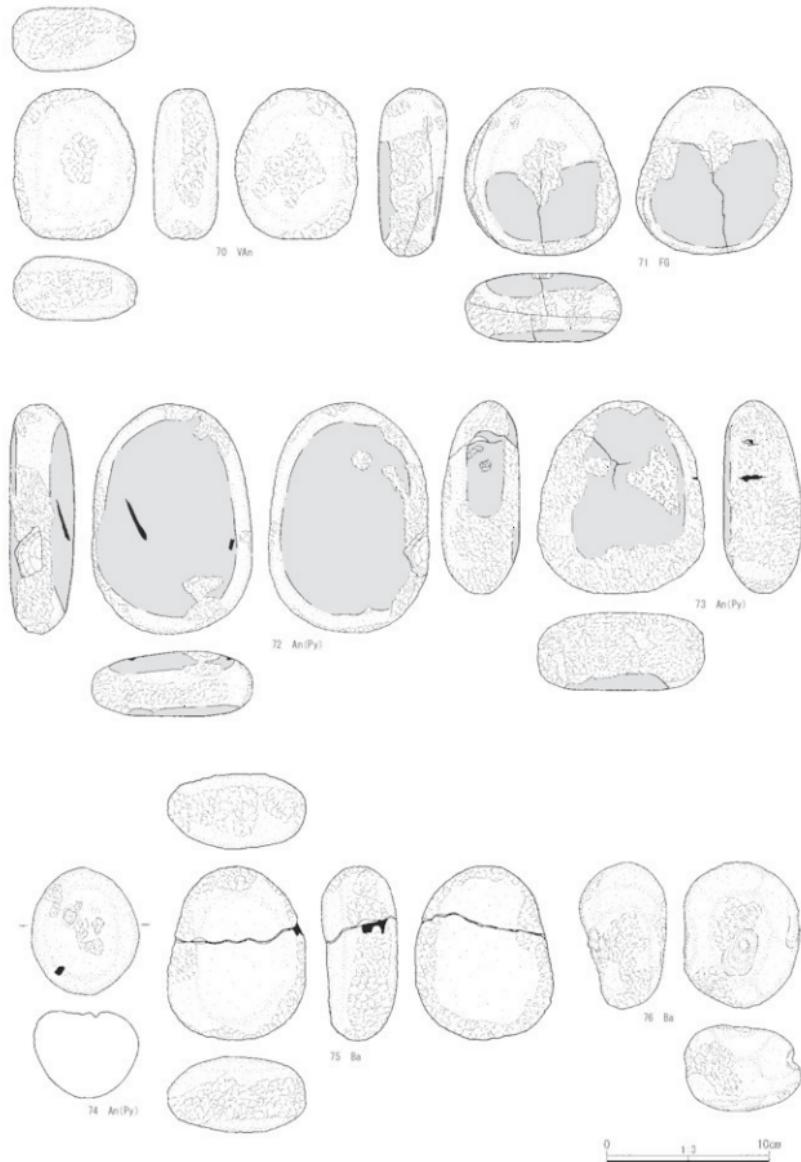
第87図 石器 3



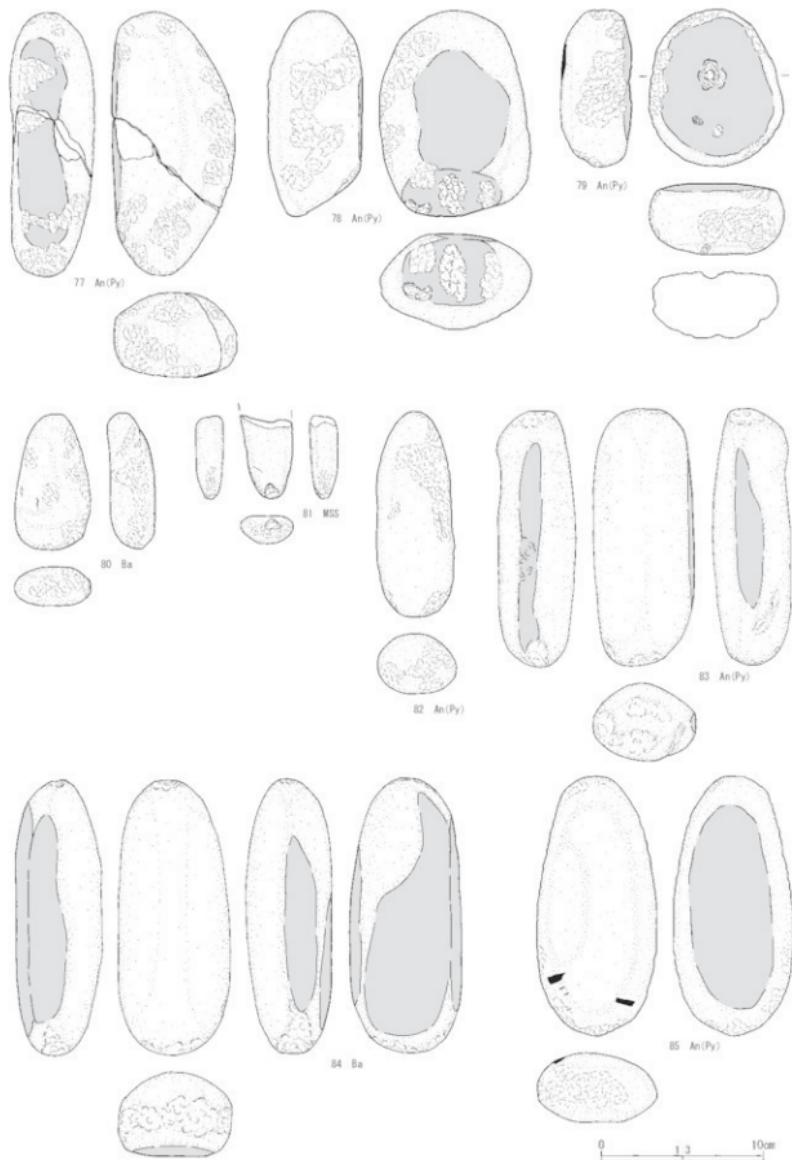
第88図 石器 4



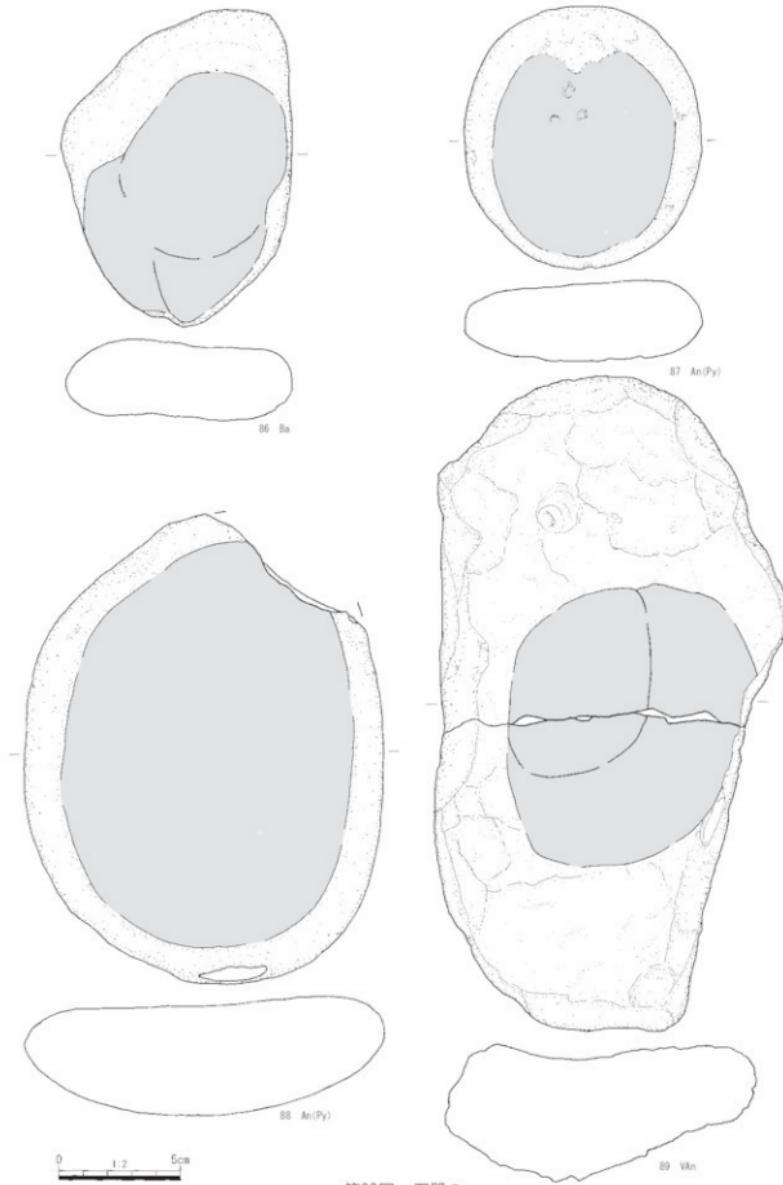
第89図 石器 5

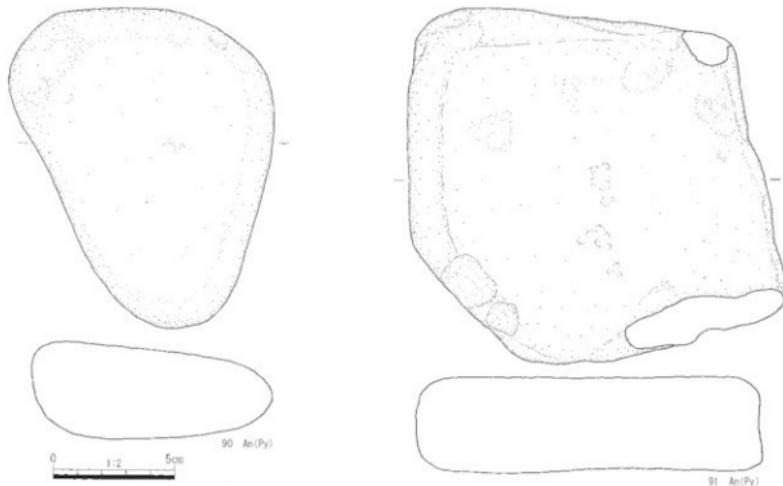


第90図 石器 6



第91図 石器 7





第93図 石器 9

第32表 石器組成

石材	黒曜石		合計
	箱根烟宿群	神津島恩納島群	
尖脚	1	1	2
円脚	1	1	2
角脚	2	2	
円基	1	1	
不明	1	1	
合計	3	5	8

第33表 スクレイパー組成

石材	黒曜石		未分析	ガラス質黑色安山岩	細粒安山岩	合計
	箱根烟宿群	神津島恩納島群				
端部	1				1	
両刃		1		1		2
側縫部				1	1	
全周						
片刃	1	2	1		1	5
側縫部						
合計	3	2	1	2	1	9

第34表 石核組成

石材	黒曜石		天城柏崎群	合計
	国芳里ヶ谷群	箱根烟宿群		
A打面形狀	SHWD	HNHJ	AGKT	
A	2	1	1	3
B	1			1
合計	1	1	2	4

打面形狀

- A: 剥離面を打面とするもの
B: 碓面を打面とするもの

剥離方法

- 1: 固定して一方向に剥離
2: 転移させながら剥離

第35表 打製石斧組成

石材	輝石安山岩		緑色凝灰岩	頁岩	合計
	短冊形	片面			
短冊形		1		1	
繪型	片面	1		1	
分類型	無し	2		3	
尖頭型	無し	1		1	
合計	3	1	1	1	6

第36表 縄文時代磨石・敲石類組成

石材		玄武岩	多孔質玄武岩	縞石安山岩	多孔質安山岩	ディサイサイト	細粒斑れい岩	中粒砂岩	内 脇	合計
石材略号		Ba	VBa	An (Py)	FAn	Da	FG	MSS		
A	1 a					2	2			
	2 a+b+c				1			1	4	
	3 a+b		!					1		
	a+b	1	4				5			
	a+b+c		2				2			
	a+b+f		2			1	3			13
	a+b+c+f	2	1				3			
B	a		1					1		
	b			1			1			
	a+b	3	4		2	1	10		14	
	c+f		2				2			
	a		2				2			
	a+b		2			2	4			8
	a+b+c			1			1			
	a+b+c+f	1				1	2			
C	a	2	3				5			
	d		1				1			
	a+b	3	7				10			
	a+c		1				1			
	a+b+c	1	2				3		26	
	a+d		2				2			
	a+b+d		1				1			
	a+b+f		1	1			2			
	a+b+c+f		1				1			
D	1 a		2			2	2			
	2 a+b	1				1	2	2		
	a+b		1	1			2			
	3 a+b+e	1	1				2	5		
	a+b+f		1				1			
	a+b+c+f		1				1			
	不明	1	1				2			
	合計	12	5	46		5	7	1	77	

形状 断面 使用痕
A: 円 1: 内 a: 端部敲き
B: 横円 2: 扁平 b: 側縁部敲き
C: 不定形 3: 厚み c: 平坦面敲き
D: 棒状 4: 三角 d: 端部磨り
e: 側縁部磨り
f: 平坦面磨り

第37表 縄文時代石器組成

石材		黒曜石	玄武岩	多孔質玄武岩	ガラス質黒色安山岩	細粒安山岩	多孔質安山岩	ディサイサイト	細粒斑れい岩	褐色片岩	褐色凝灰岩	青石	中粒砂岩	合計				
石材略号	SIMD	HNU	AGKT	K208	-	Ba	VBa	GA	FAn	An (Py)	VAn	Da	FG	GS	Hor	GT	Sh	MSS
石頭	4		4															8
石頭未製品			1	1														2
スクレイバー	3		2	1				2	1									9
二次加工剝片	1	2	1	3														7
使用痕剝片		1		1	1													3
剝片	2	2	1	2	128			4	2	3				1	2	1		148
研片					552													552
石核	1	1	1							1								4
打製石斧										3			1	1	1			6
廢石・敲石類						12	5			46	1	5	7					1
櫛器										3								6
石皿						4				6	4							14
台石						4				7								11
合計	4	13	4	13	682	23	5	6	4	68	5	5	7	2	2	2	1	1
																		847

第38表 繁文時代石器一覧

遺物名	種類	版面	遺物 番号	基部	器種	部位	石材	推定 産地	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	グリッド	X座標	Y座標	Z座標	タイプ
1号遺物集中	1	スクリーパー	JO GAa	スクリーパー	JO GAa	スクリーパー	スクリーパー	スクリーパー	53.9	45.9	12.8	29.59	S-025	-87956.172	3553.0.896	31.9661	A3	
1号遺物集中	2	二次加工剝片	JO Ob	KZOB	21.4	18.0	13.8	3.12	S-025	-87956.075	3552.9.797	31.9189	A3					
1号遺物集中	3	磨石・敲石類	JO VBa		117.0	101.0	34.0	670	105	S-025	-87956.382	3553.2.279	31.9048	B2				
1号遺物集中	4	404	993	磨石・敲石類	JO FG	116.0	87.5	36.0	506	115	S-025	-87955.973	3553.3.707	31.9149	C2 a+b			
1号遺物集中	5	24	490	磨石・敲石類	JO Da	87.0	46.0	30.0	120	S-025	-87954.036	3552.9.933	31.9242	D3 a+b				
2号遺物集中	6	24	305	スクリーパー	JO FG	HMRU	117.0	74.0	6.1	17.0	S-025	-87954.036	3552.9.933	31.9242	A2			
2号遺物集中	7	24	1924	スクリーパー	JO Ob	HMRU	29.0	11.0	13.0	3.42	S-025	-87954.465	3554.0.032	31.8683	A1			
2号遺物集中	8	24	1336	スクリーパー	JO Ob	HMRU	24.3	22.1	8.3	3.90	S-026	-87954.34	3554.0.219	31.8198	A2			
2号遺物集中	9	24	2235	スクリーパー	JO Ob	KZOB	[21.6]	18.0	4.6	(1.9)	S-026	-87952.733	3554.0.279	31.8871	B2			
2号遺物集中	10	24	1494	二次加工片	JO Ob	HMRU	29.2	13.0	6.9	2.34	S-026	-87953.605	3554.0.542	31.8907	B2			
2号遺物集中	11	24	1575	磨石・敲石類	JO An(Py)	61.0	31.5	28.0	71.45	S-026	-87953.929	3554.0.425	31.8889	D1 a				
2号遺物集中	12	24	2107	磨石・敲石類	JO An(Py)	53.0	30.0	50.85	5.05	S-026	-87953.103	3554.0.542	31.8889	B3 a+b				
3号遺物集中	13	24	175	石頭	JO Ob	HMRU	117.0	19.3	7.7	1.83	S-026	-87954.094	3554.0.617	31.8889	A1			
3号遺物集中	14	24	175	石頭	JO Ob	KZOB	[19.1]	12.2	4.7	1.76	S-026	-87954.061	3554.0.617	31.8889	A1			
3号遺物集中	15	24	2107	石頭	JO Ob	HMRU	29.0	11.0	13.0	3.42	S-026	-87954.061	3554.0.617	31.8889	A1			
3号遺物集中	16	24	2107	石頭	JO Ob	HMRU	18.1	36.5	11.2	6.04	S-025	-87956.256	3553.2.311	31.8889	A2			
3号遺物集中	17	24	2340	石頭	JO An(Py)	89.5	93.0	50.0	45.00	S-025	-87956.521	3553.0.986	31.9065	A2				
3号遺物集中	18	24	2197	石頭	JO An(Py)	114.0	82.5	54.0	76.00	S-025	-87956.457	3553.0.982	31.8924	C3 a+b				
3号遺物集中	19	24	2203	石頭	JO An(Py)	27.0	15.0	15.0	1.50	S-025	-87954.600	3552.7.311	31.9043	C3 a+b				
41	27	150	石頭	JO Ob	KZOB	15.8	14.1	3.8	0.72	S-025	-87954.600	3552.7.311	31.9043	C3 a+b				
42	27	300	1 石頭	JO Ob	KZOB	15.3	14.9	3.6	0.61	S-025	-87957.089	3553.1.433	31.9208	A3				
43	27	338	石頭	JO Ob	KZOB	21.9	14.2	5.0	1.49	S-026	-87959.162	3554.0.762	31.9116	C				
44	27	338	石頭	JO Ob	KZOB	21.9	14.2	5.0	1.49	S-026	-87959.162	3554.0.762	31.9116	C				
45	27	338	石頭	JO Ob	KZOB	21.9	14.2	5.0	1.49	S-026	-87959.162	3554.0.762	31.9116	C				
46	27	338	石頭	JO Ob	KZOB	21.9	14.2	5.0	1.49	S-026	-87959.162	3554.0.762	31.9116	C				
47	27	311	スクリーパー	JO Ob	HMRU	21.9	15.6	6.8	1.92	S-026	-87956.121	3553.2.197	31.8189	B2				
48	27	2448	スクリーパー	JO Ob	HMRU	(83.0)	40.0	8.2	(29.19)	S-025	-87974.224	3551.4.276	31.7316	A2				
49	27	2457	スクリーパー	JO Ob	HMRU	(13.5)	33.3	9.0	(2.44)	T-026	-87942.573	3554.0.657	31.398	B2				
48	27	462	スクリーパー	JO FG	HMRU	118.7	52.4	16.3	7.59	S-025	-87964.573	3553.0.832	31.9211	B2				
49	27	318	二次加工片	JO FG	KZOB	30.0	21.8	11.9	5.19	S-025	-87954.423	3553.0.825	31.9214	A2				
50	27	317	二次加工片	JO FG	KZOB	23.6	17.7	14.2	4.22	S-025	-87958.622	3553.0.501	31.9392	A2				
51	27	308	剝片	JO FG	KZOB	21.4	15.3	9.1	2.37	R-025	-87960.764	3553.0.361	31.8846	A2				
52	27	308	二次加工剝片	JO FG	KZOB	29.0	16.0	12.0	2.45	R-025	-87960.764	3553.0.361	31.8846	A2				
53	27	3100	石頭	JO Ob	KZOB	29.0	16.0	18.4	4.83	S-026	-87951.948	3553.4.107	31.8831	B1				
53	27	458	石頭	SSC	VAn	57.1	33.8	40.7	7.711	R-025	-87967.914	3553.0.396	31.8863	A2				
54	28	598	石頭	JO FG	GT	103.9	47.0	23.5	149.66	S-026	-87954.578	3554.7.758	31.9165	A2				
55	28	76	打製石斧	JO FG	SANZ	An(Py)	89.1	71.61	29.3	22.849	Q-010	-87751.381	3532.0.335	32.2865	B1			
56	28	455	打製石斧	JO FG	SANZ	An(Py)	96.6	84.8	23.0	22.982	Q-024	-87704.714	3552.9.459	31.8019	D3			
57	28	1456	打製石斧	JO FG	SANZ	An(Py)	99.8	78.9	24.0	20.499	Q-021	-87709.886	3549.0.615	31.9322	D3			
58	28	29	打製石斧	JO FG	SANZ	An(Py)	12.6	7.7	23.0	24.76	T-026	-87701.938	3553.0.991	31.9386	D3			
59	28	1614	打製石斧	JO FG	SANZ	An(Py)	14.1	8.0	10.0	1.02	T-026	-87702.947	3553.0.991	31.9386	E3			
60	28	1363	擦痕	JO FG	An(Py)	119.0	138.5	30.0	59.0	S-024	-87955.473	3553.0.207	31.8862	C3 a+b				
61	28	3075	擦痕	JO Ba	Ba	129.0	148.5	44.0	10.70	R-024	-87963.244	3552.4.049	31.9066	C3 a+b				
62	28	2047	擦痕	JO Ba	Ba	114.0	84.0	50.0	6.80	Q-021	-87930.233	3549.0.215	31.9184	B2				
63	151	磨石・敲石類	JO An(Py)		110.0	94.0	39.0	5.60	S-025	-87954.695	3552.3.235	31.9001	B2 a+b+c					
64	57	磨石・敲石類	JO An(Py)		93.5	75.0	40.0	4.02	T-026	-87947.519	3553.0.302	31.8959	B2 a+b+c					
65	57	磨石・敲石類	JO An(Py)	KR	93.5	74.4	44.3	3.35	T-026	-87959.104	3553.0.302	31.9261	C2 a+b+c					
66	29	1611	磨石・敲石類	JO An(Py)	KR	79.3	62.0	32.0	2.00	S-025	-87954.447	3553.0.281	31.8959	C2 a+b+c				
67	29	2462	磨石・敲石類	JO An(Py)	KR	106.0	89.0	42.5	6.80	S-027	-87956.169	3553.0.506	31.8238	B2				
68	896	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	(100.0)	90.0	46.0	(51.0)	S-025	-87955.019	3553.0.330	31.8513	C3 a+b					
69	643	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	95.0	63.0	46.5	350	T-026	-87948.172	3554.5.287	31.9167	B3 a+c					
69	674	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	95.0	63.0	46.5	350	T-026	-87948.541	3554.0.076	31.9139	B3 a+c					
70	29	1964	磨石・敲石類	JO VAn		92.0	75.0	39.0	3.70	S-026	-87955.991	3554.0.215	31.9184	B3 a+c				
71	844	磨石・敲石類	JO FG		102.0	94.5	42.0	6.50	T-026	-87948.100	3554.6.191	31.9166	C2 a+b+c					
72	29	29	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	129.0	96.0	36.5	8.50	S-025	-87954.444	3553.0.302	31.9261	C2 a+b+c				
73	29	1147	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	117.0	100.0	47.0	7.30	S-026	-87951.206	3553.0.511	31.9089	C2 a+b+c				
74	1965	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	77.5	68.0	33.0	3.60	S-026	-87956.679	3554.0.238	31.8943	C3 a+c					
75	29	397	磨石・敲石類	JO Ba	Ba	106.0	84.0	47.0	6.00	102	S-025	-87953.456	3553.0.339	31.8906	C3 a+b			
76	29	395	磨石・敲石類	JO Ba	Ba	89.0	71.0	52.5	4.06	S-026	-87951.097	3554.0.204	31.703	C3 a+b				
77	29	450	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	160.5	75.0	51.5	9.40	103	Q-025	-87972.447	3553.3.333	31.7084	C3 a+b			
78	29	1146	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	125.0	82.5	58.0	8.70	S-026	-87959.767	3553.0.248	31.8181	C2 a+b+c				
79	29	910	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	96.0	82.0	44.0	4.30	S-024	-87955.446	3552.8.248	31.9344	C2 a+b+c				
80	1752	磨石・敲石類	JO Ba		83.0	46.0	29.0	14.0	S-025	-87956.357	3553.0.244	31.9069	C2 a+b+c					
81	29	1531	磨石・敲石類	JO MSS		51.0	32.0	17.0	3.90	S-026	-87955.364	3554.6.854	31.879	D				
82	396	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	125.0	47.5	36.5	2.90	S-026	-87951.103	3554.0.339	31.9167	D					
83	29	406	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	157.0	63.0	48.0	7.00	S-026	-87959.122	3554.0.463	31.9192	D				
84	29	409	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	166.0	69.0	52.5	9.00	R-026	-87963.877	3554.1.2	31.8893	D				
85	163	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	159.0	73.5	42.0	6.90	R-008	-87963.877	3554.1.2	31.8893	D					
86	29	1145	磨石・敲石類	JO FG	An(Py)	124.0	68.0	41.0	4.00	R-026	-87959.038	3554.0.324	31.8446	D				
87	29	1526	石頭	JO An(Py)		215.0	173.0	65.0	3900	S-026	-87951.424	3554.1.963	31.9174	E				
88	2006	石頭	JO An(Py)		386.0	293.0	97.5	161.0	R-024	-87963.886	3552.1.914	31.9120	E					
89	29	1963	石頭	KGP	VAn	537.5	292.0	138.0	19430	112	S-027	-87951.156	3550.0.07	31.8846	E			
90	1675	台石	SSC	An(Py)	262.0	217.0	80.0	67.0	Q-022	-87971.803	3550.0.29	31.8856	E					
91	29	2004	台石	JO An(Py)	291.5	311.0	94.5	13380	S-024	-87956.311	3552.9.31	31.9078	E					

() は欠損

基部	断面
A: 四基	1.円
B: 平基	2.扁平
C: 不定形	3.厚み
D: 不定形	4.三角形
E: 不規則	5.全周

方型加工	加工部位
A: 斜方	1.傾斜
B: 円弧	2.側縁
C: 不規則	3.複縫
D: 不規則	4.環状

打削形狀	剥離方法
A: 剥離形	1.固定して一方に向か剥離
B: 剥離形	2.軸を設けながら剥離

形代	種類

<tbl_r cells="2" ix="1" max

第5章 藤畠遺跡

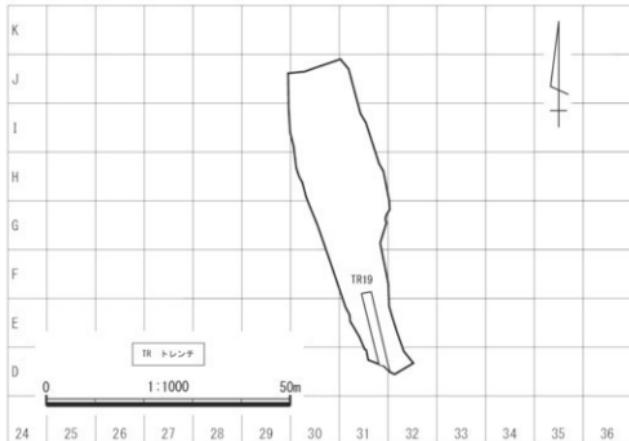
第1節 調査の方法と経過

藤畠遺跡は裾野市葛山字大端ヶ1160-1他に所在し、葛山大端ヶI遺跡の同丘陵の東側斜面に位置する。第二東名No150-2地点の3区である。

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅲ区系（X = -88140.0, Y = 35280.0）を原点として、遺跡全体に10×10mのグリッドを設定した。X軸に対して西から東へアラビア数字、Y軸に対して南から北に向かってアルファベットによってグリッド名をついた。

遺構図・土層断面図などの図面は1/20を基本として、手実測、機械実測を併用して作成した。なお機械実測、遺物の取り上げは、トータルステーションとコンピューターを用いた。遺構番号は種類ごとに番号を付け、遺物番号は全ての遺物に通し番号を付け、遺物の種類により土器はP、石器はS、礫はR、炭化物はCとそれぞれ記号を付した。測量データは、シン技術コンサルの『遺跡管理システム』を使用して図化作業を行った。写真撮影には、35mmサイズの小型カメラ、および6×7cmサイズの中型カメラを使用した。また全景写真を撮影するために、ローリングタワーを用いて撮影を行った。

調査面積は800m²で、確認調査は平成15年9月から、本調査も12月から翌年2月まで行った。調査区の南側にトレンチを設定し掘り進めた結果、土坑を1基検出した。その後調査区全体を休場層上面まで掘り下げたが、他の遺構及び遺物は出土しなかった。



第94図 トレッセ配置

第2節 基本層序

藤畠遺跡の基本層序を第95図に示す。基本的には葛山大端ヶI・III遺跡と同様に愛鷹山麓の標準的層位であるが隆起が激しい尾根状であるため各層が斜めに入っている。各層位は以下の通りである。

第1層 表土

第2層 褐色土層

第3層 砂沢スコリア層

第4層 暗褐色土層

第5層 栗色土層～富士黒土層 7.5YR4/6～7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径2～4mm）少量含む。

第6層 休場層上層～下層 7.5YR5/8～7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～4mm）、黒色スコリア（径1～6mm）、明赤褐色スコリア（径1～5mm）を少量含む。

第7層 第Iスコリア層 7.5YR3/4 締まり有り。粘性無し。黒色スコリア（径2～7mm）を多量に含む。赤褐色スコリア（径1～5mm）、黄色ラビリ少量含む。

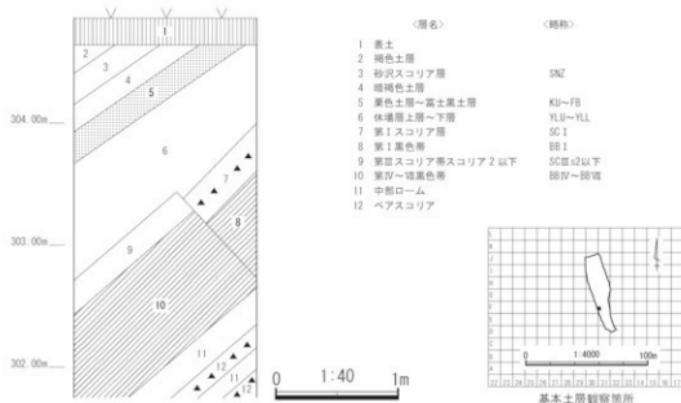
第8層 第I黒色帶 7.5YR3/4 締まり有り。粘性有り。黒色スコリア（径3～7mm）、暗褐色スコリアを多量に含む。赤褐色スコリア（径1～4mm）少量含む。

第9層 第IIIスコリア帯スコリア2以下 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤色スコリア（径2～4mm）多量に含む。赤褐色スコリア（径1～7mm）、黒色スコリア（径2～7mm）、黄色ガラス（径1mm）少量含む。

第10層 第IV～V黒色帶 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）、黒色スコリア（径2～7mm）多量に含む。

第11層 中部ローム 7.5YR4/6 締まり有り。粘性有り。赤褐色スコリア（径1～3mm）多量に含む。

第12層 ベアスコリア



第95図 基本土層

第3節 旧石器時代の遺構と遺物

1 遺構

旧石器時代のものと考えられる遺構は検出されていない。

2 遺物

旧石器時代のものと考えられる遺物は出土していない。

第4節 繩文時代の遺構と遺物

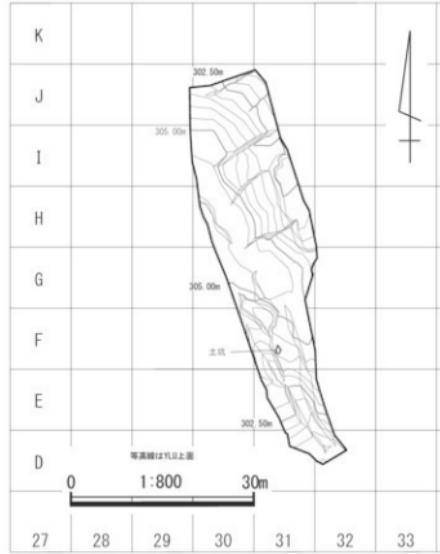
1 遺構

土坑（第97図）

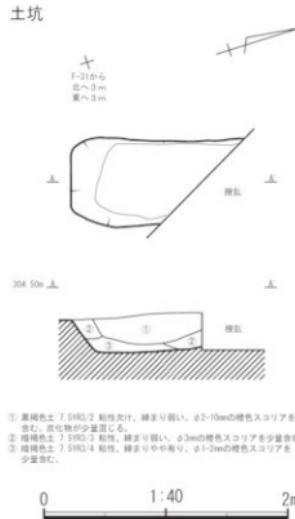
繩文時代の遺構は、土坑が1基検出されている。南北方向の長方形を呈し、北側の半分近くが搅乱によって切られており、全体の形状は不明である。深さ0.3m程度で休場層上面を掘り込んでいるが、繩文時代のものと考えられる。

2 遺物

繩文時代のものと考えられる遺物は出土していない。



第96図 繩文時代遺構位置



第97図 土坑

第6章　まとめ

第1節 葛山大端ヶI遺跡

1 旧石器時代

文化層は2層に分かれた。上層である第Ⅱ文化層からは縄群が1基検出された。縄群からは石核、剥片、碎片が出土し、剥片には使用した痕跡が見られ、縄も半数が赤化スレも付着していることから、人間の活動痕跡が明確に認められる。石器素材の半数以上を黒曜石が占め、その産地は諏訪星ヶ台群産と蓼科冷山群産がほぼ半数ずつを占めるため、主にこの地域からの供給に頼っていたと想定される。縄群以外の遺構が見られることや、石器の出土量もごく少数に限られることから、短期的なキャンプ地として利用されたと考えられる。

2 縄文時代

縄文時代の調査では、集石7基、土坑17基、焼土2基、遺物集中4ヶ所が検出された。そのうち土坑は5基が逆茂木痕と考えられる穴が底面に掘り込まれていた。遺物集中の出土遺物は石器と縄のみであった。特に3号遺物集中からは大量の剥片と碎片が出土しており石器の製作場であったのであろうか。また、4号遺物集中は磨石・敲石類と石皿・台石類とがセットになって出土しており、赤化した縄も見られることから調理場であった可能性がある。焼土は逆茂木痕を伴った土坑の近くに位置し、土坑の多くは遺跡の東南側斜面に位置していた。この逆茂木痕を伴う土坑は獲物獲得用の狩猟穴であったと考えられ、斜面に獲物を追い込み土坑に落とし捕獲し、すぐそばで調理した痕跡が焼土として残ったのであろう。

南側の尾根に隣接する葛山上條遺跡では、出土土器は、早期は撫糸文土器と無文土器、前期の諸縄b式土器、後期の堀之内1式土器であり、中期は皆無である。本遺跡では、葛山上條遺跡と比べ、早期の土器型式のバリエーションが多く、中期の時期がむしろ主体的であるので、隣接していてもやや異なる様相を示している。また、炭化物分析の結果からは中期と後期初頭頃という結果が出ており、中期中葉頃の炭化物はコナラ属の子葉と同定されていることから、食用であったと推定される。よって、この時期に人々の活動が活発であったと考えられる。土器の地域性については、早期では中部地方の貝殻・沈線文系土器である判ノ木山西式土器、関東の撫糸文系土器、打越式土器、東海系の条痕文土器である入海式土器、前期は関東の諸縄式土器と十三菩提式土器、中期は関東から中部地方の勝坂式土器と呼ばれる新道式土器、藤内式土器、井戸尻式土器と加曾利E式土器、山梨を中心とした曾利式土器等が見られる。後期は関東の堀之内式土器が見られる。このように本遺跡の土器様相は、関東の土器を中心として中部地方や東海の影響も受けていることが見て取れる。

石器は、剥片石器、縄石器ともに器種が比較的多く見られる。すなわち、剥片石器は石鎌を主体的にスクレイパーや石錐などの加工工具が見られ、縄石器も打製石斧や磨石・敲石類を中心として縄器、台石が見られる。また、石器の原材料であるが、剥片石器は黒曜石製のものが圧倒的に多く、ガラス質黒色安山岩製やホルンフェルス製のものが僅かに見られる。黒曜石の産地については、製品のみの分析結果からだが、半数近くを諏訪星ヶ台群産のものが占め、次いで神津島恩賜島群産のものが30%近く、箱根烟宿群産のものが15%、蓼科冷山群産がわずか4%に留まっている。明らかに旧石器時代とは供給源や割合に変化が生じており、比較的近い所からも供給されるようになったことが見て取れる。

礫石器の石材は輝石安山岩と玄武岩、多孔質玄武岩のものが主体を占めている。

遺構については、その帰属時期はほとんど不明であるが、遺物の出土量から見るとその多くは中期に属すると思われる。両者ともに土坑、集石、焼土が検出されており、全時期を通じて堅穴住居跡など居住の痕跡を示すような遺構は検出されていない等同様な様相を示している。以上の事象より総合的に勘案すると、本遺跡の性格は葛山上條遺跡と同様の狩り場のような一時的なキャンプ地として利用されていたと考えられる。

第2節 葛山大端ヶⅢ遺跡

1 旧石器時代

旧石器時代の遺構は、礫群が1基検出されており、遺物は礫群出土の礫と包含層出土の礫のみであり、石器は出土しなかった。礫は、礫群を含めて比較的高位度の場所から出土しており、ほとんどが赤化して破損しており、人間による何らかの活動の痕跡と考えられるが、他の遺物や遺構が見つからなかったため遺跡の詳細は不明である。尾根を挟んで北側に隣り合う葛山大端ヶⅡ遺跡でも黒曜石製の剥片が1点出土したのみであり、同様に詳細は明らかになっておらず、短期的なキャンプ地としての利用を想定している。

2 繩文時代

繩文時代の遺構は13基の土坑と遺物集中箇所が3ヶ所である。土坑はほとんど逆茂木痕が認められず、1基のみ4本の逆茂木痕が認められ、狩猟用の陷穴と考えられる。しかし、大端ヶⅠ遺跡と異なり、逆茂木痕を伴った狩猟用の土坑の少なさや焼土が見られないことから、キャンプ地としての利用は少なかったことが推測される。

遺物については、まず土器は早期から後期までの土器が出土している。型式で言えば、早期は関東の撚糸文土器、関東の野島式土器、中部地方の判ノ木山西式土器、東海の条痕文系土器、前期は関東の諸磯式土器と十三善提式土器、中期は勝坂式土器である猪沢式土器、藤内式土器、後期は関東の堀之内式土器が見られる。大端ヶⅠ遺跡と同様に関東を中心とした土器型式で、中部地方や東海系の影響も少なからず受けているが、型式や出土量の点で中期が非常に少ないのが大端ヶⅠ遺跡との明確な違いであり、本遺跡の最盛期は早期であったと考えられる。

石器については、剥片石器は出土量、バリエーションとともにそれほど多くはなく、また大端ヶⅠ遺跡と違い、剥片、碎片などの遺物集中箇所も見られないことから、石器の製作が行われていた可能性は考えられない。一方、礫石器については出土量が比較的多く、特に磨石・敲石類や石皿・台石類が豊富に出土していることから、何らかの食料の加工がさかんに行われたと考えられる。石器の石材であるが、剥片石器は黒曜石が比較的多く、それ以外には細粒安山岩やガラス質黒色安山岩が見られる。礫石器に関しては輝石安山岩と玄武岩が主体的である。黒曜石の産地分析の結果を見てみると、箱根畠宿群産のものと神津島恩馳島群産のものが4割ずつを占め、箱根畠宿群産は天城柏崎群産製品と同じく僅か9%である。また、産地はこの4ヶ所だけであり、蓼科冷山群産の製品は見られない。これは石器構成が概ね同様である葛山大端ヶⅠ遺跡との明確な差違点であり、遺跡の活動時期の違いを示しているのである。

第3節 藤畠遺跡

旧石器時代のものと考えられる遺構、遺物は確認されなかった。縄文時代については、土坑が1基検出されたのみで、遺物の出土はない。検出された土坑は擾乱によって大部分が失われており、その性格は判然としない。遺跡の性格を特定できるような遺構、遺物が見つかっていないため詳細は不明であるが、本遺跡は愛鷹山東麓丘陵の尾根の裾野にあることから、人間の活動場所は低地よりも尾根上であったと推測できる。また、本遺跡の所々で断層のズレが生じており、このように隆起した特異な地形であったことも人々の活動場所を限定させる要因であったのではなかろうか。

〔参考文献〕

- 青島邦夫 2002「縄文時代の陥し穴について～愛鷹山麓・箱根山麓の遺跡から～」『静岡県埋蔵文化財調査研究所紀要』第9号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 芦川忠利 1990『三島スプリングスC.C.ゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』三島市教育委員会
- 芦川忠利 1994『五輪・觀音洞・元山中・陰洞遺跡I－グランフィールズC.C.ゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書－』三島市教育委員会
- 阿部芳郎 1997『判ノ木山西遺跡出土土器の分類と編年』『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
- 池谷信之 1990『広合遺跡（b・c・d区）・広合南遺跡』沼津市教育委員会
- 池谷信之 1991『広合遺跡（e区）・二ッ洞遺跡（a区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
- 池谷信之 1996『柏葉尾遺跡発掘調査報告書』沼津市教育委員会
- 池谷信之 2001『葛原沢第IV遺跡（a・b区）発掘調査報告書1』沼津市教育委員会
- 池谷信之 2002『西洞遺跡（c・d区）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
- 池谷信之 1995『愛鷹・箱根山麓の層序と出土石器』『静岡県考古学会シンポジウムIX 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』静岡県考古学会
- 池谷信之 2003『縦位密接施文から異方向帶状施文へ－駿豆地方押型文土器の変遷と立野式－』『利根川』24・25 利根川同人会
- 池谷信之・守屋豊人 1999『関東・中部・東海地方 早期（押型文系土器）II・列島における縄文土器型式研究の成果と課題（2）』『縄文時代』10 縄文文化研究会
- 今福利恵 1999『山梨県内の諸磯式土器』『前期後半の再検討』縄文セミナーの会
- 植松章八 2008『東駿河の奈良・平安時代遺跡と土器』『祢宜ノ前遺跡』富士市教育委員会
- 小林謙一編 2007『AMS炭素14年代測定を利用した東日本縄文時代前半期の実年代の研究』平成17年～18年度科学的研究費補助金基盤研究（C）（1）研究成果報告書 研究代表者小林謙一
- 小林達雄編 2008『総覧 縄文土器』アムプロモーション
- 笠原千賀子 2009『ふたつの「野島」－長泉町梅ノ木沢遺跡の第II群土器－』『研究紀要』第15号 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 下島健弘 2003『縄文時代早期清水柳E類の成立過程』『利根川』24・25 利根川同人会
- 縄文集落研究グループセツルメント研究会編 2004『縄文集落研究の新地平3－勝坂から曾利へ－発表要旨・資料集』シンポジウム資料

- 裾野市 1993『裾野市史』第1巻 資料編 考古
- 裾野市 2000『裾野市史』第8巻 通史編Ⅰ 考古
- 裾野市 2001『裾野市史』第9巻 通史編Ⅱ 考古
- 関野哲夫 1992『尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ その1－考古学的調査－』沼津市教育委員会
- 田中綱 1997『中部・東海地方における沈線文土器の様相』『シンポジウム押型文と沈線文』長野県考古学会縄文時代（早期）部会
- 原田雄紀・小崎晋・北佳奈子・池谷信之 2010『尾壳遺跡（第2次）・清水柳北遺跡（第2次）発掘調査報告書』沼津市教育委員会
- 毒島正明 2007「野島式研究序論－山内清男氏の茅山式を中心として－」『土曜考古』第31号 土曜考古学研究会
- 毒島正明 2009「『清水柳E類土器』の学史的整理」静岡県考古学会東部例会（2009・09・12）資料
- 細田勝 1999「南関東における諸磯式土器の様相」「前期後半の再検討」縄文セミナーの会
- 前島秀張 1995「第4期・第5期の石器群」「静岡県考古学会シンポジウムⅨ 愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集」静岡県考古学会
- 守屋豊人 1997「中部地方における押型文土器後半期の様相」「シンポジウム押型文と沈線文」長野県考古学会縄文時代（早期）部会
- 矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷－いわゆるネガタイプな楕円文を有する押型文土器群の再検討」「考古学雑誌』第78巻第4号 日本考古学会
- 領家正浩 2008「貝殻・沈線文土器」「縄文時代の考古学2』同成社

なお、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所及び静岡県埋蔵文化財センター発行の報告書については割愛した。

附 編

葛山大端ヶ I・III 遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授 望月 明彦

- 1 分析法 エネルギー分散蛍光 X 線分析法 (EDX)
 - 2 分析装置 セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光 X 線分析計 SEA-2110L
 - 3 分析条件

管電圧 : 50kV	雰囲気 : 真空
管电流 : 自動設定	照射径 : 10mm
測定時間 : 240sec	検出器 : Si (Li) 半導体検出器
 - 4 測定元素 Al (アルミニウム)、Si (ケイ素)、K (カリウム)、Ca (カルシウム)、Ti (チタン)、Mn (マンガン)、Fe (鉄)、Rb (ルビジウム)、Sr (ストロンチウム)、Y (イットリウム)、Zr (ジルコニウム)
 - 5 試料の洗浄 5 分間 (汚れがひどい場合は15分間) 超音波洗浄器で洗浄。
さらに汚れを拭き取ってから測定。
 - 6 産地推定法
 - (1) 得られた蛍光 X 線スペクトル強度を元素記号で表す。2つの方法とも以下の指標を用いる。

指標	$\text{Sum} = \text{Rb} + \text{Sr} + \text{Y} + \text{Zr}$ とする。
	Rb 分率 = Rb/Sum
	Sr 分率 = Sr/Sum
	Zr 分率 = Zr/Sum
	$\text{Mn} * 100 / \text{Fe}$
	$\log (\text{Fe}/\text{K})$
 - (2) 図1に上げた黒曜石産地から、産地原石を採集し、測定する。
 - (3) 測定結果から上記の指標を算出する。
 - (4) 以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。
 - (5) 下記の2つの方法で産地推定を行う。
- ① 判別図法 (判別図参照)
- 用いる指標 : 図2・4 横軸 : Rb 分率、縦軸 : Mn/Fe
 : 図3・5 横軸 : Sr 分率、縦軸 : $\log (\text{Fe}/\text{K})$
- 特長 : 簡単な計算であり、誰にでも作成可能。
 視覚的に確認でき、分かりやすい。
- 推定方法 : 遺跡出土試料を蛍光 X 線分析し、指標を計算。
 指標を図にプロットする。
 重なった原石産地を推定結果とする。

② 判別分析（推定結果表参照）

用いる指標：算出された指標全て

特長：各産地との類似度を距離で算出。

既知の産地のどれに類似しているかを判別する方法である。

→未知の産地の判別はできない。

推定方法：判別図法では遺跡出土試料と重なっている産地を推定結果とする。

この産地は試料と2次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い産地を推定結果とする。

この距離から、各産地に属する確率を計算する。

産地原石判別群 (SEIKO SEA-2110L 蛍光 X 線分析装置による)

番号	地名	原石群	直判原群	原石群(分類)	直判原群(分類)	新記号	記号記述
1	白河市 新潟県	人気原群 黒瀬の足跡	STHG KSNM ODVZ	ホウ山田原(19) ホウ岩瀬原(33) 八戸原(79) 十三ノ原(96)	ホウ山田原(6) 飯加林原(4)	19 20 21	新潟原群 八戸原 飯加原群 飯加原系 A群 飯加原系 B群 飯加原群 八戸原(18)
2	上十郷 福井県	二股群					新潟原群 八戸原(34)
3	原町 滋賀県	安佐群		安佐(25) 清水(45)			新潟原群 八戸原(34)
4	鬼川 北海道	鬼谷原群	AKSX	新琴台(6) 相馬台(5) 春光台(5)			新潟原群 八戸原(34)
5	名寄 北海道	名寄原群	NYHK	鬼川(10)			新潟原群 八戸原(34)
6	波千津川 北海道	波千津群	STSD	須田(66)			新潟原群 八戸原(34)
7	牛井川 北海道	牛井群	ANMK	須川(126) 牛木(115)			新潟原群 八戸原(34)
8	魚浦 北海道	魚浦群	TUTI	須原(16)			新潟原群 八戸原(34)
9	木浦 鹿児島県	木浦原群	KDDK	出来島原(34)			新潟原群 八戸原(34)
10	喜界 鹿児島県	喜界原群	KUDM	八森山公会原(8) 六角原(8) 鶴間原(40)			新潟原群 八戸原(34)
25	小泊 佐渡郡	小泊原群	OGEN	金ヶ崎原(57) 鍋屋海岸(98)			新潟原群 八戸原(34)
11	男鹿 輪島郡	金ヶ崎群	OGWM	鍋本海岸(16)			新潟原群 八戸原(34)
12	羽黑 月山郡	月山群	HGS	月山林原(30) 御町原(18)			新潟原群 八戸原(34)
13	山形 山形原群	山形原群	HGIN	今野川原(9) 大門川原(15)			新潟原群 八戸原(34)
26	吉手 庄内原群	吉手原群	EKKO	本吉町原(36) 垂谷日影(36) 雪谷小木原(22)			新潟原群 八戸原(34)
27	北上川 利府郡	利府原群	KKDZ	木沢原(19)			新潟原群 八戸原(34)
28	阿賀輪 阿賀郡	阿賀輪原群	KK03	阿賀町原(53)			新潟原群 八戸原(34)
29	色麻 阿賀郡	色麻原群	MZYK	色麻町原(54)			新潟原群 八戸原(34)
30	官城 仙崎郡	仙崎原群	SANG	仙崎原(22)			新潟原群 八戸原(34)
31	東郷 仙崎郡	東郷原群	SDAS	仙郷原(13)			新潟原群 八戸原(34)
32	仙台 松代郡	松代原群	SDA2	仙代原(18)上城(35)			新潟原群 八戸原(34)
13	西磐梯 磐梯郡	磐梯原群	SHY	磐梯原(40)			新潟原群 八戸原(34)
14	新津 糸魚川郡	糸魚川群	NTKT	金津(29)			新潟原群 八戸原(34)
15	高岡 高岡郡	高岡原群	THAY	高岡原(56) 高岡原(9)			新潟原群 八戸原(34)
16	長野 長野原群	長野原群	WDHT	長野原(19) 長野原(9)			新潟原群 八戸原(34)
17	東 東原群	東原群	WDHT	東原(13) 東原(31)			新潟原群 八戸原(34)
18	蓼科 茅野原群	茅野原群	TSIG	蓼科原(36) 茅野原(31)			新潟原群 八戸原(34)



図 1 原石を分析・採取した黒曜石产地

出土黒曜石製器産地推定結果一覧表(葛山大端ヶI遺跡)

<表中用語>判別図判別群：判別図法によって推定された産地

判別分析と結果が異なるときは“**”をつけて示す。

判別分析：第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補

第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補

判別群：候補産地記号

判別図法による産地と通常は一致する。

距離：試料から候補産地までのマハラノビス距離

値が小さいほど候補産地と類似性が高い。

確率：試料が候補産地に属する確率

Iに近いほど類似性が高い。

判別図法・判別分析からの最終推定結果

研究年 年間通査	分析番号	遺物番号	推定産地	判別分析による推定結果					
				判別図法による推定結果			判別分析による推定結果		
判別群	第1候補産地			第2候補産地			判別群	距離	確率
	判別群	距離	確率	判別群	距離	確率			
MOK5-15	L150-1	2521	湯島足・台群	SWHD	6.91	1	SBIY	95.81	0
MOK5-16	L150-2	2548	神津島恩馳島群	KZOB	7.04	1	KZSN	71.51	0
MOK5-17	L150-3	2549	根岸宿	HNNJ	17.51	1	HNKI	39.66	0
MOK5-18	L150-4	2550	神津島恩馳島群	KZOB	10.91	1	KZSN	30.85	0
MOK5-19	L150-5	2551	利根川	測定不可					
MOK5-20	L150-6	2552	湯島足・台群	SWHD	22.76	1	SBIY	161.13	0
MOK5-21	L150-7	2806	利根川	測定不可					
MOK5-29	L150-8	2836	湯島足・台群	SWHD	6.04	1	SBIY	102.03	0
MOK5-80	L150-9	2841	湯島足・台群	SWHD	12.05	1	SBIY	126.73	0
MOK5-81	L150-10	2846	湯島足・台群	SWHD	14.75	1	SBIY	134.87	0
MOK5-11	L150-11	2854	利根川不可	測定不可					
MOK5-12	L150-12	359	湯島足・台群	SWHD	10.42	1	WDTN	66.54	0
MOK5-13	L150-13	368	天城和時群	AGKT	2.73	1	HNKT	107.7	0
MOK5-21	L150-14	399	神津島恩馳島群	KZOB	5.73	1	KZSN	65.44	0
MOK5-22	L150-15	498	湯島足・台群	SWHD	2.19	1	SBIY	84.86	0
MOK5-23	L150-16	516	湯島足・台群	SWHD	14.14	1	WDTN	81.91	0
MOK5-27	L150-17	2135	湯島足・台群	SWHD	9.74	1	SBIY	37.69	0
MOK5-25	L150-18	2234	利根川不可	測定不可					
MOK5-29	L150-19	2291	湯島足・台群	SWHD	12.26	1	SBIY	65.73	0
MOK5-27	L150-20	2308	利根川	SWHD	9.36	1	SBIY	84.9	0
MOK5-28	L150-21	2917	和田古村群	WDKB	3.67	1	WDTK	66.46	0
MOK5-29	L150-22	3317	湯島足・台群	SWHD	11.56	1	SBIY	103.8	0
MOK5-30	L150-23	3721	利根川不可	測定不可					
MOK5-31	L150-24	3906	湯島足・台群	SWHD	13.81	1	SBIY	40.77	0
MOK5-32	L150-25	4650	神津島恩馳島群	KZOB	3.02	1	KZSN	54.02	0
MOK5-33	L150-26	4674	湯島足・台群	SWHD	4.22	1	SBIY	109.13	0
MOK5-34	L150-27	4691	湯島足・台群	SWHD	6.37	1	WDTN	100.76	0
MOK5-35	L150-28	4861	神津島恩馳島群	KZOB	0.89	1	KZSN	65.36	0
MOK5-36	L150-29	5175	湯島足・台群	SWHD	15.82	1	WDTN	79.08	0
MOK5-37	L150-30	2025	湯島足・台群	SWHD	11.04	1	WDTN	114.68	0
MOK5-38	L150-31	3409	湯島足・台群	SWHD	4.33	1	WDTN	85.84	0
MOK5-39	L150-32	3838	神津島恩馳島群	KZOB	20.51	1	KZSN	74.68	0
MOK5-40	L150-33	4188	湯島足・台群	SWHD	1.62	1	SBIY	79.92	0
MOK5-41	L150-34	212	湯島足・台群	SWHD	9.94	1	WDTN	86.22	0
MOK5-42	L150-35	364	利根川宿群	HNNJ	8.11	1	HNKI	100.61	0
MOK5-43	L150-36	1727	湯島足・台群	SWHD	6.55	1	WDTN	93.98	0
MOK5-44	L150-37	2178	湯島足・台群	SWHD	0.97	1	SBIY	79.79	0
MOK5-45	L150-38	2378	利根川宿群	HNNJ	1.95	1	HNKI	85.81	0
MOK5-46	L150-39	3288	神津島恩馳島群	KZOB	8.58	1	KZSN	29.21	0
MOK5-47	L150-40	3319	湯島足・台群	SWHD	14.87	1	WDTN	76.24	0
MOK5-48	L150-41	3488	湯島足・台群	SWHD	12.4	1	WDTN	56.58	0
MOK5-49	L150-42	4332	湯島足・台群	SWHD	4.23	1	SBIY	116.99	0
MOK5-50	L150-43	4385	神津島恩馳島群	KZOB	9.31	1	KZSN	55.11	0
MOK5-51	L150-44	4393	神津島恩馳島群	KZOB	2.27	1	KZSN	50.76	0
MOK5-52	L150-45	4479	利根川宿群	HNNJ	1.95	1	HNKI	117.5	0
MOK5-53	L150-46	4543	湯島足・台群	SWHD	9.38	1	WDTN	67.57	0
MOK5-54	L150-47	4742	利根川宿群	HNNJ	22.33	1	HNKI	128.67	0
MOK5-55	L150-48	4825	神津島恩馳島群	KZOB	8.49	1	KZSN	74.33	0
MOK5-56	L150-49	2390	湯島足・台群	SWHD	16.56	1	WDTN	58.34	0
MOK5-57	L150-50	3305	湯島足・台群	SWHD	20.18	1	SBIY	59.64	0
MOK5-58	L150-51	6651	蓼科冷山群	TSTY	5.78	0.9999	TSIHG	21.5	0.00001
MOK5-59	L150-52	418	湯島足・台群	SWHD	12.9	1	WDTN	66.32	0
MOK5-60	L150-53	1122	湯島足・台群	SWHD	4.72	1	SBIY	77.46	0
MOK5-61	L150-54	2107	湯島足・台群	SWHD	8.28	1	WDTN	112.88	0
MOK5-62	L150-55	2113	湯島足・台群	SWHD	9.48	1	SBIY	79.35	0
MOK5-63	L150-56	2134	湯島足・台群	SWHD	10.24	1	WDTN	81.43	0
MOK5-64	L150-57	2232	神津島恩馳島群	KZOB	12.1	1	KZSN	88.29	0
MOK5-65	L150-58	4489	天城和時群	AGKT	4.78	1	HNKT	141.1	0
MOK5-66	L150-59	2046	湯島足・台群	SWHD	8.01	1	SBIY	51.17	0
MOK5-67	L150-60	4706	湯島足・台群	SWHD	10.59	1	SBIY	53.64	0
MOK5-68	L150-61	4912	湯島足・台群	SWHD	7.33	1	WDTN	71.99	0
MOK5-69	L150-62	159	利根川宿群	HNNJ	1.82	1	MZVK	105.41	0
MOK5-70	L150-63	198	湯島足・台群	SWHD	5.99	1	SBIY	101.12	0
MOK5-71	L150-64	6911	蓼科冷山群	TSTY	3.71	1	TSIHG	36.33	0
MOK5-72	L150-65	268	神津島恩馳島群	KZOB	11.61	1	KZSN	56.55	0

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別分析					
				第1板塊产地		第2板塊产地			
	判別群	判別群	確率	判別群	確率	確率	確率		
MK11-00073	L150-66	271	満島弓々台群	SWHD	11.85	SHY	88.33	0	
MK11-00074	L150-67	349	神津島恩馳島群	KZOB	12.3	KZSN	37.65	0	
MK11-00075	L150-68	434	神津島恩馳島群	KZOB	11.13	KZSN	73.27	0	
MK11-00076	L150-69	367	満島弓々台群	SWHD	21.33	WDTN	57.3	0	
MK11-00077	L150-70	398	和田彌山群	WDTY	0.64	WDHY	29.59	0	
MK11-00078	L150-71	832	神津島恩馳島群	KZOB	12.19	KZSN	66.52	0	
MK11-00079	L150-72	1445	満島弓々台群	SWHD	5.52	WDTN	76.63	0	
MK11-000790	L150-73	1467	和根畠宿群	HNHJ	13.06	SDAI	110.01	0	
MK11-000791	L150-74	1590	神津島恩馳島群	KZOB	6.12	KZSN	85.78	0	
MK11-000792	L150-75	1725	満島弓々台群	SWHD	13.11	WDTN	63.7	0	
MK11-000793	L150-76	1731	満島弓々台群	SWHD	13.91	WDTN	63.82	0	
MK11-000794	L150-77	1743	神津島恩馳島群	KZOB	6.91	KZSN	29.17	0	
MK11-000795	L150-78	1748	満島弓々台群	SWHD	6.17	WDTN	79.04	0	
MK11-000796	L150-79	1967	和根畠宿群	HNHJ	15.41	SDAI	108.31	0	
MK11-000797	L150-80	2031	和根畠宿群	HNHJ	6.45	MZVK	100.59	0	
MK11-000798	L150-81	2034	神津島恩馳島群	KZOB	13.29	WOMS	87.12	0	
MK11-000799	L150-82	2102	満島弓々台群	SWHD	6.56	WDTN	116.73	0	
MK11-000800	L150-83	2130	神津島恩馳島群	KZOB	12.16	WOMS	79.92	0	
MK11-000801	L150-84	2211	満島弓々台群	SWHD	9.95	WDTN	78.73	0	
MK11-000802	L150-85	2228	神津島恩馳島群	KZOB	9.49	KZSN	79.53	0	
MK11-000803	L150-86	2981	満島弓々台群	SWHD	11.51	WDTN	104.82	0	
MK11-000804	L150-87	2999	和根畠宿群	SWHD	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000805	L150-88	3024	満島弓々台群	SWHD	7.06	WDTN	93.33	0	
MK11-000806	L150-89	3146	満島弓々台群	SWHD	9.71	WDTN	96.25	0	
MK11-000807	L150-90	3176	満島弓々台群	SWHD	8.91	WDTN	64.95	0	
MK11-000808	L150-91	3256	和根畠宿群	HNHJ	25.83	SDAI	90	0	
MK11-000809	L150-92	3258	神津島恩馳島群	KZOB	8.9	KZSN	50.65	0	
MK11-000810	L150-93	3397	天城町村群	AGKT	3.4	HNK1	138.44	0	
MK11-000811	L150-94	3399	和根畠宿群	HNHJ	1.17	HNK1	84.22	0	
MK11-000812	L150-95	3533	和根不可	HNHJ	8.27	SDAI	122.65	0	
MK11-000813	L150-96	3635	和根畠宿群	SWHD	12.9	SHY	57.07	0	
MK11-000814	L150-97	3658	満島弓々台群	KZOB	5.24	KZSN	46.24	0	
MK11-000815	L150-98	3714	神津島恩馳島群	HNHJ	3.34	HNK1	108.49	0	
MK11-000816	L150-99	3717	和根畠宿群	KZOB	11.8	KZSN	71.4	0	
MK11-000817	L150-100	3755	神津島恩馳島群	HNHJ	11.64	HNK1	133.7	0	
MK11-000818	L150-101	3785	和根畠宿群	KZOB	2.77	KZSN	69.19	0	
MK11-000819	L150-102	3892	神津島恩馳島群	AGKT	2.47	HNK1	118.71	0	
MK11-000820	L150-103	3950	天城町村群	SWHD	17.76	SHY	48.8	0	
MK11-000821	L150-104	3965	満島弓々台群	KZOB	11.46	KZSN	72.98	0	
MK11-000822	L150-105	4190	神津島恩馳島群	KZOB	5.06	KZSN	79.27	0	
MK11-000823	L150-106	4390	神津島恩馳島群	HNHJ	2.84	HNK1	85.29	0	
MK11-000824	L150-107	4505	和根畠宿群	SWHD	9.65	WDTN	87.57	0	
MK11-000825	L150-108	4506	満島弓々台群	AGKT	2.17	HNK1	120.88	0	
MK11-000826	L150-109	4535	天城町村群	SWHD	13.86	WDTN	58.97	0	
MK11-000827	L150-110	4571	満島弓々台群	KZOB	15.44	KZSN	82	0	
MK11-000828	L150-111	4644	神津島恩馳島群	KZOB	4.69	KZSN	63.46	0	
MK11-000829	L150-112	4676	神津島恩馳島群	HNHJ	15.61	SDAI	78.17	0	
MK11-000830	L150-113	4689	和根不可	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000831	L150-114	4815	和根畠宿群	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000832	L150-115	5022	和根不可	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000833	L150-116	2104	満島弓々台群	SWHD	2.49	SHY	79.65	0	
MK11-000834	L150-117	3153	和根不可	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000835	L150-118	3682	神津島恩馳島群	KZOB	9.31	KZSN	87.44	0	
MK11-000836	L150-119	4842	神津島恩馳島群	KZOB	1.88	KZSN	65.8	0	
MK11-000837	L150-120	6910	蓼科冷山群	TSTY	8.75	0.9998	TSHG	21.53	0.0002
MK11-000838	L150-121	5897	和根畠宿群	HNHJ	2.35	MZVK	118.82	0	
MK11-000839	L150-122	3636	満島弓々台群	SWHD	9.14	SHY	126.65	0	
MK11-000840	L150-123	397	和根不可	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000841	L150-124	493	神津島恩馳島群	KZOB	9.83	KZSN	48.98	0	
MK11-000842	L150-125	569	和根畠宿群	HNHJ	6.91	HNK1	117.99	0	
MK11-000843	L150-126	1690	神津島恩馳島群	KZOB	3.03	KZSN	75.24	0	
MK11-000844	L150-127	1724	和根畠宿群	HNHJ	9.25	MZVK	118.87	0	
MK11-000845	L150-128	6650	蓼科冷山群	TSTY	3.63	0.99813	TSHG	7.63	0.00187
MK11-000846	L150-129	6909	蓼科冷山群	TSTY	4.74	TSHG	33.82	0	
MK11-000847	L150-130	26	満島弓々台群	SWHD	2.27	SHY	91.67	0	
MK11-000848	L150-131	27	満島弓々台群	SWHD	13.99	SHY	94.4	0	
MK11-000849	L150-132	1013	和根不可	HNHJ	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000850	L150-133	3196	推定不可	KZOB	推定不可	推定不可	推定不可	推定不可	
MK11-000851	L150-134	5733	神津島恩馳島群	KZOB	9.76	KZSN	93.29	0	

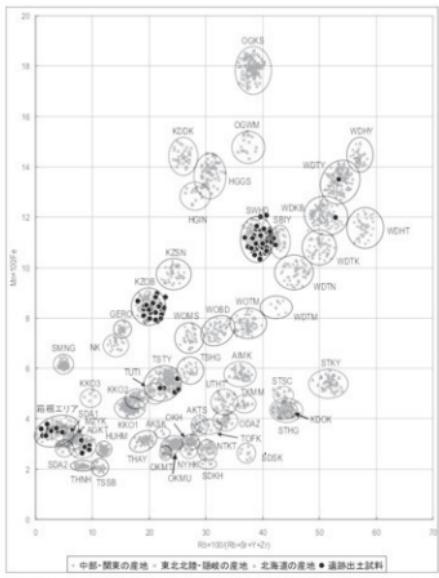


図2 出土黒曜石産地判別図1 (葛山大端ヶI遺跡)

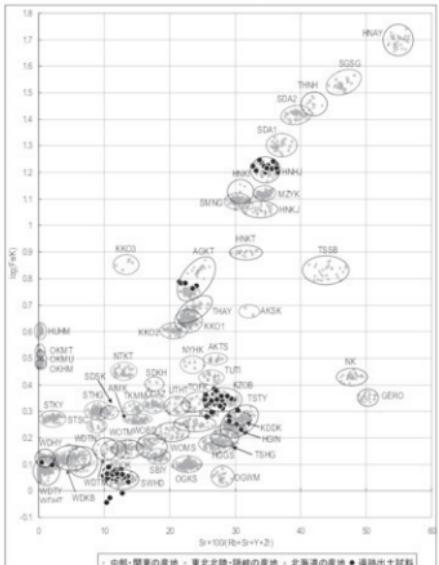


図3 出土黒曜石産地判別図2 (葛山大端ヶI遺跡)

出土黒曜石産地組成 (葛山大端ヶI遺跡)

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田 (WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0.00
和田 (WD)	牧ヶ沢	WOMS	0	0.00
	高松沢	WOTM	0	0.00
	美森ライト	WDHV	0	0.00
	鷹山	WDTY	1	0.83
	小深沢	WDKB	0	0.00
	土屋岳北	WDTK	0	0.00
	土屋岳西	WDTN	0	0.00
	土屋岳南	WDTM	0	0.00
	古峰	WDHT	1	0.83
糸跡	星ヶ台	SWHD	57	47.11
	冷山	TSTY	5	4.13
蓼科	えり子山	TSHG	0	0.00
	播磨山	TSSB	0	0.00
天城	柏野I	AGKT	5	4.13
	烟宿	HNIJ	19	15.70
	歌治屋	HNKJ	0	0.00
箱根	黒岩橋	HNKJ	0	0.00
	上多賀	HNKT	0	0.00
	芦ノ湯	HNAY	0	0.00
神津島	恩納島	KZOB	33	27.27
	砂難崎	KZSN	0	0.00
高原山	甘瀬沢	THAY	0	0.00
	七尋沢	THNH	0	0.00
新津	金津	NTKT	0	0.00
	新発田	SBIY	0	0.00
	深浦	HUHM	0	0.00
木造	出来島	KDDK	0	0.00
	金ヶ崎	OGKS	0	0.00
男鹿	鍋本	OGWM	0	0.00
	月山	HGOS	0	0.00
羽黑	今野川	HGNJ	0	0.00
	折居1群	KKO1	0	0.00
北上川	折居2群	KKO2	0	0.00
	折居3群	KKO3	0	0.00
宮崎	湯ノ食	MZYK	0	0.00
	秋保1群	SDAI	0	0.00
	秋保2群	SDA2	0	0.00
色麻	根岸	SMNG	0	0.00
塙電	塙電港群	SGSG	0	0.00
小泊	折體内	KDKD	0	0.00
魚津	草月上野	UTHT	0	0.00
高岡	二上山	TOPK	0	0.00
佐渡	真光寺	SDSK	0	0.00
	金井二ツ坂	SDKH	0	0.00
	久見	OKHM	0	0.00
鶴岐	岬地区	OKMT	0	0.00
	箕浦	OKMU	0	0.00
	8号沢	STHG	0	0.00
白鶲	黒曜の沢	STKY	0	0.00
	赤石山頭	STSC	0	0.00
赤井川	曲用	AIMK	0	0.00
	豊樂	TUTI	0	0.00
菅原	安住	ODAZ	0	0.00
十勝	三股	TKMM	0	0.00
名寄	布川	NYHA	0	0.00
旭川	高砂台	AKTS	0	0.00
	春光台	AKSK	0	0.00
不明產地 I	NK	NK	0	0.00
	下呂石	GERO	0	0.00
	合計		121	100.00

不可など	13
計	134

出土黒曜石製器産地推定結果一覧表(葛山大端ヶ口遺跡)

判別法図・判別分析からの最終推定結果

判別法による推定結果と判別分析による推定結果

研究室 年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別分析					
				第1候補産地			第2候補産地		
				判別群	判別群	距離	確率	判別群	判別群
MKII-00841	L150-2-1	318	神津島エビ島群	KZOB	KZOB	3.95	1	KZSN	67.59
MKII-00841	L150-2-2	756	稚児不可	HNHJ	HNHJ	3.03	1	SDAI	121.79
MKII-00845	L150-2-3	1576	稚根御宿群	KZOB	KZOB	6.18	1	KZSN	31.97
MKII-00846	L150-2-4	1830	神津島エビ島群	HNHJ	HNHJ	14.95	1	HNKI	63.15
MKII-00847	L150-2-5	1836	稚根御宿群	KZOB	KZOB	8.69	1	KZSN	47.71
MKII-00848	L150-2-6	2235	神津島エビ島群	KZOB	KZOB	10.35	1	KZSN	82.32
MKII-00849	L150-2-7	2289	神津島エビ島群	KZOB	KZOB	0.97	1	KZSN	66.91
MKII-00850	L150-2-8	1723	神津島エビ島群	HNHJ	HNHJ	12.14	1	SDAI	94.16
MKII-00851	L150-2-9	2268	稚根御宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	HNKI	92.34
MKII-00852	L150-2-10	311	稚根御宿群	HNHJ	HNHJ	7.61	1	HNKI	80.42
MKII-00853	L150-2-11	1221	稚根御宿群	HNHJ	HNHJ	15.1	1	HNKI	51.27
MKII-00854	L150-2-12	1494	稚根御宿群	SWHD	SWHD	4.29	1	SHIY	83.33
MKII-00855	L150-2-13	1582	満月島・白苔群	HNHJ	HNHJ	9.42	1	HNKI	112.1
MKII-00856	L150-2-14	1924	稚根御宿群	KZOB	KZOB	11.43	1	KZSN	69.86
MKII-00857	L150-2-15	317	神津島エビ島群	SWHD	SWHD	12.38	1	SHIY	64.62
MKII-00858	L150-2-16	321	満月島・白苔群	KZOB	KZOB	12.71	1	KZSN	71.01
MKII-00859	L150-2-17	384	神津島エビ島群	HNHJ	HNHJ	6.62	1	SDAI	116.62
MKII-00860	L150-2-18	1480	稚根御宿群	AGKT	AGKT	9.96	1	KKOI	107.51
MKII-00861	L150-2-19	2190	天城和蒼群	HNHJ	HNHJ	6.89	1	HNKI	80.19
MKII-00862	L150-2-20	2340	稚根御宿群	KZOB	KZOB	5.35	1	KZSN	87.69
MKII-00863	L150-2-21	150	神津島エビ島群	HNHJ	HNHJ	11.23	1	HNKI	75.81
MKII-00864	L150-2-22	306	稚根御宿群	KZOB	KZOB	5.99	1	KZSN	50.91
MKII-00865	L150-2-23	338	神津島エビ島群	HNHJ	HNHJ	5	1	MZYK	83.63
MKII-00866	L150-2-24	1475	稚根御宿群	KZOB	KZOB	5.77	1	KZSN	65
MKII-00867	L150-2-25	1484	稚根御宿群	HNHJ	HNHJ	2.49	1	HNKI	93.38
MKII-00868	L150-2-26	1664	神津島エビ島群	KZOB	KZOB	1.56	1	HNKI	97.5
MKII-00869	L150-2-27	1990	稚根御宿群	HNHJ	HNHJ	2.93	1	KZSN	40.47
MKII-00870	L150-2-28	300	神津島エビ島群	KZOB	KZOB	9.15	1	KZSN	77.48
MKII-00871	L150-2-29	307	神津島エビ島群	AGKT	AGKT	11.82	1	HNKI	101.79
MKII-00872	L150-2-30	459	天城和蒼群	HNHJ	HNHJ	11.61	1	HNKI	125.42
MKII-00873	L150-2-31	469	天城和蒼群	KZOB	KZOB	0.82	1	KZSN	67.75
MKII-00874	L150-2-32	305	神津島エビ島群	SWHD	SWHD	6.19	1	WDTM	119.43
MKII-00875	L150-2-33	365	稚根御宿群						

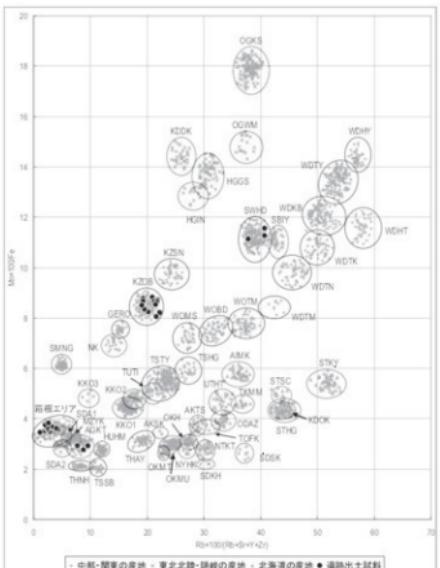


図4 出土黒曜石産地判別図1（葛山大端ヶ原遺跡）

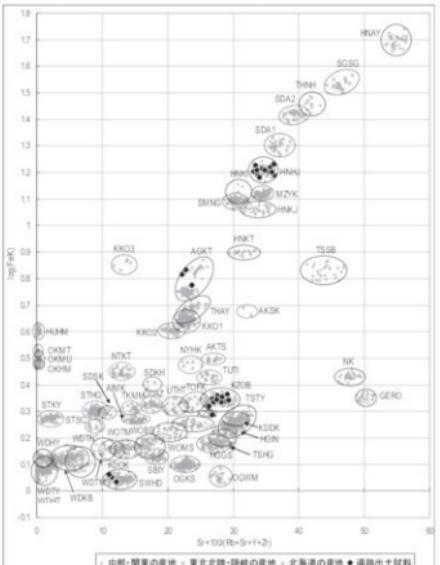


図5 出土黒曜石産地判別図2（葛山大鏃ヶ原遺跡）

出土黒曜石产地組成（葛山大端ヶ原遺跡）

エリア	飼育群	記号	試料数	%
相田 (WO)	ブドウ沢	WOBD	0	0.00
	牧々沢	WOMS	0	0.00
	高松谷	WOTM	0	0.00
和田 (WD)	美空ライド	WDHY	0	0.00
	鹿山	WDTY	0	0.00
	小遠沢	WDKB	0	0.00
	上屋敷北	WDTK	0	0.00
古野	上屋敷西	WDTN	0	0.00
	上屋敷南	WDTM	0	0.00
	古野	WDHT	0	0.00
	星ヶ台	SWHD	3	9.38
蓼科	冶山	TSTY	0	0.00
	双子山	TSHG	0	0.00
	猿林山	TSSB	0	0.00
天城	杓柄山	AGKT	3	9.38
	畠宿	HNHJ	13	40.63
	鍔原尾	HNKJ	0	0.00
箱根	黒石橋	HNKI	0	0.00
	上多賀	HNKT	0	0.00
	芦ヶ湯	HNAY	0	0.00
	恩島鳥	KZOB	13	40.63
神津島	砂利磯	KZSN	0	0.00
	日出浜	THAY	0	0.00
	七尋沢	THNH	0	0.00
新津	金津	NTKT	0	0.00
	新発田	SBHY	0	0.00
	深浦	HUHM	0	0.00
本造	出来島	KDDK	0	0.00
	金ヶ崎	OGKS	0	0.00
	脇本	OGWM	0	0.00
羽黑	月山	HGGS	0	0.00
	今野川	HGIN	0	0.00
	折柄1群	KKO1	0	0.00
北上川	折柄2群	KKO2	0	0.00
	折柄3群	KKO3	0	0.00
	満ノ瀬	MZYK	0	0.00
宮崎	秋葉原群	SDA1	0	0.00
	秋葉2群	SDA2	0	0.00
	根岸	SMNG	0	0.00
塩竈	塩蔵港群	SGSG	0	0.00
	小泊	折懸内	0	0.00
	魚津	UTHT	0	0.00
高岡	二上山	TOFK	0	0.00
	真光寺	SDSK	0	0.00
	金井二ツ坂	SDKH	0	0.00
佐渡	久見	OKHM	0	0.00
	岬崎地区	OKMT	0	0.00
	東麻	OKMU	0	0.00
白滝	8号沢	STHG	0	0.00
	黒瀬の沢	STKY	0	0.00
	赤石山頭	STSC	0	0.00
赤井川	川用	AIMK	0	0.00
	豊泉	TUTI	0	0.00
	置戸	ODAZ	0	0.00
十勝	三段	TKMM	0	0.00
	名寄	NYHA	0	0.00
	帯広	AKTS	0	0.00
旭川	高砂台	AKSK	0	0.00
	春光台			
	下呂古	GERO	0	0.00
合計			32	100.00

不可など 合计	1 33
------------	---------

葛山大端ヶ I・III 遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

株式会社 加速器分析研究所

1 測定の意義

遺跡が利用された期間の時期比定を明確にする。

2 化学処理工程

- (1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、 1M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 历年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。历年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する

較正曲線上の暦年代範囲であり、 1σ = 68.2%）あるいは 2σ = 95.4%で表示される。グラフの縦軸が ^{13}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一行を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

葛山大端ヶ I 遺跡

1 測定対象試料

葛山大端ヶ I 遺跡は、静岡県裾野市葛山地先に所在する。測定対象試料は炭化物4点と土器付着炭化物3点の合計7点である（表1）。炭化物は第1トレンチ暗褐色層（AN）出土のNo.150-1（IAAA-111815）、No.150-3（IAAA-111817）、同黒褐色層（601）出土のNo.150-2（IAAA-111816）、同カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-4（IAAA-111818）、土器付着炭化物は、カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-5（IAAA-111819）、暗褐色層（AN）出土のNo.150-9（IAAA-111823）、富士黒出土のNo.150-10（IAAA-111824）である。土器付着炭化物はいずれも土器片の外側より採取された。

2 測定結果

炭化物の ^{14}C 年代は、第1トレンチ暗褐色層（AN）出土のNo.150-1が $4400 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.150-3が $3970 \pm 30\text{yrBP}$ 、黒褐色層（601）出土のNo.150-2が $4450 \pm 30\text{yrBP}$ 、カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-4が $3870 \pm 30\text{yrBP}$ である。暗褐色層（AN）出土の2点の値にはやや年代差が認められる。暦年較正年代（ 1σ ）は、褐色層（AN）出土のNo.150-1が $3086 \sim 2928\text{cal BC}$ 、No.150-3が $2561 \sim 2466\text{cal BC}$ 、黒褐色層（601）出土のNo.150-2が $3316 \sim 3026\text{cal BC}$ 、カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-4が $2456 \sim 2291\text{cal BC}$ の間に各々複数の範囲で示され、No.150-1、No.150-2が縄文時代中期中葉頃、No.150-3が中期末葉から後期初頭頃、No.150-4が後期初頭から前葉頃に相当する。

土器付着炭化物の ^{14}C 年代は、カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-5が $3790 \pm 30\text{yrBP}$ 、暗褐色層（AN）出土のNo.150-9が $7960 \pm 30\text{yrBP}$ 、富士黒出土のNo.150-10が $6360 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代（ 1σ ）は、カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-5が $2280 \sim 2145\text{cal BC}$ の間に4つの範囲、暗褐色層（AN）出土のNo.150-9が $7028 \sim 6779\text{cal BC}$ の間に4つの範囲、富士黒出土のNo.150-10が $5367 \sim 5312\text{cal BC}$ の範囲で示され、No.150-5が縄文時代後期前葉頃、No.150-9が早期中葉から後葉頃、No.150-10が早期末葉頃に相当する。これらの炭化物が採取された土器の特徴は、No.150-5が「後期縄文」、No.150-9が「判ノ木山西式」、No.150-10が「条痕文」とされており、想定される時期とおむね矛盾しない結果と見られる。

暗褐色層（AN）から出土したNo.150-1とNo.150-3の間には上述の通りやや年代差があり、No.150-9はこれらより大幅に古く。カワゴ平軽石層（KGP）出土のNo.150-4とNo.150-5はおむね近い年代値となっている。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物のNo.150-5が34%と若干低い値を示したが、他の試料はすべて50%程度を超え、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

表1 茅山大塚ヶI遺跡の¹⁴C年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-111815	No.150-1 (遺物番号1718)	Iトレンチ 暗褐色層(AN)	炭化物	AaA	-25.28 ± 0.63	4,400 ± 30	57.84 ± 0.23
IAAA-111816	No.150-2 (遺物番号1753)	Iトレンチ 黒褐色層(601)	炭化物	AaA	-22.44 ± 0.41	4,450 ± 30	57.46 ± 0.20
IAAA-111817	No.150-3 (遺物番号3981)	Iトレンチ 暗褐色層(AN)	炭化物	AAA	-23.76 ± 0.41	3,970 ± 30	61.03 ± 0.21
IAAA-111818	No.150-4 (遺物番号4051)	Iトレンチ カワゴ平軽石層(KGP)	炭化物	AaA	-20.68 ± 0.54	3,870 ± 30	61.79 ± 0.21
IAAA-111819	No.150-5 (遺物番号371, 372)	カワゴ平軽石層(KGP)	土器付着 炭化物	AaA	-23.99 ± 0.42	3,790 ± 30	62.43 ± 0.22
IAAA-111823	No.150-9 (遺物番号4246,4247)	暗褐色層(AN)	土器付着 炭化物	AaA	-24.23 ± 0.33	7,960 ± 30	37.12 ± 0.16
IAAA-111824	No.150-10 (遺物番号5095)	富士黒(FB)	土器付着 炭化物	AaA	-25.93 ± 0.42	6,360 ± 30	45.31 ± 0.16

[#4725]

表2 茅山大塚ヶI遺跡の¹⁴C年代暦年較正結果

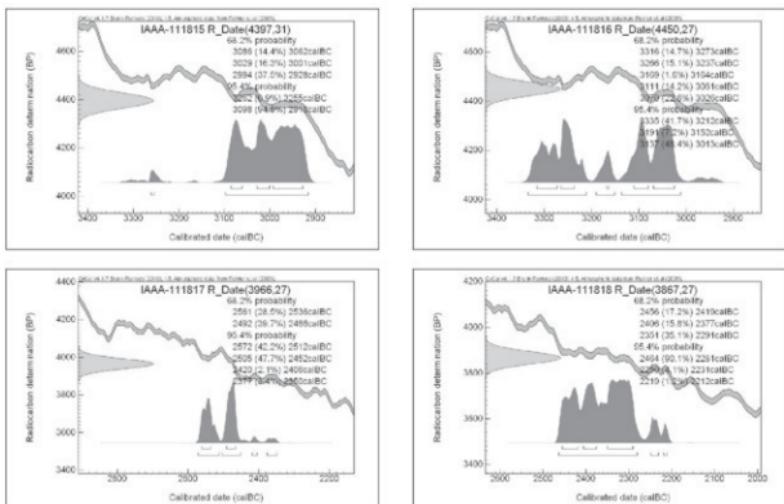
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-111815	4,400 ± 30	57.81 ± 0.21	4,397 ± 31	3086calBC - 3062calBC (14.4%) 3029calBC - 3001calBC (16.3%) 2994calBC - 2928calBC (37.5%)	3262calBC - 3255calBC (0.9%) 3098calBC - 2916calBC (94.5%)
IAAA-111816	4,410 ± 30	57.76 ± 0.19	4,450 ± 27	3316calBC - 3273calBC (14.7%) 3266calBC - 3237calBC (15.1%) 3169calBC - 3164calBC (1.6%) 3111calBC - 3081calBC (14.2%) 3070calBC - 3026calBC (22.6%)	3335calBC - 3212calBC (41.7%) 3191calBC - 3152calBC (7.2%) 3137calBC - 3013calBC (46.4%)
IAAA-111817	3,950 ± 30	61.19 ± 0.20	3,966 ± 27	2561calBC - 2536calBC (28.5%) 2492calBC - 2466calBC (39.7%)	2572calBC - 2512calBC (42.2%) 2505calBC - 2452calBC (47.7%) 2420calBC - 2406calBC (2.1%) 2377calBC - 2350calBC (3.4%)
IAAA-111818	3,800 ± 30	62.34 ± 0.20	3,867 ± 27	2456calBC - 2419calBC (17.2%) 2406calBC - 2377calBC (15.8%) 2351calBC - 2291calBC (35.1%)	2464calBC - 2281calBC (90.1%) 2250calBC - 2231calBC (4.1%) 2219calBC - 2212calBC (1.2%)

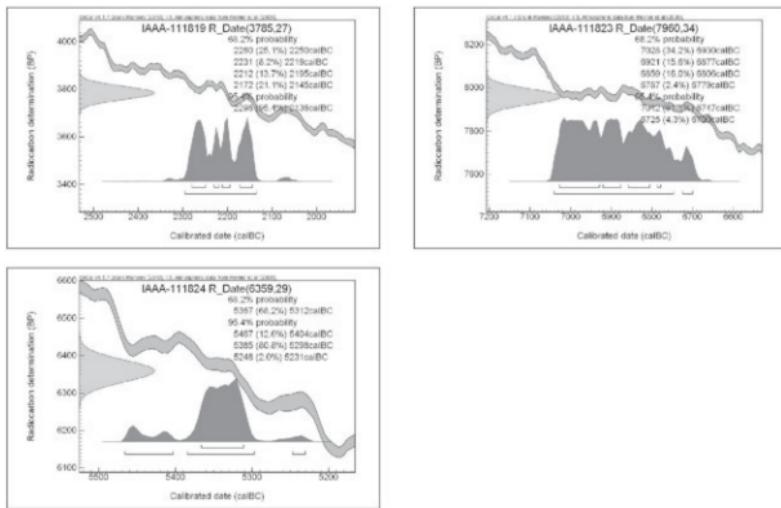
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		曆年較正用 (yrBP)	1 σ 曆年代範囲	2 σ 曆年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-111819	3,770 ± 30	62.55 ± 0.21	3,785 ± 27	2280calBC - 2250calBC (25.1%) 2231calBC - 2219calBC (8.2%) 2212calBC - 2195calBC (13.7%) 2172calBC - 2145calBC (21.1%)	2296calBC - 2136calBC (95.4%)
IAAA-111823	7,950 ± 30	37.18 ± 0.16	7,960 ± 34	7028calBC - 6930calBC (34.2%) 6921calBC - 6877calBC (15.6%) 6859calBC - 6806calBC (16.0%) 6787calBC - 6779calBC (2.4%)	7042calBC - 6747calBC (91.1%) 6725calBC - 6700calBC (4.3%)
IAAA-111824	6,370 ± 30	45.23 ± 0.16	6,359 ± 29	5367calBC - 5312calBC (68.2%)	5467calBC - 5404calBC (12.6%) 5385calBC - 5298calBC (80.8%) 5248calBC - 5231calBC (2.0%)

[参考値]

文献

- Suiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150





〔参考〕曆年較正年代グラフ

葛山大端ヶⅢ遺跡

1 測定対象試料

葛山大端ヶⅢ遺跡は、静岡県裾野市大端ヶ 1160-1、裾野市葛山地先に所在する。測定対象試料は炭化物 2 点と土器付着炭化物 4 点の合計 6 点である（表 1）。炭化物は黒褐色層（JO）出土の No.150-2-1 (IAAA-111825)、No.150-2-2 (IAAA-111826)、土器付着炭化物はカワゴ平軽石（KGP）出土の No.150-2-4 (IAAA-111828)、黒褐色層（JO）出土の No.150-2-5 (IAAA-111829) ~ No.150-2-7 (IAAA-111831) である。土器付着炭化物は、No.150-2-4、No.150-2-6、No.150-2-7が土器片の外面、No.150-2-5が内面より採取された。

2 測定結果

炭化物の¹⁴C 年代は、黒褐色層（JO）出土の No.150-2-1 が 4420 ± 30 yrBP、No.150-2-2 が 7930 ± 40 yrBP である。2 点は同じ層から出土しているが、年代差が認められる。暦年較正年代（ 1σ ）は、No.150-2-1 が $3262 \sim 2942$ cal BC、No.150-2-2 が $7001 \sim 6693$ cal BC の間に各々複数の範囲で示され、No.150-2-1 が縄文時代中期中葉頃、No.150-2-2 が縄文時代早期中葉から後葉頃に相当する。

土器付着炭化物の¹⁴C 年代は、カワゴ平軽石（KGP）出土の No.150-2-4 が 7660 ± 30 yrBP、黒褐色層（JO）出土の No.150-2-5 が 7960 ± 30 yrBP、No.150-2-6 が 7960 ± 40 yrBP、No.150-2-7 が 9820 ± 40 yrBP である。黒褐色層（JO）から出土した 3 点のうち、No.150-2-5 と No.150-2-6 は誤差の範囲でよく一致し、ほぼ同年代を示すが、No.150-2-7 はこれらとの間に年代差がある。暦年較正年代（ 1σ ）は、No.150-2-4 が $6561 \sim 6459$ cal BC の間に 3 つの範囲、No.150-2-5 が $7028 \sim 6779$ cal BC の間に 4 つの範囲、No.150-2-6 が $7029 \sim 6815$ cal BC の間に 3 つの範囲、No.150-2-7 が $9296 \sim 9258$ cal BC の範囲で示され、No.150-2-4 ~ No.150-2-6 が縄文時代早期中葉から後葉頃、No.150-2-7 が早期前葉頃に相当する。これらの炭化物が採取された土器の特徴は、No.150-2-4 が「野鳥式」、No.150-2-5、No.150-2-6 が「判ノ木山西式」、No.150-2-7 が「撫奈文」とされており、想定される時期とおおむね矛盾しない結果と見られる。

黒褐色層（JO）から出土した 5 点のうち、No.150-2-2、No.150-2-5、No.150-2-6 は近い年代値となっているが、No.150-2-1 はこれらより大幅に新しく、No.150-2-7 はかなり古い。

試料の炭素含有率は、土器付着炭化物の No.150-2-7 が 31% と若干低い値を示したが、他の試料はすべて 50% 程度を超え、化学処理、測定上の問題は特に認められない。

表 1 葛山大端ヶⅢ遺跡の¹⁴C 年代測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC(%)
IAAA-111825	No.150-2-1 (遺物番号1866)	黒褐色層（JO）	炭化物	AaA	-27.25 ± 0.58	$4,420 \pm 30$	57.68 ± 0.22
IAAA-111826	No.150-2-2 (遺物番号2067)	黒褐色層（JO）	炭化物	AaA	-23.50 ± 0.58	$7,930 \pm 40$	37.27 ± 0.17
IAAA-111828	No.150-2-4 (遺物番号331)	カワゴ平軽石（KGP）	土器付着炭化物	AaA	-23.17 ± 0.31	$7,660 \pm 30$	38.52 ± 0.16

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり		
					$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	Libby Age (yrBP)	
IAAA-111829	No.150-2-5 (遺物番号440)	黒褐色層 (JO)	土器付着炭化物	AaA	-23.92 ± 0.36	7,960 ± 30	37.12 ± 0.15
IAAA-111830	No.150-2-6 (遺物番号1706)	黒褐色層 (JO)	土器付着炭化物	AaA	-24.41 ± 0.38	7,960 ± 40	37.11 ± 0.16
IAAA-111831	No.150-2-7 (遺物番号2468)	黒褐色層 (JO)	土器付着炭化物	AaA	-25.42 ± 0.41	9,820 ± 40	29.46 ± 0.14

[#4725]

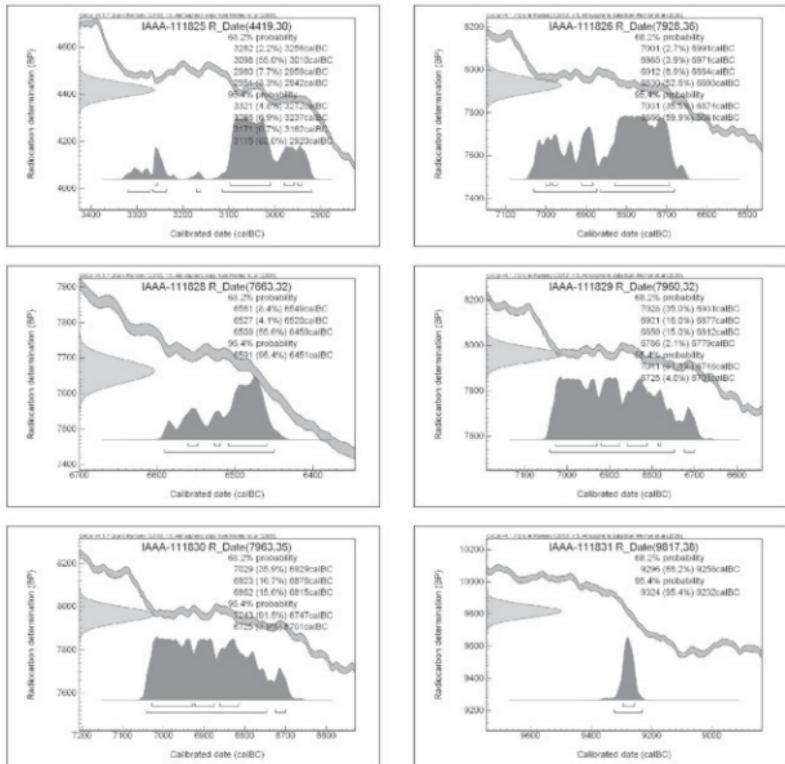
表2 菅山大端ヶI遺跡の ^{14}C 年代層年較正結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		層年較正用 (yrBP)	1 σ 層年代範囲		2 σ 層年代範囲
	Age (yrBP)	pMC(%)				
IAAA-111825	4,460 ± 30	57.42 ± 0.21	4,419 ± 30	3262calBC - 3256calBC (2.2%) 3098calBC - 3010calBC (55.0%) 2980calBC - 2959calBC (7.7%) 2951calBC - 2942calBC (3.3%)	3321calBC - 3272calBC (4.8%) 3266calBC - 3237calBC (6.9%) 3171calBC - 3162calBC (0.7%) 3115calBC - 2920calBC (83.0%)	
IAAA-111826	7,900 ± 40	37.39 ± 0.16	7,928 ± 36	7001calBC - 6991calBC (2.7%) 6985calBC - 6971calBC (3.9%) 6912calBC - 6884calBC (8.9%) 6830calBC - 6693calBC (52.6%)	7031calBC - 6874calBC (35.5%) 6866calBC - 6681calBC (59.9%)	
IAAA-111828	7,630 ± 30	38.67 ± 0.16	7,663 ± 32	6561calBC - 6549calBC (8.4%) 6527calBC - 6520calBC (4.1%) 6509calBC - 6459calBC (55.6%)	6591calBC - 6451calBC (95.4%)	
IAAA-111829	7,940 ± 30	37.20 ± 0.15	7,960 ± 32	7028calBC - 6931calBC (35.0%) 6921calBC - 6877calBC (16.0%) 6859calBC - 6812calBC (15.0%) 6786calBC - 6779calBC (2.1%)	7041calBC - 6748calBC (91.4%) 6725calBC - 6701calBC (4.0%)	
IAAA-111830	7,950 ± 40	37.16 ± 0.16	7,963 ± 35	7029calBC - 6929calBC (35.9%) 6923calBC - 6876calBC (16.7%) 6862calBC - 6815calBC (15.6%)	7043calBC - 6747calBC (91.5%) 6725calBC - 6701calBC (3.9%)	
IAAA-111831	9,820 ± 40	29.43 ± 0.14	9,817 ± 38	9296calBC - 9258calBC (68.2%)	9324calBC - 9232calBC (95.4%)	

[参考値]

文献

- Suiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150



[参考] 历年校正年代グラフ

葛山大端ヶ I 遺跡出土炭化物の同定

株式会社 加速器分析研究所

1 試料

試料は、葛山大端ヶ I 遺跡から出土した炭化物 2 点（分析 No.150-2、No.150-3）である。試料を観察したところ、分析 No.150-2 は炭化した種実、分析 No.150-3 は炭化材であった。種実については種実同定、炭化材については樹種同定を実施する。

2 分析方法

(1)種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体の形態的特徴を現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川、1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか、2000）等と比較し、種類を同定した。

(2)樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。

3 結果

種実遺体および炭化材の同定結果を表 1 に示す。種実遺体はコナラ属、炭化材は種類不明の広葉樹に同定された。種実の形態的特徴や炭化材の解剖学的特徴を下記に記す。

<種実>

・コナラ属（Quercus） ブナ科

炭化した子葉である。長さ 12mm、幅 8mm の楕円形で、半分に割れており、一部欠損した片方の子葉のみが残っている。表面には維管束の跡が数本比較的明瞭に残る。

<炭化材>

・広葉樹

試料は保存状態が悪く、木材組織のほとんどが潰れており、木口における組織配列、放射組織の形態等が観察できない。柾目面において、放射組織の断面と道管、軸方向柔細胞が観察できる。

道管、放射組織、軸方向柔細胞が見られることから広葉樹であるが、道管配列や放射組織の形態が観察できないために種類は不明である。

表 葛山大端ヶ I 遺跡の同定結果

分析No.	遺物番号	出土層位	遺物種類	種類
150-2	1753	601	炭化種実	コナラ属（子葉）
150-3	3981	AN	炭化材	広葉樹

4 考察

601 層から出土した炭化種実は、コナラ属に同定された。コナラ属には、常緑のアカガシ亜属やコナラ亜属ウバメガシ節、落葉のコナラ亜属クスギ節およびコナラ節がある。アカガシ亜属は、暖温帶性常緑広葉樹の主要な構成種であり、主に谷沿いなどに多い。ウバメガシ節は、ウバメガシ 1 種があり、海岸の岩地等に生育する。クスギ節やコナラ節は、二次林や冷温帶性落葉広葉樹の主要な構成種が含

まれる。コナラ属の子葉は、一部灰汁抜きを必要としない種類もあるが、多くは灰汁抜きをすることで食用可能となる。炭化した状態で出土したことから、本遺跡でも植物食糧として利用されていた可能性がある。

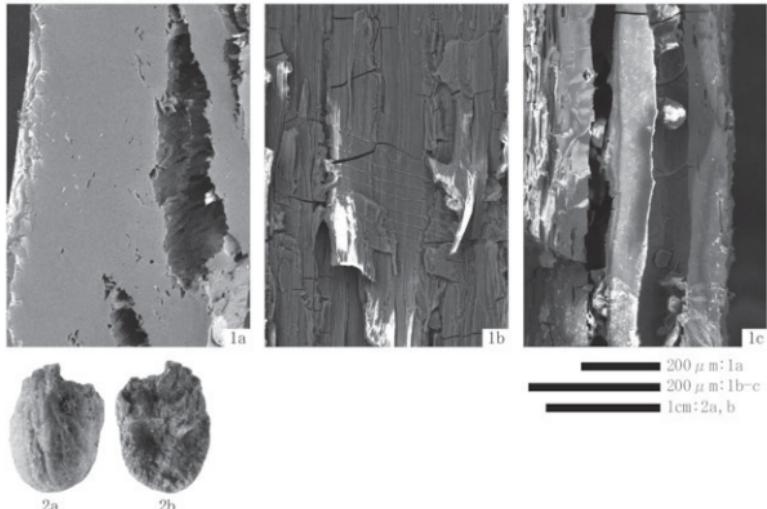
AN層から出土した炭化材は、種類不明の広葉樹のため、古植生等については不明であるが、少なくとも周囲に広葉樹が生育していたことが推定される。

引用文献

- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p.
島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴
スト・伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and
Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

※) 本分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社の協力を得て行った。

図版 炭化材・種実遺体



1. 広葉樹(分析Na150-3;遺物番号3981) a:木口, b:柾目, c:板目
2. コナラ属(子葉)(分析Na150-2;遺物番号1753)

写真図版



調査区全景

図版 2



葛山大端ヶ I 遺跡 調査区（1区）休場層（南上より）



土層断面 1



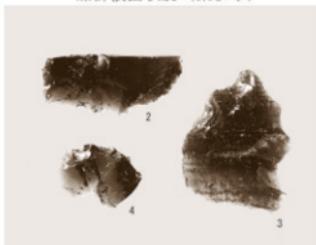
土層断面 2



調査区全景 第Ⅰスコリア層（南東より）



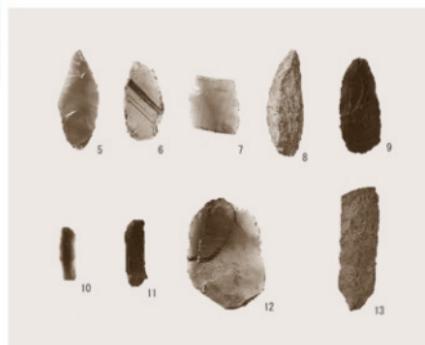
礫群検出状況（東より）



礫群出土遺物



第Ⅰ文化層 出土遺物



第Ⅱ文化層 出土遺物

図版 4



1号集石（南東より）



2号集石（東より）



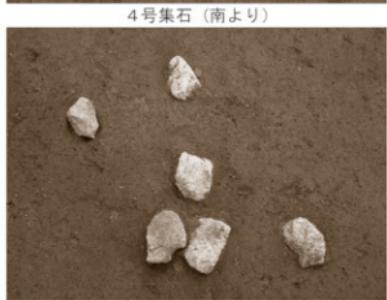
3号集石（東より）



4号集石（南より）



5号集石（南より）



6号集石（西より）



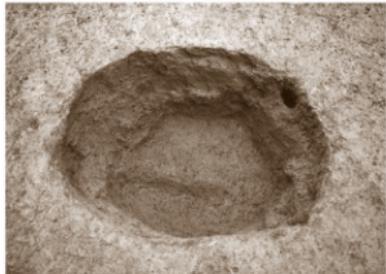
7号集石（東より）



1号土坑（東より）



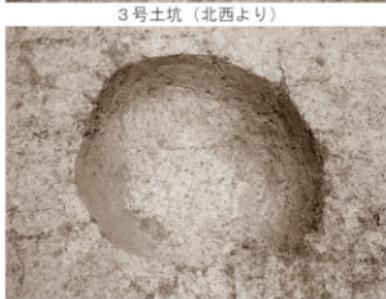
2号土坑（東より）



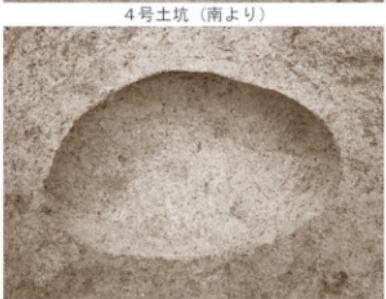
3号土坑（北西より）



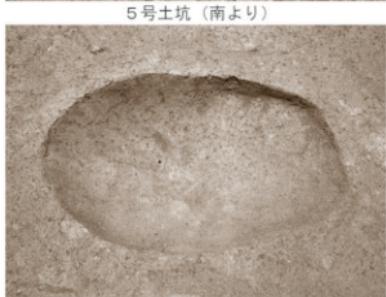
4号土坑（南より）



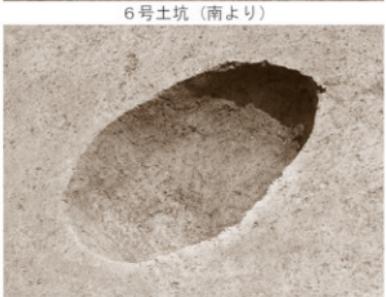
5号土坑（南より）



6号土坑（南より）



7号土坑（西より）



8号土坑（西より）

図版 6



2号焼土（西より）



4号遺物集中（東より）



縄文時代 遺物出土状況（南東より）



1号遺物集中出土石器



2号遺物集中出土石器

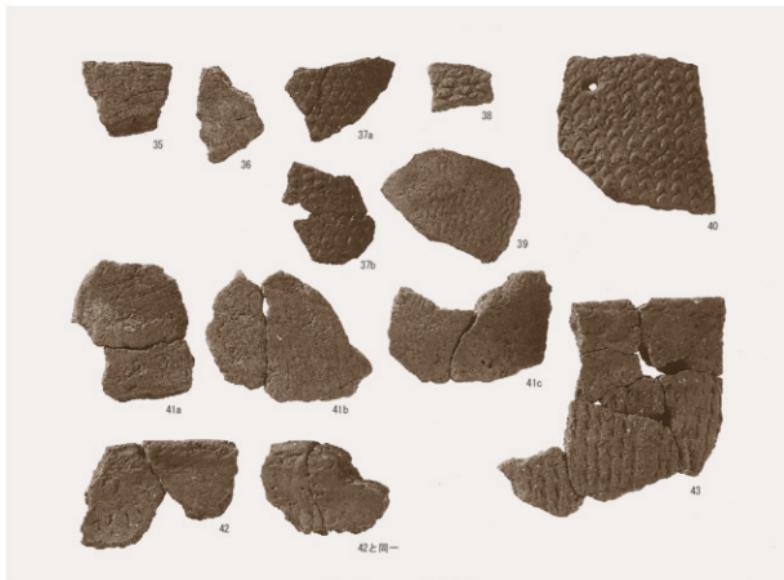


3号遺物集中出土石器

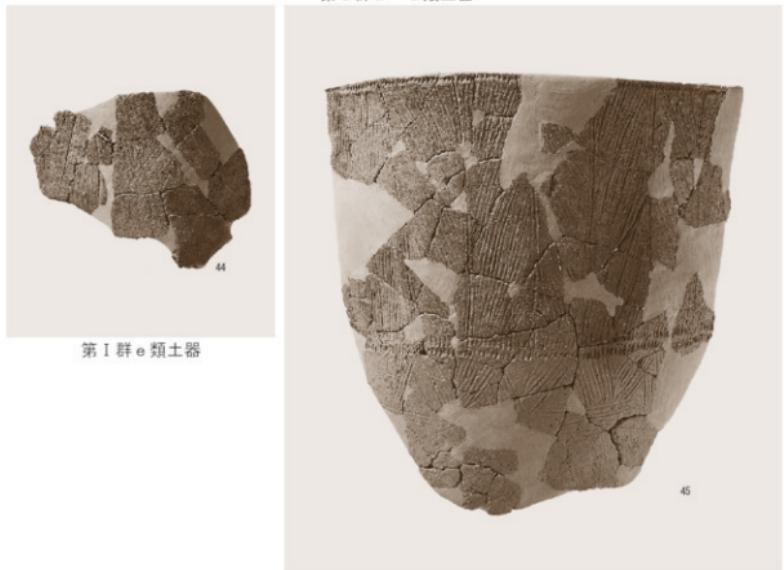
図版 8



4号遺物集中出土石器



第 I 群 a ~ d 類土器



第 I 群 e 類土器

第 I 群 e 類土器

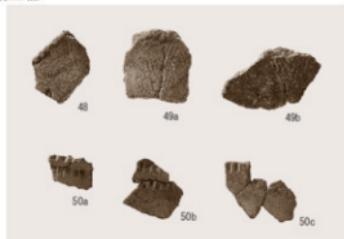
図版10



第II群a類土器



第II群a類土器



第II群bc類土器



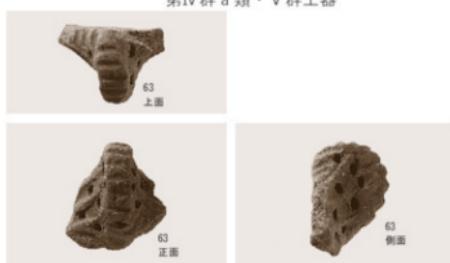
第III群土器



第IV群a類・V群土器



第IV群b類土器



第VI群a類土器



第VI群b類土器



第VI群cd類土器

図版12



第VI群 e 類土器



第VI群 deg 類土器



第VII群 a ~ d 類土器



第VII群 e 類土器



第VII群 ab 類土器

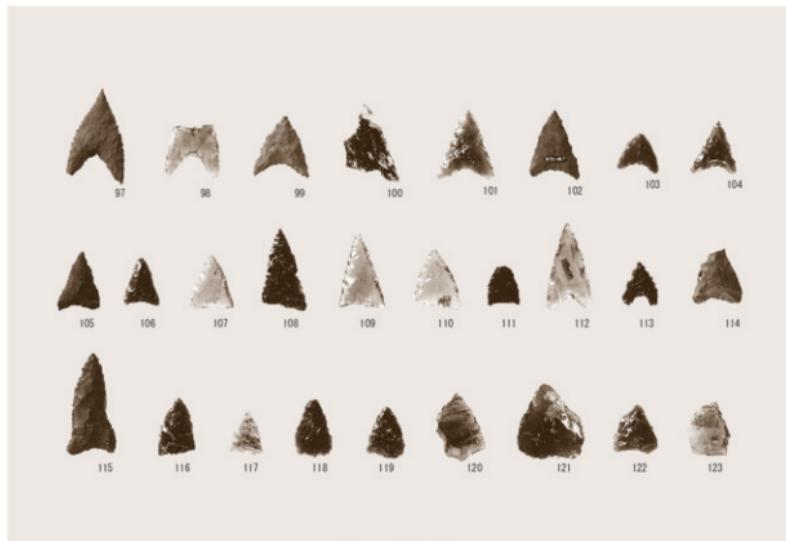
図版14



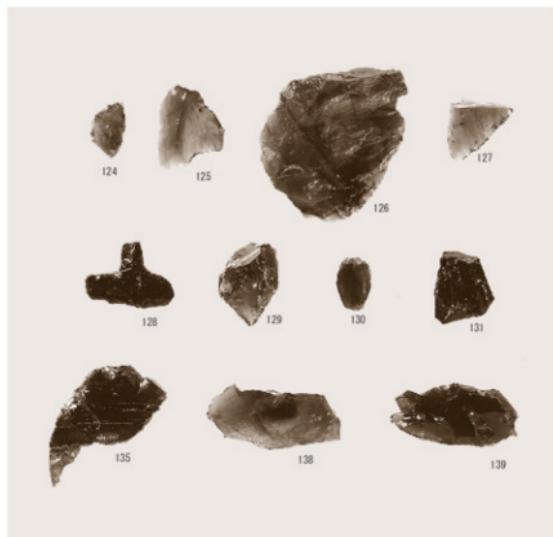
第IX群 a 類土器



第IX群 b 類・X群土器



石鏃・石鏃未製品

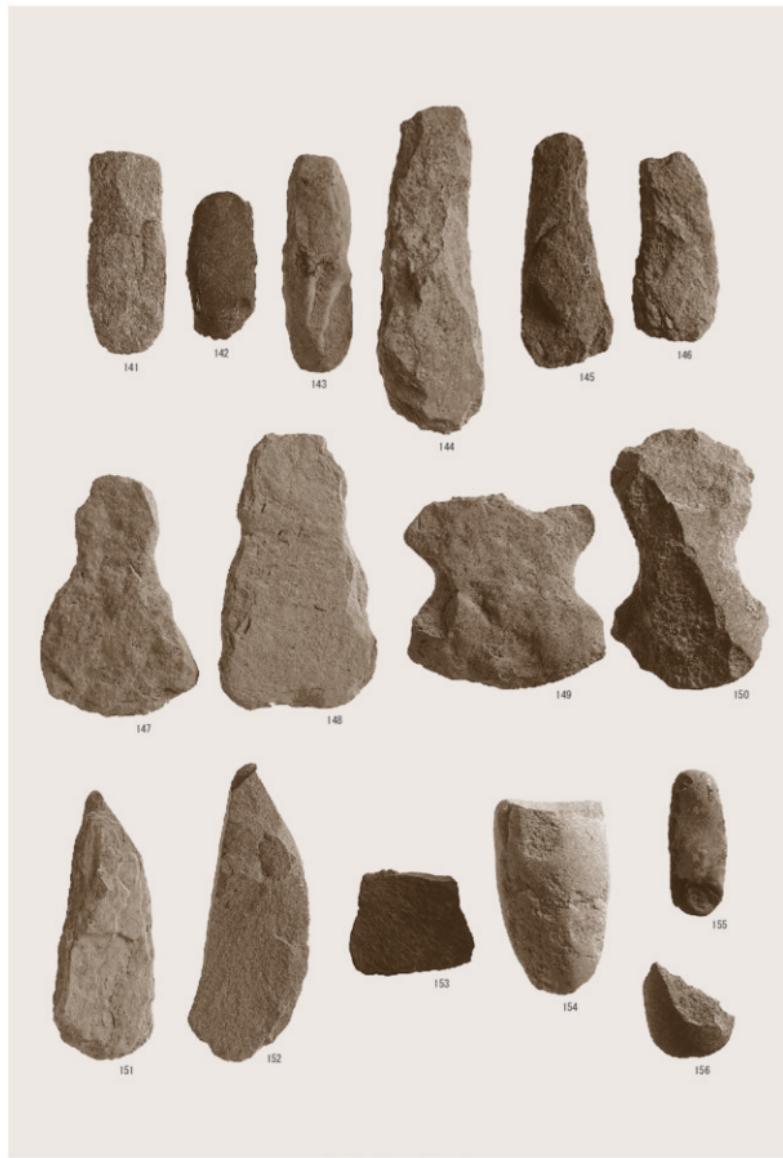


石核2



尖頭器・スクレイバー・石匙・石錐・楔形石器・二次加工剥片・石核1

図版16



打製石斧・磨製石斧



図版18



磨石・敲石類



台石

図版20



葛山大端ヶIII遺跡 調査区全景



1区 土層断面



旧石器時代 調査区全景 (T P完掘)



砾群 遺物出土状況 (南西より)

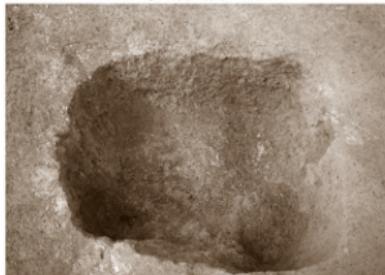
図版22



2号土坑（南より）



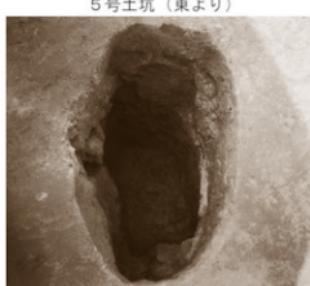
4号土坑（東より）



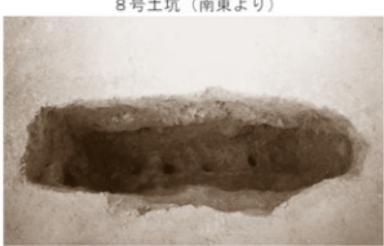
5号土坑（東より）



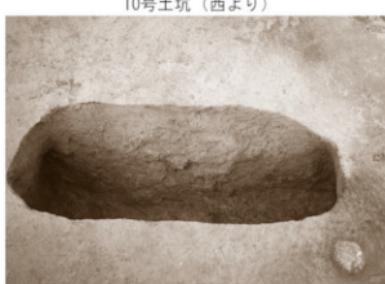
8号土坑（南東より）



10号土坑（西より）



11号土坑（南より）



12号土坑（南東より）



13号土坑（南より）



2号遺物集中（西より）



4号遺物集中（西より）



縄文時代 遺物出土状況（西より）

図版24



1号遺物集中出土石器



2号遺物集中出土石器



3号遺物集中出土土器

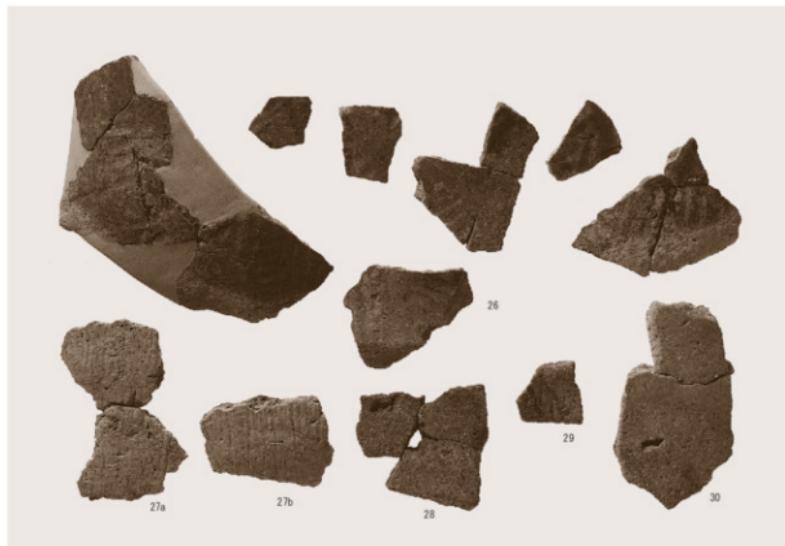


3号遺物集中出土石器



第 I 群土器

図版26



第II群・第III群土器



第IV群～第VII群土器



石鏃・石鏃未製品・スクレイバー・二次加工剥片・石核

図版28



打製石斧



砾器



磨石・敲石類



石皿・台石

図版30



藤畠遺跡 調査区（東より）



土層断面



土坑（南より）

報 告 書 抄 錄

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第25集

裾野市葛山の遺跡群

第二東名Na150地点・Na150-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

裾野市 - 8

平成25年2月28日発行

編集・発行 静岡県埋蔵文化財センター

〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20

TEL 054-262-4261（代）

FAX 054-262-4266

印 刷 所 大和印刷株式会社

〒410-1102 静岡県裾野市深良3642番地の12

TEL 055-965-4100